

2023年度 授業概要【看護学科】

科目コード：31101

科目ナンバリング：NU11A01K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：人体構造機能学A(The Human Anatomy & Physiology A)

担当者：佐藤 美樹

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：教職 看護 保健

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 看護に必要な人体の構造学と機能学を教授する。人体構造機能学Aでは解剖生理学のための基礎知識、栄養の消化と吸収、呼吸と血液のはたらき、血液の循環と調節、体液の調節と尿の生成などについて学ぶ。

キーワード： 人体の構造 人体の機能

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で受けた内容についておおむね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験等

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの意見を表現することができる。

評価方法： 学期末筆記試験等

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】人体とはどのようなものか①
【第02回】人体とはどのようなものか②
【第03回】人体とはどのようなものか③
【第04回】栄養の消化と吸収①

- 【第05回】栄養の消化と吸収②
- 【第06回】栄養の消化と吸収③
- 【第07回】呼吸と血液のはたらき①
- 【第08回】呼吸と血液のはたらき②
- 【第09回】呼吸と血液のはたらき③
- 【第10回】血液の循環とその調節①
- 【第11回】血液の循環とをの調節②
- 【第12回】血液の循環とその調節③
- 【第13回】体液の調節と尿の生成①
- 【第14回】体液の調節と尿の生成②
- 【第15回】体液の調節と尿の生成③

使用テキスト： 教科書:系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(坂井建雄、岡田隆夫、医学書院)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

1. 講義の前に教科書に目を通しておくとより深く理解できます。
2. 配布資料について復習するとともに、講義の中で理解できなかったことは、教員に質問し理解を深め学習してください。今後の学習の基礎となる知識や考え方を学ぶ大切な科目ですので、日々復習することが必要です。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部へ連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業開始前または授業終了後に教室で対応します。

留意事項： 履修に関する規定を確認すること。
デバイスの持参を推奨します。

科目コード：31103 **科目ナンバリング：**NU10A01K **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：生化学(Biochemistry)

担当者：大貫 和恵

基本情報

年次：1 **単位数：**1 **授業形式：**講義

曜時：月曜2限 **履修可能学科・専攻：**N

関連資格：教職 看護 保健 **AL要素：**16振り返り用紙と応答
18その他

授業の概要： 生体を構成している糖質、脂質、タンパク質に加え、ビタミンや無機質などがある。これらの栄養素は生体内でどのように代謝され利用されるか、各栄養素間の相互関係などを考慮し説明する。
また、生体調節物質であるホルモン、酵素の役割、核酸なども取り上げ、医療に携わる者の基礎的な知識として必要とされる「生化学」の理解を深める。

キーワード：代謝、酵素、三大栄養素

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 栄養素の構造と特性を理解する。
栄養素の代謝の基礎と代謝を担う酵素について理解する。
栄養素の摂取と病態の関係を理解する。

評価方法： 定期試験 **評価割合：**70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知識をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 定期試験

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回 細胞の構造(生物、化学の復習)
第2回 糖質、脂質、タンパク質の構造と機能
第3回 酵素、核酸、ビタミン、ミネラルの構造と機能
第4回 糖質の代謝
第5回 脂質の代謝
第6回 アミノ酸およびタンパク質の代謝
第7回 遺伝子発現とその制御
第8回 生体調節機構と防御機構
定期試験

使用テキスト: 「基礎からしっかり学ぶ 生化学」山口雄輝編(羊土社)
授業時に使用する資料は、随時、印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前には、その回の分野のわからない用語を調べる(30分)。
授業後には、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(30分)。
参考書として、下記を推薦する。
「自分で作れる生化学ノート」中元伊知郎著(メディカ出版)
「栄養科学イラストレイテッド[演習版] 生化学ノート 改訂第2版」菌田勝編(羊土社)
「栄養科学イラストレイテッド 生化学 改訂第2版」菌田勝編(羊土社)
「生化学ノート 書く!塗る!わかる!」森誠著(講談社)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: ・生物および化学を復習しておくこと。
・第1回目の授業で説明するが、授業回数に限られているため、講義できない領域がある。よって必要な知識等は、各自学習をしておくこと。
学生からの質問等については、随時、授業時、IC-UNIPAやTeamsに回答を提示する。

科目コード: 31104 **科目ナンバリング:** NU10A02K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 栄養・代謝学(Nutrition & Metabolic)

担当者: 目黒 周作

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 1

授業形式: 講義

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：教職 看護 保健

AL要素：17:発問と回答

授業の概要： 患者の疾病予防、治癒、重症化予防に向けた取り組みを行うためには患者の栄養管理は必須である。患者の栄養管理は多職種協働(医師・看護師・薬剤師・管理栄養士等)で行うものであり、看護師においても「栄養学」に対する理解が求められる。この講義においては、今後看護師が臨床の現場において栄養管理に関わる際に必要な栄養学の基礎知識を習得する。

キーワード： 栄養素、栄養素の消化・吸収、エネルギー代謝、機能性食品

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた内容について80%の事項を暗記し、回答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合：100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：

評価割合：0%

知識・技能と合わせて評価する。

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価方法とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価方法とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や、筆記試験の記述等において人権侵害、差別的発言などがあった場合は減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回:栄養学・代謝学とは(オリエンテーション含む)

第2回:栄養素の種類とはたらき1

第3回:栄養素の種類とはたらき2

第4回:食物の消化と栄養素の吸収・代謝

第5回:エネルギー代謝

第6回:非栄養素の吸収・代謝

第7回:栄養と疾病との関係

第8回:臨床栄養

試験

使用テキスト： 特になし(授業開始時に印刷資料を配布します)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前は「生化学」について、復習(30分)を行い、知識の習得に努めることが望ましい。授業後は、配布資料について復習(30分)するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ、知見を深めることが望ましい。参考資料として次の1点を推薦する。

基礎栄養の科学 江頭祐嘉合・真田宏夫編著 理工図書

*基礎栄養学関連の教科書等であれば可

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応いたします。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応いたします。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 課題を課す場合について、Teams等の課題管理機能を使用して提出物を確認後、コメント(個別もしくはクラス全体の総評)を付与します。

科目コード:31105 科目ナンバリング:NU10C01J 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 食物健康実習(Food Health Practicum)

担当者: 坂倉 有紀

基本情報

年次:カリキュラム

単位数:1

授業形式:実習

曜時:集中講義

履修可能学科・専攻: N

関連資格:教職 看護

AL要素: 03実験実技体験

授業の概要： 栄養食事療法は患者の疾病の治癒、健康回復のために不可欠である。患者のケアに携わる看護師にも、提供される食事の重要性を理解しておく必要がある。この実習では、様々な病態に対する治療食を学び、実際に調理・試食を通して、栄養食事療法の基本を学ぶ。

キーワード： 栄養、食事療法、糖尿病食、腎臓病食、嚥下食

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 食事療法の意義および目的などについて理解し、調理を介した実技を伴って実践できる。

評価方法： レポート

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 食事療法の意義および目的などについて理解し、傷病者に対して説明することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

実習において、調理を主体としたグループワークに主体的に関わり、取り組む態度を評価する。

評価割合： 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。しかしボランティア活動等の実践により深められた知見がレポート等により認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。しかし授業中の発言やレポートにおいて、人権侵害や差別発言、公正を欠く言動があった場合は、減点し嚴重注意とするため、注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

- 授業計画：** 第1回 ガイダンス 食事療法の基本、衛生管理について
第2回 常食、調理室での機器の取り扱い
第3回 流動食・軟菜食
第4回 食塩コントロール食
第5回 小児アレルギーに対応した食事(小麦・乳・卵の除去食)
第6回 嚥下障害に対応した食事
第7回 蛋白質コントロール食
第8回 まとめ/ カーボカウント

資料の調達等、都合で順番は変更することがありますので、ご了承下さい。

使用テキスト： なし プリントを配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 基本的な調理技術を持っていることが履修に必須です。
また、調理実習では、衛生管理を徹底します。特に病院給食では免疫力が低下している患者も多いため、食中毒の発生リスクも高まる可能性を考慮しなければなりません。身支度を整えて実習に臨んでください。

栄養食事療法の実習トレーナーガイド「栄養ケアマネジメント」本田佳子編(医歯薬出版)
臨床栄養学実習 逸見幾代、津田とみ編(建בק社)
臨床栄養学 本田佳子・曾根博仁編(羊土社)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますが、まずは学務部に連絡してください。
調理作業があることをご理解ください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 調理がありますので、爪を毎回短く切ってくること、マニキュアやアクセサリは不可、三角巾やエプロン、上履きなど用意が必須となります。
食材の都合により授業内容が前後することがあります。
課題に対するフィードバックについては全体的なコメントを行う予定です

科目コード：31106 **科目ナンバリング：**NU10A03K **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：感染と防御(Infection & Prevention)

担当者：栢内 直美

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：1

授業形式：講義

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：教職 看護 保健

AL要素：08.協同学修
16.振り返り用紙と応答
17.発問と回答

授業の概要： 微生物学の基礎知識を学ぶとともに、それらが環境や人間に及ぼす影響並びに感染成立のしくみを理解する。新型コロナウイルス感染症・薬剤耐性菌など医療施設において感染症は極めて重要な位置を占めており、病原微生物に対する感染制御方法に関して理解を深める。なお、感染管理認定看護師としての実務経験を活かし、必要に応じて臨床現場の事例を紹介しながら理解を深めていく。

キーワード： 病原微生物 感染制御 感染症成立 実務経験

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
- ・病原微生物の種類、特徴や感染症の成立について説明できる。
 - ・感染防止対策(標準予防策・経路別予防策・消毒滅菌等)について説明できる。
 - ・感染に対する生体防御機構について説明できる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
- ・授業で扱った内容について、自主学習によって得た知識や経験をふまえて考察し、自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

- ・授業に臨むまでに自身が可能な限り準備をしてくること。
- ・授業時間以外の自己学習時間を積極的に確保すること。
- ・感染症や食中毒などの事例が、新聞やテレビ等のメディアを通じて報道された際には、積極的に情報を収集するようにすること。
- ・課題を期限内に提出できなかった場合は、その課題は減点対象とする。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

- ・直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容等に認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

- ・直接的な評価対象とはしない。
- ・授業全般において、公正性を期するための意識を持ち言動をとることを基本とする。
- ・著しく公平性を欠く言動やカンニング等に不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

- ・特になし

評価割合: ・特になし

- 授業計画:**
- 【第01回】微生物学の基礎
 - 【第02回】感染とその防御①
 - 【第03回】感染とその防御②
 - 【第04回】感染とその防御③
 - 【第05回】主な病原微生物①
 - 【第06回】主な病原微生物②

【第07回】主な病原微生物③

【第08回】主な病原微生物④

使用テキスト：【教科書】

・南嶋洋一他：系統看護学講座 微生物 疾病の成り立ちと回復と促進4、医学書院

予習・復習のポイントと参考文献・資料等については、必要に応じて提示する。

参考文献・資料等：

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応する。学務部に連絡すること。

授業時間外の連絡手段：

・教員が設定しているオフィスアワー時間を利用すること。
・その他の時間は基本的にメール等でアポイントをとること。

留意事項：2回目の授業よりデバイス(パソコン)を必携とする。

科目コード：31107 科目ナンバリング：NU20A01K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：病理病態学(Clinical Pathology)

担当者：高屋敷 典生

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜5限 金曜6限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：17.発問と回答

授業の概要：教科書に準拠して総論から臓器の各論へと解説を進めます。進度により、計画と進行状況が若干ずれることがありますのでご了承ください。概略でよいので、予習をして授業に参加してください。授業中に適宜質問をしますが、積極的に意見を述べてください。なお、扱う分野が広いので、病態生理に重点をおき、疾病各論などでも学ぶこと(例えば治療詳細など)は、授業では適宜割愛いたします。なお病院での臨床病理検討会に、臨床講義の一貫として参加を予定しています。

キーワード：病理・病態生理・病理病態・総論・各論

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：病理学、病態生理学の総論および各論について基本的な、または、重要な概念を適切に説明することができる。看護師国家試験の病理病態学分野の出題項目に関して、60%以上の正答ができることを必要とする。

評価方法：試験ほか

評価割合：80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：既習の知識を駆使し、質問に対して論理的に正しい考察を述べられることを目標とする。正答を必ずしも要求するものではない。

評価方法：試験ほか

評価割合：20%

▼学修に主体的に取り組む態度

教科書の該当項目に事前に簡単に眼を通しておくと、講義のより深い理解につながります。また、時間のある方は、参考図書の標準生理学を用いて生理学の理解を深めておいてください。また、看護師国家資格試験の過去問題集に早めに取り組むことが、知識の定着を助けるだけでなく、今後の試験に対する不安感を払拭するのに役に立つものと考えており、これを推奨します。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象とはしません。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象にはしません。しかし、不正行為に対しては、学校の定める規則に則って処罰します。

評価割合：0%

▼その他

なし。

評価割合：なし。

授業計画： 原則、教科書の順番に従って授業を進行します。下記はおおまかな目安です。
また状況が許せば、臨床講義として、病院の臨床病理検討会に参加し、議論、学習してもらうことも計画しています。

- 第1回 【総論】病理学で学ぶこと
 - 第2回 【総論】細胞・組織の損傷と修復、炎症
 - 第3回 【総論】循環障害
 - 第4回 【各論】臓器の循環障害と疾患(脳、心臓、血管)
 - 第5回 【総論】免疫
 - 第6回 【各論】臓器の免疫学的疾患(腎臓、自己免疫疾患など)
 - 第7回 【総論】感染症
 - 第8回 【各論】臓器の感染症(肺、肝臓、泌尿生殖器系など)
 - 第9回 【総論】代謝障害
 - 第10回 【各論】消化器系、内分泌系の疾患
 - 第11回 【総論】腫瘍総論
 - 第12回 【各論】肺、乳腺、消化器系などの腫瘍
 - 第13回 【各論】造血器系、生殖器系、非上皮系などの腫瘍
 - 第14回 【総論】先天異常と遺伝性疾患
 - 第15回 【各論】脳・神経・筋・骨・関節・耳・眼・皮膚の疾患
- 定期試験

使用テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進① (第5版)
医学書院 ISBN-10 4260019864

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 教科書の該当項目に事前に簡単に眼を通しておくと、講義のより深い理解につながります。
また、時間のある方は、解剖学、組織学の復習や、参考図書の標準生理学を用いて生理学の理解を深めておいてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、事前にご相談ください。

授業時間外の連絡手段： 学務課を通してご連絡ください。

留意事項： なし。

科目コード：31108 科目ナンバリング：NU20A02K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：薬理学(Pharmacology)

担当者：青山 芳文

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜6限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：教職 看護 保健

AL要素：発問と回答

授業の概要： 「薬の適正使用を推進」し、安心・安全良質な医療を求める患者およびその家族のニーズに応え続けるため、薬の作用、副作用並びに作用機序について薬理学の基本的な知識を身に着ける。

キーワード： 薬の適正使用推進、薬理学、医薬品、有効性・作用機序、安全性・副作用・相互作用、禁忌、投与経路、薬物動態、薬の保管、疾患と薬剤、看護師国家試験対策

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 疾患の治療に用いられる薬にはどのようなものがあるか、そして、それらの薬物の作用、作用機序、ならびに副作用について解説します。看護師国家試験過去問を活用して臨床現場での必須ポイントを身につけます。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 薬理学の基本的な知識を活用して薬の適正使用を推進し、患者とその家族に安心・安全、良質な薬物療法を提供できる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が授業中の発言などに認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業中の発言などに認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的な発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 【第1回】第1章 総論(1)
- 【第2回】第1章 総論(2)
- 【第3回】第2章 消化器(1)
- 【第4回】第2章 消化器(2)
- 【第5回】第3章 循環器・血液
- 【第6回】第4章 呼吸器
- 【第7回】第5章 内分泌(1)
- 【第8回】第5章 内分泌(2)
- 【第9回】第6章 神経(1)
- 【第10回】第6章 神経(2)
- 【第11回】第7章 感染症
- 【第12回】第8章 抗がん剤
- 【第13回】第9章 抗炎症薬
- 【第14回】第10章 その他
- 【第15回】総まとめ・振り返り

使用テキスト： FLASH薬理学 著者：丸山 敬 羊土社 2019年7月1日 第2版発行

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 受講する前に予習しておくことが望ましい。
配布資料について復習するとよい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業終了後、教室で対応します。

留意事項: 特になし

科目コード:31109 科目ナンバリング:NU20A03K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 疾病治療論(Pathophysiology)

担当者: 前田 和子、教務委員会、宇留野 由紀子

基本情報

年次:2 単位数:3 授業形式:講義

曜時:前期(木曜5限 木曜6限)、後期(集中講) 履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健 AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 疾病の予防、早期発見、治療に伴う看護に必要とされる基礎的知識を学習する。具体的には、機能・臓器別に代表的な疾患について、その疫学、病態生理、診断法(検査法)、治療法を学習する。

キーワード: 疾病・診断・治療

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1. 各機能・臓器を障害する代表的な疾患について、疫学、分類・病型について知ることができる。
2. 各機能・臓器における代表的な疾患の発生機序、病因、症状と経過、検査と診断、治療について知ることができる。

評価方法: 試験 **評価割合:** 90%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 1. 各機能・臓器を障害する代表的な疾患について、疫学、分類・病型を理解できる。
2. 各機能・臓器における代表的な疾患の発生機序、病因、症状と経過、検査と診断、治療について理解できる。

評価方法: 試験 **評価割合:** 10%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

本科目は看護の理解に重要となる疾患の基礎的知識について学習し、学習範囲も幅広いため、予習・復習を含めて、主体的に学習に取り組むことを望む。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価の対象にはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく公正を欠く言動があった場合には注意を要する。

評価割合: 0%

▼ その他

なし。

評価割合：なし。

- 授業計画：
1. 循環器系の障害①(心不全)
 2. 循環器系の障害②(不整脈)
 3. 中枢神経系の障害①(神経変性疾患)
 4. 泌尿器系の障害
 5. 血液・造血系の障害(白血病)
 6. 腎・泌尿器系の障害(腎不全)
 7. 消化器系の障害①肝疾患(肝硬変、肝細胞癌)
 8. 消化器系の障害②胆嚢疾患、膵臓疾患
 9. 呼吸器系の障害①(肺癌)
 10. 呼吸器系の障害②(COPD、気管支喘息)
 11. 内分泌系・代謝系の障害①
 12. 内分泌系・代謝系の障害②
 13. 循環器系の障害③(虚血性心疾患)
 14. 中枢神経系の障害②(脳血管障害)
 15. 中枢神経系の障害③(頭部外傷、神経腫瘍)
 16. 感覚機能の障害①(熱傷、褥瘡)
 17. 感覚機能の障害②アレルギー疾患(アトピー性皮膚炎)
 18. 消化器系の障害③消化管の腫瘍(胃癌)
 19. 消化器系の障害④消化管の腫瘍(大腸癌、直腸癌)
 20. 運動機能の障害①(変形性関節症)
 21. 運動機能の障害②(脊柱・脊髄疾患)
 22. 免疫機能の障害膠原病①(関節リウマチ)
 23. 免疫機能の障害膠原病②(全身性エリテマトーデスなど)

使用テキスト： 臨床病態学1巻、2巻、3巻(出版社：ヌーヴェルヒロカワ)
教科書を講義の前に必ず準備すること。

予習・復習のポイントと 予習が重要である。指定された教科書を講義の前に必ず読んで、問題点を自分自身で整理
参考文献・資料等： しておき講義で質疑ができるようにしておくこと。予習なしでは授業は成立しません。

障がいのある 可能な限り対応するので、支援が必要な場合は、学務部へ申し出ること。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 担当する講師はすべて非常勤の講師であるため、本科目について何かあれば学科・教務
委員へ申し出ること。

留意事項： 本科目は、通年科目である。

科目コード：31111 科目ナンバリング：NU10A05K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 社会保障制度論(Social Security System)

担当者： 吉田 滋

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜5限

履修可能学科・専攻： N

関連資格：福祉主 看護 保健

AL要素：08 協同学修

10 資料調査課題

16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会保障という言葉はよく耳にするが、具体的な内容については知られていない。大学を出て職業人として活躍するうえで「社会保障」の意義、制度、仕組み、現状を知ることは必要である。基礎的な理論、制度を優しく学びながら今後の課題や知っておくと役立つ制度を身に着けていく。

キーワード： 社会保障、社会保障制度、社会保障給付費、財源、国と地方自治体の役割分担、税負担。

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 社会保障制度の歴史、基本的理念、仕組み、制度を理解する。
日常生活の場面で活用できる社会保障制度を学び、将来利用できる能力を身に着ける。

評価方法： 期末試験で評価する。 **評価割合：50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 雇用保険制度など誰もが出合いそうな具体的な社会保障制度を理解し、現代の社会保障制度の抱える課題や問題点を自分の言葉で表現できるようにする。

評価方法： 期末試験で評価する。 **評価割合：50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接の評価とはしない。
学生として積極的に学修するのは当然だからである。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接の評価とはしない。上記同様、学生の善意に期待する。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接の評価とはしない。しかし、毎回の授業コメントや受講態度、試験等の記述内容で重大な違反があれば、本人へ直接指導注意したうえで減点する場合がある。

評価割合：0%

▼ その他

出席はUnipaの課題管理で毎回授業の感想文提出確認で行う。出席していても感想文を出さないと遅刻欠席扱いとする場合がある。詳細はガイダンス時に指示する。

評価割合：出席はUnipaの課題管理で毎回授

授業計画：

- 第1回 社会保障総論。社会保障の意義と理念。社会保障の現状とそれを取り巻く環境。社会保障の制度体系とそれを取り巻く環境。
- 第2回 社会保障総論。社会保障の制度体系と保障方法。社会保障の歴史と国際的動向。
- 第3回 年金。年金の意義、実態、仕組み、歴史、政策、課題。
- 第4回 就労支援と労働保険。労働保険の基本。雇用保険。労働者災害補償保険。労働保険の歴史と政策、課題。
- 第5回 生活保護。目的、動向、現状、仕組み、支給に至るプロセス。歴史と課題。
- 第6回 医療。医療制度の意義、実態、仕組み。歴史と課題。介護保険制度の仕組み。
- 第7回 介護。介護保障の意義。介護の実態。
- 第8回 介護。歴史と政策動向、課題。
- 第9回 障害者施策。障害者施策の意義。実態、仕組み、歴史と課題。
- 第10回 児童福祉と子育て支援。意義、実態、仕組み、歴史、現状、課題。
- 第11回 権利擁護。意義、現状、実態、仕組み、歴史、課題。
- 第12回 社会保険と行政。社会保障の行政組織。実施主体と行政。社会保障行政の実施組織。
- 第13回 社会保障と財政。社会保障における財政の役割。社会保障給付金と社会保障の財源。

- 第14回 社会保障と財政。国と地方の役割分担。社会保険制度。社会保険・税の一体化改革。
第15回 日本が抱える今後の課題。
第16回 期末試験。

使用テキスト: 『入門テキスト 社会保障の基礎』第2版 西村 淳著、東洋経済新報社。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 日常のニュースをよく聞いてほしい。指定図書を講義までに一度は読んでおき、わからない部分をチェックして講義を聞いた後で読み返すことを繰り返してほしい。
シラバスで示した回数部分を授業前に読んでおく(90分)。講義終了後は各自で理解できなかった部分、疑問点をノートにまとめて図書館等で調べる(90分)。
これを繰り返せば知識がついていくはずである。
参考文献
『15歳からの社会保障 人生のピンチに備えて知っておこう』横山北斗著、日本評論社。
その他の者は随時指示する。

障がいのある履修者への対応: 大学事務局と協議して可能な限りの合理的配慮を行う。授業開始時または受講前に必ず申し出て欲しい。

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡用アドレスを公開している。

留意事項: 授業のレジュメは毎回Unipa上に講義開始までに公開配布する。学生は各自プリントアウトしておいてほしい。

科目コード: 31112 科目ナンバリング: NU10A06K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 保健医療福祉行政論(Health & Welfare Administration)

担当者: 瀧澤 利行

基本情報

年次: カリキュラム 単位数: 2 授業形式: 講義
曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義) 履修可能学科・専攻: N
関連資格: 教職 看護 保健 AL要素: 想定していない

授業の概要: わが国の国民の健康と生活を成り立たせるために重要な行政のシステムがどのような経緯を経て確立してきたかを理解し、地域保健行政の組織と運営に必要な知識を身につけるために、以下の項目について体系的に学習することめざします。1)日本における保健福祉医療の活動を支えている基本的な思想とその目的 2)日本における保健福祉行政の成立過程についての基本的知識 3)日本の保健福祉行政の法体系 4)日本における保健福祉行政のシステムの領域ごとの内容 5)各領域ごとに展開されている活動の実態と課題 6)日本における保健福祉行政の計画と運用 7)健康危機管理への対応 8)保健医療福祉政策の立案過程

キーワード: 日本国憲法 衛生行政 公衆衛生 社会保障 社会福祉

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1)わが国およびわが国に影響を与えた諸国の保健医療福祉行政の発展過程の概要を理解し、それらの背景にある思想や理念の意義を説明することができる。2)保健医療福祉の行政体系の概略を理解でき、それぞれの主要な政策の目的、内容、課題について適切な資料にもとづいて説明することができる。3)保健医療福祉の政策立案の過程、制度の運用、評価などのシステムについて理解できるようにする。

評価方法: 筆答試験

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 1)国民の健康と福祉がどのようなシステムと条件で支えられているかが考えられる。

- 2)公衆衛生や衛生行政の担い手がどのような姿勢で業務に取り組んでいるかを判断できる。
- 3)保健医療福祉制度の改善に何が必要かを思考や判断に基づいて表現できる。

評価方法: 筆答試験

評価割合: 5%

▼学修に主体的に取り組む態度

各時において質問に対する適切な回答を行おうとする意思が表明できる。

評価割合: 5%

▼実践的ボランティア

講義の理解事態においては特に必要としないが、保健医療福祉行政には常に一定のボランティアがもめられる。

評価割合: 3%

▼公正性

保健医療福祉行政の思想的根幹の一つは公正性の確保にある。

評価割合: 2%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 1) 保健福祉の理念とそれを支える思想
 - 2) 保健福祉行政の仕組み
 - 3) 行財政の仕組み
 - 4) 社会保障の体系
 - 5) 年金制度、医療保険制度、労働保険制度
 - 6) 公衆衛生行政
 - 7) 公衆衛生行政の変遷と保健政策
 - 8) 地域保健制度
 - 9) 保健所と市町村保健センター
 - 10) 医療制度の仕組み
 - 11) 医療機関
 - 12) 医療政策
 - 13) 社会福祉制度と公的扶助
 - 14) 児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、介護保険制度
 - 15) 講義のまとめと試験

使用テキスト: 標準保健師講座別巻1『保健医療福祉行政論』(医学書院),最新版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 高等学校の教科「公民」の科目「現代社会」「政治・経済」の教科書を再度精読しておくこと。日本の行政組織の概要は基本的な内容はすでにそこに示されているので、知っていることを前提として授業が展開されることを理解しておくこと。また、日本国憲法を熟読しておくこと。

参考文献:厚生統計協会編『国民衛生の動向』逐年版(毎年10月頃に当年度版が刊行される)

障がいのある履修者への対応: 個別に配慮するので連絡すること。

授業時間外の連絡手段: 集中講義のため、学務係を通すこと。

留意事項: 集中講義なので欠席のないようにすること。

科目コード:31115

科目ナンバリング:NU20A04K

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 疫学(Epidemiology)

担当者: 岩井 浩一

基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格:教職 看護 保健

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 疫学は、新型コロナウイルスの感染拡大で重要性が増していますが、人間集団の健康に及ぼす環境因子の影響を調べ、疾病を予防するうえで重要な学問領域です。科学的根拠に基づいた看護(Evidence-based Nursing; EBM)や地域保健活動のための基礎的方法論を学習します。

キーワード: 疾病頻度, 疫学指標, 研究デザイン, バイアス, 交絡, スクリーニング, 感染症, がん, 循環器疾患, 地域保健活動

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: この授業では、疫学の基礎的概念や考え方を学び、環境因子と健康の関連について理解し、予防医学的な考え方ができるようになることを目標とします。特に、科学的根拠に基づいた看護(EBN)、地域保健活動に役立つような知識・技術・態度を習得することをねらっています。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知識や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 1) 疫学概念, 疫学の歴史
- 2) 曝露と疾病, 因果関係の考え方
- 3) 疾病頻度の測定(罹患率, 有病率, 致命率など)
- 4) 疫学指標(粗死亡率, 年齢調整死亡率など), 生命表
- 5) 相対危険と寄与危険, オッズ比
- 6) 記述疫学, 生態学研究, 横断研究

- 7) 分析疫学(コホート研究)
- 8) 分析疫学(ケースコントロール研究)
- 9) 介入研究
- 10) 偶然誤差と系統誤差, バイアスと交絡, 交絡因子の制御方法
- 11) スクリーニング, 敏感度, 特異度, ROC曲線
- 12) 感染症の疫学
- 13) がんの疫学
- 14) 循環器疾患の疫学
- 15) 公衆衛生学分野での応用, まとめ
定期試験

使用テキスト: 特に指定しない。
授業の中でプリントを配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎時間の資料等はUNIPAにアップします。予習・復習に役立ててください。
参考書は以下の通りです。
○『今日の疫学』 医学書院
○『地域保健活動のための疫学』 日本公衆衛生協会
○『はじめて学ぶやさしい疫学』 南山堂
○『基礎から学ぶ楽しい疫学』 医学書院
○『国民衛生の動向』 厚生統計協会

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 電子メールで対応します。メールアドレスは、授業の中でお知らせします。

留意事項: 授業の中で、保健師国家試験の過去問についても扱っていきます。

科目コード:31118 科目ナンバリング: NU11A02E 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 看護学へのアプローチ a(Introduction for Nursing Science a)

担当者: 白木 裕子、渋谷 えみ、叶多 博美、原島 利恵、宇留野 由紀子、前田 和子、若林 千津子、眞崎 由香、長津 貴子、小野 加奈子、大内 玲、海野 潔美

基本情報

年次:1	単位数:1	授業形式:演習
曜時:火曜3限		履修可能学科・専攻: N
関連資格:看護 保健		AL要素: 07. 発表 08. 協同学習 11. 討論 16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答

授業の概要: 本科目は、本学において看護学の学修を始めるにあたっての学ぶための基礎を学ぶ科目である。上述した看護学を学ぶために必要となる「聴く」「話す」「学びあう」、論理的に「読む」「書く」という力の習得に向けた基本的知識・スキルを理解し、これらを実際に体験することを通じて、今後の看護学の学修への準備ができることを目的とする。

キーワード: アカデミックリテラシー グループワーク

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 看護学を学ぶために必要となる「聴く」「話す」「学びあう」、論理的に「読む」「書く」という力の習得に向けた基本的知識・スキルを理解する。

評価方法：課題
レポート

評価割合：30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で扱った内容について、論理的かつ簡潔に自らの考えを表現することができる。

評価方法：課題
レポート
ワークシート

評価割合：60%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループワークが多くなります。看護学生としての自覚と責任を持ち、グループ内での自分の役割を意識して行動することができているかを評価します。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：【第01回】ガイダンス・本学で看護学を学ぶということ①：
DPの理解・CPの理解・大学生生活の目標とスケジュール・大学での学び・実習とは
【第02回】本学で看護学を学ぶということ②：自校史を知る
【第03回】本学で看護学を学ぶということ③：キリスト教と看護
【第04回】本学で看護学を学ぶということ④：キャリア支援センターによるEQ
【第05回】アカデミックリテラシー①：論理的に書く(レポートの書き方)
【第06回】アカデミックリテラシー②：情報を得る(文献の探し方)
【第07回】テーマを探索・調べる①(図書館ガイダンス)
【第08回】アカデミックリテラシー③：論理的に読む・話す(プレゼン技術)
【第09回】アカデミックリテラシー④：グループで学ぶ
【第10回】テーマを探索・調べる②
【第11回】テーマを探索・調べる③
【第12回】レポートを書く①
【第13回】レポートを書く②
【第14回】プレゼンテーションの準備
【第15回】プレゼンテーション

使用テキスト： 使用しない。適宜資料を配布する。

予習・復習のポイントと 学修したスキルを大学生活の中で活用しましょう。
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等については初回にお知らせします。

留意事項： 授業内容によって、パソコンを使用する場合があります。初回授業で説明いたします。
指示がある場合は、必ず持参してください。

科目コード : 31118

科目ナンバリング : NU11A02E

主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 看護学へのアプローチ b(Introduction for Nursing Science b)

担当者 : 白木 裕子、渋谷 えみ、叶多 博美、原島 利恵、宇留野 由紀子、前田 和子、若林 千津子、眞崎 由香、長津 貴子、小野 加奈子、大内 玲、海野 潔美

基本情報

年次 : 1

単位数 : 1

授業形式 : 演習

曜時 : 火曜3限

履修可能学科・専攻 : N

関連資格 : 看護 保健

AL要素 : 07. 発表

08. 協同学習

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要 : 本科目は、本学において看護学の学修を始めるにあたっての学ぶための基礎を学ぶ科目である。上述した看護学を学ぶために必要となる「聴く」「話す」「学びあう」、論理的に「読む」「書く」という力の習得に向けた基本的知識・スキルを理解し、これらを実際に体験することを通じて、今後の看護学の学修への準備ができることを目的とする。

キーワード : アカデミックリテラシー グループワーク

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 看護学を学ぶために必要となる「聴く」「話す」「学びあう」、論理的に「読む」「書く」という力の習得に向けた基本的知識・スキルを理解する。

評価方法 : 課題
レポート

評価割合 : 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 授業で扱った内容について、論理的かつ簡潔に自らの考えを表現することができる。

評価方法 : 課題
レポート
ワークシート

評価割合 : 60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

グループワークが多くなります。看護学生としての自覚と責任を持ち、グループ内での自分の役割を意識して行動することができているかを評価します。

評価割合 : 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

- 授業計画：** 【第01回】ガイダンス・本学で看護学を学ぶということ①：
 DPの理解・CPの理解・大学生活の目標とスケジュール・大学での学び・実習とは
 【第02回】本学で看護学を学ぶということ②：自校史を知る
 【第03回】本学で看護学を学ぶということ③：キリスト教と看護
 【第04回】本学で看護学を学ぶということ④：キャリア支援センターによるEQ
 【第05回】アカデミックリテラシー①：論理的に書く(レポートの書き方)
 【第06回】アカデミックリテラシー②：情報を得る(文献の探し方)
 【第07回】テーマを探索・調べる①(図書館ガイダンス)
 【第08回】アカデミックリテラシー③：論理的に読む・話す(プレゼン技術)
 【第09回】アカデミックリテラシー④：グループで学ぶ
 【第10回】テーマを探索・調べる②
 【第11回】テーマを探索・調べる③
 【第12回】レポートを書く①
 【第13回】レポートを書く②
 【第14回】プレゼンテーションの準備
 【第15回】プレゼンテーション

使用テキスト： 使用しない。適宜資料を配布する。

予習・復習のポイントと 学修したスキルを大学生活の中で活用しましょう。

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等については初回にお知らせします。

留意事項： 授業内容によって、パソコンを使用する場合があります。初回授業で説明いたします。
 指示がある場合は、必ず持参してください。

科目コード： 31119

科目ナンバリング： NU12A02E

主な使用言語： 日本語

授業名(英文)： ヘルスアセスメントA a(Health Assessment A a)

担当者： 木下 美智子、豊田 真弓、栢内 直美、角田 智美

基本情報

年次： 1

単位数： 1

授業形式： 演習

曜時： 火曜1限 火曜2限

履修可能学科・専攻： N

関連資格： 看護 保健

AL要素： 03. 実験・実技・体験

05. 即時応答

07. 発表

08. 協同学修

11. 討論

13. 役割演技と擬似体験

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要： 日常生活行動からみるヘルスアセスメントの目的・意義・必要性を理解し、対象者の健康状態を身体的・心理的・社会的側面から総合的にアセスメントをするための基本的な知識と技術を学ぶ。特に身体的健康上の問題を明らかにするために、身体的アセスメント(フィジカルアセスメント)は、ヘルスアセスメントに必要な基本的な5つの技術(問診・視診・触診・聴診・打診)を用いて全身の状態を系統的に査定する知識と技術を学修する。対象者から得た身体の情報については、正常な状態と比較しアセスメントができる力を修得する。

キーワード： ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション、看護実践能力、科学的思考

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1. 日常生活行動からみるヘルスアセスメントの目的・意義・必要性を説明できる。
2. 人間を身体的・心理的・社会側面的からとらえる重要性を説明できる。
3. ヘルスアセスメントに必要な基本的な5つの技術(問診・視診・触診・聴診・打診)を用いて身体的アセスメント(フィジカルアセスメント)が実施できる。

評価方法: ・学期末筆記試験 **評価割合:** 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 1. 対象者から得た身体の情報について、正常な状態と比較しアセスメントできる。
2. ヘルスアセスメントを日常生活行動の枠組みでとらえ、アセスメント結果を患者の生活援助のための看護ケアに活用できる。
3. 個人情報保護をふまえ、倫理的配慮、礼節、態度を遵守できる。

評価方法: ・課題演習 **評価割合:** 20%
・実技試験
・レポート課題

▼ 学修に主体的に取り組む態度

日常生活行動からみるヘルスアセスメントの基本的な知識・技術を獲得しようという意欲を持ち、繰り返し練習して技術を修得する姿勢・態度を評価する。また、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート・学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が演習(ロールプレイ/シミュレーション)・グループワーク・レポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01回】講義:日常生活行動からみるヘルスアセスメント
ヘルスアセスメントに必要な基本的5技法
【第02回】講義:日常生活を支えるからだの機能のアセスメント
恒常性維持のための流通機構
恒常性維持のための調節機構-神経性調節
恒常性維持のための調節機構-液性調節
【第03回】演習:日常生活を支えるからだの機能のアセスメント
【第04回】講義:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント 1
「息をする」
【第05回】演習:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント
「息をする」
【第06回】講義:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント 2
「動く」
【第07回】演習:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント
「動く」
【第08回】講義:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント 3
「食べる」

- 【第09回】講義:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント 4
「排泄する」
- 【第10回】演習:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント
「食べる」「排泄する」
- 【第11回】講義:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント 5
「お風呂に入る」
- 【第12回】講義:「生きている」ことのアセスメント
- 【第13回】演習:「生きている」ことのアセスメント_バイタルサイン
- 【第14回】演習:からだの機能のアセスメント 課題演習
- 【第15回】演習:からだの機能のアセスメント 技術チェック

使用テキスト: 大久保暢子(2016):日常生活行動からみるヘルスアセスメント_看護形態機能学の枠組みを用いて,日本看護協会出版会.

予習・復習のポイントと 【予習】(1時間)

参考文献・資料等:

1. テキスト・参考文献の該当箇所を熟読し、専門用語を確認する。
2. 関連動画を視聴する。

【復習】(1時間)

1. テキスト・講義資料・参考文献を用いて、授業の内容を振り返り理解を深める。
2. 自分の身体を用いて、発する音や反応を確認する。
3. 日常生活の中での身体変化に注意を向ける。
4. テキストや配付資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。

【参考文献】

1. 松尾ミヨ子, 城生弘美, 習田明裕, 金壽子(2022):ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I コミュニケーション/看護の展開/ヘルスアセスメント, メディカ出版.
2. 三上れつ・小松万喜子(2017):ヘルスアセスメント(Web動画付)(改訂第2版)臨床実践能力を高める, 南江堂.

授業に関連する資料等は、適宜配付する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。
曜日・時限等については初回に連絡する。

留意事項: 1回目の授業よりデバイス(パソコン)を必携とする。

科目コード:31119

科目ナンバリング:NU12A02E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):ヘルスアセスメントA b(Health Assessment A b)

担当者:木下 美智子、豊田 真弓、栢内 直美、角田 智美

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:火曜1限 火曜2限

履修可能学科・専攻: N

関連資格:看護 保健

AL要素: 03. 実験・実技・体験

05. 即時応答

07. 発表

08. 協同学修

11. 討論

13. 役割演技と擬似体験

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要: 日常生活行動からみるヘルスアセスメントの目的・意義・必要性を理解し、対象者の健康状

態を身体的・心理的・社会的側面から総合的にアセスメントをするための基本的な知識と技術を学ぶ。特に身体的健康上の問題を明らかにするために、身体的アセスメント(フィジカルアセスメント)は、ヘルスアセスメントに必要な基本的な5つの技術(問診・視診・触診・聴診・打診)を用いて全身の状態を系統的に査定する知識と技術を学修する。対象者から得た身体の情報については、正常な状態と比較しアセスメントができる力を修得する。

キーワード: ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション、看護実践能力、科学的思考

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1. 日常生活行動からみるヘルスアセスメントの目的・意義・必要性を説明できる。
2. 人間を身体的・心理的・社会側面的からとらえる重要性を説明できる。
3. ヘルスアセスメントに必要な基本的な5つの技術(問診・視診・触診・聴診・打診)を用いて身体的アセスメント(フィジカルアセスメント)が実施できる。

評価方法: ・学期末筆記試験 **評価割合:** 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 1. 対象者から得た身体の情報について、正常な状態と比較しアセスメントできる。
2. ヘルスアセスメントを日常生活行動の枠組みでとらえ、アセスメント結果を患者の生活援助のための看護ケアに活用できる。
3. 個人情報保護をふまえ、倫理的配慮、礼節、態度を遵守できる。

評価方法: ・課題演習 **評価割合:** 20%
・実技試験
・レポート課題

▼学修に主体的に取り組む態度

日常生活行動からみるヘルスアセスメントの基本的な知識・技術を獲得しようという意欲を持ち、繰り返し練習して技術を修得する姿勢・態度を評価する。また、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート・学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が演習(ロールプレイ/シミュレーション)・グループワーク・レポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01回】講義:日常生活行動からみるヘルスアセスメント
ヘルスアセスメントに必要な基本的5技法
【第02回】講義:日常生活を支えるからだの機能のアセスメント
恒常性維持のための流通機構
恒常性維持のための調節機構-神経性調節
恒常性維持のための調節機構-液性調節
【第03回】演習:日常生活を支えるからだの機能のアセスメント
【第04回】講義:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント 1

- 「息をする」
- 【第05回】演習:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント
「息をする」
- 【第06回】講義:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント 2
「動く」
- 【第07回】演習:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント
「動く」
- 【第08回】講義:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント 3
「食べる」
- 【第09回】講義:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント 4
「排泄する」
- 【第10回】演習:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント
「食べる」「排泄する」
- 【第11回】講義:日常生活行動とそれを遂行するためのからだの機能のアセスメント 5
「お風呂に入る」
- 【第12回】講義:「生きている」ことのアセスメント
- 【第13回】演習:「生きている」ことのアセスメント_バイタルサイン
- 【第14回】演習:からだの機能のアセスメント 課題演習
- 【第15回】演習:からだの機能のアセスメント 技術チェック

使用テキスト: 大久保暢子(2016):日常生活行動からみるヘルスアセスメント_看護形態機能学の枠組みを用いて、日本看護協会出版会。

予習・復習のポイントと 【予習】(1時間)

参考文献・資料等:

1. テキスト・参考文献の該当箇所を熟読し、専門用語を確認する。
2. 関連動画を視聴する。

【復習】(1時間)

1. テキスト・講義資料・参考文献を用いて、授業の内容を振り返り理解を深める。
2. 自分の身体を用いて、発する音や反応を確認する。
3. 日常生活の中での身体変化に注意を向ける。
4. テキストや配付資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。

【参考文献】

1. 松尾ミヨ子, 城生弘美, 習田明裕, 金壽子(2022):ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I コミュニケーション/看護の展開/ヘルスアセスメント, メディカ出版。
2. 三上れつ・小松万喜子(2017):ヘルスアセスメント(Web動画付)(改訂第2版)臨床実践能力を高める, 南江堂。

授業に関連する資料等は、適宜配付する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。
曜日・時限等については初回に連絡する。

留意事項: 1回目の授業よりデバイス(パソコン)を必携とする。

科目コード:31120

科目ナンバリング:NU23A01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):ヘルスアセスメントB a(Health Assessment B a)

担当者:角田 智美、豊田 真弓、木下 美智子、栢内 直美

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜3限 金曜4限

履修可能学科・専攻: N

関連資格:看護 保健

AL要素: 03.実験・実技・体験

授業の概要： 既修のヘルスアセスメントAで修得した知識・技術を用い、ある症状を呈する対象者の健康状態を身体的・心理的・社会的側面から総合的にアセスメントする。自身のアクションと対象者のリアクションの繰り返しから、看護における思考過程を学び、臨床判断の基礎的能力となる行動力と気づく能力、アセスメント能力を養う。さらに、看護過程の概要および展開について演習を通して学修する。

キーワード： ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション、看護実践能力、科学的思考、看護過程

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 1. 授業で扱う症状のアセスメントのために必要な身体・心理・社会的な情報を説明できる。
2. フィジカルイグザミネーションおよび問診を行い、情報収集することができる。
3. 看護過程の目的や展開の仕方についての基本的な事柄を説明できる。

評価方法： ・学期末筆記試験

評価割合： 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 1. 対象者の健康状態をアセスメントすることができる。
2. アセスメントの結果を適切に表現することができる。

評価方法： ・演習課題

評価割合： 20%

・レポート課題

・「知識・技術・態度」を合わせて評価する。

▼ 学修に主体的に取り組む態度

演習において主体的に学び、実践することができる。演習グループへの貢献が顕著であり、演習グループ全体の学びを深めることができる。
課題等の提出物を期限内に提出できなかった場合は減点対象とする。

評価割合： 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が演習(ロールプレイ/シミュレーション)・グループワーク・レポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】講義：ガイダンス、ヘルスアセスメントの応用

【第02回】講義：ヘルスアセスメント：呼吸困難

【第03回】演習：ヘルスアセスメント：呼吸困難

【第04回】講義：ヘルスアセスメント：意識障害

【第05回】講義：ヘルスアセスメント：意識障害

【第06回】演習：ヘルスアセスメント：運動麻痺

【第07回】演習：ヘルスアセスメント：運動麻痺

【第08回】講義：ヘルスアセスメント：嚥下障害

- 【第09回】講義:ヘルスアセスメント:嚥下障害
- 【第10回】演習:ヘルスアセスメント:便秘
- 【第11回】演習:ヘルスアセスメント:便秘
- 【第12回】演習:事例を用いた看護過程の展開
- 【第13回】演習:事例を用いた看護過程の展開
- 【第14回】演習:事例を用いた看護過程の展開
- 【第15回】演習:事例を用いた看護過程の展開 振り返りとまとめ

使用テキスト: 以下のテキストを持参すること。

1. 茂野香おる(2023):系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院.
2. 任 和子(2021):系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院.
3. 大久保暢子(2016):日常生活行動からみるヘルスアセスメント
看護形態機能学の枠組みを用いて, 日本看護協会出版会.
4. 任 和子(2021):根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院.

以下のテキストを購入すること。

5. 高木 永子(2018):看護過程に沿った対症看護, 学研メディカル秀潤社.

これらは、
援助技術論B(診療に伴う援助技術)
基礎看護学実習等にも用いる。

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:**

【予習】(1時間)

1. テキスト・参考文献の該当箇所を熟読し、専門用語を確認する。
2. 関連動画を視聴する。

【復習】(1時間)

1. 講義資料・参考文献を用いて、授業の内容を振り返り理解を深める。
2. 自分の身体を用いて、発する音や反応を確認する。
3. 日常生活の中での身体変化に注意を向ける。
4. テキストや配付資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。

【参考文献】

1. 塚本容子・石川倫子・福田広美(2016):ナースが症状をマネジメントする! 症状別アセスメント, メヂカルフレンド社.
2. 医療情報科学研究所(2020):看護がみえる vol.4 看護過程の展開, メディックメディア.

**障がいのある
履修者への対応:** 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。
曜日・時限等については初回に連絡する。

留意事項: 可能であれば、デバイス(パソコン)を持参する(必携ではないが、デバイスの持参を推奨)。

科目コード: 31120 **科目ナンバリング:** NU23A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): ヘルスアセスメントB b(Health Assessment B b)

担当者: 角田 智美、豊田 真弓、木下 美智子、栢内 直美

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 金曜3限 金曜4限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 03.実験・実技・体験
07.発表
08.協同学修

授業の概要: 既修のヘルスアセスメントAで修得した知識・技術を用い、ある症状を呈する対象者の健康

状態を身体的・心理的・社会的側面から総合的にアセスメントする。自身のアクションと対象者のリアクションの繰り返しから、看護における思考過程を学び、臨床判断の基礎的能力となる行動力と気づく能力、アセスメント能力を養う。さらに、看護過程の概要および展開について演習を通して学修する。

キーワード：ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション、看護実践能力、科学的思考、看護過程

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：1. 授業で扱う症状のアセスメントのために必要な身体・心理・社会的な情報を説明できる。
2. フィジカルイグザミネーションおよび問診を行い、情報収集することができる。
3. 看護過程の目的や展開の仕方についての基本的な事柄を説明できる。

評価方法：・学期末筆記試験

評価割合：70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：1. 対象者の健康状態をアセスメントすることができる。
2. アセスメントの結果を適切に表現することができる。

評価方法：・演習課題

評価割合：20%

・レポート課題

・「知識・技術・態度」を合わせて評価する。

▼学修に主体的に取り組む態度

演習において主体的に学び、実践することができる。演習グループへの貢献が顕著であり、演習グループ全体の学びを深めることができる。

課題等の提出物を期限内に提出できなかった場合は減点対象とする。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が演習(ロールプレイ/シミュレーション)・グループワーク・レポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第01回】講義：ガイダンス、ヘルスアセスメントの応用

【第02回】講義：ヘルスアセスメント：呼吸困難

【第03回】演習：ヘルスアセスメント：呼吸困難

【第04回】講義：ヘルスアセスメント：意識障害

【第05回】講義：ヘルスアセスメント：意識障害

【第06回】演習：ヘルスアセスメント：運動麻痺

【第07回】演習：ヘルスアセスメント：運動麻痺

【第08回】講義：ヘルスアセスメント：嚥下障害

【第09回】講義：ヘルスアセスメント：嚥下障害

【第10回】演習：ヘルスアセスメント：便秘

【第11回】演習：ヘルスアセスメント：便秘

【第12回】演習：事例を用いた看護過程の展開

- 【第13回】演習:事例を用いた看護過程の展開
 【第14回】演習:事例を用いた看護過程の展開
 【第15回】演習:事例を用いた看護過程の展開 振り返りとまとめ

使用テキスト: 以下のテキストを持参すること。

1. 茂野香おる(2023):系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院.
2. 任 和子(2021):系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院.
3. 大久保暢子(2016):日常生活行動からみるヘルスアセスメント
看護形態機能学の枠組みを用いて, 日本看護協会出版会.
4. 任 和子(2021):根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院.

以下のテキストを購入すること。

5. 高木 永子(2018):看護過程に沿った対症看護, 学研メディカル秀潤社.

これらは、
 援助技術論B(診療に伴う援助技術)
 基礎看護学実習等にも用いる。

予習・復習のポイントと 【予習】(1時間)

- 参考文献・資料等:**
1. テキスト・参考文献の該当箇所を熟読し、専門用語を確認する。
 2. 関連動画を視聴する。

【復習】(1時間)

1. 講義資料・参考文献を用いて、授業の内容を振り返り理解を深める。
2. 自分の身体を用いて、発する音や反応を確認する。
3. 日常生活の中での身体変化に注意を向ける。
4. テキストや配付資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。

【参考文献】

1. 塚本容子・石川倫子・福田広美(2016):ナースが症状をマネジメントする! 症状別アセスメント, メヂカルフレンド社.
2. 医療情報科学研究所(2020):看護がみえる vol.4 看護過程の展開, メディックメディア.

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。
 曜日・時限等については初回に連絡する。

留意事項: 可能であれば、デバイス(パソコン)を持参する(必携ではないが、デバイスの持参を推奨)。

科目コード: 31122 **科目ナンバリング:** NU25A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 看護実践統合演習I(Seminar of Nursing Practice I)

担当者: 中村 裕美、原島 利恵、小幡 明香、大内 玲、市野沢 征子、梶原 順子、相川 玄、浅野 均

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 保健

AL要素: 08.協同学修

11.討論

13.役割演技と疑似体験

15.レポート指導

16.振り返り用紙と応答

17.発問と回答

授業の概要: 本科目は、1)さまざまな健康状態にある対象者を身体的・心理的・社会的な側面からとらえ

ること、2)状況に応じた看護援助を安全・安楽に行うことができる看護実践能力を身につけることを目的に、演習を通じて学修する。
演習では、基礎看護学実習をはじめとした既修科目の学修内容および同 Semester で学修している内容を活用し、シミュレーションラーニングを通して、気づき、考え、行動する力を身につける。
OSCEにより現時点の自己の看護実践能力を振り返り、課題を見つけ、自己研鑽に繋げる。

キーワード： 看護実践能力 OSCE 主体的な学び シミュレーションラーニング

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 対象者に必要な基本的な看護援助を、状況を踏まえて思考、判断し、安全・安楽に看護実践ができる。

評価方法： 客観的臨床能力試験、レポート

評価割合： 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 療養を必要とする対象者の病態や治療による影響を生活の視点からアセスメントすることができる。
演習や客観的臨床能力試験(OSCE)を通して、自己の課題を認識することができる。

評価方法： 客観的臨床能力試験、レポート

評価割合： 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

事前課題の内容や演習への取り組む態度等の情報を評価対象とする。また、グループ学習を行う上で、チーム医療の一環としてメンバーとしての自覚と責任を持ち、行動することができるかどうか評価する。

評価割合： 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や演習中の記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】ガイダンス、学習課題提示
既修実習を通した振り返りと自己の課題の明確化

【第02回】学習課題に基づく演習①

【第03回】学習課題に基づく演習②

【第04回】学習課題に基づく演習③

【第05回】学習課題に基づく演習④

【第06回】学習課題に基づく演習⑤

【第07回】学習課題に基づく演習⑥

【第08回】学習課題に基づく演習⑦

【第09回】学習課題に基づく演習⑧

【第10回】客観的臨床能力試験(OSCE)への準備①

【第11回】客観的臨床能力試験(OSCE)への準備②

【第12回】客観的臨床能力試験(OSCE)①

【第13回】客観的臨床能力試験(OSCE)②

【第14回】客観的臨床能力試験(OSCE)③

【第15回】まとめ・全体フィードバック

使用テキスト: 必要時提示する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 既修の学修内容を復習し、演習に臨んでください。特に、基礎看護学実習での経験を振り返り、知識・技術・態度の面における自身の課題や目標を持って授業に参加してください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項: 個人・グループワーク・演習とも主体的な学習姿勢で臨んでください。

科目コード: 31123 **科目ナンバリング:** NU11A03E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 援助技術論A a(Nursing Skills A a)

担当者: 角田 智美、豊田 真弓、木下 美智子、栢内 直美

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜4限 木曜5限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 03. 実験・実技・体験

05. 即時応答

07. 発表

08. 協同学修

11. 討論

13. 役割演技と擬似体験

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要: 看護実践能力の基盤となる基礎的な看護技術を学ぶ。対象者の身体と生活の状況をアセスメントし、看護ケアの目的と方法について基本的な考え方を学修する。講義と演習を通して、対象者に共通して用いる身体および生活機能の観察とアセスメントや、日常生活を援助する看護技術の実践能力を修得する。

なお、担当教員の「看護師」の実務経験を活かし、看護技術と知識体系を統合させ、臨床における看護技術の提供の実際を教授する。

キーワード: 日常生活援助技術、看護実践能力、科学的根拠、コミュニケーション、ヘルスアセスメント

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 日常生活の援助技術の目的を説明できる。
 2. 科学的根拠のある援助技術の意義を説明できる。
 3. 対象の身体と生活の状況をアセスメントし、援助技術の必要性を説明できる。
 4. 援助技術の実践において、対象者とコミュニケーションを図る意義と目的を説明できる。
 5. 基本的な日常生活の援助技術を理解し、安全・安楽に実施できる。

評価方法: ・学期末筆記試験

評価割合: 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
1. 講義と演習を通して、対象者への全人的なかかわり、人間関係の構築、状況変化への対応、対象者の権利擁護、倫理的判断をふまえて思考し表現できる。
 2. 日常生活の援助技術における基本的な知識・技能を発展させ、思考力・判断力・表現力を修得し、看護ケアに活用できる。

評価方法: ・演習課題
・技術試験

評価割合: 20%

・レポート課題

・「知識・技術・態度」を合わせて評価する。

▼学修に主体的に取り組む態度

主体的に日常生活の援助技術を獲得しようという意欲を持ち、繰り返し練習して技術を修得する姿勢・態度を評価する。また、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート・学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が演習（ロールプレイ/シミュレーション）・グループワーク・レポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【第01回】講義：ガイダンス 看護技術とは何か、コミュニケーション、安全確保の技術
技術とは何か、看護技術の特徴、看護技術の範囲 他
コミュニケーションの意義と目的
関係構築のためのコミュニケーションの基本
安全確保の基礎知識、患者誤認防止

【第02回】講義：感染防止の技術
感染とその予防の基礎知識、標準予防策、感染経路別予防策、
感染性廃棄物の取り扱い

【第03回】講義：環境調整技術
環境調整援助の基礎知識、援助の実際

【第04回】講義：苦痛の緩和・安楽確保の技術
姿勢とボディメカニクス、体位保持（ポジショニング）、
電法、身体ケアを通じてもたらされる安楽

【第05回】【第06回】演習：感染防止の技術・環境調整技術
標準予防策、感染性廃棄物の取り扱い 他
病床・ベッド周囲の環境整備

【第07回】講義：活動・休息援助技術
基本的活動の援助の基礎知識、睡眠・休息の援助

【第08回】講義：食事援助技術
食事援助の基礎知識、食事摂取の介助

【第09回】【第10回】演習：苦痛の緩和・安楽確保の技術
体位保持（ポジショニング）、体位変換、電法

【第11回】【第12回】演習：活動・休息援助技術
移動（体位変換・歩行・移乗・移送）、睡眠・休息の援助

【第13回】【第14回】演習：食事援助技術
食事摂取の介助、口腔ケア

【第15回】講義：排泄援助技術
自然排尿および自然排便の介助

【第16回】講義：排泄援助技術
自然排尿および自然排便の介助

- 【第17回】【第18回】演習:排泄援助技術
 床上排泄(オムツ、便器、尿器)、陰部洗浄
- 【第19回】【第20回】講義:清潔・衣生活援助の技術
 清潔・衣生活援助の基礎知識、病床での衣生活の援助
- 【第21回】【第22回】演習:清潔・衣生活援助の技術
- 【第23回】【第24回】全身清拭、洗髪、手浴、足浴とフットケア、陰部洗浄、整容
 病衣・寝衣の交換
- 【第25回】講義:基本的な日常生活の援助技術の統合 課題演習
- 【第26回】演習:基本的な日常生活の援助技術の統合 課題演習
- 【第27回】演習:基本的な日常生活の援助技術の統合 課題演習
- 【第28回】演習:基本的な日常生活の援助技術の統合 課題演習
- 【第29回】演習:基本的な日常生活援助の技術の統合 技術チェック
- 【第30回】演習:基本的な日常生活援助の技術の統合 技術チェック

使用テキスト: 以下のテキストを購入すること。

1. 茂野香おる(2023):系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学2 基礎看護技術 I, 医学書院.
2. 任 和子(2022):系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学3 基礎看護技術 II, 医学書院.
3. 任 和子(2021):根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院.

これらは、
 ヘルスアセスメントA
 科学的思考基礎演習IV(ヘルスアセスメントの応用)
 援助技術論B(診療に伴う援助技術)
 基礎看護学実習等にも用いる。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 【予習】テキストを活用し、その回のテーマのわからない用語を調べる(1時間)。
 【復習】テキストや配付資料について復習するとともに、テキストや配付資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(1時間)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。
 曜日・時限等については初回に連絡する。

留意事項: 1回目の授業よりデバイス(パソコン)を必携とする。

科目コード:31123 科目ナンバリング:NU11A03E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 援助技術論A b(Nursing Skills A b)

担当者: 角田 智美、豊田 真弓、木下 美智子、栢内 直美

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:木曜4限 木曜5限

履修可能学科・専攻: N

関連資格:看護 保健

AL要素: 03. 実験・実技・体験

05. 即時応答

07. 発表

08. 協同学修

11. 討論

13. 役割演技と擬似体験

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要: 看護実践能力の基盤となる基礎的な看護技術を学ぶ。対象者の身体と生活の状況をアセスメントし、看護ケアの目的と方法について基本的な考え方を学修する。講義と演習を通して、対象者に共通して用いる身体および生活機能の観察とアセスメントや、日常生活を援助する

看護技術の実践能力を修得する。

なお、担当教員の「看護師」の実務経験を活かし、看護技術と知識体系を統合させ、臨床における看護技術の提供の実際を教授する。

キーワード： 日常生活援助技術、看護実践能力、科学的根拠、コミュニケーション、ヘルスアセスメント

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標：**
1. 日常生活の援助技術の目的を説明できる。
 2. 科学的根拠のある援助技術の意義を説明できる。
 3. 対象の身体と生活の状況をアセスメントし、援助技術の必要性を説明できる。
 4. 援助技術の実践において、対象者とコミュニケーションを図る意義と目的を説明できる。
 5. 基本的な日常生活の援助技術を理解し、安全・安楽に実施できる。

評価方法： ・学期末筆記試験

評価割合： 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標：**
1. 講義と演習を通して、対象者への全人的なかかわり、人間関係の構築、状況変化への対応、対象者の権利擁護、倫理的判断をふまえて思考し表現できる。
 2. 日常生活の援助技術における基本的な知識・技能を発展させ、思考力・判断力・表現力を修得し、看護ケアに活用できる。

評価方法： ・演習課題

評価割合： 20%

- ・技術試験
- ・レポート課題

・「知識・技術・態度」を合わせて評価する。

▼ 学修に主体的に取り組む態度

主体的に日常生活の援助技術を獲得しようという意欲を持ち、繰り返し練習して技術を修得する姿勢・態度を評価する。また、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート・学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が演習（ロールプレイ/シミュレーション）・グループワーク・レポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】講義: ガイダンス 看護技術とは何か、コミュニケーション、安全確保の技術
技術とは何か、看護技術の特徴、看護技術の範囲 他
コミュニケーションの意義と目的
関係構築のためのコミュニケーションの基本
安全確保の基礎知識、患者誤認防止

【第02回】講義: 感染防止の技術
感染とその予防の基礎知識、標準予防策、感染経路別予防策、

- 感染性廃棄物の取り扱い
- 【第03回】講義:環境調整技術
環境調整援助の基礎知識、援助の実際
 - 【第04回】講義:苦痛の緩和・安楽確保の技術
姿勢とボディメカニクス、体位保持(ポジショニング)、
電法、身体ケアを通じてもたらされる安楽
 - 【第05回】演習:感染防止の技術・環境調整技術 a・b
標準予防策、感染性廃棄物の取り扱い、他
病床・ベッド周囲の環境整備
 - 【第06回】演習:感染防止の技術・環境調整技術 a・b
標準予防策、感染性廃棄物の取り扱い、他
病床・ベッド周囲の環境整備
 - 【第07回】講義:活動・休息援助技術
基本的活動の援助の基礎知識、睡眠・休息の援助
 - 【第08回】講義:食事援助技術
食事援助の基礎知識、食事摂取の介助
 - 【第09回】演習:苦痛の緩和・安楽確保の技術 a・b
体位保持(ポジショニング)、体位変換、電法
 - 【第10回】演習:苦痛の緩和・安楽確保の技術 a・b
体位保持(ポジショニング)、体位変換、電法
 - 【第11回】演習:活動・休息援助技術 a・b
移動(体位変換・歩行・移乗・移送)、睡眠・休息の援助
 - 【第12回】演習:活動・休息援助技術 a・b
移動(体位変換・歩行・移乗・移送)、睡眠・休息の援助
 - 【第13回】演習:食事援助技術 a・b
食事摂取の介助、口腔ケア
 - 【第14回】演習:食事援助技術 a・b
食事摂取の介助、口腔ケア
 - 【第15回】講義:排泄援助技術
自然排尿および自然排便の介助
 - 【第16回】講義:排泄援助技術
自然排尿および自然排便の介助
 - 【第17回】演習:排泄援助技術 a・b
床上排泄(オムツ、便器、尿器)、陰部洗浄
 - 【第18回】演習:排泄援助技術 a・b
床上排泄(オムツ、便器、尿器)、陰部洗浄
 - 【第19回】講義:清潔・衣生活援助の技術
清潔・衣生活援助の基礎知識、病床での衣生活の援助
 - 【第20回】講義:清潔・衣生活援助の技術
清潔・衣生活援助の基礎知識、病床での衣生活の援助
 - 【第21回】演習:清潔・衣生活援助の技術 a・b
全身清拭、洗髪、手浴、足浴とフットケア、陰部洗浄、整容
病衣・寝衣の交換
 - 【第22回】演習:清潔・衣生活援助の技術 a・b
全身清拭、洗髪、手浴、足浴とフットケア、陰部洗浄、整容
病衣・寝衣の交換
 - 【第23回】演習:清潔・衣生活援助の技術 a・b
全身清拭、洗髪、手浴、足浴とフットケア、陰部洗浄、整容
病衣・寝衣の交換
 - 【第24回】演習:清潔・衣生活援助の技術 a・b
全身清拭、洗髪、手浴、足浴とフットケア、陰部洗浄、整容
病衣・寝衣の交換
 - 【第25回】講義:基本的な日常生活の援助技術の統合 課題演習 a・b
 - 【第26回】演習:基本的な日常生活の援助技術の統合 課題演習 a・b

- 【第27回】演習: 基本的な日常生活の援助技術の統合 課題演習 a・b
 【第28回】演習: 基本的な日常生活の援助技術の統合 課題演習 a・b
 【第29回】演習: 基本的な日常生活援助の技術の統合 技術チェック a・b
 【第30回】演習: 基本的な日常生活援助の技術の統合 技術チェック a・b

使用テキスト: 以下のテキストを購入すること。

1. 茂野香おる(2023): 系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学2 基礎看護技術 I, 医学書院.
2. 任 和子(2022): 系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学3 基礎看護技術 II, 医学書院.
3. 任 和子(2021): 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院.

これらは、
 ヘルスアセスメントA
 科学的思考基礎演習IV(ヘルスアセスメントの応用)
 援助技術論B(診療に伴う援助技術)
 基礎看護学実習等にも用いる。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 【予習】テキストを活用し、その回のテーマのわからない用語を調べる(1時間)。
 【復習】テキストや配付資料について復習するとともに、テキストや配付資料にない関連事項について自主学修を通じ見を深めることが望ましい(1時間)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。
 曜日・時限等については初回到連絡する。

留意事項: 1回目の授業よりデバイス(パソコン)を必携とする。

科目コード: 31124 科目ナンバリング: NU12A03E 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 援助技術論B a(Nursing Skills B a)

担当者: 栢内 直美、豊田 真弓、木下 美智子、角田 智美

基本情報

年次: 2	単位数: 2	授業形式: 演習
曜時: 水曜4限 水曜5限		履修可能学科・専攻: N
関連資格: 看護 保健		AL要素: 03. 実験・実技・体験 05. 即時応答 07. 発表 08. 協同学修 11. 討論 13. 役割演技と疑似体験 16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答

授業の概要: 援助技術論Aで学んだ基礎的な看護技術をもとに、診療を受ける対象者に必要な援助技術について学修する。講義では、様々な援助場面に共通する感染防止の技術、創傷管理技術、呼吸・循環を整える技術、症状・生体機能管理技術、診察・検査・処置の介助技術、与薬の技術、救命救急処置の技術、死の看取りの援助について学修する。演習では、講義・既習の知識をもとに援助技術を計画・実施し、対象者に応じた援助技術を提供する能力を養う。
 なお、担当教員の「看護師」の実務経験を活かし、看護技術と知識体系を統合させ、臨床における看護技術の提供の実際を教授する。

キーワード: 日常生活援助技術、看護実践能力、診療の補助、科学的根拠、自己評価

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 診療を受ける対象者に必要な援助技術について基礎知識を理解し、説明できる。
 2. 援助技術の必要性・禁忌を説明できる。
 3. 援助技術を計画・実施できる。

評価方法: ・レポート

- ・技術試験
- ・学期末筆記試験

評価割合: 50%.

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
1. 診療を受ける対象者の身体的・心理的な特徴に配慮し、表現できる。
 2. 演習を振り返り、自己の援助技術の課題と改善策を説明できる。

評価方法: ・課題演習

- ・レポート
- ・学期末筆記試験
- ・「知識・技能」を合わせて評価する。

評価割合: 40%.

▼学修に主体的に取り組む態度

主体的に日常生活の援助技術と診療の補助の技術を獲得しようという意欲を持ち、繰り返し練習して技術を修得する姿勢・態度を評価する。また、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート・学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 10%.

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が演習(ロールプレイ/シミュレーション)・グループワーク・レポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%.

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発現やレポートの記述等において人権侵害・差別的等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%.

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 【第01回】 講義: ガイダンス 感染防止の技術
標準予防策、感染経路別予防策、洗浄・消毒・滅菌
無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い、カテーテル関連血流感染対策
針刺し防止策
 - 【第02回】 講義: 環境調整技術 活動休息援助技術
基本的活動の援助
 - 【第03・04回】 演習: 感染防止技術の実際
手指衛生、個人防護用具、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い
 - 【第05・06回】 演習: 環境調整・活動と休息援助技術の実際

- リネン交換・移送と移乗
- 【第07回】 講義: 食事援助技術
摂食・嚥下訓練 非経口的栄養摂取の援助
- 【第08回】 講義: 排泄援助技術
導尿 排便を促す援助
- 【第09・10回】 演習: 食事援助技術の実際
食事摂取の介助、摂食・嚥下訓練、非経口的栄養摂取の援助、
口腔ケア
- 【第11・12回】 演習: 排泄援助技術の実際
導尿 排便を促す援助
- 【第13回】 講義: 呼吸・循環を整える技術
酸素療法・排痰ケア・吸入・末梢循環促進ケア
- 【第14回】 講義: 安全確保の技術・診察、検査、処置における技術
診察、検査、処置の介助
- 【第15・16回】 演習: 呼吸・循環を整える技術の実際
酸素投与・吸引
- 【第17回】 講義: 与薬の技術①
経口与薬・口腔内与薬・吸入・点眼・点鼻
- 【第18回】 講義: 与薬の技術②
経皮与薬・直腸内与薬・注射・輸液管理
- 【第19・20回】 演習: 与薬の技術の実際
静脈内注射・筋肉内注射
- 【第21回】 講義: 創傷管理技術
創傷管理の基礎知識・創傷処置・褥瘡予防
- 【第22回】 講義: 症状・生体機能管理技術
症状・生体機能管理技術の基礎知識 検体検査 生体情報モニタリング
- 【第23・24回】 演習: 症状・生体機能管理技術の実際
静脈血採血
- 【第25回】 講義: 死の看取りの援助
死にゆく人との周囲の人々へのケア 死後の処置
- 【第26回】 演習: 診療記述に伴う援助技術の課題練習
- 【第27・28回】 演習: 診療記述に伴う援助技術の課題練習
- 【第29・30回】 診療技術に伴う援助技術の評価と振り返り

使用テキスト: 以下のテキストを持参すること。

1. 茂野香おる(2023): 系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院.
2. 任 和子(2021): 系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院.

以下のテキストを購入すること。

3. 任 和子(2021): 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院.

これらは、
ヘルスアセスメントB
基礎看護学実習等にも用いる。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前にはテキストを活用し、その回のテーマの分からない用語を調べる(1時間)。
授業後、テキストや配付資料について復習するとともに、テキストや配付資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(1時間)。

授業に関連する資料は、適宜配付する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。
曜日・期限等については初回に連絡する。

留意事項： 可能であれば、デバイス(パソコン)を持参する(必携ではないが、デバイスの持参を推奨)

科目コード : 31124 科目ナンバリング : NU12A03E 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 援助技術論B b(Nursing Skills B b)

担当者 : 栢内 直美、豊田 真弓、木下 美智子、角田 智美

基本情報

年次 : 2

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 水曜4限 水曜5限

履修可能学科・専攻 : N

関連資格 : 看護 保健

AL要素 : 03. 実験・実技・体験

05. 即時応答

07. 発表

08. 協同学修

11. 討論

13. 役割演技と疑似体験

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要： 援助技術論Aで学んだ基礎的な看護技術をもとに、診療を受ける対象者に必要な援助技術について学修する。講義では、様々な援助場面に共通する感染防止の技術、創傷管理技術、呼吸・循環を整える技術、症状・生体機能管理技術、診察・検査・処置の介助技術、与薬の技術、救命救急処置の技術、死の看取りの援助について学修する。演習では、講義・既習の知識をもとに援助技術を計画・実施し、対象者に応じた援助技術を提供する能力を養う。

なお、担当教員の「看護師」の実務経験を活かし、看護技術と知識体系を統合させ、臨床における看護技術の提供の実際を教授する。

キーワード： 日常生活援助技術、看護実践能力、診療の補助、科学的根拠、自己評価

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

- 到達目標：**
1. 診療を受ける対象者に必要な援助技術について基礎知識を理解し、説明できる。
 2. 援助技術の必要性・禁忌を説明できる。
 3. 援助技術を計画・実施できる。

評価方法： ・レポート

・技術試験

・学期末筆記試験

評価割合： 50%.

▼ **思考力・判断力・表現力**

- 到達目標：**
1. 診療を受ける対象者の身体的・心理的な特徴に配慮し、表現できる。
 2. 演習を振り返り、自己の援助技術の課題と改善策を説明できる。

評価方法： ・課題演習

・レポート

評価割合： 40%.

- ・学期末筆記試験
- ・「知識・技能」を合わせて評価する。

▼学修に主体的に取り組む態度

主体的に日常生活の援助技術と診療の補助の技術を獲得しようという意欲を持ち、繰り返し練習して技術を修得する姿勢・態度を評価する。また、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポート・学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：10%。

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が演習（ロールプレイ/シミュレーション）・グループワーク・レポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%。

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発現やレポートの記述等において人権侵害・差別的等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%。

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：** 【第01回】 講義：ガイダンス 感染防止の技術
標準予防策、感染経路別予防策、洗浄・消毒・滅菌
無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い、カテーテル関連血流感染対策
針刺し防止策
- 【第02回】 講義：環境調整技術 活動休息援助技術
基本的活動の援助
- 【第03.04回】演習：感染防止技術の実際
手指衛生、個人防護用具、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い
- 【第05・06回】演習：環境調整・活動と休息援助技術の実際
リネン交換・移送と移乗
- 【第07回】 講義：食事援助技術
摂食・嚥下訓練 非経口的栄養摂取の援助
- 【第08回】 講義：排泄援助技術
導尿 排便を促す援助
- 【第09・10回】演習：食事援助技術の実際
食事摂取の介助、摂食・嚥下訓練、非経口的栄養摂取の援助、
口腔ケア
- 【第11・12回】演習：排泄援助技術の実際
導尿 排便を促す援助
- 【第13回】 講義：呼吸・循環を整える技術
酸素療法・排炭ケア・吸入・末梢循環促進ケア
- 【第14回】 講義：安全確保の技術・診察、検査、処置における技術
診察、検査、処置の介助
- 【第15・16回】演習：呼吸・循環を整える技術の実際
酸素投与・吸引
- 【第17回】 講義：与薬の技術①
経口与薬・口腔内与薬・吸入・点眼・点鼻
- 【第18回】 講義：与薬の技術②
経皮与薬・直腸内与薬・注射・輸液管理
- 【第19・20回】演習：与薬の技術の実際
静脈内注射・筋肉内注射

- 【第21回】 講義:創傷管理技術
創傷管理の基礎知識・創傷処置・褥瘡予防
- 【第22回】 講義:症状・生体機能管理技術
症状・生体機能管理技術の基礎知識 検体検査 生体情報モニタリング
- 【第23・24回】演習:症状・生体機能管理技術の実際
静脈血採血
- 【第25回】 講義:死の看取りの援助
死にゆく人との周囲の人々へのケア 死後の処置
- 【第26回】 演習:創傷管理技術の実際
- 【第27・28回】演習:診療記述に伴う援助技術の課題練習
- 【第29・30回】診療技術に伴う援助技術の評価と振り返り

使用テキスト: 以下のテキストを持参すること。

1. 茂野香おる(2023):系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院.
2. 任 和子(2021):系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院.

以下のテキストを購入すること。

3. 任 和子(2021):根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院.

これらは、
ヘルスアセスメントB
基礎看護学実習等にも用いる。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前にはテキストを活用し、その回のテーマの分からない用語を調べる(1時間)。授業後、テキストや配付資料について復習するとともに、テキストや配付資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(1時間)。

授業に関連する資料等は適宜配付する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。
曜日・期限等については初回到連絡する。

留意事項: 可能であれば、デバイス(パソコン)を持参する(必携ではないが、デバイスの持参を推奨)

科目コード: 31125 **科目ナンバリング:** NU10A09K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 看護関係法規(Nursing & Law)

担当者: 叶多 博美、山本 かほる

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 1

授業形式: 講義

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 16.振り返り用紙と対応
17.発問と回答

授業の概要: 人間が経済活動を行い社会で生活する上では、文化に応じた社会的ルールが必要である。さらに職業人として業務を遂行するためには、それぞれの職場、職種に関連して決められた法的な基準を理解して遵守しなければならない。

看護職はその職務上、多くの法規に関係しており、看護サービスの提供においては、基盤となる法規および関係法規を理解することが不可欠である。そこで、時代の流れとともに変化してきた医療や看護の基盤となる法規および関連法規について理解する。さらに、看護の場面での実際の例を考えながら看護職として正しく職務を遂行するための根拠や判断基準となる法規や法令についての知識を学ぶ。

キーワード: 法の意義、看護職の基盤となる法律、看護実践と法規、医療過誤

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1. 法の概念および看護職に必要な基本法規が説明できる。
2. 事例を基に、看護の専門性と法のかかわり、看護の安全性や患者の権利と法の関係について学びを深める。

評価方法: 定期筆記試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 3. 学習した法規をもとに、看護職としての職務を遂行するための根拠や判断基準を説明できる。

評価方法: レポート

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が筆記試験およびレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が筆記試験およびレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言や筆記試験およびレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 法律を学ぶ目的、法の意義と成り立ち、法の種類、医療法、医師法及び医療関係職種に

関する法規と法の解釈 (外部講師:船橋先生)

第2回 医療過誤、刑事上の責任、民事上の責任、行政上の責任、看護の事故事例 (外部講師:船橋先生)

第3回 看護と関係法規、保健医療福祉に関する法規 (山本)

第4回 看護職の基盤となる法規1 (叶多)

第5回 看護職の基盤となる法規2 (山本)

第6回 看護職の実践と法規1 (叶多)

第7回 看護職の実践と法規2 (山本)

第8回 看護職の実践と法規3 (叶多)

定期試験

使用テキスト: 『ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度』MCメディカ出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事前にテキストの授業範囲に該当する項を読んで予習する(60分)。
配付資料について復習するとともに(60分)、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。

留意事項： 日頃から、ニュースや新聞記事などで地域社会の出来事に興味・関心をもって生活すること。

1年次の公衆衛生学、2年次の公衆衛生看護学概論・保健医療福祉行政論・保健師課程「公衆衛生看護学実習A」との関連が深い科目です。

科目コード：31126 **科目ナンバリング：NU10A10E** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：精神保健(発達段階と場に応じたメンタルヘルス)(Mental Health Nursing)

担当者：宇留野 由紀子、栗原 加代、長津 貴子、松崎 朝樹

基本情報

年次：カリキュラム **単位数：1** **授業形式：演習**

曜時：前期(水曜2限)、後期(集中講義) **履修可能学科・専攻：N**

関連資格：教職 看護 保健 **AL要素：15レポート指導**

授業の概要： 人間の精神を精神力動論的、発達理論的、人間関係理論的な視点を理解する。ライフステージ各期における健康障害、健康生活の基礎的支援を学び、疾病、疾病の早期発見、治療、健康の保持増進、精神保健福祉活動を学んでいく。「生きることの質(QOL)」、「こころの苦悩をへて人間らしく生きることの意義」を考えていく(松崎担当)。授業担当者は自身の臨床経験を踏まえ、現場の実態に裏づけられた内容の授業を行う。

キーワード： クライシス ストレス ライフイベント ト라우マ PTSD

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1. こころの発達過程とその障害について理解できる。
2. ライフステージに即して、こころの健康の保持・増進に必要な知識と方法を理解できる。
3. 個人および集団における健康の保持増進・予防・治療、精神保健福祉活動について理解できる。

評価方法： 定期試験 **評価割合：50%**
レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 1. 生活場面に共通した精神保健上の問題と対応、地域保健活動の基礎を理解できる。
2. こころの仕組みや生物・心理・社会的観点から説明ができる。
3. 自殺やうつ、依存症などの精神障害、ならびに現代社会病理と精神障害との関連について述べることができる。

評価方法： 定期試験 **評価割合：50%**
レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

自分の意見を表現する姿勢など総合的に判断して、思考力・判断力・表現力の評価することがある。提出された記録物等期日遵守も含め、評価の対象とする。提出物の記述等において著しく公正性を欠く記述

や、不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象にはしないが、課題取り組む姿勢授業への参加態度に問題が見受けられた場合は、減点の対象となる。

筆記試験、課題等の記述等において著しく公正性を欠く記述や、不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. ライフサイクルとは：人間のこころの構造（栗原）
 2. ライフサイクルとメンタルヘルス：小児のこころの発達①（宇留野）
 3. ライフサイクルとメンタルヘルス：小児のこころの発達②（宇留野）
 4. ライフサイクルとメンタルヘルス：成人（長津）
 5. ライフサイクルとメンタルヘルス：妊娠・出産・産後（宇留野）
 6. 生活の場におけるメンタルヘルス：老年（宇留野）
 7. 生活の場におけるメンタルヘルス：職場（栗原）
 8. 生活の場におけるメンタルヘルス：家庭（栗原）
 9. 生活の場におけるメンタルヘルス：依存症（岩井）
 10. メンタルヘルスの理念と歴史：（松崎）
 11. 精神の機能と障害：（松崎）
 12. こころの不調の諸相：（松崎）
 13. 精神病と摂食障がい：（松崎）
 14. 精神病理を背景とするメンタルヘルスの問題：（松崎）
 15. 精神保健行政と地域精神保健：（松崎）
- 試験

使用テキスト：大田保之他編 精神看護学 精神保健 第5版 医歯薬出版株式会社 2020

予習・復習のポイントと 参考書等は適宜紹介する。

参考文献・資料等：毎回の授業テーマとテキスト該当部分を予習して参加する。
新聞記事などメンタルヘルスに関連する事項に関心を持って授業に臨むこと。

障がいのある できうる限り対応する。学務に相談すること。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーで対応する。

留意事項： 講義への参加度等も加味する。

科目コード：31130 科目ナンバリング：NU20A05J 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：基礎看護学実習(Clinical Practice of Fundamental Nursing)

担当者：木下 美智子、豊田 真弓、小池 美香、園部 律子、間宮 千紘、鈴木 陽子、栢内 直美、
市野沢 征子、角田 智美、梶原 順子

基本情報

年次：2

単位数：3

授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：01.実地訓練
07.発表
11.討論

授業の概要：看護援助を必要とする対象者に、基本的な「日常生活の援助」と「フィジカルアセスメント」を用いて臨地実習に臨む。看護実践を支える看護の考え方「ヘンダーソンの看護を構成する基本的欲求の枠組み」を通して、援助技術の必要性を明確にし、方法を選択しながら、指導者とともに体験および実施する。看護学の基盤となる看護援助技術と対象者に必要な基本的知識・技術・態度を修得する。

キーワード：日常生活の援助、フィジカルアセスメント、看護援助技術、看護過程、ヘンダーソン「看護の基本となるもの」

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：

1. 対象者と良好な人間関係を構築することができる。
2. 対象者の生活状況を理解することができる。
3. 対象者の健康状態を理解することができる。
4. 対象者の状態を把握することができる。
5. 対象者に必要な看護援助を計画・実施・評価することができる。

評価方法：・看護援助
・実習記録
・レポート
・カンファレンス
・発表

評価割合：30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：対象者を尊重する力、コミュニケーション力、気づく力、情報収集力、解釈する力、実践する力、専門職として研鑽し続ける力を身につけることができる。

評価方法：・看護援助
・実習記録
・レポート
・カンファレンス
・発表

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

日々の実習に臨む基本的な態度と姿勢、個人情報取り扱い、カンファレンスへの参加度、振り返りと課題を通して、看護学生としての自覚と責任のもと思考と実践を評価する。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、実習中の発言や記録用紙の記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【実習期間】

1. 2023年8月14日(月)～9月22日(金)
 - 1) 前半のグループ(1クール目):2023年8月16日(水)～9月01日(金)
 - 2) 後半のグループ(2クール目):2023年9月04日(月)～9月22日(金)
 - *各グループの期間内に学内実習を含む。
 - *各グループの臨地実習の日数は、同等となるよう調整を図る。

【実習施設】

茨城県内の医療機関

【実習方法】

1. 実習開始前の学内オリエンテーションに参加する。
2. 各実習施設における臨地実習に参加する。
3. 毎日カンファレンスを開催し、個々の振り返りと課題を明確にする。
4. 学内実習において、互いの経験や学びを共有する。
5. 各実習施設における経験や学びをまとめ、実習最終日に発表し学びを共有する。

使用テキスト: 以下のテキストを持参すること。

1. 茂野香おる(2021):系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院.
 2. 任 和子(2021):系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院.
 3. 任 和子(2021):根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院.
- 援助技術論B(診療に伴う援助技術)、ヘルスアセスメントB、基礎看護学実習等にも用いる。

予習・復習のポイントと 【実習前】既修の科目の知識・技術を復習する。

参考文献・資料等: 【実習中】日々のカンファレンスと記録用紙への記述により自己の振り返りを行うとともに、対象者についての理解を深める。

【実習後】受け持ち患者の生活とフィジカルアセスメントを通して、看護援助の必要性和方法について思考を整理するとともに、実習で体験した学びや課題を記述する。

【参考文献】以下の2冊は、参考文献として推薦する。

1. 医療情報科学研究所(2020):看護がみえる vol.4 看護過程の展開, メディックメディア.
2. 任 和子(2022):実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド 第2版, 照林社.

実習に関連する資料等は、適宜配付する。

障がいのある 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: 実習オリエンテーションを通して担当教員を紹介する。
「遅刻・早退・欠席」等は、速やかに担当教員に「報告・連絡・相談」を行い、担当教員の指示を得る。

留意事項: 特になし

科目コード: 31136 **科目ナンバリング:** NU21A02K **主な使用言語:**
授業名(英文): 高齢者看護学A(高齢者の健康と障害)(Gerontological Nursing A)
担当者: 原島 利恵、小幡 明香、大内 玲、市野沢 征子、梶原 順子、中村 裕美、相川 玄、浅野 均

基本情報

年次: 2 **単位数:** 1 **授業形式:** 講義
曜時: 水曜2限 **履修可能学科・専攻:** 看護
関連資格: 看護 保健 **AL要素:** 16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: 加齢による心身の機能変化が高齢者に及ぼす影響について学びます。生活する上で必要

な身体機能について高齢者の特徴を身体面、心理面、社会面および発達段階の面から理解する。また、高齢者を取り巻く保健・医療・福祉における課題の考察を通して、高齢者看護の目的と役割について理解する。さらに、生活機能障害や健康障害を抱えながら生活を営む高齢者とその家族への看護の原則を知り、高齢者の尊厳をふまえた家族の意思決定支援(退院支援)や援助などについて学習する。

キーワード: 加齢性変化 高齢者の特徴 医療福祉政策 高齢者看護の倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:**
- 1) 高齢者の身体的特徴、心理的特徴、社会的特徴から高齢者を理解する。
 - 2) 高齢者を抱える家族の機能と問題について理解し、説明できる。
 - 3) 高齢者看護の理念と目標、役割について理解し、説明できる。
 - 4) 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉における課題について理解し、説明できる。
 - 5) 高齢者の尊厳をふまえた家族の意思決定支援(退院支援)や援助を理解する。

評価方法: 課題

評価割合: 80

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 課題

評価割合: 20

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 【第1回】加齢に伴う身体面の特徴
 - 【第2回】加齢に伴う心理面・社会面の変化 高齢者看護に関わる諸理論
 - 【第3回】わが国の高齢化現象の疫学的特徴と保健医療福祉政策の変遷と課題
 - 【第4回】高齢者看護の場と目的・役割・機能
 - 【第5回】高齢者が生活する場 ヘルスプロモーション
 - 【第6回】高齢者の包括的アセスメントと多職種連携
 - 【第7回】高齢者における倫理的課題(尊厳と意思決定)
 - 【第8回】高齢者を抱える家族の特徴と高齢者・家族への看護(退院支援)

使用テキスト: 堀内ふき 編(2021):老年看護①高齢者の健康と障害, ナーシンググラフィカ, メディカ出版.
<参考図書>

正木治恵, 真田弘美(編)(2020). 老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは 改訂第3版. 南江堂.
奥野茂代, 大西和子(監)(2018). 老年看護学(第6版)概論と看護の実践. スーヴェルヒロカワ.
亀井智子(編)(2016). 老年看護学概論 老年保健. メヂカルフレンド社.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 配布資料について復習するとともに、日頃から新聞やニュースなどの健康関連についての情報を取得するよう心掛けてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード: 31140 科目ナンバリング: NU20A09K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 公衆衛生看護学概論(Introduction to Public Health Nursing)

担当者: 叶多 博美、若林 千津子、園部 律子

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜1限 金曜2限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 教職 看護 保健

AL要素: 11.討論

14.輪読活動

16.振り返り用紙と応答

17.発問と回答

授業の概要: 公衆衛生看護学全体を概観し、社会環境と健康課題をグローバルな視点かつ学際的に捉え活動するという公衆衛生看護の基本的な考え方を学ぶ。公衆衛生看護の歴史の変遷を踏まえ、地域で生活する人々の暮らしと健康を守る意味を、理念や目的、活動の場や対象の特性、活動方法、制度などから理解する。さらに、地域で生活する様々なライフステージにある人々とその家族、健康障害をもつ人々とその家族、産業保健、感染症対策を中心に、それぞれの健康課題や支援のための施策・制度および具体的な活動について解説する。

キーワード: 公衆衛生看護 公衆衛生看護史 社会環境 感染症対策 生活習慣病予防対策 高齢者 保健福祉対策

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた公衆衛生看護学の基本的な理念・思想・歴史について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 20%

レポート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 【第1回】公衆衛生看護の理念と目的(叶多)
 - 【第2回】成人保健 生活習慣病と予防活動 重症化予防(若林)
 - 【第3回】公衆衛生看護の対象と場の特性(叶多)
 - 【第4回】高齢者保健 認知症対策(若林)
 - 【第5回】公衆衛生看護の歴史(叶多)
 - 【第6回】公衆衛生看護の歴史2(叶多)
 - 【第7回】感染症の保健指導 感染症対策の変遷(叶多)
 - 【第8回】公衆衛生看護の歴史3(叶多)
 - 【第9回】歯科保健(若林)
 - 【第10回】公衆衛生看護の歴史4(叶多)
 - 【第11回】障害者・児保健(若林)
 - 【第12回】感染症の保健指導2 感染症法に基づく施策と保健指導(叶多)
 - 【第13回】難病と公衆衛生看護(園部)
 - 【第14回】感染症の保健指導3 疾病管理:結核、HIV、肝炎(叶多)
 - 【第15回】産業保健における健康課題、産業保健活動(若林)

定期試験

使用テキスト： 標美奈子ほか著 「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」 医学書院
中谷芳美ほか著 「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」 医学書院
1年次「公衆衛生学」で使用した、神馬征峰ほか「系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生」医学書院
厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2022/2023」

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 予習・復習
教科書の該当箇所を講義の前に読むこと 各1時間
公衆衛生活動事例の読み込み・情報整理 3時間

参考書

「公衆衛生がみえる 2022-2023」 メディックメディア
藤内修二ほか「標準保健師講座・別巻1 保健医療福祉行政論」医学書院
高木 智子「増補新版 隔離の記憶: ハンセン病といのちと希望と」 彩流社
森亨監修 「結核を防ぐ、治す」 講談社
宮本ふみ 「無名の語り 保健師が家族に出会う12の物語」 医学書院

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。

留意事項： 日頃から、ニュースや新聞記事などで地域社会の出来事に興味・関心をもって生活すること。
1年次の公衆衛生学、看護関係法規、保健医療福祉行政論・2年次の「公衆衛生看護学実習A」との関連が深い科目です。本科目で得られた知見を、実習中にも振り返ることができるよう、自主学修を深めて

おきましょう。

科目コード : 31142 科目ナンバリング : NU21A06E 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 成人看護学A(セルフケア) (Adult Health Nursing A (Self-Care))

担当者 : 原島 利恵、小幡 明香、大内 玲、市野沢 征子、梶原 順子、中村 裕美、相川 玄

基本情報

年次 : 2

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 水曜1限

履修可能学科・専攻 : N

関連資格 : 看護 保健

AL要素 : 03.実験・実技・体験
13.役割演技と疑似体験
17.発問と回答

授業の概要 : 成人期にある患者を系統別に捉えて、病態を踏まえて疾病・治療のコントロールやセルフマネジメントの方法を学習し、その人らしい社会生活を持続するための看護について学習する。演習では、生涯にわたって疾病・障害をもちながら生活する人のセルフマネジメントを支援する方法についての技術を身につける。また、科学的思考基礎演習Vと連動し、対象の固有の健康問題に対する看護ケアを実践するための方法論である看護過程について、事例を通して習得する。

キーワード : 成人看護、セルフマネジメント、看護過程

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 授業で扱った内容について、知識を習得し、解答することができる。

評価方法 : 課題
レポート

評価割合 : 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 授業で実践した事例の看護過程について展開できる。
また、演習をふまえ、記録用紙に適切な記載ができる。

評価方法 : 課題・レポート

評価割合 : 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし、演習において主体的に行動できず、演習の円滑な進行・グループの学びに支障をきたす場合は減点対象となる。

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポート等において公正性を欠く言動があった場合は、減点の対象となる。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画：

- 第01回：急性期看護の特徴(患者とその家族への看護：侵襲と危機)
- 第02回：手術前～中の看護の特徴
- 第03回：手術後看護(呼吸 合併症とその予防)
- 第04回：手術後看護(循環 合併症とその予防)
- 第05回：手術後看護(せん妄・疼痛、消化器系合併症)
- 第06回：手術後看護(創傷治癒、ドレーン管理、術後感染症)
- 第07回：手術後看護(リハビリテーション・日常生活援助・退院指導)
- 第08-09回：消化器術後患者の看護過程1アセスメント・看護問題抽出
- 第10-11回：消化器術後患者の看護過程2看護計画立案、術後演習の準備
- 第12回：術前オリエンテーション演習 消化器術後
- 第13-14回：術後合併症予防演習(合併症予防)消化器術後
- 第15回：術後退院支援演習
- 第16回：既修実習を通じた振り返りと自己の課題の明確化
- 第17回：学習課題に基づく演習①
- 第18回：学習課題に基づく演習②
- 第19回：学習課題に基づく演習③
- 第20回：学習課題に基づく演習④
- 第21回：学習課題に基づく演習⑤
- 第22回：学習課題に基づく演習⑥
- 第23回：学習課題に基づく演習⑦
- 第24回：学習課題に基づく演習⑧
- 第25回：客観的臨床能力試験の準備①
- 第26回：客観的臨床能力試験の準備②
- 第27回：客観的臨床能力試験①
- 第28回：客観的臨床能力試験②
- 第29回：客観的臨床能力試験③
- 第30回：まとめ・全体フィードバック

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献は、必要に応じて各担当教員が紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 外部講師の予定により、授業計画が変更になる場合があります。

科目コード：31144 科目ナンバリング：NU32A03E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：高齢者看護学B(高齢者の健康障害と看護) a(Gerontological Nursing B a)

担当者：浅野 均、菊池 早輝子、市野沢 征子、梶原 順子、相川 玄

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜5限 木曜6限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08.協同学修

11.討論

15.レポート指導

16.振り返り用紙と応答

授業の概要： 高齢者看護の原則を念頭に置き、介護保険施設や医療施設など、あらゆる場で生活を営む高齢者の持てる力を最大限に引き出し、QOLを高める看護の方法について理解する。高齢者に生じやすい様々な生活機能ならびに健康上における障害の特徴と、それらを予防することの意義について学ぶ。さらに、対象となる人々の特性に応じた適切な看護の方法と看護実践に必要な基礎的知識・技術を習得する。これらの内容は、担当教員の臨床での実務経験から得た学びも共有する。

キーワード： 高齢者のQOL 生活機能 ヘルスアセスメント フットケア

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 1. 高齢者に生じやすい健康障害や生活機能障害の予防に向けた援助について理解し、説明できる。
2. 健康障害や生活機能障害を抱える高齢者の特性に応じた看護について考察し、援助技術を実践するための計画を立案できる。
3. 高齢者とその家族の尊厳をふまえた看護内容について説明できる。
4. 目標志向型思考の看護展開を理解し、アセスメント・看護計画の立案ができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 80%

講義後の小テスト

演習課題

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 1. 課題学習での経験をふまえて、学習した内容を分析し、今後の課題を具体的に表現することができる。
2. 学習目標に対する学びや、自らの課題を論理的に記述することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 20%

講義後の小テスト

演習課題

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】高齢者の看護展開に向けて
【第02回】高齢者との出会い
【第03回】高齢者疑似体験
【第04回】高齢者とのコミュニケーション、視覚・聴覚障害のある高齢者への援助

- 【第05回】高齢者の活動・休息への援助
- 【第06回】高齢者の歩行・移動援助
- 【第07回】高齢者の食生活
- 【第08回】高齢者の排泄
- 【第09回】高齢者の食事援助
- 【第10回】高齢者の排泄援助
- 【第11回】高齢者の身じたく、清潔援助
- 【第12回】高齢者の生活行動援助についてのまとめ
- 【第13回】急性期病院における高齢者看護の実際
- 【第14回】高齢者の薬物療法
- 【第15回】高齢者の看護展開の内容
- 【第16回】高齢者の看護展開
- 【第17回】高齢者のヘルスアセスメント
- 【第18回】高齢者のヘルスアセスメント
- 【第19回】高齢者の看護展開
- 【第20回】高齢者の看護展開
- 【第21回】高齢者の看護展開
- 【第22回】認知機能に障害のある高齢者への看護
- 【第23回】高齢者のがん薬物療法看護(1):がん化学療法看護認定看護師
- 【第24回】高齢者のがん薬物療法看護(2):がん化学療法看護認定看護師
- 【第25回】高齢者のリスクマネジメント
- 【第26回】高齢者の生活環境の調整
- 【第27回】高齢者のフットケア
- 【第28回】終末期にある高齢者への看護
- 【第29回】認知症のある高齢者への看護
- 【第30回】認知症のある高齢者への看護

使用テキスト: 堀内ふき編(2022):老年看護学② 高齢者看護の実際(第6版)ナースング・グラフィカ,メディカ出版.
 堀内ふき 編(2021):老年看護学① 高齢者の健康と障害, ナースンググラフィカ,メディカ出版
 <参考図書>
 山田律子, 荻野悦子 編(2020):生活機能からみた老年看護過程(第4版). 医学書院.
 亀井智子 編(2020):根拠と事故防止からみた老年看護技術(第3版). 医学書院.
 奥野茂代, 大西和子 監(2018):老年看護学 概論と看護の実際(第6版). ヌーヴェルヒロカワ.
 奥宮暁子 編(2019):ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程 生活機能に焦点をあてたアセスメント(第2版). 医歯薬出版株式会社.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 高齢者看護学Aで学んだ高齢者の身体機能についての復習を行い、演習に臨むこと。看護過程の展開への予習として、事例を読み深めた後、テキストや参考図書を用いて個々の学習を深めること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室・または遠隔で対応します。曜日・時限については初回授業にてお知らせしますので、可能な範囲でアポイントメントをとってください。

留意事項: 高齢者看護学実習に直結する科目であることを念頭に、授業を受けること。

科目コード: 31144 **科目ナンバリング:** NU32A03E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 高齢者看護学B(高齢者の健康障害と看護) b(Gerontological Nursing B b)

担当者: 浅野 均、菊池 早輝子、市野沢 征子、梶原 順子、相川 玄

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜5限 木曜6限

履修可能学科・専攻: N

関連資格：看護 保健

AL要素：08.協同学修

11.討論

15.レポート指導

16.振り返り用紙と応答

授業の概要： 高齢者看護の原則を念頭に置き、介護保険施設や医療施設など、あらゆる場で生活を営む高齢者の持てる力を最大限に引き出し、QOLを高める看護の方法について理解する。高齢者に生じやすい様々な生活機能ならびに健康上における障害の特徴と、それらを予防することの意義について学ぶ。さらに、対象となる人々の特性に応じた適切な看護の方法と看護実践に必要な基礎的知識・技術を習得する。これらの内容は、担当教員の臨床での実務経験から得た学びも共有する。

キーワード： 高齢者のQOL 生活機能 ヘルスアセスメント フットケア

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 1. 高齢者に生じやすい健康障害や生活機能障害の予防に向けた援助について理解し、説明できる。
2. 健康障害や生活機能障害を抱える高齢者の特性に応じた看護について考察し、援助技術を実践するための計画を立案できる。
3. 高齢者とその家族の尊厳をふまえた看護内容について説明できる。
4. 目標志向型思考の看護展開を理解し、アセスメント・看護計画の立案ができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 80%

講義後の小テスト

演習課題

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 1. 課題学習での経験をふまえて、学習した内容を分析し、今後の課題を具体的に表現することができる。
2. 学習目標に対する学びや、自らの課題を論理的に記述することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 20%

講義後の小テスト

演習課題

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第01回】高齢者の看護展開に向けて
【第02回】高齢者との出会い
【第03回】高齢者疑似体験
【第04回】高齢者とのコミュニケーション、視覚・聴覚障害のある高齢者への援助
【第05回】高齢者の活動・休息への援助
【第06回】高齢者の歩行・移動援助
【第07回】高齢者の食生活
【第08回】高齢者の排泄
【第09回】高齢者の食事援助
【第10回】高齢者の排泄援助
【第11回】高齢者の身じたく、清潔援助
【第12回】高齢者の生活行動援助についてのまとめ
【第13回】急性期病院における高齢者看護の実際
【第14回】高齢者の薬物療法
【第15回】高齢者の看護展開の内容
【第16回】高齢者の看護展開
【第17回】高齢者のヘルスアセスメント
【第18回】高齢者のヘルスアセスメント
【第19回】高齢者の看護展開
【第20回】高齢者の看護展開
【第21回】高齢者の看護展開
【第22回】認知機能に障害のある高齢者への看護
【第23回】高齢者のがん薬物療法看護(1):がん化学療法看護認定看護師
【第24回】高齢者のがん薬物療法看護(2):がん化学療法看護認定看護師
【第25回】高齢者のリスクマネジメント
【第26回】高齢者の生活環境の調整
【第27回】高齢者のフットケア
【第28回】終末期にある高齢者への看護
【第29回】認知症のある高齢者への看護
【第30回】認知症のある高齢者への看護

使用テキスト：堀内ふき編(2022):老年看護学② 高齢者看護の実際(第6版)ナースィング・グラフィカ, メディカ出版.
堀内ふき 編(2021):老年看護学① 高齢者の健康と障害, ナースィンググラフィカ, メディカ出版
<参考図書>
山田律子, 荻野悦子 編(2020):生活機能からみた老年看護過程(第4版). 医学書院.
亀井智子 編(2020):根拠と事故防止からみた老年看護技術(第3版). 医学書院.
奥野茂代, 大西和子 監(2018):老年看護学 概論と看護の実際(第6版). スーヴェルヒロカワ.
奥宮暁子 編(2019):ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程 生活機能に焦点をあてたアセスメント(第2版). 医歯薬出版株式会社.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：高齢者看護学Aで学んだ高齢者の身体機能についての復習を行い、演習に臨むこと。看護過程の展開への予習として、事例を読み深めた後、テキストや参考図書を用いて個々の学習を深めること。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室・または遠隔で対応します。曜日・時限については初回授業にてお知らせしますので、可能な範囲でアポイントメントをとってください。

留意事項： 高齢者看護学実習に直結する科目であることを念頭に、授業を受けること。

科目コード：31146 科目ナンバリング：NU32A05E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：母性看護学B(ペリネイタルケア) a(Maternal Nursing B (Perinatal Care) a)

担当者：渋谷 えみ、島田 智織、小野 加奈子、間宮 千紘

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限 木曜4限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：03実験・実技・体験

07発表

11討論

15レポート指導

16振り返り用紙と応答

17発問と回答

授業の概要： 周産期(perinatal period)とは、妊娠・分娩を中心とした一時期である。この時期は、女性が様々な心身の変化を経験し、異常や危機を生じる可能性を常に含んでいる。また、家族としても発達する重要な時期であり、母子はもとより家族全体の健康に向けた関わりが必要である。

講義や演習を通して、正常な周産期における母子(婦人科疾患を有する患者含む)とその家族の身体・心理・社会的適応過程と、その過程をより高い健康レベルに支える看護について学修する。また、帝王切開、低出生体重児の出生、子どもとの死別をとりあげ、周産期におこりうる‘喪失’と必要な看護について学ぶ。

実践を想定したシミュレーション演習を通し、学生自ら考え、看護を導き出すことができるよう主体的な学修を行う。

なお、実務経験を活かし、以下のように授業を提案する。

① 病院等での助産師・看護師経験を具体的な事例として取り上げ、生きた教材の提示に努め、演習ではデ

モンストレーションを通し看護実践の具体例を提示する。

② 助産師・看護師の経験を有し、具体的にどのように資格が活かされ、母子支援を実践してきたのかを学

生に伝え、周産期医療における専門職の役割について理解を促す。

キーワード： 母性看護、周産期(妊娠期、分娩期、産褥期)看護、ペリネイタルケア、新生児(NICU)看護、ハイリスク妊産褥婦、ペリネイタル・ロス

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：**
1. 周産期における母子の身体・心理・社会的変化と適応過程、ならびに家族の発達を説明できる。
 2. 周産期の母子／女性生殖器疾患を対象とした看護過程の展開方法について理解し、看護ケアの基本を説明できる。
 3. 周産期に特有な看護技術を演習を通して実践できる。

評価方法： 課題提出物
定期試験

評価割合：90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 周産期を取り巻く社会の近々の状況を踏まえ、母子の看護(ハイリスク、低出生児、ペリネイタル・ロス含む)について考察できる。

評価方法： レポート

評価割合：10%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業の出席、グループワークでの学修態度、レポート課題等に積極的に学習することを望む。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、レポートの記述等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的な内容発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画： 【第01回】母性看護の特徴、出産の歴史・文化と母性看護（小野）
【第02回】妊娠期の看護(1)（渋谷）
【第03回】妊娠期の看護(2)（渋谷）
【第04回】妊娠期の看護(3)（渋谷）
【第05回】妊娠期の看護実践(渋谷・小野・間宮)
【第06回】分娩期の看護（島田）
【第07回】周産期看護ケア演習(1)（渋谷・小野・間宮）
【第08回】周産期看護ケア演習(2)（渋谷・小野・間宮）
【第09回】産褥期の看護(1)（小野）
【第10回】産褥期の看護(2)（小野）
【第11回】産褥期の看護(3)（小野）
【第12回】産褥期の看護(4)（小野）
【第13回】産褥期の看護実践（小野・渋谷・間宮）
【第14回】新生児の生理と看護(1)（間宮）
【第15回】新生児の生理と看護(2)（間宮）
【第16回】新生児の生理と看護(3)（間宮）
【第17回】新生児を対象とした看護実践(間宮・小野・渋谷)
【第18回】周産期看護ケア演習(3)（渋谷・小野・間宮）
【第19回】周産期看護ケア演習(4)（渋谷・小野・間宮）
【第20回】母性看護と健康教育(保健指導)（渋谷）
【第21回】褥婦・新生児を対象とした看護(1)（渋谷・小野・間宮）
【第22回】褥婦・新生児を対象とした看護(2)（渋谷・小野・間宮）
【第23回】褥婦・新生児を対象とした看護(3)（渋谷・小野・間宮）
【第24回】褥婦・新生児を対象とした看護(4)（渋谷・小野・間宮）
【第25回】ハイリスク妊娠・分娩・産褥期の看護（渋谷）
【第26回】NICUの看護（外部講師）
【第27回】妊産褥婦期間を通した心理を考える（渋谷）
【第28回】ペリネイタル・ロスを体験した母親への看護（渋谷・浅野）
【第29回】婦人科疾患を対象とした看護（外部講師）
【第30回】母性看護学まとめ(渋谷・小野・間宮)

使用テキスト： 1. 中込さと子他：ナーシング・グラフィカ 母性看護学①
概論・リプロダクティブヘルスと看護、メディカ出版。

2. 小林康江他:ナーシング・グラフィカ 母性看護学②
母性看護の実践、メディカ出版.
3. 荒木奈緒他:ナーシング・グラフィカ 母性看護学③
母性看護技術、メディカ出版.

資料配布する。適宜提示する

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等:**
- 1) 2年次に学習した母性看護学の概念、母性・父性の発達、生殖のメカニズムが本科目の基礎となるため必ず復習して臨んでください。事前課題にも積極的に取り組んでください。
 - 2) 母子を取り巻く環境や政策、社会情勢などは変化が激しいため、日頃から新聞など最新のニュースを読む習慣をつけてください。
 - 3) 資料や文献は適時、提示します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: メール等で対応します。

留意事項: 特になし

科目コード: 31146 科目ナンバリング: NU32A05E 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 母性看護学B(ペリネイタルケア) b(Maternal Nursing B (Perinatal Care) b)

担当者: 渋谷 えみ、島田 智織、小野 加奈子、間宮 千紘

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜3限 木曜4限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 03実験・実技・体験

07発表

11討論

15レポート指導

16振り返り用紙と応答

17発問と回答

授業の概要: 周産期(perinatal period)とは、妊娠・分娩を中心とした一時期である。この時期は、女性が多様な心身の変化を経験し、異常や危機を生じる可能性を常に含んでいる。また、家族としても発達する重要な時期であり、母子はもとより家族全体の健康に向けた関わりが必要である。

講義や演習を通して、正常な周産期における母子(婦人科疾患を有する患者含む)とその家族の身体・心理・社会的適応過程と、その過程をより高い健康レベルに支える看護について学修する。また、帝王切開、低出生体重児の出産、子どもとの死別をとりあげ、周産期における‘喪失’と必要な看護について学ぶ。

実践を想定したシミュレーション演習を通し、学生自ら考え、看護を導き出すことができるよう主体的な学修を行う。

なお、実務経験を活かし、以下のように授業を提案する。

① 病院等での助産師・看護師経験を具体的な事例として取り上げ、生きた教材の提示に努め、演習では

モンストレーションを通し看護実践の具体例を提示する。

② 助産師・看護師の経験を有し、具体的にどのように資格が活かされ、母子支援を実践してきたのかを学

生に伝え、周産期医療における専門職の役割について理解を促す。

キーワード: 母性看護、周産期(妊娠期、分娩期、産褥期)看護、ペリネイタルケア、
新生児(NICU)看護、ハイリスク妊産褥婦、ペリネイタル・ロス

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:**
1. 周産期における母子の身体・心理・社会的変化と適応過程、ならびに家族の発達を説明できる。
 2. 周産期の母子／女性生殖器疾患を対象とした看護過程の展開方法について理解し、看護ケアの基本を説明できる。
 3. 周産期に特有な看護技術を演習を通して実践できる。

評価方法: 課題提出物
定期試験

評価割合: 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 周産期を取り巻く社会の近々の状況を踏まえ、母子の看護(ハイリスク、低出生児、ペリネイタル・ロス含む)について考察できる。

評価方法: レポート

評価割合: 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業の出席、グループワークでの学修態度、レポート課題等に積極的に学習することを望む。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、レポートの記述等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的な内容発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 【第01回】母性看護の特徴、出産の歴史・文化と母性看護(小野)
- 【第02回】妊娠期の看護(1) (渋谷)
- 【第03回】妊娠期の看護(2) (渋谷)
- 【第04回】妊娠期の看護(3) (渋谷)
- 【第05回】妊娠期の看護実践(渋谷・小野・間宮)
- 【第06回】分娩期の看護 (島田)
- 【第07回】周産期看護ケア演習(1) (渋谷・小野・間宮)
- 【第08回】周産期看護ケア演習(2) (渋谷・小野・間宮)

- 【第09回】産褥期の看護(1) (小野)
- 【第10回】産褥期の看護(2) (小野)
- 【第11回】産褥期の看護(3) (小野)
- 【第12回】産褥期の看護(4) (小野)
- 【第13回】産褥期の看護実践 (小野・渋谷・間宮)
- 【第14回】新生児の生理と看護(1) (間宮)
- 【第15回】新生児の生理と看護(2) (間宮)
- 【第16回】新生児の生理と看護(3) (間宮)
- 【第17回】新生児を対象とした看護実践(間宮・小野・渋谷)
- 【第18回】周産期看護ケア演習(3) (渋谷・小野・間宮)
- 【第19回】周産期看護ケア演習(4) (渋谷・小野・間宮)
- 【第20回】母性看護と健康教育(保健指導) (渋谷)
- 【第21回】褥婦・新生児を対象とした看護(1) (渋谷・小野・間宮)
- 【第22回】褥婦・新生児を対象とした看護(2) (渋谷・小野・間宮)
- 【第23回】褥婦・新生児を対象とした看護(3) (渋谷・小野・間宮)
- 【第24回】褥婦・新生児を対象とした看護(4) (渋谷・小野・間宮)
- 【第25回】ハイリスク妊娠・分娩・産褥期の看護 (渋谷)
- 【第26回】NICUの看護 (外部講師)
- 【第27回】妊産褥婦期間を通じた心理を考える (渋谷)
- 【第28回】ペリネイタル・ロスを体験した母親への看護 (渋谷・浅野)
- 【第29回】婦人科疾患を対象とした看護 (外部講師)
- 【第30回】母性看護学まとめ(渋谷・小野・間宮)

- 使用テキスト：**
1. 中込さと子他：ナーシング・グラフィカ 母性看護学①
概論・リプロダクティブヘルスと看護、メディカ出版。
 2. 小林康江他：ナーシング・グラフィカ 母性看護学②
母性看護の実践、メディカ出版。
 3. 荒木奈緒他：ナーシング・グラフィカ 母性看護学③
母性看護技術、メディカ出版。

資料配布する。適宜提示する

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**
- 1) 2年次に学習した母性看護学の概念、母性・父性の発達、生殖のメカニズムが本科目の基礎となるため必ず復習して臨んでください。事前課題にも積極的に取り組んでください。
 - 2) 母子を取り巻く環境や政策、社会情勢などは変化が激しいため、日頃から新聞など最新のニュースを読む習慣をつけてください。
 - 3) 資料や文献は適時、提示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： メール等で対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：31154 **科目ナンバリング：**NU40A02K **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：ターミナルケア論(Theory of Terminal Care)

担当者：栗原 加代、宇留野 由紀子、前田 和子、長津 貴子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：講義

曜時：火曜1限 火曜2限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：14 輪読活動
15 レポート指導
16 振り返り用紙と応答

授業の概要：

看護師にとって、看護の対象者が死を迎えることは少なくはなく、ターミナルケアは重要な分野である。本講義では、ターミナルケアの概観を学び、終末期を迎える対象者と家族の看護援助について教授する。終末期の対象者がもつ苦痛を、トータル(全人的)な苦痛ととらえ、緩和の方法について学ぶ。また、様々な健康段階や、施設・在宅などを含むターミナルケアの現状についても理解を深めるとともに、実際の臨床現場でクリティカルな状態から死を迎える患者・家族・臓器移植などの対応についても学ぶ。授業担当者は自身の臨床経験を踏まえ、現場の実態や対象者や家族に対するアプローチの方法やその他の看護支援の授業を行う。

キーワード：トータルペイン 終末期 在宅ケア セデーション クリティカルケア 周産期倫理 臓器移植

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標：1 終末期にある対象と家族の身体的・心理的・社会的・霊的痛み(トータルペイン)について理解し、看護の役割と方法について理解できる。
2 病院・施設・在宅などで療養する多様な終末期の状況にある対象と、家族の看護援助について考えることができる。
3. クリティカルな状態から死を迎える患者・家族への援助及び臓器移植の問題についても考えることができる。
3 家族の看取りの支援と悲嘆のプロセスを理解できる。

評価方法：定期試験

評価割合：60%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標：1 自己の死生観を、話すことができる。
2 場によって異なる、看取りの方法を理解するとともに、その実践方法が分かる。
3 クリティカルな状態や危篤時の看護方法を記述する事ができる。
4. 臓器移植について自分の考えを、述べる事ができる。
4 看取りをする患者・家族・遺族への看護について記述することができる。

評価方法：定期試験

評価割合：30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業に参加するの態度、授業中に投げかけられた質問への向き合い方、自分の意見を表現する姿勢など総合的に判断して、思考力・判断力・表現力の評価することがある。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 公正性

ターミナル期・周産期におけるインフォームドコンセント、臓器移植などの倫理的問題について理解を深めるため、情報提供に対して自分の意見を記述することができる。なお提出された記録物等期日遵守も含め、評価の対象とする。
提出物の記述等において著しく公正性を欠く記述や、不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：10%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 終末期とは 概念と特徴、トータルペイン（栗原）
 2. 終末期のインフォームドコンセントと倫理的問題（栗原）
 3. 周産期および出生前診断に関わるインフォームドコンセントと倫理的問題（宇留野）
 4. 身体的苦痛とその緩和1）（長津）
 5. 身体的苦痛とその緩和2）（長津）
 6. 在宅で死を迎える時の看護（前田）
 7. クリティカルな状態から終末期を迎える時の看護（臓器移植を含む）（長津）
 8. 看取りとグリーフケア（栗原）

定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て、印刷して配布する。

予習・復習のポイントと 参考文 献・資料等： ・精神・成人・高齢者・母性・在宅領域で使用したテキストを復習しておく。

・3年次の領域実習で記録した資料を読み返しておく。

障がいのある 履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーで対応する。

留意事項： 実習施設等の関係で、講義時間に間隔があるので開講日時を必ず確認すること

科目コード：31155 科目ナンバリング：NU30A05J 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：成人看護学実習(Clinical Practice of Adult Nursing)

担当者：中村 裕美、原島 利恵、小幡 明香、大内 玲、市野沢 征子、梶原 順子、相川 玄

基本情報

年次：3

単位数：4

授業形式：実習

曜時：実習

履修可能学科・専攻：N

関連資格：教職 看護 保健

AL要素：01.実地訓練、11.討論

授業の概要：

1. 成人期にある健康障害をもつ人の状況を全人的な視点から説明できる。
2. 成人期にある健康障害をもつ対象が最適な健康状態に回復するために、あるいは疾病・障害を持ちながら生活の調整・再構築を行うために必要な援助ができる。
3. 保健医療福祉チームの中の看護師の役割を認識し、チームメンバーと協力し合う態度を身につけることができる。

キーワード： 対象者の理解、看護過程、周手術期、クリティカルケア、チーム医療

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：

1. 成人期にある健康障害をもつ人の状況を全人的な視点から説明できる。
2. 成人期にある健康障害をもつ対象が最適な健康状態に回復するために、あるいは疾病・障害を持ちながら生活の調整・再構築を行うために必要な援助ができる。
3. 保健医療福祉チームの中の看護師の役割を認識し、チームメンバーと協力し合う態度を身につけることができる。

評価方法： 実習目標の到達度、実習記録内容、実習 評価割合：50%
状況・態度、出席状況などを総合的に評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 成人期にある対象者の疾患、症状、検査、治療などについて理解した上でアセスメントし、必要な看護活動について計画・実施・評価する。自己の学習過程を振り返り、今後の課題を明らかにすることで自ら看護観を育むことができる。

評価方法: 実習目標の到達度、実習記録内容、実習状況・態度、出席状況などを総合的に評価する。 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

実習病院からの情報をもとに評価する。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

実習病院からの情報をもとに評価する。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、実習中の発言や記録物の記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

とくになし

評価割合: とくになし

- 授業計画:**
1. 実習期間: 4週間
 2. 実習方法:
実習病棟において1~2名の患者を受け持ち、看護過程を展開しながら実習を行う。病棟以外の場においても治療や検査などの見学実習を行う。
 3. オリエンテーション(実習の目的、目標、実習の進め方、実習病棟の概要、各種記録物の書き方。提出物の期限、実習時の注意事項、日程) 病院実習(対象理解と療養環境の理解、受け持ち患者に対する看護実践、看護過程、カンファレンス、) 学内実習とまとめ
詳細は実習要綱参照

使用テキスト: 適宜紹介する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項(特に自分が実習する病棟の診療科、代表疾患、検査と治療)について自主学習を通じ、知見を深める事が望ましい。さらに、看護ケアを行うために必要な知識と看護技術を良く復習し、練習しておいて下さい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項: とくになし

科目コード: 31156 科目ナンバリング: NU30A06J 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 高齢者看護学実習(Clinical Practice of Gerontological Nursing)

担当者: 浅野 均、原島 利恵、小幡 明香、大内 玲、市野沢 征子、梶原 順子、中村 裕美、相川 玄

基本情報

年次: 3 単位数: 3 授業形式: 実習

曜時: 実習 履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健 AL要素: 01.実地訓練
07.発表

- 11. 討論
- 13. 役割演技と疑似体験
- 15. レポート指導

授業の概要： 疾患や障害を持ちながらもその人らしく生活を営むことができるよう、高齢者のできる力に焦点をあて、「生活機能」の側面から捉えた看護を実践する。介護保険施設に通所や入所する高齢者への療養生活上の援助や、医療施設で治療過程にある高齢者の療養支援を含め、人生の完結期にある高齢者の特徴を理解し、加齢や疾病による健康問題を多面的に捉え、看護の対象となる高齢者とその家族の価値観を尊重した対応を修得する。また、高齢者が生活を営む介護保険施設の特徴を知り、高齢者ケアに従事する保健医療福祉専門職の連携のあり様と看護独自の機能について学ぶ。

キーワード： 高齢者の特徴 その人らしさ 高齢者のできる力 家族看護 多職種連携 継続看護

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：

1. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴とライフステージが理解できる。
2. 高齢者の健康障害と生活障害が理解でき、援助について考えることができる。
3. 高齢者のできる力に焦点をあてた看護実践の展開ができる。
4. 高齢者の健康生活を支えている家族や支援内容の現状を知り、保健医療福祉専門職の中で看護師の役割を理解する。

評価方法： 事前課題、実習記録、カンファレンス、レポート **評価割合：** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標：

1. 臨地実習を通して、自己の洞察を深め、看護者としての自己の課題を明確にできる。
2. 学習目標に対する学びや、自らの課題を論理的に記述することができる。

評価方法： 実習記録、カンファレンス、レポート **評価割合：** 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実習への取り組み態度や記録用紙等の情報をもとに看護学生としての自覚と責任をもち行動することができるかどうか評価する。

評価割合： 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、実習中の発言や記録物の記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

1. 実習期間:3週間
2. 実習施設:多機能型福祉施設 病院 など
3. 実習方法:
 - 実習前に全体オリエンテーション、セクション別オリエンテーションを行う。
 - 事前学習は、高齢者で多く見られる疾患、必要な援助計画書を作成する。事前学習をもとに、学生間で実技の実施を行うなどの準備を行い臨地実習へ向かう。
 - 臨地実習では、介護老人保健施設で実施されているデイケアをはじめ、多機能型福祉施設内の特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスセンター、グループホームをはじめ、地域住民が通所して行われている「介護予防・日常生活支援総合事業」の場に参加し

高齢者の「できる力」を理解する。その他、慢性病を抱えた高齢者の治療の場での看護実践を行う。入院または入所中の高齢者を受け持ち、目標志向型の看護展開を実践する。看護展開を行う上で、日常生活への援助に必要な疾患の理解をはじめ、「そのひとらしさ」を大切に生活支援を学修する。各生活の場において、対象者に必要なコミュニケーション技法や、看護支援内容を利用者と共にイベントへ参加し、参加することから自ら体験したことをもとに、対象者に必要な看護の視点をグループ討議を踏まえ看護実践を共有する力を養う。

感染症の状況に応じて、実習施設への来所が難しい際には、学内実習として事例展開等へ変更することがある。

使用テキスト： 山田律子, 荻野悦子 編(2020) : 生活機能からみた老年看護過程(第4版). 医学書院.
亀井智子 編(2020) : 根拠と事故防止からみた老年看護技術(第3版). 医学書院.
奥宮暁子 編(2019) : ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程 生活機能に焦点をあてたアセスメント(第2版). 医歯薬出版株式会社.
その他、最新の薬剤情報・疾患の情報については講義で周知したHPを参照のこと。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 高齢者看護学A、高齢者看護学Bの内容を習得しておく。基本的ニーズを充足するための日常生活援助技術については、援助技術手順書を用いたトレーニングを行い、実施できるよう準備して実習に臨むこと。また、実習中に実施した援助は、援助実施後に必ず評価・修正を行い対象者に即した援助手順書として活用すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 実習担当教員の指示を得る。

留意事項： 健康管理を怠らず、体調を整えて実習に臨むこと。
また、実習施設から必要な書類の提示があった際には、速やかに手続きを行うこと。

科目コード：31157 **科目ナンバリング：**NU30A07J **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：小児看護学実習(Clinical Practice of Pediatric Nursing)

担当者：海野 潔美、白木 裕子、眞崎 由香

基本情報

年次：3 **単位数：**2 **授業形式：**実習

曜時：実習 **履修可能学科・専攻：**N

関連資格：教職 看護 保健 **AL要素：**01 実地訓練
07 発表
08 協同学修
11 討論
15 レポート指導
17 発問と回答

授業の概要： 小児看護の概念や理念を踏まえ、成長発達過程にある子どもとその家族とのかかわりを通して、対象への理解を深め、個別的な看護を実践し、小児看護の特徴や専門性への理解を深める。具体的には、医療施設実習においては、入院治療を必要とする子どもを受け持ち、対象に必要な看護について考え、実践を行う。また保育園・幼稚園実習においては、未就学年齢にある健康な子どもとのかかわりを通じて、子どもの成長発達についての理解を深める。さらに福祉施設実習においては、健康障がいや社会的養護を必要とする小児やその家族とのかかわりを通じて、現代社会における子どもと家族が抱える問題を捉え、さまざまな背景にある子どもとその家族への理解を深める。

これらの経験を踏まえて、学内実習では事例検討会・倫理カンファレンスを行う。これらのカンファレンスでは子どもとその家族の最善の利益と、それを守る看護のあり方について具体的に考え、グループで検討を行う。

キーワード： 子どもの権利・成長発達・子どもの最善の利益・家族中心ケア(ファミリーセンタードケア)

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:** 1. 子どもの成長発達段階を観察し、説明できる。
2. 子どもとその家族を取り巻く社会について理解し、子どもとその家族への看護について説明できる。
3. さまざまな健康障がいのある子どもとその家族に必要な看護について考え、説明できる。

評価方法: 実習記録・レポートほか

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** 4. さまざまな健康障がいのある子どもとその家族についてアセスメントし、看護計画を立案し、実践・評価することができる。
5. 子どもとその家族の最善の利益を守る看護について、具体的に考え、自分の言葉で表現できる。

評価方法: 実習記録・レポートほか

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

臨地実習施設においては、自らの実習目標の達成に向けて、主体的に取り組むことを望む。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接の評価対象にしないが、人権侵害・差別的な発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:** 1週目
医療施設(5日間)
2週目
保育園・幼稚園 認定こども園(2日間)
教育・福祉施設(乳児院・障がい児・者通園施設・特別支援学校)(1日間)
学内実習(2日間): 事例検討会・倫理カンファレンス

また事前に全体および実習グループオリエンテーションを実施するので、必ず参加する。
詳細は小児看護学実習要項を参照する。

使用テキスト: 「系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論・小児看護学①」「系統看護学講座 小児看護学各論・小児看護学②」医学書院

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 既習の科目で学習した内容を復習し、実習に望む。また講義・演習等で配布した資料や課題等を活用すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

るか否かを評価する。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、対象者に対する差別的な発言など公正性に欠く発言や記録が見られる場合には、嚴重注意のうえ減点対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 病院の産科病棟において1～2組の母子を受け持ち、看護過程を展開しながら2週間の実習を行う。実習内容は、褥婦・新生児(または婦人科疾患)の看護過程の展開、妊婦健康診査や健康教育の見学(一部実施)、カンファレンス(学習会)による実習体験の意味づけと学習の共有などである。分娩期の実習は、対象者の同意が得られた場合に行う。

【1週目】

月:学内で施設別オリエンテーション、母性看護知識・技術確認

火:病棟・外来オリエンテーション、受け持ちの紹介と情報収集

水:受け持ち事例の看護過程展開

木:受け持ち事例の看護過程展開

金:受け持ち事例の看護過程展開

【2週目】

月:受け持ちの紹介と情報収集

火:受け持ち事例の看護過程展開

水:受け持ち事例の看護過程展開

木:受け持ち事例の看護過程展開、最終カンファレンス(施設於)

金:学内カンファレンス(学習会)

※2週間のうち、NICU実習ならびに産科外来実習をそれぞれ1日行う

使用テキスト： ※ 必要に応じて提示する

1. 中込さと子他:ナーシング・グラフィカ 母性看護学①
概論・リプロダクティブヘルスと看護、メディカ出版。
2. 小林康江他:ナーシング・グラフィカ 母性看護学②
母性看護の実践、メディカ出版。
3. 荒木奈緒他:ナーシング・グラフィカ 母性看護学③
母性看護技術、メディカ出版。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： キーワードで示した項目に加え、2年次、3年次に学習した母性看護学の内容を十分に復習して臨んでください。周産期は状況変化が早いいため、事前学習を怠らず、実習体験をその都度意味づけすることが重要です。また対象者の看護にあたる上で、まず自分の健康や生活を整えましょう。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応いたします。まずは学務部と実習科目責任者に連絡をしてください。

授業時間外の連絡手段： 担当教員の指示を得る。

留意事項： 特になし

科目コード : 31159 科目ナンバリング : NU30A09J 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 精神看護学実習 (Clinical Practice of Psychiatric Nursing)

担当者 : 宇留野 由紀子、栗原 加代、長津 貴子

基本情報

年次 : 3 単位数 : 2 授業形式 : 実習

曜時 : 実習 履修可能学科・専攻 : N

関連資格 : 看護 保健 AL要素 : 01. 実地訓練
07. 発表
11. 討論

授業の概要 : 精神障がい者とその家族を対象に、疾病の回復、社会復帰および状態の安定の維持に必要な看護の基礎的知識・技術・態度を習得する。
保健医療福祉チームの一員としての役割を認識し、自己の倫理観を育成する。

キーワード : 患者-看護師関係の治療的コミュニケーション プロセスレコード セルフケア 社会復帰 デイケア
傾聴 共感 自己の倫理観

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 1. 患者-看護師関係の成立過程を理解し、治療的コミュニケーションの基礎能力を身につけることができる。
2. 急性期・回復期・慢性期にある患者を受け持ち、精神障がいによって生じるセルフケアレベルの低下および生活上の困難に焦点をあてて、対象に応じた看護を実践することができる。

評価方法 : 実習記録

評価割合 : 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 1. 社会復帰に関する諸活動に参加して、現在の精神障がい者の置かれている立場を理解し、保健医療福祉チームの一員として、果たすべき役割と機能を論述することができる。
2. 看護場面で生じる倫理的な問題を患者中心の視点から認識し、自己の倫理観を育成することができる。

評価方法 : レポート

評価割合 : 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実習態度、日々の実習記録、カンファレンスへの取り組み、看護学生としての行動をする。

評価割合 : 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

倫理的課題への取り組み参加、発言、記述等を評価の対象とする。また、実習中に人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動がある場合には厳重に注意する。

実習で提出された記録物の記述等において、著しく公正性を欠く記述があった場合は、減点の対象となるので注意すること。

評価割合 : 10%

▼ その他

講義、実習オリエンテーション時に提示した事前学習を実習開始時に提出する。

各自が具体的な行動目標を考えて実習に望む。

評価割合 : 講義、実習オリエンテーション時に

授業計画： <1週目>

治療プログラムに参加し働きかけの実際を学びながら、自己のコミュニケーションの傾向を分析する。

受け持ち患者の情報収集、全体像、アセスメント、看護の問題を抽出する。

<2週目>

看護の問題を抽出し、具体策に沿って実施し、結果の評価、計画の修正について検討する。

アサーションを意識した看護場面の倫理的な問題の検討、デイケア実習等を計画的に実施する。

<実習記録>

1. 事前学習および終了時レポート
2. 各自が考える本実習における目標と評価
3. 受け持ち患者の看護過程展開に関する記録
4. 各日の実習記録
5. プロセスレコード
6. 看護の場面における倫理的課題の検討用紙

使用テキスト： 武井麻子(他)系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 2021
武井麻子(他)系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 2018
山川百合子他編 看護ポケットマニュアル 精神科 医学出版 2016
根岸敬矩他編 保健・医療・福祉系学生のための臨床精神医学 医学出版 2018

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 加藤温他編 看護学テキスト病態・治療論[12] 精神疾患 南江堂 2018
水島裕編 今日の治療薬 解説と便覧 南江堂 2021
吉松和哉他編 精神看護学Ⅰ 精神保健 第6版 ヌーベルヒロカワ 2020
川野雅資他編 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学第6版 ヌーベルヒロカワ 2020

今までの講義で使用した教科書、資料等。
必要に応じて教員が提示する。

障がいのある履修者への対応： 適宜、相談しながら対応していく。

授業時間外の連絡手段： 実習担当教員への連絡先を提示。

留意事項： 報告・連絡・相談ができることを望む。

科目コード：31160 科目ナンバリング：NU30A10J 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：在宅看護学実習(Clinical Practice of Home Care Nursing)

担当者：前田 和子、小池 美香、鈴木 陽子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：実習

曜時：実習

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：01. 実地訓練

07. 発表

11. 討論

授業の概要： 地域で暮らすさまざまな発達段階にある療養者とその家族を受け持ち、生活者の視点から情報を収集し、アセスメント、計画立案、実施、評価という一連のプロセスを訪問看護師の助言を得ながら経験する。そして、在宅における看護職の役割、在宅ケアシステム、社会資源などについて学習する。さらに、在宅看護学実習を通して、自己を振り返り、今後の課題を明らかにする。

キーワード： 療養者・家族、在宅看護の実際、看護職の役割、在宅ケアシステム、社会資源、多職種連携、倫理的配慮

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 療養者と家族のヘルスニーズをアセスメントできる。
 2. 療養者と家族の生活スタイルを重視した看護計画を立案し、実施、評価できる。
 3. 療養者と家族の生活を尊重した訪問ができる。
 4. 指導者とともに援助の一部を実施することができる。

評価方法: 実習記録、発表、終了時課題レポート、実習指導者の評価 **評価割合:** 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
5. 療養者の成長・発達段階と健康障がい説明できる。
 6. 療養者の生活上の課題が説明できる。
 7. 療養者を支える家族の特性と役割を説明できる。
 8. 援助活動を振り返り、在宅看護の方向を考えることができる。
 9. 訪問看護ステーションの機能と役割を説明できる。
 10. 他者に伝わるように報告・記録ができる。
 11. 社会資源の機能と役割が説明できる。
 12. 保健・医療・福祉の連携と看護の役割が説明できる。
 13. 在宅看護実習を通して、自己の看護を振り返ることができる。
 14. 記録を定められた期日に提出できる。

評価方法: 実習記録、発表、終了時課題レポート、実習指導者の評価 **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

15. テーマ別体験実習を主体的に取り組むことができる。
16. 学生らしい態度で、自覚をもって行動できる。
17. 目的意識をもって主体的に学習できる。
18. 健康に留意して、実習に取り組むことができる。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

19. 療養者と家族への倫理的配慮ができる。
20. 周囲の人々との調和をはかることができる。

評価割合: 10%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 1. 実習期間 :2週間

2. 実習方法

- 1) 訪問看護ステーションで1名の利用者を受け持ち、看護過程を展開する。
- 2) 訪問看護師に同行して見学を行う。指導を受けながら一部援助を実施する。
- 3) 実習施設で提示された中から実施可能なテーマを選択し、指導を受けながらテーマ別体験実習を行う。

使用テキスト: 『ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア』MCメディカ出版
『看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術』メチ”カルフレンド社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

<実習前>

- ・実習要綱に書かれている事前学習課題にそって、授業で学んだことを整理し、実習で活用できるようにまとめる。
- ・受け持ち事例決定後、実習要綱に書かれている事前学習課題にそって必要な知識を整理し、実習早期から意図的な観察や情報収集ができるようにまとめる。
- ・アネロイド式血圧計を用いた血圧測定を確実に実施できるようにしておく。

<実習中>

- ・毎日見学・体験し学んだことを振り返り、ワークシートに整理する。理解があいまいなことは、テキストや文献等で調べて、正確に記述する。
- ・受け持ち事例のアセスメントや看護計画立案にあたって、事前学習内容を再確認する。

<実習後>

- ・報告会での体験の共有、ワークシートから体験や学びを振り返り、在宅看護学実習での学びと自己の課題をまとめる。
- ・受け持ち事例のアセスメントから看護計画立案、実施評価の追加・修正を行う。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段:

- ・施設別オリエンテーションで実習担当教員の連絡先を知る。
- ・急用の場合や遅刻・欠席する場合は、実習施設と実習担当教員に連絡する。
- ・実習時間が原則8:30～17:00であるため、時間外の指導は難しい。指導を受けたい場合は、予め指導を受ける時間を相談する。

留意事項: 特に自分自身の健康管理と訪問マナーに留意して臨むこと。

科目コード: 31163 科目ナンバリング: NU40A03K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 国際看護論(Global Nursing)

担当者: 鶴岡 章子

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 講義

曜時: 集中講義

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 11. 討論
17. 発問と回答

授業の概要: 今世界で何が起きているのか、健康格差が生じているのはなぜか、世界の人々のよりよい健康を保持増進するために、どのような看護や国際協力が行われているのかなどについて、様々な資料・教材の他、講師の保健師活動や青年海外協力隊員としての体験を基に学びます。なかでも、開発途上国における健康問題と関連要因、看護活動、国際協力に焦点を当て、国際保健・看護協力のあり方について考えます。さらに、在日外国人が捉えている異文化ゆえの生活上の困難に対し、私たち看護職に求められている役割や支援について考えます。

キーワード: グローバリゼーション、健康格差、プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーション、リプロダクティブヘルス/ライツ、ミレニアム開発目標、持続可能な開発目標、自助努力、JICA、異文化理解、在日外国人、多文化共生

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ・授業で学修した内容について、概ね80%を理解することができる。
・最も印象に残った内容について、文献を用いて調べ理解を深め、記述できる。

評価方法: 課題レポート

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学修した内容について、自身の経験および自主学修によって得た知識を踏まえて考察し、論理的に自らの意見を表現することができる。

評価方法: 課題レポート

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

・直接的な評価対象としない。ただし、自主的な学修が深められ、その成果が課題レポートに記載されている場合、上述の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。
・授業中、本科目以外の学習を行っている場合は、減点の対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の不適切な言動、課題レポートにおける不適切な文献引用などがあつた場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第1回】科目オリエンテーション、国際看護学を学ぶ意義、国際協力諸機関と協力のしくみ
【第2回】国際看護の基盤となる考え方
【第3回】世界の健康問題の現状 ー開発途上国を中心に
【第4回】異文化理解と看護
【第5回】在日外国人の健康課題と看護
【第6回】国際看護活動の実際1 ータンザニアにおける地域看護活動
【第7回】国際看護活動の実際2 ー国際看護活動に必要な資質と技術
【第8回】国際保健・看護協力のあり方

使用テキスト: 授業で使用する資料は、すべて事前に配信する。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等:

1. 看護学概論で学修した「看護の対象」について確認しておこう。
2. 看護学概論、公衆衛生看護学概論や災害看護等で学修した、国際保健の担い手、WHOの役割、国際機関や日本の国際協力の現状について復習しておこう。
3. 留学生の友人がいる方は、その友人が来日後に受けた日本でのカルチャーショックと、その軽減・解消に至るまでの体験談を具体的に聞いてみよう。
4. 国際協力の経験をもつ看護職者が身近にいる方は、その方から、国際協力活動の実際について経験談を聞いてみよう。
5. これまでに経験した臨地実習において、在日外国人を対象に提供されていたサービスや支援の内容、また学生自身が体験した在日外国人への看護の実際について(対象への看護過程、実践するうえで困ったこと、工夫したこと等)整理してみよう。

【各回の予習】

授業前に、配信された資料を読み、わからない用語や内容について調べる(90分)

【各回の復習】

授業資料をもとに、学修内容やキーワードを復習する(90分)

【参考文献】

- ・田村やよひ編:新体系看護学全書 看護の統合と実践3 国際看護学, メヂカルフレンド社, 2013.
- ・日本国際保健医療学会編:国際保健医療学 第3版, 杏林書院, 2013.
- ・日本国際看護学会編:国際看護学入門 第2版, 医学書院, 2020.
- ・李節子編:在日外国人の母子保健、医学書院, 2000.
- ・李節子編:在日外国人の健康支援と医療通訳, 2018.
- ・世界子供白書2018, 日本ユニセフ協会, 2019.

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応いたします。
まずは学部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に確認してください。

留意事項: なし

科目コード: 31164 **科目ナンバリング:** NU40A04K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 看護マネジメント(医療安全含む)(Nursing Management / Medical Safety)

担当者: 池袋 昌子

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 講義

曜時: 金曜1限 金曜2限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 08. 協同学修
16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: 看護マネジメントは、新しいヘルスケアシステムを創造し、チーム・組織・システムを動かす活動としてとらえられ、看護管理者の活動の場は病院のみならず地域の保健医療福祉の場へと拡大している。看護マネジメントは、看護管理者だけでなく看護実践者にも必要な知識と技能となる。

看護を提供できる知識と技能を持った人的資源(ヒト)、看護を提供するための環境や医療用機器等の物的資源(モノ)、看護を提供するためにかかる費用の財的資源(お金)等が必要となる。

将来の看護実践者として、看護マネジメントの構成要素(有限資源)とそれらを有効に維持・活用するしくみ(システム)を学び理解を深める。また、看護職の法的責任・職業倫理・医療制度・看護政策も概観し、看護マネジメントの側面からヘルスケアシステムを学修する。

なお、担当教員の「認定看護管理者」の実務経験を活かし、看護管理実践と知識体系を統合させ、臨床における看護マネジメント(医療安全を含む)の実際を教授する。

キーワード: 看護マネジメントの構成要素(ヒト・モノ・お金・情報・時間・システム・ナレッジ)、有限資源、投資と回収、安全管理、チーム医療、タスク・シフト/シェア、組織化、質管理、看護政策と制度

学位授与方針との関係**▼ 知識・技能**

- 到達目標:**
1. 看護サービスとしての看護提供システムについて説明し記述することができる。
 2. 看護マネジメントに必要な構成要素(有限資源)やその維持・活用について説明し記述する

ことができる。

3. 看護職個人と組織の医療安全管理について説明し記述することができる。

4. 看護職の法的責任・職業倫理・医療制度・看護政策について説明し記述することができる。

評価方法：・学期末筆記試験
・確認テスト(Forms)

評価割合：50%

総合的に判断する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：1. 授業で扱った内容について、自主的な学びを通して得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。
2. 看護マネジメントにおける基本的な知識・技能を発展させ、思考力・判断力・表現力を修得し、セルフマネジメントに活用することができる。

評価方法：・学期末筆記試験
・レポート
・授業への参加度

評価割合：50%

総合的に判断する。

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学びを通して、自身の知見に追加された成果等がレポート・学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 【第1回】 看護マネジメントの7つの構成要素
(ヒト・モノ・お金・情報・時間・システム・ナレッジ)
 - 【第2回】 看護ケアのマネジメント(安全管理)
 - 【第3回】 タスク・シフト/シェア(看護の専門性・チーム医療)
 - 【第4回】 看護職のキャリアマネジメント
 - 【第5回】 看護サービスのマネジメント
 - 【第6回】 マネジメントに必要な知識と技術
 - 【第7回】 看護を取り巻く諸制度(法的責任・職業倫理・医療制度・看護政策)
 - 【第8回】 看護マネジメント関連資料とまとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料は印刷・配付する。

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**
1. 予習(1時間)と復習(1時間)のポイント
 - 1) 授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる。
 - 2) 授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主的な学びを通して知見を深める。
 - 3) 予習/復習等のFormsを通して、自己評価を行う。

2. 以下の参考文献・資料を推薦する。

- 1) 井部俊子・増野園恵(2023):看護管理学習テキスト第3版 第1巻 ヘルスケアシステム論, 日本看護協会出版会.
- 2) 井部俊子・秋山智弥(2023):看護管理学習テキスト第3版 第2巻 看護サービスの質管理, 日本看護協会出版会.
- 3) 井部俊子・手島恵(2023):看護管理学習テキスト第3版 第3巻 人材管理論, 日本看護協会出版会.
- 4) 井部俊子・勝原裕美子(2023):看護管理学習テキスト第3版 第4巻 組織管理論, 日本看護協会出版会.
- 5) 井部俊子・金井Pak雅子(2023):看護管理学習テキスト第3版 第5巻 経営資源管理論, 日本看護協会出版会.
- 6) 井部俊子・増野園恵(2023):看護管理学習テキスト第3版 別巻 看護管理基本資料集, 日本看護協会出版会.
- 7) 上泉和子・小山秀夫(2018):看護管理 看護の統合と実践, 医学書院.
- 8) 松下由美子・杉山良子・小林美雪(2021):医療安全看護の統合と実践, メディカ出版.

3. 事前課題

臨地実習における経験をふまえて、看護師長・指導者・先輩看護師の看護管理の実際から「看護管理とは何か」について、「学生の視点」から「気づき、感想、疑問」を記述する。

- 1) A4,1枚 本文800字以内(Word)
- 2) 引用文献記載 (Webのcopy&pasteは不可)
- 3) 本文にふさわしいタイトルを記載
- 4) 表紙不要

【第1回】の授業に上記レポートを提出のこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。
曜日・時限等については初回到に連絡する。

留意事項: 可能であれば、デバイス(パソコン)を持参する(必携ではないが、デバイスの持参を推奨)。

科目コード:31165 科目ナンバリング:NU40C03K 主な使用言語:日本語

授業名(英文):看護教育学(Nursing Education)

担当者:松永 恵

基本情報

年次:4

単位数:1

授業形式:講義

曜時:木曜3限

履修可能学科・専攻: N

関連資格:看護 保健

AL要素: 07発表

08協同学修

16振り返りと応答

授業の概要: 受講生が看護職を目指して努力してきた経験を振り返り、関連づけながら看護教育における重要な概念を理解する。

教育は単に知識を伝えることにとどまらず、対象を理解し、対象の変化(成長)する姿をイメージしながら、効果的な方法を選んで実施し、生じた変化(成長)を評価するというプロセスである(あった)ことに気づいてほしい。

受講生は卒業後、卒後教育を受け、学生の実習指導にかかわることになるだろう。その前に、学生として困難を感じた場面を振り返り、対象理解・カリキュラム・教育方法・評価方法などをよりよく改善しようと考えられるようになることを期待している。

具体的には、講義→自身の体験の振り返り→体験の共有→共有した体験を理論の中で捉え直す、というサイクルを繰り返す、学びを深める予定である。特に受講生自身の体験を振り返る際には、授業者の臨床看護や実習指導の実務経験を生かし、看護学生や新人看護師が抱きやすい思いや考えを紹介し、受講生が体験したことを意味づけながら、客観的に捉えられるよう支援したい。

受講生には用語を正確に捉えるというより、経験と理論を結びつけ、自分の言葉で表現できるようにすることを望みます。

キーワード： 看護、教育、歴史、方法、カリキュラム、評価、実習指導

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標：** 1 「看護教育」の多様な定義について説明できる
2 古来から続く複線型の養成教育の概略を説明できる

評価方法： 講義中の発言
ノート

評価割合： 10%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標：** 1 自身の経験を踏まえて、本学のカリキュラムを他の養成教育と比較して説明できる
2 自身の経験を踏まえて、実習指導で用いられた教育方法を抽出し、よりよい方法を検討できる
3 自身の経験を踏まえて、患者指導における対象理解を修正することができる
4 自身の経験を踏まえて、看護教育における評価について説明することができる

評価方法： 講義中の発言5%
振り返り用紙20%
定期試験(論述)60%

評価割合： 85%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。

学んだ理論と自分の経験を結び付けて考察しようとする態度がみられた場合には「思考力・判断力・表現力」と併せて評価する。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

話し合いの際、他の受講生が体験や考えを発表することに対し、共に考え、理解しようとする姿勢で臨んでいる。

評価割合： 5%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。

ただし、授業中の発言や記述において、人権侵害・差別的表現などがみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼ その他

なし

評価割合： なし

授業計画： 【第1回】看護教育の定義と歴史
【第2回】私が受けた看護教育(振り返り)
【第3回】看護教育のカリキュラム
【第4回】私が受けた実習指導(振り返り)
【第5回】学習方法
【第6回】私が実施した”E”項目(振り返り)
【第7回】教育評価
【第8回】看護教育における対象理解／定期試験(論述)

使用テキスト： 本学の履習要覧

予習・復習のポイントと【予習】

参考文献・資料等：

- 1 この4年間で悩んだり立ち止まってしまった場面を振り返り、差支えない程度に発表できるよう準備しておく(各30分程度)。
- 2 テキストは指定しないが、板書した内容を理解しながら、自分の経験を振り返ることが重要である。

【参考資料】

グレッグ美鈴・池西悦子「看護教育学」南江堂

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。教員に声をかけてください。

授業時間外の連絡手段： 研究室か学務部にお越しください。

留意事項： ☆ 板書するので、ルーズリーフ、資料を綴じるファイルを持参する。
○ 履修者が少ないことが予想されるので、どの回でも何度でも発言するつもりで臨む。

科目コード：31167 科目ナンバリング：NU40A05K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 研究方法論(Nursing Research)

担当者： 白木 裕子、栗原 加代、渋谷 えみ、叶多 博美、前田 和子、眞崎 由香、小野 加奈子、池袋 昌子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：講義

曜時：水曜1限 水曜2限

履修可能学科・専攻： N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習
10資料調査

授業の概要： 看護研究の意義とプロセス、および研究手法についての基本的内容を学修する。また、研究活動を続けていくうえで基礎となる科学的思考を養う。

キーワード： 研究倫理、研究計画、文献クリティーク、文献検索、文献研究、質的研究、調査研究、プレゼンテーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標：**
1. 看護研究の意義や目的について説明できる。
 2. 文献検討の重要性を理解し文献検索およびクリティークの方法が説明できる。
 3. 研究計画書の目的と重要性を理解し作成上の留意点が説明できる。
 4. 研究目的と方法の選択および整合性を理解し、データ収集・分析方法を説明できる。

評価方法： 定期試験
レポート評価

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標：**
1. 研究成果発表の意義と、その方法を説明できる。
 2. 研究プロセスにおける倫理的配慮の必要性和、具体的な方法を説明できる。

評価方法： 定期試験
レポート評価

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、
嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点
や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
1. 看護における研究、研究上の倫理
 2. 研究テーマの設定(クリティークを含む)
 3. 計画書作成
 4. 文献の検索と活用
 5. 研究方法1 文献研究
 6. 研究方法3 質的研究
 7. 研究方法4 量的研究
 8. 論文・抄録の書き方、プレゼンテーション

使用テキスト： 必要に応じて担当教員が資料を配布。
必要に応じて担当教員が参考書を提示する。

予習・復習のポイントと 多くの研究論文に触れて、どのような研究が行われているかを知るとともに、自分の関心を深
参考文献・資料等： めておくことが大切である。

障がいのある できる限り対応する。学務部に相談すること。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーにて対応する。

留意事項： 卒業研究を、念頭におき授業に参加すること。

科目コード：31170

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：リハビリテーション看護(Rehabilitation Nursing)

担当者：原島 利恵、岡部 慎一、箱崎 克徳

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：07発表.08協同学習.11.討論17.発問と回答

授業の概要： 様々な疾病や受傷により生じる障害が生活にもたらす困難について学び、リハビリテーション

の観点から看護の役割を理解する。

キーワード: リハビリテーション リハビリテーション看護 生活の再構築 ICIDH ICF チーム医療 多職種連携 日常生活行動

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: リハビリテーション看護を支える理念と目標を理解し、述べる事が出来る。リハビリテーションを受ける対象の理解と看護ケア、セルフケア支援を理解できる。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: リハビリテーション看護に関する内容について考察し、論理的、かつ簡潔に表現することが出来る。障害を持つ人とその家族に関する生活の再構築のための看護支援を考えることが出来る。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

主体的に学び、実践することができる。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポート等において公正性を欠く言動があった場合は、減点の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:ガイダンス、リハビリテーション看護概説(生活機能障害と看護)
生活の再構築と看護の実際1(機能評価と看護、主体性の回復支援・リハビリテーション医療の提供)(原島)
第2回:脳卒中急性期リハビリテーション 概論(岡部)
第3回:脳卒中急性期リハビリテーション の実際(岡部)
第4回:生活の再構築と看護の実際2(リハビリテーション における多職種連携)(箱崎・原島)
第5回:生活の再構築と看護の実際3(脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の役割)(箱崎・原島)
第6回:生活の再構築と看護の実際4(自立・自律に向けた学修支援)
第7回:呼吸リハビリテーション1
第8回:呼吸リハビリテーション2

使用テキスト: 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学1 小松浩子ほか 医学書院

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考書
ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 奥宮暁子 金城利雄 石川ふみよ メディカ出版

授業の事前準備として、実習等で出会ったリハビリテーションを受ける患者および実践した看護の振り返りを行うことを推奨する。

配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。

留意事項： 外部講師の予定により、授業計画が変更になる場合があります。

科目コード : 31171 科目ナンバリング : NU40C05K 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : **がん看護(Cancer Nursing)**

担当者 : 原島 利恵、小幡 明香、菊池 早輝子、椎名 瑠依

基本情報

年次 : 4

単位数 : 1

授業形式 : 講義

曜時 : 月曜4限

履修可能学科・専攻 : N

関連資格 : 看護 保健

AL要素 : 03.実験・実技・体験
13.役割演技と疑似体験

授業の概要： 日本におけるがんに関連する保健統計および法律を理解するとともに、緩和ケアおよびがん化学療法看護に関する専門知識を習得する。また、リンパ節廓清に伴う浮腫への看護介入演習を通して、がんリハビリテーションの概要を学ぶ。

キーワード： がん化学療法、緩和ケア、がんリハビリテーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で扱った内容を中心とし、がん看護に関する知識を習得し、解答することができる。

評価方法： 課題とレポート

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： がん看護に関する内容について実習等の経験をふまえて内省的に考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 課題とレポート

評価割合： 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

演習において主体的に学び、実践することができ、演習グループへの貢献が顕著であり、演習グループ全体の学びを深めることができる。

評価割合： 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポート等において公正性を欠く言動があった場合は、減点の対象となる。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回:がん保健統計、関連法規、がんサバイバーシップとがん教育(授業概要説明を含む)

- 第2回:放射線治療を受ける患者の看護実践1
- 第3回:放射線治療を受ける患者の看護実践2
- 第4回:がん化学療法を受ける患者の看護1
- 第5回:がん化学療法を受ける患者の看護2
- 第6回:がん化学療法を受ける患者の看護3グループワーク
- 第7回:がん患者への緩和ケア1
- 第8回:がん患者への緩和ケア2

使用テキスト: 授業で使用する資料はすべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業の事前準備として、実習等で出会ったがん患者および実践した看護の振り返りを行うことを推奨する。
配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。

留意事項: 外部講師の予定により、授業計画が変更になる場合があります。

科目コード: 31176 **科目ナンバリング:** NU47A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 科学的思考基礎演習VII(看護プロフェッショナルへの学び) a(Fundamental Practice for Sci

担当者: 小野 加奈子、栗原 加代、渋谷 えみ、原島 利恵、白木 裕子、豊田 真弓、宇留野 由紀子、小池 美香、前田 和子、松永 恵、眞崎 由香、小幡 明香、長津 貴子、木下 美智子、池袋 昌子、大内 玲、間宮 千紘、鈴木 陽子、栢内 直美、市野沢 征子、海野 潔美、角田 智美、梶原 順子、中村 裕美、相川 玄、浅野 均

基本情報

年次: 4	単位数: 1	授業形式: 演習
曜時: 水曜5限 水曜6限	履修可能学科・専攻: N	
関連資格: 看護 保健	AL要素: 08.協同学修 11.討論 13.役割演技と疑似体験 15.レポート指導 16.振り返り用紙と応答 17.発問と回答	

授業の概要: 本科目は、看護実践能力の向上に向けて、現在の自己の課題は何かを確認し専門職業人としての自律性や自己課題に対し継続的に研鑽していく過程を、アクティブラーニングによる演習を通し学び、最終的にOSCEによる評価を受け、卒業後に繋げる自己課題を見出す科目である。

OSCE(Objective Structured Clinical Examination)とは、客観的臨床能力試験のことで、看護専門職になる者として欠かすことの出来ない臨床実践能力を身につけているかどうかを評価し、今後の自己課題を確認する実技試験である。学生は提示される看護の実践的な課題について、これまで学んだ知識・技術・態度を総合的に活用しながらそれを遂行し、評価を受けることで卒業時到達目標の達成度の確認と現在の看護実践能力を客観的にとらえ、今後の看護実践能力の向上へとつなげるための手がかりを得る。

また、自己の看護師としての実践能力について振り返り、専門職業人としての在り方、プロフェッショナルとして向上していくための具体的な学び方についてディスカッションを通し考察する。

キーワード: 看護実践能力 OSCE プロフェッショナル 主体的な学び

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標:【コミュニケーション能力、ケアの質と安全管理】

1. 対象を尊重し、倫理的な配慮を示すことができる。
2. 対象と援助的な人間関係を形成できる。

【根拠に基づいた課題対応能力、看護学の知識と看護実践】

1. 健康レベルや成長発達に応じたアセスメントができる。
2. 個人・家族の生活および集団・社会生活を把握し、健康状態との関連をアセスメントできる。
3. 状況・課題に応じた看護援助技術を適切に実践できる。
4. 様々な健康レベルや疾患の経過に応じた看護を実践できる。

評価方法: 客観的臨床能力試験、レポート

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標:【プロフェッショナリズム、生涯にわたって研鑽し続ける姿勢】

1. 自己の課題を明らかにし、今後のキャリア形成に活かすことができる。
2. 卒業後の自己の看護実践能力の確認と向上のための学習方法を理解できる。

評価方法: 客観的臨床能力試験、レポート

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

事前課題の内容や演習への取り組む態度等の情報を評価対象とする。また、グループ学習を行う上で、チーム医療の一環としてメンバーとしての自覚と責任を持ち、行動することができているかどうか評価する。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や演習中の記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01回】科学的思考基礎演習Ⅶ(プロフェッショナルへの学び)についてガイダンス
学習課題提示

【第02回】グループワーク「既修実習を通した振り返りと自己の課題の明確化」

【第03回】課題学習に基づく演習 ①

- 【第04回】課題学習に基づく演習 ②
- 【第05回】課題学習に基づく演習 ③
- 【第06回】課題学習に基づく演習 ④
- 【第07回】課題学習に基づく演習 ⑤
- 【第08回】課題学習に基づく演習 ⑥
- 【第09回】課題学習に基づく演習 ⑦
- 【第10回】課題学習に基づく演習 ⑧ OSCEガイダンス
- 【第11回】OSCE(客観的技能試験) ①
- 【第12回】OSCE(客観的技能試験) ②
- 【第13回】OSCE(客観的技能試験) ③
- 【第14・15回】全体フィードバック・ディスカッション・発表
「自己の看護師としての実践能力について振り返り、専門職業人としての在り方について考える」

使用テキスト: 必要時提示する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 4年間の学習のまとめ、および他者からの能力評価を受ける科目という自覚をもち、主体的、計画的に学習に取り組むことを望みます。モデル課題が提示された場合は、必要な事柄をアセスメントしてケアをエビデンスに基づいて遂行できるように学習し準備してください。また、物品の適切な取扱い、準備や片づけも重要な学習の要素となります。グループで協力しつつ、最終的には自分自身の能力を確認して卒業後の実践的な能力(アセスメントを含めた看護技術)を養うための科目という自覚を持って授業に臨んで下さい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項: 個人・グループワーク・演習とも主体的な学習姿勢で臨むこと。

科目コード: 31176 科目ナンバリング: NU47A01E 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 科学的思考基礎演習VII(看護プロフェッショナルへの学び) b(Fundamental Practice for Sci

担当者: 小野 加奈子、栗原 加代、渋谷 えみ、原島 利恵、白木 裕子、豊田 真弓、宇留野 由紀子、小池 美香、前田 和子、松永 恵、眞崎 由香、小幡 明香、長津 貴子、木下 美智子、池袋 昌子、大内 玲、間宮 千紘、鈴木 陽子、栢内 直美、市野沢 征子、海野 潔美、角田 智美、梶原 順子、中村 裕美、相川 玄、浅野 均

基本情報

年次: 4	単位数: 1	授業形式: 演習
曜時: 水曜5限 水曜6限		履修可能学科・専攻: N
関連資格: 看護 保健		AL要素: 08.協同学修 11.討論 13.役割演技と疑似体験 15.レポート指導 16.振り返り用紙と応答 17.発問と回答

授業の概要: 本科目は、看護実践能力の向上に向けて、現在の自己の課題は何かを確認し専門職業人としての自律性や自己課題に対し継続的に研鑽していく過程を、アクティブラーニングによる演習を通し学び、最終的にOSCEによる評価を受け、卒業後に繋げる自己課題を見出す科目である。

OSCE(Objective Structured Clinical Examination)とは、客観的臨床能力試験のことで、看護専門職になる者として欠かすことの出来ない臨床実践能力を身につけているかどうかを評価し、今後の自己課題を確認する実技試験である。学生は提示される看護の実践的な課題

について、これまで学んだ知識・技術・態度を総合的に活用しながらそれを遂行し、評価を受けることで卒業時到達目標の達成度の確認と現在の看護実践能力を客観的にとらえ、今後の看護実践能力の向上へとつなげるための手がかりを得る。

また、自己の看護師としての実践能力について振り返り、線も職業人としての在り方、プロフェッショナルとして向上していくための具体的な学び方についてディスカッションを通し考察する。

キーワード： 看護実践能力 OSCE プロフェッショナル 主体的な学び

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：【コミュニケーション能力、ケアの質と安全管理】

1. 対象を尊重し、倫理的な配慮を示すことができる。
2. 対象と援助的な人間関係を形成できる。

【根拠に基づいた課題対応能力、看護学の知識と看護実践】

1. 健康レベルを成長発達に応じてアセスメントできる。
2. 個人・家族の生活および集団・社会生活を把握し、健康状態との関連をセス面とできる。
3. 状況・課題に応じた看護援助技術を適切に実践できる。
4. 様々な健康レベルや疾患の経過に応じた看護を実践できる。

評価方法： 客観的臨床能力試験、レポート

評価割合： 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標：【プロフェッショナリズム、生涯にわたって研鑽し続ける姿勢】

1. 自己の課題を明らかにし、今後のキャリア形成に活かすことができる。
2. 卒業後の自己の看護実践能力の確認と向上のための学習方法を理解できる。

評価方法： 客観的臨床能力試験、レポート

評価割合： 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

事前課題の内容や演習への取り組む態度等の情報を評価対象とする。また、グループ学習を行う上で、チーム医療の一環としてメンバーとしての自覚と責任を持ち、行動することができているかどうか評価する。

評価割合： 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や演習中の記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：** 【第01回】科学的思考基礎演習Ⅶ(プロフェッショナルへの学び)についてガイダンス
学習課題提示
【第02回】グループワーク「既修実習を通じた振り返りと自己の課題の明確化」
【第03回】課題学習に基づく演習 ①
【第04回】課題学習に基づく演習 ②
【第05回】課題学習に基づく演習 ③
【第06回】課題学習に基づく演習 ④
【第07回】課題学習に基づく演習 ⑤
【第08回】課題学習に基づく演習 ⑥
【第09回】課題学習に基づく演習 ⑦
【第10回】課題学習に基づく演習 ⑧ OSCEガイダンス
【第11回】客観的技能試験 ①
【第12回】客観的技能試験 ②
【第13回】客観的技能試験 ③
【第14・15回】全体フィードバック・ディスカッション・発表
「自己の看護師としての実践能力について振り返り、専門職業人としての在り方について考える」

使用テキスト： 必要時提示する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 4年間の学習のまとめ、および他者からの能力評価を受ける科目という自覚をもち、主体的、計画的に学習に取り組むことを望みます。モデル課題が提示された場合は、必要な事柄をアセスメントしてケアをエビデンスに基づいて遂行できるように学習し準備してください。また、物品の適切な取扱い、準備や片づけも重要な学習の要素となります。グループで協力しつつ、最終的には自分自身の能力を確認して卒業後の実践的な能力(アセスメントを含めた看護技術)を養うための科目という自覚を持って授業に臨んで下さい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します、曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項： 個人・グループワーク・演習とも主体的な学習姿勢で臨むこと。

科目コード：31178 科目ナンバリング：NU10A07K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：公衆衛生学(Public Health)

担当者：叶多 博美、橋本 英樹

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：講義

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：福祉主 看護 保健

AL要素：11.討論

14.輪読活動

16.振り返り用紙と応答

17.発問と回答

授業の概要： 人々が普段生活している環境や制度が健康に対してどのように影響しているのか、という視点で考えることで、健康や生活の質を保持・増進することを目的としている学問が公衆衛生学です。本科目では、公衆衛生学の基本的な考え方である疫学や統計学を簡単に理解した上で、国および地方自治体において行われている、住民の健康をまもるための体制・政策

について具体的に学んでいきます。災害や感染症等の健康危機管理対策、環境保健、母子保健といった身の回りの公衆衛生学上のテーマを取り上げていきます。さらに、国内の健康課題を取り扱う上でも欠かせない国際的視点を養うため、アジア地域を中心とした諸外国の公衆衛生活動についても紹介します。

本授業は、単なる公衆衛生の知識を深めるだけではなく、社会の課題を自ら探し出すという公衆衛生を学ぶ上での基本的なスキルを向上させるのにも役立つでしょう。

キーワード： 衛生行政、疫学、人口統計、統計指標、国際保健、健康危機管理、感染症対策、環境保健、母子保健

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 自主学修および授業で学んだ基本的な用語・統計・社会的問題点等について理解し、それを説明・解答することができる。

評価方法： 定期試験

評価割合： 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 定期試験・レポート

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が定期試験・レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が定期試験・レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 授業は全8回で構成され、原則下記の内容に従って進みます。授業計画に変更がある場合には事前にお知らせします。

【第1回】疫学の基本(橋本)

【第2回】人口統計・統計指標(橋本)

【第3回】感染対策(橋本)

【第4回】国際保健1(石川先生)

【第5回】国際保健2(石川先生)

【第6回】保健所における健康危機管理・災害保健(茨城県日立保健所長)

【第7回】健康と環境、生活環境の保全(茨城県日立保健所次長 花塚先生)

【第8回】母子保健(叶多)

使用テキスト: 教科書

神馬征峰・大森純子ほか『系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生』医学書院

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 公衆衛生は、社会の動きと連動していますので、テレビ・インターネットのニュースや新聞をよく読み、社会の動き、その時々で問題になっている話題を把握しておきましょう。

参考書

- ・鈴木庄亮(監)小山洋・辻一郎(編)『シンプル衛生公衆衛生学』南江堂
- ・藤内修二ほか『標準保健師講座・別巻1 保健医療福祉行政論』医学書院
- ・医療情報科学研究所(編)『公衆衛生がみえる』メディック・メディア
- ・国民衛生の動向

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。

留意事項: 本科目は、デバイス(パソコン)を必携とします。

また、今後の公衆衛生学に関連する授業の基本となります。「保健医療福祉行政論」「疫学」「感染と防御(微生物学)」「社会保障制度論」「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護活動展開論」「公衆衛生看護学実習A・B」「公衆衛生看護管理論」と関連していきます。

科目コード: 31179

科目ナンバリング: NU30C01K

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 保健統計(Statistical Methods for Health Care)

担当者: 齊藤 具子

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 教職 看護 保健

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: Evidenced Based Medicine (EBM) 科学的根拠に基づいた医療とEvidence-based Nursing (EBN) 看護を実践するために必要な保健統計の基礎を学び、保健師国家試験に必要な知識の習得をめざします。

キーワード: 尺度、代表値、正規分布、散布図、相関、年齢調整死亡率、スクリーニング、t検定、 χ^2 乗検定

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 情報を科学的に整理・分析する方法を学び、効果的に活用することができる。
授業で実施した各種検定について概ね正しく説明することができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 人口動態統計のデータからグラフを作成し、その背景を説明できる。
各種衛生統計の現状と動向の把握ができる。
今後の学習に必要なとなる学術情報の入手及び活用に関する方法を理解することができる。
ほぼ毎回回の授業の初めに前回の授業の内容について小テストを実施し、復習の動機付けとする。

評価方法：小テスト

評価割合：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし不正があった場合は、厳しく対処するので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回：変数と尺度
第2回：度数分布表と度数分布図
第3回：代表値(平均値, 中央値, 最頻値)
第4回：範囲, 分散, 標準偏差, 変動係数
第5回：人口ピラミッド
第6回：人口動態統計
第7回：平均寿命・健康寿命
第8回：スクリーニング
第9回：年齢調整死亡率
第10回：クロス集計表
第11回：散布図
第12回：共分散と相関係数
第13回：母集団と標本
第14回：t検定
第15回： χ^2 乗検定
定期試験

使用テキスト：【教科書】

『楽しく学べる！看護学生のための疫学・保健統計(改訂3版)』浅野嘉延著 南山堂

【参考書】

『国民衛生の動向 2021/2022』厚生統計協会

授業内で適宜資料を配布します。

予習・復習のポイントと 次の授業内容について未知の用語などを調べておく。(90分)

参考文献・資料等： 授業後は、次の時間初めの小テストに備えて十分に復習をする。(90分)

障がいのある 可能な限り対応しますので、学務部などに連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。連絡は公開メールアドレスにメールしてください。

留意事項： 先に学習した「疫学」の内容と重なる部分があると思いますが、復習ととらえて学習してください。

科目コード：31180

科目ナンバリング：NU32C01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：公衆衛生看護活動展開論B(公衆衛生看護技術)(Public Health Nursing Care & Theor

担当者：叶多 博美、若林 千津子、園部 律子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜3限 月曜4限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：教職 看護 保健

AL要素：02.模擬実践
03.実技
07.発表
08.協同学修
10.資料調査課題
11.討論
13.役割演技
15.レポート指導
16.振り返り用紙と応答
17.発問と回答

授業の概要： 公衆衛生看護活動の特徴は、対象者の生活の場(家庭・地域)で看護上の問題・健康問題を把握し、個人・集団・地域全体を看護活動の対象とすることです。活動の基本として、地域の特性および人々の日々の生活と健康状態を多角的に捉えアセスメントし、問題解決に向けて支援する能力が必要となります。これらの保健師活動に必要な支援展開技法として、地域看護診断、健康相談、家庭訪問、健康教育、住民・グループ支援活動の知識・技術を学習し、地域で暮らす人々や地域全体のQOLの向上を支援するための具体的な方法を学びます。

キーワード： 公衆衛生看護 看護技術 地域診断 健康相談 家庭訪問 健康教育 地域組織活動育成

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標：**
- ・地域診断(地域看護診断)の定義と活用される理論を理解する。
 - ・地域診断の構成要素と展開方法を理解する。
 - ・安全に乳児の身体計測ができる
 - ・地域住民のセルフケア能力を高める公衆衛生看護技術を習得できる。

評価方法：

評価割合：60%

課題提出状況および内容
実技試験
役割演技
定期試験

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標：**
- ・事例(個人・集団・地域)の情報をアセスメントし、顕在的・潜在的健康課題を見出すことができる。
 - ・見出した健康課題の根拠を説明することができる。
 - ・見出した健康課題の中から優先課題を選定することができる。
 - ・カウンセリング技法を活用した保健指導を展開することができる。

評価方法： 課題提出状況および内容

評価割合：40%

実技試験
役割演技
定期試験

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。しかし演習への取り組み態度、グループ内でのメンバーシップ等を、上記

項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が、授業中のグループディスカッションや報告会時の参加態度・報告会振返り用紙の記述内容に認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画： 【第1回】公衆衛生看護技術1 地域診断 既存資料の活用(叶多)
【第2回】公衆衛生看護診断の方法1 コミュニティ・アズ・パートナーモデル(若林)
【第3回】公衆衛生看護診断の方法2 プリシード・プロシードモデル、地区視診(若林)
【第4回】公衆衛生看護診断 演習オリエンテーション、既存資料の紹介(叶多)
【第5回】公衆衛生看護診断 演習1 既存資料の収集(叶多・若林・園部)
【第6回】公衆衛生看護診断 演習2 既存資料の分析(叶多・若林・園部)
【第7回】公衆衛生看護診断 演習3 既存資料のアセスメント1(叶多・若林・園部)
【第8回】公衆衛生看護診断 演習4 既存資料のアセスメント2(叶多・若林・園部)
【第9回】公衆衛生看護診断 演習報告会1(叶多・若林・園部)
【第10回】公衆衛生看護診断 演習報告会2(叶多・若林・園部)
【第11回】公衆衛生看護技術2 健康相談 エンパワメント、演習オリエンテーション(若林)
【第12回】健康相談 演習1 特定保健指導 ロールプレイ 技術チェック1(叶多・若林・園部)
【第13回】健康相談 演習2 特定保健指導 ロールプレイ 技術チェック2(叶多・若林・園部)
【第14回】健康相談 演習3 特定保健指導 ロールプレイ 技術チェック3(叶多・若林・園部)
【第15回】公衆衛生看護技術3 家庭訪問 特徴と留意点(園部)
【第16回】家庭訪問 訪問記録の書き方(園部)
【第17回】家庭訪問 演習オリエンテーション、訪問かばんの扱い方、乳児の身体計測(叶多)
【第18回】家庭訪問 演習1 乳児家庭訪問バックテクニック1(叶多・若林・園部)
【第19回】家庭訪問 演習2 乳児家庭訪問バックテクニック2(叶多・若林・園部)
【第20回】家庭訪問 演習3 乳児家庭訪問バックテクニック3(叶多・若林・園部)
【第21回】家庭訪問 演習4 乳児家庭訪問保健指導 技術チェック1(叶多・若林・園部)
【第22回】家庭訪問 演習5 乳児家庭訪問保健指導 技術チェック2(叶多・若林・園部)
【第23回】公衆衛生看護技術4 住民・グループ組織支援(叶多)
【第24回】住民・グループ組織支援 演習1 保健師のファシリテーションスキル(叶多)
【第25回】住民・グループ組織支援 演習2 保健師のファシリテーションスキル(叶多)
【第26回】公衆衛生看護技術5 健康教育 演習1 教材作成(叶多・若林・園部)
【第27回】健康教育 演習2 教材作成(叶多・若林・園部)
【第28回】健康教育 演習3 デモンストレーション(叶多・若林・園部)
【第29回】健康教育 演習4 デモンストレーション(叶多・若林・園部)
【第30回】健康教育 演習5 発表会(叶多・若林・園部)
定期試験

使用テキスト: 中村裕美子ほか著「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」医学書院
中谷芳美ほか著「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」医学書院
岸恵美子ほか編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社
標美奈子ほか著「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」医学書院

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習・復習のポイント
取り上げる理論の教科書・参考書による予習 各1時間
地域診断演習事例の読み取り 2時間
特定保健指導用 媒体作成 8時間
乳児保健指導用 媒体作成 8時間
健康教育 原稿作成 4時間
健康教育 媒体作成 4時間

参考文献

佐伯和子編「地域看護アセスメントガイド」医歯薬出版
金川克子編「地域看護診断 第2版」東京大学出版会
水嶋春朔著「地域診断の進め方 根拠に基づく生活習慣病対策と評価 第2版」医学書院
佐野喜子ほか著「質問力でみがく保健指導」中央法規出版
佐野喜子ほか著「説明力で差がつく保健指導」中央法規出版
宮崎美砂子ほか編「最新 公衆衛生看護学 総論」日本看護協会出版会

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: 3年次の在宅看護実習、4年次の公衆衛生看護学実習B(活動展開の応用)に欠かせない具体的な技術です。目的をもって積極的に取り組んでください。

科目コード: 31181 **科目ナンバリング:** NU40C01K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 公衆衛生看護管理論(健康危機管理を含む)(Public Health Nursing Management & Ad

担当者: 叶多 博美、若林 千津子、園部 律子

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 講義

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 07.発表

08.協同学修

11.討論

17.発問と回答

授業の概要: 地域住民の健康レベルの向上のための公衆衛生看護管理について理解する。
具体的には保健師が所属する組織運営や業務管理・予算管理、保健師の扱う多様な情報の管理のあり方についても学ぶ。
さらに質の高いサービスを提供するための人材育成や施策化についても考える。

キーワード: 公衆衛生看護管理、組織運営・組織管理、業務管理、人事管理、予算管理、情報管理、人材育成、施策化、

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 公衆衛生看護管理とは何かを説明できる。
 2. 組織運営に必要な能力について説明できる。
 3. 予算編成の仕組みを理解し、編成上の留意事項について説明できる。
 4. 現任教育とは何かを理解し、必要性について説明できる。

5. 情報公開や保護の意義を理解し、取り扱う文書の管理について説明できる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 20%

演習ワークシート

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。しかし演習(協同学修)への取り組み態度、グループ内でのメンバーシップ等を、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や、カンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 1回目 公衆衛生看護管理の目的及び特徴 (叶多)
 - 2回目 組織運営・組織管理、事業・業務管理、人事管理 (園部)
 - 3回目 予算編成と文書管理 (叶多)
 - 4回目 人材育成と研修計画 (外部講師)
 - 5回目 地域における健康危機管理の実際 (園部)
 - 6回目 活動計画立案 生活習慣病対策(若林)
 - 7回目 感染症集団発生と保健活動(叶多)
 - 8回目 活動計画立案 認知症予防対策(叶多)

使用テキスト: 標準奈子ほか著「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」医学書院
中谷芳美ほか著「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」医学書院
岸恵美子ほか編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社
藤内修二ほか著「標準保健師講座別巻①保健医療福祉行政論」医学書院

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 配付資料、教科書により復習するとともに、資料や教科書にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。
公衆衛生看護学実習Bでの体験内容・実習記録も振り返り、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。

留意事項: 保健師国家試験においても重要な科目となります。

科目コード: 31182

科目ナンバリング: NU40C03K

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 産業保健(Industrial Nursing)

担当者：若林 千津子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：講義

曜時：木曜3限 木曜4限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 公衆衛生学を基盤として、社会構造や産業構造の変化が労働者の「健康と生活」にどのような影響をしているかを系統的に理解しながら保健活動の意義と展望を学ぶ。特に産業保健の理念・歴史、労働衛生・健康管理体制、労働環境・労働者の実態などを踏まえ、事例や実践活動から労働という営みの中で行なわれる保健活動の特徴と保健師の役割について理解を深める。

キーワード： 労働基準法 労働安全衛生法 3管理 労働災害 産業保健師

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：**
1. 産業保健の目的を理解し、その重要性について説明できる。
 2. 産業保健に関する施策を理解し、関係法規との関連について説明できる。
 3. 産業保健における健康管理体制を理解し、その中で保健師の役割を説明できる。
 4. 社会情勢や産業保健の現状から、今日的課題や健康問題について説明できる。

評価方法： 学期末
定期試験

評価割合：100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法： 学期末
定期試験

評価割合：0%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。しかし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や、カンニング等の不正行為があった場合は、内容に応じて対処する。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 【第1回】産業保健の理念、産業保健の歴史、産業保健体制
- 【第2回】産業保健・産業看護に必要な基礎知識1
労働生理、人と仕事との調和への支援、リスクアセスメント・リスクマネジメント
- 【第3回】産業保健・産業看護に必要な基礎知識2
職業性疾病(化学物質・石綿・粉じん障害)と産業看護職の役割
- 【第4回】産業保健・産業看護に必要な基礎知識3
職業性疾病(電離放射線・振動・騒音障害等)と産業看護職の役割

- 【第5回】健康診断と産業看護職の役割、職場における健康相談の実際
【第6回】職場の安全管理と看護活動、職場巡視
【第7回】職場におけるメンタルヘルスクエアと産業看護職の役割、メンタルヘルス対策の現状
【第8回】産業保健・産業看護の展開方法
個人、集団/組織のアセスメント・計画・実施・評価
定期試験

使用テキスト: 松田正巳ほか著「標準保健師講座3 対象別地域看護活動」医学書院

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 教科書の該当箇所を講義の前に必ず読んでおくこと。
1. 「国民衛生の動向2022-2023」厚生労働統計協会
2. その他適宜教員が紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード: 31183 科目ナンバリング: NU21A07J 主な使用言語: 日本語
授業名(英文): 公衆衛生看護学実習A(活動展開の基礎)(Public Health Nursing Practicum A)
担当者: 若林 千津子、叶多 博美、園部 律子

基本情報

年次: 2	単位数: 1	授業形式: 実習
曜時: 実習		履修可能学科・専攻: N
関連資格: 看護 保健		AL要素: 01.実地訓練 07.発表 08.協同学修 10.資料調査課題 11.討論 15.レポート指導

授業の概要: 公衆衛生看護活動の実践の場である市町村保健センターでの保健師活動の見学や体験から、市町村保健センターの機能や役割を理解する。
保健事業への参加や住民の生活の場に出向くことを通して、住民の価値観や生活の多様性に触れるとともに、それを尊重した看護の展開が実施されていることを学ぶ。
保健師は地域住民のQOLの向上のために、住民や様々な専門機関・専門職と協働していることを学ぶ。
以上の一連のプロセスを通して、公衆衛生看護活動の重要性を認識し、公衆衛生看護への関心を高める機会とする。

キーワード: 公衆衛生看護活動、市町村保健センター、保健師活動、地域診断、地区視診、保健事業、家庭訪問、地域組織活動、多職種連携、住民参加

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ・市町村保健センターにおける保健福祉事業の見学・体験を通して、施設の機能や役割が理解できる。
・保健師活動の実際の見学・体験を通して、保健師に必要な資質や保健師の役割が理解できる。

- ・保健師が住民と共に健康づくりをする意義について理解できる。
- ・公衆衛生看護活動における、関係機関・関係職種との連携や協働の意義について理解できる。

評価方法: 実習日誌、シンポジウムレポート

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
- ・既存資料による地域診断のプロセスを学ぶことができる。
 - ・自宅周辺の探索(地区視診)を通して、地域の強みや課題を考察することができる。
 - ・公衆衛生看護活動は住民の生活や価値観を尊重した活動であることが理解できる。
 - ・実習報告会において、他市町村の健康課題や保健師活動との相違点を考察できる。
 - ・自己の学習過程を振り返り、今後の学習課題を明らかにすることができる。

評価方法: 実習前課題レポート、実習日誌、シンポジウムレポート、発表、報告会評価レポート

評価割合: 45%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ内でのリーダーシップ・メンバーシップ、および実習指導者からの情報をもとに評価する。

評価割合: 15%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が実習記録やカンファレンス時の発言等により認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、臨地実習期間中の関係職種および住民への言動、カンファレンス等での発言や実習記録において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合は、厳重注意する。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. 市町村保健センターで実施している保健福祉事業について説明を受ける。
 2. 実施している保健事業に参加する。
 3. 住民の生活の場に出向き、価値観や生活の多様性に触れる。
 4. 住民と保健師の協働について住民からの説明や住民へのインタビューを実施する。
 5. カンファレンスを実施し、学びの確認、保健師の助言から学習を深める。
 6. 学内報告会を通して、実習市町村と他市町村の健康課題や保健師活動との相違点を考察する。

使用テキスト: 2023年度公衆衛生看護学実習A要綱

標美奈子ほか著「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」医学書院

中谷芳美ほか著「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」医学書院

神馬征峰・大森純子ほか『系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生』医学書院

予習・復習のポイントと 実習前課題

参考文献・資料等: 既存資料による実習市町村の地域診断 6時間

自宅所在地区の踏査およびレポート作成 6時間

「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護活動展開論A」で学習したことの復習 6時間

参考書

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応すると共に、UNIPAで必要事項を連絡することが多くなりますので、こまめにUNIPAを確認してください。

留意事項: 事前の学習課題については、時間管理をしながら進めること。
実習中は保健師活動を学ぶ者として社会規範に基づいた行動が求められるので、十分な心構えが大切です。

科目コード: 31185 科目ナンバリング: NU40A07J 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 総合実習(Clinical Practice of Integrative Nursing)

担当者: 海野 潔美、栗原 加代、渋谷 えみ、叶多 博美、原島 利恵、白木 裕子、豊田 真弓、宇留野 由紀子、小池 美香、前田 和子、松永 恵、若林 千津子、眞崎 由香、小幡 明香、長津 貴子、小野 加奈子、木下 美智子、池袋 昌子、大内 玲、園部 律子、間宮 千紘、鈴木 陽子、栢内 直美、市野沢 征子、角田 智美、梶原 順子、中村 裕美、相川 玄、浅野 均

基本情報

年次: 4	単位数: 3	授業形式: 実習
曜時: 実習		履修可能学科・専攻: N
関連資格: 看護 保健		AL要素: 01.実地訓練 07.発表 11.討論

授業の概要: 自らが取り組みたいテーマを選択し、総合実習に取り組む看護援助に関する事前学修を行い、実習計画書を作成する。実習計画書に基づいて、対象者の特性に合わせて実習方法を修正しながら、援助を実施評価を行い、今後の自己のあり方や事故の課題を明確にする。

キーワード: 看護の統合

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1.見合う殻が学修を深めたい領域の看護援助(テーマ)の動向について記述できる。
2.学びを深めるための方策を記述できる。
3.選んだテーマに関して、対象者に必要とされる援助を倫理的な配慮に基づいて実施できる。

評価方法: 実習記録、カンファレンス **評価割合:** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 1.文献を活用して実践により得られた知見の意味について、の述べることができる。
2.今後の自己の課題をのべつことができる。

評価方法: 実習記録、カンファレンス、レポート **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

実習への取り組み態度や記録用紙などの情報をもとに看護学生としての自覚と責任を持ち行動することができているかどうか評価する。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、対象者に対する差別的な発言など公正性に欠く発言や記録が見られる場合には厳重注意の上減点対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
1. 4月に学生が自ら学修を深めたい看護領域を選択する。
 2. 選択した領域の看護に関して文献などを用いて検討し、学修したいテーマを明らかにする。
 3. 学習テーマの展開に関する実習計画(目標、スケジュール・方法、評価など)を立案する。
 4. 対象者の特性に合わせて実習方法などを修正しながら、援助を実施・評価する。
 5. 実習での成果を基に、今後の看護のあり方や自己の課題を考察する。

使用テキスト： 必要に応じて提示する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 選択した領域および実習において必要となる看護に関して文献検討を行い、テーマを明らかにして実習計画書を作成する。また実習において必要となる看護援助に関する事前学修を行う。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応いたしますのでまずは学務部と実習担当教員に連絡をしてください。

授業時間外の連絡手段： 担当教員の指示を得る。

留意事項： 詳細は各領域のオリエンテーション時に教員より説明を受けること。

科目コード：31186 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：人体構造機能学B(The Human Anatomy & Physiology B)

担当者：佐藤 美樹

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：教職 看護 保健

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 看護に必要な人体の構造学と機能学を教授する。人体構造機能学Bでは内臓機能の調節、身体の支持と運動、情報の受容と処理、身体機能の防御と適応、生殖・発生と老化のしくみなどについて学ぶ。

キーワード： 内臓機能 骨格 筋 神経系 感覚機能 身体機能 発生 老化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 各器官の構造と機能の知識を統合させ、基本的な器官系の協調を理解する。

神経系、骨格系、生殖器系の発生・発達・加齢の概念などについて理解し、解答することができる。

評価方法：学期末筆記試験等

評価割合：80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの意見を表現することができる。

評価方法：学期末筆記試験等

評価割合：20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 【第01回】内臓機能の調節①
- 【第02回】内臓機能の調節②
- 【第03回】内臓機能の調節③
- 【第04回】身体の支持と運動①
- 【第05回】身体の支持と運動②
- 【第06回】身体の支持と運動③
- 【第07回】情報の受容と処理①
- 【第08回】情報の受容と処理②
- 【第09回】情報の受容と処理③
- 【第10回】身体機能の防御と適応①
- 【第11回】身体機能の防御と適応②
- 【第12回】身体機能の防御と適応③
- 【第13回】生殖・発生と老化のしくみ①
- 【第14回】生殖・発生と老化のしくみ②
- 【第15回】生殖・発生と老化のしくみ③

使用テキスト：教科書：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(坂井建雄、岡田隆夫、医学書院)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：人体構造機能学Aの知識をもとに授業が進みますので、復習しておいて下さい。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部へ連絡してください。

授業時間外の連絡手段：授業開始前または授業終了後に教室で対応します。

留意事項：履修に関する規定を確認すること。
デバイスの持参を推奨します。

科目コード : 31187

科目ナンバリング :

主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 人体構造機能学演習 a (Practice of Human Anatomy & Physiology a)

担当者 : 池袋 昌子、小池 美香、木下 美智子、間宮 千紘、鈴木 陽子、栢内 直美、市野沢 征子、角田 智美、梶原 順子

基本情報

年次 : 2

単位数 : 1

授業形式 : 演習

曜時 : 火曜3限

履修可能学科・専攻 : N

関連資格 : 看護 保健

AL要素 : 05. 即時応答

07. 発表

08. 協同学修

10. 資料調査課題

11. 討論

12. 振り返り用紙と応答

授業の概要 : 人体構造機能学で学んだ知識を踏まえ、看護の対象である「生活者」としての人間が、どのようなからだの構造と機能を使って日常生活を営んでいるかを学ぶ。演習では日常生活行動のうち「動く」「食べる」「息をする」「トイレに行く」「眠る」「お風呂に入る」の6つを取り上げ、グループで学びを深め簡単な授業を行う。また演習問題などを活用しながら、人体構造機能学で学んだ知識を確実なものとする。演習はグループ学修を中心としたアクティブラーニングの教育方法で行う。互いに学び合うグループ学修を通して、主体的に学修する力やチームの構築力・コミュニケーション力など看護専門職に必要な能力を養う。

キーワード : 人体のしくみ 日常生活行動 グループ学修

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 人体構造機能学で学んだ知識を踏まえ、演習を通して看護職として必要な人体のしくみについてより深く理解する。

評価方法 : 定期試験
ミニテスト
レポート
演習課題

評価割合 : 85%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : グループ学修を通して、主体的に学修する力やチームの構築力・コミュニケーション力など看護専門職に必要な能力を養う。

評価方法 : レポート
演習課題

評価割合 : 15%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学びを通して、自身の知見に追加された成果等がレポート・学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害、差別的発言等、著しく公正性を欠く言動やカンニングなどの不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【第01回】ガイダンス
【第02回】「動く」①
【第03回】「動く」②
【第04回】「食べる」①
【第05回】「食べる」②
【第06回】「息をする」①
【第07回】「息をする」②
【第08回】第2回～第7回のまとめ
【第09回】「トイレに行く」①
【第10回】「トイレに行く」②
【第11回】「眠る」①
【第12回】「眠る」②
【第13回】「お風呂に入る」①
【第14回】「お風呂に入る」②
【第15回】第9回～第14回のまとめ
定期試験

使用テキスト：【教科書】

菱沼紀子(2021):看護形態機能学 生活行動からみるからだ, 日本看護協会出版会.

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:

1. 1年次の「人体構造機能学A・B」の授業資料およびノートを整理しておくこと。

2. 予習(1時間)と復習(1時間)のポイント

- 1) 授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる。
- 2) 授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主的な学びを通して知見を深める。
- 3) 予習/復習等のFormsを通して、自己評価を行う。

3. 参考文献・資料等

【参考書】

- 1) 桑木共之(2019):トートラ 人体の構造と機能, 丸善出版.
- 2) 大久保暢子(2016):ヘルスアセスメント 看護形態機能学の枠組みを用いて, 日本看護協会出版会.
- 3) 坂井建雄(2022):系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1, 医学書院.

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。
曜日・時限等については初回に連絡する。

留意事項: 可能であれば、デバイス(パソコン)を持参する(必携ではないが、デバイスの持参を推奨)。

科目コード:31187

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文):人体構造機能学演習 b(Practice of Human Anatomy & Physiology b)

担当者:池袋 昌子、小池 美香、木下 美智子、間宮 千紘、鈴木 陽子、栢内 直美、市野沢 征子、角田 智美、梶原 順子

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：05. 即時応答

07. 発表

08. 協同学修

10. 資料調査課題

11. 討論

12. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 人体構造機能学で学んだ知識を踏まえ、看護の対象である「生活者」としての人間が、どのようなからだの構造と機能を使って日常生活を営んでいるかを学ぶ。

演習では日常生活行動のうち「動く」「食べる」「息をする」「トイレに行く」「眠る」「お風呂に入る」の6つを取り上げ、グループで学びを深め簡単な授業を行う。また演習問題などを活用しながら、人体構造機能学で学んだ知識を確実なものとする。

演習はグループ学修を中心としたアクティブラーニングの教育方法で行う。互いに学び合うグループ学修を通して、主体的に学修する力やチームの構築力・コミュニケーション力など看護専門職に必要な能力を養う。

キーワード： 人体のしくみ 日常生活行動 グループ学修

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 人体構造機能学で学んだ知識を踏まえ、演習を通して看護職として必要な人体のしくみについてより深く理解する。

評価方法： 定期試験

評価割合： 85%

ミニテスト

レポート

演習課題

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： グループ学修を通して、主体的に学修する力やチームの構築力・コミュニケーション力など看護専門職に必要な能力を養う。

評価方法： レポート

評価割合： 15%

演習課題

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学びを通して、自身の知見に追加された成果等がレポート・学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害、差別的発言等、著しく公正性を欠く言動やカンニングなどの不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：【第01回】ガイダンス
【第02回】「動く」①
【第03回】「動く」②
【第04回】「食べる」①
【第05回】「食べる」②
【第06回】「息をする」①
【第07回】「息をする」②
【第08回】第2回～第7回のまとめ
【第09回】「トイレに行く」①
【第10回】「トイレに行く」②
【第11回】「眠る」①
【第12回】「眠る」②
【第13回】「お風呂に入る」①
【第14回】「お風呂に入る」②
【第15回】第9回～第14回のまとめ
定期試験

使用テキスト：【教科書】

菱沼紀子(2021):看護形態機能学 生活行動からみるからだ, 日本看護協会出版会.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

1. 1年次の「人体構造機能学A・B」の授業資料およびノートを整理しておくこと。
2. 予習(1時間)と復習(1時間)のポイント
 - 1) 授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる。
 - 2) 授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主的な学びを通して知見を深める。
 - 3) 予習/復習等のFormsを通して、自己評価を行う。
3. 参考文献・資料等
【参考書】
 - 1) 桑木共之(2019):トートラ 人体の構造と機能, 丸善出版.
 - 2) 大久保暢子(2016):ヘルスアセスメント 看護形態機能学の枠組みを用いて, 日本看護協会出版会.
 - 3) 坂井建雄(2022):系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1, 医学書院.

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。
曜日・時限等については初回到連絡する。

留意事項： 可能であれば、デバイス(パソコン)を持参する(必携ではないが、デバイスの持参を推奨)。

科目コード：31188 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語
授業名(英文)：疾病治療論B(小児・母性・精神)(Pathophysiology B (Child / Maternal / Psychiatric))
担当者：渋谷 えみ、山川 百合子、菊地 正広、漆川 邦

基本情報

年次：2 **単位数：**3 **授業形式：**講義
曜時：金曜2限 金曜3限 金曜4限 金曜5限 金 **履修可能学科・専攻：**N
関連資格：教職 看護 保健 **AL要素：**17.発問と回答

授業の概要： 小児・母性(産婦人科)・精神の三領域から各々の疾病・診断・治療などの基礎的知識を学ぶ。

キーワード： 小児の疾患、周産期異常、出生前診断、臨床精神医学、認知症

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：**
1. 小児に特有な疾患の病態、症状、診断、治療などの基礎的知識を修得する。
 2. 周産期におこりやすい異常と主要な婦人科疾患について、病態・診断・治療の基本を理解できる。
 3. 精神障害の特徴、成因と分類、病理・病態、症状と経過、診断、治療及びリハビリテーションについて理解できる。

評価方法： 筆記試験

評価割合： 100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：【精神領域】

- 第1回：精神①②(概論、統合失調症) (山川)
第2回： //
第3回：精神③④(摂食障害、依存、精神薬理) (山川)
第4回： //
第5回：精神⑤⑥(認知証の病態、認知症の心理) (山川)
第6回： //
第7回：精神⑦⑧(気分障害、高次脳機能障害) (山川)
第8回： //

【母性領域】

- 第9回：母性① 婦人科疾患(良性腫瘍) (漆川他)

- 第10回:母性② 婦人科疾患(悪性腫瘍) (漆川他)
 第11回:母性③ 周産期の基礎知識(妊娠の生理) (漆川他)
 第12回:母性④ 周産期の基礎知識(妊娠期の異常/出生前診断) (漆川他)
 第13回:母性⑤ 周産期の基礎知識(分娩の生理) (漆川他)
 第14回:母性⑥ 周産期の基礎知識(分娩期の異常) (漆川他)
 第15回:母性⑦ 周産期の基礎知識(産褥期の異常) (漆川他)
 第16回:母性⑧ 周産期の基礎知識(周産期のトピックス) (吉武/渋谷)

【小児領域】

- 第17回:小児① 小児の疾病と治療(感染症) (菊地)
 第18回:小児② " (呼吸器疾患) (菊地)
 第19回:小児③ " (アレルギー疾患) (菊地)
 第20回:小児④⑤⑥⑦ 小児臨床講義(県立こども病院)(血液・造血器疾患) (堀米)
 第21回: " (外科疾患①消化器系疾患) (堀米)
 第22回: " (外科疾患②腎・泌尿器系疾患) (堀米)
 第23回: " (循環器疾患) (堀米)

使用テキスト: 【小児領域】

・系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院.

【母性領域】

・小林康江他:ナーシング・グラフィカ 母性看護学②
 母性看護の実践、メディカ出版.
 ・系統看護学講座 女性生殖器、医学書院.

【精神領域】

・保健・医療福祉系学生のための臨床精神医学 医学出版
 ・看護ポケットマニュアル 精神科 医学出版社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考文献、資料等はその都度、提示する

【小児】

人体構造学、人体生理機能学、病理病態学、疾病治療論などを基礎的知識として小児の特徴を理解しておく。

【母性】

女性生殖器の構造と機能、性周期、生殖のメカニズム、周産期の異常を学習しておく。

【精神】

精神医学の基礎的事項(授業計画参照)、認知症について学習しておく。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーにて対応する
 各担当教員への連絡は学務で対応する

留意事項: 小児領域の臨床講義は県立こども病院での学外講義(集中講義含む)となりますので欠席をしないように。交通費は自己負担となります。

科目コード:31191 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文):看護とコミュニケーション a(Communication in Nursing a)

担当者:叶多 博美、栗原 加代、眞崎 由香、木下 美智子、池袋 昌子

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時：金曜5限 金曜6限

履修可能学科・専攻： N

関連資格：教職 看護 保健

AL要素： 07.発表
08.協同学修
11.討論
13.役割演技と疑似体験
17.発問と回答

授業の概要： コミュニケーションの様々な形について理解し、看護の対象となる人と信頼関係を築く力を養うために、リスニングスキルやアサーションスキルを学ぶ。
さらに、看護学生として自分の心身の健康を守る力を養うために、ストレスマネジメントスキルを学ぶ。

キーワード： コミュニケーション、リスニングスキル、アサーションスキル、ストレスマネジメント、人間関係

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： コミュニケーション技法の理論的・体験的学びとの関連において、コミュニケーション技法の知識を身につけている。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業における経験をふまえて、自身のコミュニケーション技法における課題について思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業中のグループディスカッションにおいて、話し合いを進展させることを意識しながら話題やアイデアを提供し、建設的な話し合いに貢献できる。

グループディスカッションを通して、自分からできることを探し、成し遂げることができる。

評価割合： 5%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業中のグループディスカッションや報告会時の参加態度・報告会振返り用紙の記述内容に認められる場合は、上記の「学修に主体的に取り組む態度」および下記の「公正性」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

授業中のグループディスカッションや報告会において、

- ・他者の意見に対する理解を示し、学生間の相互作用を生かして議論を深めることができる。
- ・人権を尊重した言動をとることができ、学生間の信頼関係を築くことができる。

筆記試験の記述等において人権侵害・差別的表現など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 5%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】ガイダンス 信頼関係の基本 (叶多)
【第02回】相互尊敬・相互信頼 よりよい人間関係づくり (長谷・叶多)
【第03回】自己と他者とを勇気づけるコミュニケーション (長谷・叶多)
【第04回】他者理解に必要な生活理解と分析力 (池袋)
【第05回】リスニングスキル1: 質問技法 (木下)
【第06回】リスニングスキル2: 傾聴と共感 (木下・池袋)

- 【第07回】リスニングスキル3:関係構築技法(池袋)
- 【第08回】リスニングスキル4:面接の技法(池袋・木下)
- 【第09回】アサーションスキル1:対人関係とコミュニケーション(栗原)
- 【第10回】アサーションスキル2:チーム医療とコミュニケーション(栗原)
- 【第11回】グループディスカッションの進め方(叶多)
- 【第12回】ストレスマネジメントスキル1:看護職になることへの思い、現在の悩み(眞崎)
- 【第13回】ストレスマネジメントスキル2:解決策の検討1(眞崎・叶多)
- 【第14回】ストレスマネジメントスキル3:解決策の検討2(眞崎・叶多)
- 【第15回】グループ報告会(13,14回のグループワーク成果発表会)(担当者全員)

使用テキスト: 岩井俊憲、長谷静香著「看護師のためのアドラー心理学」 日本医療企画

上記の他は、必要に応じ提示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 復習として、授業で得た理解と気づきを各自ノートにまとめておき、それらをもとに、学期末筆記試験に臨むことを薦める。

参考書

長谷 静香著:看護師のためのアドラー流子育て・自分育て(看護師のしごとと暮らしを豊かにするシリーズ)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。

留意事項: 本科目は、デバイス(パソコン)を必携とします。

「学修に主体的に取り組む態度」および「公正性」の評価は、「グループワーク参加度レビュー」や「報告会評価レポート」等により行います。各回の授業に積極的に参加して下さい。

科目コード: 31191 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 看護とコミュニケーション b(Communication in Nursing b)

担当者: 叶多 博美、栗原 加代、眞崎 由香、木下 美智子、池袋 昌子

基本情報

年次: 1 **単位数:** 1 **授業形式:** 演習

曜時: 金曜5限 金曜6限 **履修可能学科・専攻:** N

関連資格: 教職 看護 保健 **AL要素:** 07.発表
08.協同学修
11.討論
13.役割演技と擬似体験
17.発問と回答

授業の概要: コミュニケーションの様々な形について理解し、看護の対象となる人と信頼関係を築く力を養うために、リスニングスキルやアサーションスキルを学ぶ。
さらに、看護学生として自分の心身の健康を守る力を養うために、ストレスマネジメントスキルを学ぶ。

キーワード: コミュニケーション、リスニングスキル、アサーションスキル、ストレスマネジメント、人間関係

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: コミュニケーション技法の理論的・体験的学びとの関連において、コミュニケーション技法の知識を身につけている。

評価方法: 学期末筆記試験 **評価割合:** 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業における経験をふまえて、自身のコミュニケーション技法における課題について思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のグループディスカッションにおいて、話し合いを進展させることを意識しながら話題やアイデアを提供し、建設的な話し合いに貢献できる。

グループディスカッションを通して、自分からできることを探し、成し遂げることができる。

評価割合: 5%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業中のグループディスカッションや報告会時の参加態度・報告会振返り用紙の記述内容に認められる場合は、上記の「学修に主体的に取り組む態度」および下記の「公正性」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

授業中のグループディスカッションや報告会において、

- ・他者の意見に対する理解を示し、学生間の相互作用を生かして議論を深めることができる。
- ・人権を尊重した言動をとることができ、学生間の信頼関係を築くことができる。

筆記試験の記述等において人権侵害・差別的表現など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 5%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 【第01回】ガイダンス 信頼関係の基本 (叶多)
 - 【第02回】相互尊敬・相互信頼 よりよい人間関係づくり (長谷・叶多)
 - 【第03回】自己と他者とを勇気づけるコミュニケーション (長谷・叶多)
 - 【第04回】他者理解に必要な生活理解と分析力 (池袋)
 - 【第05回】リスニングスキル1: 質問技法 (木下)
 - 【第06回】リスニングスキル2: 傾聴と共感 (木下・池袋)
 - 【第07回】リスニングスキル3: 関係構築技法 (池袋)
 - 【第08回】リスニングスキル4: 面接の技法 (池袋・木下)
 - 【第09回】アサーションスキル1: 対人関係とコミュニケーション (栗原)
 - 【第10回】アサーションスキル2: チーム医療とコミュニケーション (栗原)
 - 【第11回】グループディスカッションの進め方 (叶多)
 - 【第12回】ストレスマネジメントスキル1: 看護職になることへの思い、現在の悩み (眞崎)
 - 【第13回】ストレスマネジメントスキル2: 解決策の検討1 (眞崎・叶多)
 - 【第14回】ストレスマネジメントスキル3: 解決策の検討2 (眞崎・叶多)
 - 【第15回】グループ報告会 (13,14回のグループワーク成果発表会) (担当者全員)

使用テキスト: 岩井俊憲、長谷静香著「看護師のためのアドラー心理学」 日本医療企画

上記の他は、必要に応じ提示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 復習として、授業で得た理解と気づきを各自ノートにまとめておき、それらをもとに、学期末筆記試験に臨むことを薦める。

参考書

長谷 静香著: 看護師のためのアドラー流子育て・自分育て (看護師のしごとと暮らしを豊かにするシリーズ)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。

留意事項: 本科目は、デバイス(パソコン)を必携とします。

「学修に主体的に取り組む態度」および「公正性」の評価は、「グループワーク参加度レビュー」や「報告会評価レポート」等により行います。各回の授業に積極的に参加して下さい。

科目コード:31192 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文):健康教育論 a(Health Education a)

担当者:若林 千津子、叶多 博美、園部 律子

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:演習

曜時:月曜3限 月曜4限

履修可能学科・専攻: N

関連資格:看護 保健

AL要素: 08.協同学習

10.資料調査課題

11.討論

15.レポート指導

17.発問と回答

授業の概要: 健康教育の一連のプロセスを説明し、その中で対象に適した教育の方法や教育媒体の選択・工夫について解説する。演習では、施設や地域で行われる小集団(もしくは個人)を対象とした健康教育を取り上げ、企画書、指導案・教材案、セリフ案を作成し健康教育を計画し、プレゼンテーション、実施後の評価を行う。これらのプロセスから看護職に求められる健康教育の能力を養う。

キーワード: 企画、教育媒体、プレゼンテーション、評価、企画書、指導案

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:**
1. 健康教育の方法とその特徴を説明することができる。
 2. 健康教育で活用する教材の種類とその特徴を説明することができる。
 3. 健康教育の展開過程を説明することができる。
 4. 健康教育の一連の過程を展開することができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合:50%

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** 健康教育の一連の過程を展開することができる。
1. 周知用リーフレットを作成することができる。
 2. 企画書を作成することができる。
 3. 指導案を作成することができる。
 4. 教材案を作成することができる。
 5. 原稿案を作成することができる。
 6. プレゼンテーションを実施することができる。
 7. 1～6の内容を評価することができる。

評価方法: レポート

評価割合:40%

(PRちらし、
企画書、指導案、
媒体案、原稿案、
プレゼン内容、
評価レポート)

▼学修に主体的に取り組む態度

企画書・指導案・教育媒体・セリフ作成・プレゼンテーションに至るグループディスカッションにおいて、話し合いを進展させることを意識しながら話題やアイデアを提供し、建設的な話し合いに貢献することができる。

グループディスカッションを通して、自らできることを探し、成し遂げることができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が課題成果物等により認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や、カンニング等の不正行為があった場合は、内容に応じて対処する。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 第1回：健康教育の定義、目的、対象変遷：叶多
 - 第2回：理論1 エンパワメント 自己効力感：叶多
 - 第3回：理論2 保健信念モデル 変化のステージモデル：園部
 - 第4回：健康教育と健康学習：叶多
 - 第5回：健康教育の企画：叶多
 - 第6回：健康教育で活用される教育媒体、プレゼンテーション：若林
 - 第7回：健康教育の評価：叶多
 - 第8回：演習オリエンテーション、テーマの決定：若林
 - 第9回：健康教育が展開される場の特徴と実践例：外部講師
 - 第10回：企画書作成①：叶多・若林・園部
 - 第11回：企画書作成②：叶多・若林・園部
 - 第12回：企画書作成③：叶多・若林・園部
 - 第13回：企画書作成④：叶多・若林・園部
 - 第14回：指導案作成①：叶多・若林・園部
 - 第15回：指導案作成②：叶多・若林・園部
 - 第16回：指導案作成③：叶多・若林・園部
 - 第17回：指導案作成④：叶多・若林・園部
 - 第18回：媒体案作成①：叶多・若林・園部
 - 第19回：媒体案作成②：叶多・若林・園部
 - 第20回：媒体案作成③：叶多・若林・園部
 - 第21回：セリフ案作成①：叶多・若林・園部
 - 第22回：セリフ案作成②：叶多・若林・園部
 - 第23回：セリフ案作成③：叶多・若林・園部
 - 第24回：デモンストレーション①：叶多・若林・園部
 - 第25回：デモンストレーション②：叶多・若林・園部
 - 第26回：デモンストレーション③：叶多・若林・園部
 - 第27回：デモンストレーション④：叶多・若林・園部

第28回:発表会(プレゼンテーション):叶多・若林・園部
第29回:発表会(プレゼンテーション):叶多・若林・園部
第30回:評価・演習の振り返り:叶多・若林・園部

使用テキスト: 中村裕美子ほか著「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」医学書院

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習・復習のポイント
周知用リーフレットの作成 3時間
担当するテーマに関する情報収集と整理 3時間
健康教育企画書の作成 2時間
健康教育指導案の作成 3時間
媒体案の作成 2時間
発表原稿案の作成 3時間

参考書

日本健康教育学会編「健康教育 ヘルスプロモーションの展開」保健同人社
牟田静香著「人が集まる！行列ができる！講座、イベントの作り方」講談社+α新書
岩本里織ほか編「公衆衛生看護活動論 技術演習」クオリティケア
大川尚子ほか著「小学校学習指導要領準拠 健康教育の教材作りと授業展開」健学社

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 各自が予習として作成する企画書・指導案・媒体案・セリフ案をもとに、授業時間でグループディスカッションを行います。各回の授業に積極的に参加してください。
成績に関するフィードバックは、個別に対応します。

科目コード: 31192 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 健康教育論 b(Health Education b)

担当者: 若林 千津子、叶多 博美、園部 律子

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 月曜3限 月曜4限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 08.協同学習
10.資料調査課題
11.討論
15.レポート指導
17.発問と回答

授業の概要: 健康教育の一連のプロセスを説明し、その中で対象に適した教育の方法や教育媒体の選択・工夫について解説する。演習では、施設や地域で行われる小集団(もしくは個人)を対象とした健康教育を取り上げ、企画書、指導案・教材案、セリフ案を作成し健康教育を計画し、プレゼンテーション、実施後の評価を行う。これらのプロセスから看護職に求められる健康教育の能力を養う。

キーワード: 企画、教育媒体、プレゼンテーション、評価、企画書、指導案

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 1. 健康教育の方法とその特徴を説明することができる。

2. 健康教育で活用する教材の種類とその特徴を説明することができる。
3. 健康教育の展開過程を説明することができる。
4. 健康教育の一連の過程を展開することができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 健康教育の一連の過程を展開することができる。

1. 周知用リーフレットを作成することができる。
2. 企画書を作成することができる。
3. 指導案を作成することができる。
4. 教材案を作成することができる。
5. 原稿案を作成することができる。
6. プレゼンテーションを実施することができる。
7. 1～6の内容を評価することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 40%

(PRちらし、
企画書、指導案、
媒体案、原稿案、
プレゼン内容、
評価レポート)

▼学修に主体的に取り組む態度

企画書・指導案・教育媒体・セリフ作成・プレゼンテーションに至るグループディスカッションにおいて、話し合いを進展させることを意識しながら話題やアイデアを提供し、建設的な話し合いに貢献することができる。

グループディスカッションを通して、自らできることを探し、成し遂げることができる。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が課題成果物等により認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や、カンニング等の不正行為があった場合は、内容に応じて対処する。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:健康教育の定義、目的、対象変遷:叶多
第2回:理論1 エンパワメント 自己効力感:叶多
第3回:理論2 保健信念モデル 変化のステージモデル:園部
第4回:健康教育と健康学習:叶多
第5回:健康教育の企画:叶多
第6回:健康教育で活用される教育媒体、プレゼンテーション:若林

- 第7回:健康教育の評価:叶多
- 第8回:演習オリエンテーション、テーマの決定:若林
- 第9回:健康教育が展開される場の特徴と実践例:外部講師
- 第10回:企画書作成①:叶多・若林・園部
- 第11回:企画書作成②:叶多・若林・園部
- 第12回:企画書作成③:叶多・若林・園部
- 第13回:企画書作成④:叶多・若林・園部
- 第14回:指導案作成①:叶多・若林・園部
- 第15回:指導案作成②:叶多・若林・園部
- 第16回:指導案作成③:叶多・若林・園部
- 第17回:指導案作成④:叶多・若林・園部
- 第18回:媒体案作成①:叶多・若林・園部
- 第19回:媒体案作成②:叶多・若林・園部
- 第20回:媒体案作成③:叶多・若林・園部
- 第21回:セリフ案作成①:叶多・若林・園部
- 第22回:セリフ案作成②:叶多・若林・園部
- 第23回:セリフ案作成③:叶多・若林・園部
- 第24回:デモンストレーション①:叶多・若林・園部
- 第25回:デモンストレーション②:叶多・若林・園部
- 第26回:デモンストレーション③:叶多・若林・園部
- 第27回:デモンストレーション④:叶多・若林・園部
- 第28回:発表会(プレゼンテーション):叶多・若林・園部
- 第29回:発表会(プレゼンテーション):叶多・若林・園部
- 第30回:評価・演習の振り返り:叶多・若林・園部

使用テキスト: 中村裕美子ほか著「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」医学書院

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習・復習のポイント
 周知用リーフレットの作成 3時間
 担当するテーマに関する情報収集と整理 3時間
 健康教育企画書の作成 2時間
 健康教育指導案の作成 3時間
 媒体案の作成 2時間
 発表原稿案の作成 3時間

参考書

日本健康教育学会編「健康教育 ヘルスプロモーションの展開」保健同人社
 牟田静香著「人が集まる！行列ができる！講座、イベントの作り方」講談社+α新書
 岩本里織ほか編「公衆衛生看護活動論 技術演習」クオリティケア
 大川尚子ほか著「小学校学習指導要領準拠 健康教育の教材作りと授業展開」健学社

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 各自が予習として作成する企画書・指導案・媒体案・セリフ案をもとに、授業時間でグループディスカッションを行います。各回の授業に積極的に参加してください。
 成績に関するフィードバックは、個別に対応します。

科目コード: 31193

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 小児看護学A(Pediatric Nursing A)

担当者: 白木 裕子、眞崎 由香

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：教職 看護 保健

AL要素：11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要： 社会的存在としての小児の健康問題を広く考えるための基礎的知識を学修する。具体的には、小児看護の特徴と理念、小児看護における倫理、子どもの成長と発達、子どもと家族を取り巻く社会について学ぶ。またこれらの学びを促すために、授業担当者は自身の実務経験を踏まえ、現場の実践に裏づけられた内容の授業を行う。

キーワード： 小児 小児看護 成長発達 子どもの権利 統計 母子保健 予防接種 社会の中の子どもと家族

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 1. 現代の子どもを取り巻く社会や子どもと家族の概況を捉えながら、小児看護の特徴と理念について説明できる。
2. 子どもの成長発達の原則や影響を及ぼす要因、身体発育、生理機能・運動機能・心理社会的機能の発達について説明できる。

評価方法： 定期試験

評価割合： 75%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、論理的かつ簡潔に自らの考えを表現することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 25%

授業中のワークシート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回 小児看護の特徴と理念1(対象・目標・役割)
第2回 小児看護の特徴と理念2(役割・課題)
第3回 小児看護における倫理1(児童憲章・児童福祉法・子どもの権利条約)
第4回 小児看護における倫理2(看護倫理・事例検討)
第5回 子どもの成長と発達1(発達の原則と影響因子・形態的变化)
第6回 子どもの成長と発達2(機能的変化・心理社会的変化)
第7回 子どもの成長と発達3(発達評価)・子どもと家族の諸統計

第8回 子どもと家族を取り巻く社会(児童福祉・母子保健・予防接種)
定期試験

使用テキスト: 系統看護学講座専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 奈良間美保
医学書院

予習・復習のポイントと ・授業前は、その回のテーマについて教科書を読んでおく(60分)。

参考文献・資料等: ・授業後は、配布資料について復習する(60分)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時間等については初回にお知らせします。
連絡先:IC-Mail アドレス shiroki@icc.ac.jp

留意事項: レポートや授業中のワークシートへのコメントは、次回の授業においてフィードバックします。またIC-UNIPAを利用することもあります。

科目コード: 31194 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 母性看護学A(Maternal Nursing A)

担当者: 小野 加奈子、渋谷 えみ、間宮 千紘

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 講義

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 07発表

08協同学修

10資料調査課題

11討論

16振り返り用紙と応答

17発問と回答

授業の概要: リプロダクティブヘルス(reproductive health)は、「性と生殖に関する健康」を意味している。妊娠・出産の身体機能を持ち、また性感染症などのリスクを負いやすい女性のリプロダクティブヘルスは特に重要視すべきものであり、その保持、促進のための支援が必要である。本科目では、母性看護学を理解する上で基盤となる諸概念や、女性の生涯を通じた健康支援という視点からリプロダクティブヘルスの現状や課題(若者の性感染症、セクシャルマイノリティ、ドメスティックバイオレンス、人工妊娠中絶など)と看護について学習する。また、リプロダクティブヘルスに関連する倫理や社会動向について学習する。

キーワード: リプロダクティブヘルス・ライツ、リプロダクティブヘルスケア、女性と家族の健康、母子保健、母性看護と倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1. 性と生殖のメカニズム、およびリプロダクティブヘルスの概念を説明できる。
2. 母性看護学の対象理解を深め、女性の各ライフステージにおけるリプロダクティブヘルスの現状や課題を理解できる。

評価方法: 定期試験

評価割合: 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: リプロダクティブヘルスの現状や課題から、リプロダクティブヘルスケアのあり方について考察できる。

評価方法: 定期試験

評価割合: 10%

演習

▼学修に主体的に取り組む態度

演習等での学習態度、演習発表時に積極的に臨むことを期待する。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、レポートの記述等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的内容発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：** 【第01回】母性看護学の対象と特徴、リプロダクティブヘルスの概念（小野）
【第02回】女性のライフサイクルを通じた健康問題と援助（渋谷）
【第03回】リプロダクティブヘルスと看護：演習発表①（渋谷・小野・間宮）
【第04回】リプロダクティブヘルスと看護：演習発表②（渋谷・小野・間宮）
【第05回】セクシャルマイノリティ(LGBT)の知識と理解（河野）
【第06回】母子保健、母性看護の動向（小野）
【第07回】母子保健に関連する法律、制度（小野）
【第08回】母性看護と倫理（渋谷）

- 使用テキスト：** 1. 中込さと子他：ナーシンググラフィカ母性看護学① 概論リプロダクティブヘルスと看護、メディカ出版。
2. 中込さと子他：ナーシンググラフィカ母性看護学② 母性看護の実践、メディカ出版。

資料配布する。適宜提示する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 教科書で事前学習をして授業に臨んでください。リプロダクティブヘルス・ライツや女性の健康問題の現状に関心を持ち、日々、新聞やニュースを見るように努めてください。

参考資料、文献は適宜、提示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーで対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：31195	科目ナンバリング：	主な使用言語：日本語
授業名(英文)：精神看護学A(Psychiatric Nursing A)		
担当者：栗原 加代、宇留野 由紀子、長津 貴子		
基本情報		
年次：2	単位数：1	授業形式：講義

曜時：木曜1限

履修可能学科・専攻： N

関連資格：教職 看護 保健

AL要素：15レポート指導
16振り返り用紙と応答

授業の概要： 精神科看護実践の基本となる理論モデルについて理解するとともに、精神障がい者に関する国内外の歴史を概観し、精神障がい者をとりまく様々な課題について理解する。精神看護を実践するために必要な法律を学び実践の裏付けを行う。看護に必要な相互作用の基本を学ぶ。授業形態としては、講義を中心に展開する。授業担当者は、自身の臨床経験を踏まえ、現場の実態に裏づけられた内容の授業を行い実践につなげられるようにする。

キーワード： 精神分析学 エリクソン フロイト 象徴的相互作用論 精神保健福祉法 倫理綱領

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： こころの健康を支える精神看護学について、学びを進めるための基盤となる諸概念を説明することができる。

評価方法： 定期試験

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： こころの発達の特徴と生じやすい問題について理解し、看護を実践につなげることができる。精神看護を行う上で必要となる、法律について理解し実践に生かすことができる。

評価方法： 定期試験

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

課題への取り組みや成果を、思考力・判断力・表現力の評価対象に含むことがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的に評価はしない。

評価割合： 0%

▼公正性

精神障がい者を取りまく環境および歴史的変遷、法律を学び、精神障がい者のおかれている立場を理解し、倫理的問題について多角的視点から検討することができる。

なお、筆記試験の記述、レポート等において著しく公正性を欠く記述や、不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 20%

▼その他

時になし

評価割合： 時になし

授業計画： 第1回：精神看護の目的と機能（栗原）
第2回：心の基本理解，自己理解・他者理解（栗原）
第3回：精神の理解に必要な、成長発達モデルと自我の成熟度（栗原）
第4回：対人関係において生じる、相互作用モデル（栗原）
第5回：精神科における倫理（宇留野）
第6回：精神医療・看護の歴史（日本・西洋）（栗原）
第7回：精神保健と法律（栗原）
第8回：司法精神病と看護（長津）

定期試験

使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 武井麻子, 江口重幸(他), 医学書院.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業中与えられた問いに対し、自分の意見が述べられるような準備状況を期待する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーで対応する。

留意事項: 特になし。

科目コード: 31196 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 在宅看護学A(Home Care Nursing A)

担当者: 前田 和子、小池 美香、鈴木 陽子

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 講義

曜時: 木曜2限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 15. レポート指導
16. 振り返り用紙と対応
17. 発問と回答

授業の概要:

この授業では、在宅看護の歴史・制度、在宅看護の目的・対象と活動の場について学ぶ。具体的には、障がいや健康問題を抱えながら地域で暮らす療養者とその家族の多様な在り方、在宅看護の特徴を学修する。なお授業担当者は、自身の臨床経験を踏まえ、活動の場や療養者・家族に対する理解が深まるように授業を行う。

キーワード: 在宅看護の概念、在宅ケアを支える制度、在宅療養者と家族、在宅看護の場と活動内容

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 在宅看護の歴史・制度を理解し、在宅看護・訪問看護が果たす役割を説明できる。
 2. 在宅療養者の多様な発達段階・健康段階が理解でき、在宅看護の対象を個人だけでなく、家族に焦点を当てる必要があることを説明できる。
 3. 在宅看護の場を理解し、在宅看護に必要な看護の視点と活動内容を説明できる。
 4. 地域・在宅看護の動向と今後の発展について理解できる。

評価方法: 課題レポート
定期試験

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った在宅看護、および家族看護の内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的にかつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 課題レポート

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【第01回】地域・在宅看護の概念(前田)
【第02回】地域・在宅看護の基盤(鈴木)
【第03回】在宅療養者と家族の支援(小池)
【第04回】地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護(前田)
【第05回】地域療養を支える制度(鈴木)
【第06回】在宅療養を支える訪問看護(鈴木)
【第07回】在宅看護における安全と健康危機管理(小池)
【第08回】地域・在宅看護の動向と今後の発展(前田)
定期試験

使用テキスト： ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア 第7版 臺有桂他 編 MCメディア出版 2022.
看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第4版 正野逸子他 編著 メヂカルフレンド社 2021.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事前にテキストの授業範囲に該当する項を読んで予習する(60分)。
配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項については自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(60分)。

参考文献

- 『系統別看護学講座 別巻 家族看護学』医学書院
- 『家族看護学 理論と実践』日本看護協会出版会
- 『実践力を高める 家族アセスメントPart1』医歯薬出版株式会社
他、適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部に連絡をすること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については初回に知らせる。

留意事項： 日頃から在宅看護や家族看護(介護)に関する社会的ニュースに関心を向けること、また積極的に新聞記事等に目を通しておくこと。

科目コード：31197 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語
授業名(英文)：科学的思考基礎演習VI(看護実践力の応用) a(Fundamental Practice for Scientific
担当者：宇留野 由紀子、栗原 加代、渋谷 えみ、白木 裕子、小池 美香、前田 和子、眞崎 由香、長津 貴子、小野 加奈子、間宮 千紘、鈴木 陽子、海野 潔美

基本情報

年次：3 単位数：1 授業形式：演習
曜時：木曜1限 木曜2限 履修可能学科・専攻：N
関連資格：看護 保健 AL要素：03. 実験・実技・体験

- 07. 発表
- 08. 協働学習
- 11. 討論
- 13. 役割演技と疑似体験
- 16. 振り返り用紙と応答
- 17. 発問と回答

授業の概要： 本科目では、臨地の場で学生が遭遇するであろう状況を想定して、その状況で患者や家族など看護の対象にとって必要な看護について考え、対象への看護ケアを確実に実践できる看護実践能力を身につけることを目指す。授業では、課題やシミュレーション演習を通して、領域に依らない看護に共通した具体的に活用できる思考やスキルを体験から学修する。また、客観的技能試験(OSCE)により、自己の知識・技術・態度などを振り返り、後期の領域実習に向けての自己の学修課題を明確にする。なお、学生が課題に関連した看護実践能力が修得できるように、各演習では担当教員が看護職・看護教員としての実務経験を活かして関わる。

キーワード： シミュレーション、看護実践能力、客観的技能試験(OSCE)

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 臨地で遭遇する状況を想定し、対象者と家族への基本的で個別性につながる看護ケアについて、自ら行動し実践する力を身につけることができる。

評価方法： 客観的技能試験(OSCE)
学習課題
レポート

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 臨地で遭遇する状況を想定し、対象者と家族の特性と状況を踏まえた具体的な看護を思考し、判断することができる。

評価方法： 客観的技能試験(OSCE)
学習課題
レポート

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし演習参加への態度が不良であったり提出物の期日が守れないなど、学修に取り組む態度に主体性が著しく欠ける場合は、減点や嚴重注意の対象となることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし演習への参加態度やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や客観的技能試験(OSCE)における不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となることがある。

- 13. 役割演技と疑似体験
- 16. 振り返り用紙と応答
- 17. 発問と回答

授業の概要： 本科目では、臨地の場で学生が遭遇するであろう状況を想定して、その状況で患者や家族など看護の対象にとって必要な看護について考え、対象への看護ケアを確実に実践できる看護実践能力を身につけることを目指す。授業では、課題やシミュレーション演習を通して、領域に依らない看護に共通した具体的に活用できる思考やスキルを体験から学修する。また、客観的的技能試験(OSCE)により、自己の知識・技術・態度などを振り返り、後期の領域実習に向けての自己の学修課題を明確にする。なお、学生が課題に関連した看護実践能力が修得できるように、各演習では担当教員が看護職・看護教員としての実務経験を活かして関わる。

キーワード： シミュレーション、看護実践能力、客観的的技能試験(OSCE)

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 臨地で遭遇する状況を想定し、対象者と家族への基本的で個別性につながる看護ケアについて、自ら行動し実践する力を身につけることができる。

評価方法： 客観的的技能試験(OSCE)
学習課題
レポート

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 臨地で遭遇する状況を想定し、対象者と家族の特性と状況を踏まえた具体的な看護を思考し、判断することができる。

評価方法： 客観的的技能試験(OSCE)
学習課題
レポート

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし演習参加への態度が不良であったり提出物の期日が守れないなど、学修に取り組む態度に主体性が著しく欠ける場合は、減点や嚴重注意の対象となることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし演習への参加態度やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や客観的的技能試験(OSCE)における不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となることがある。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【第01回】ガイダンス(宇留野)
【第02回】課題1 演習①(栗原・宇留野・長津・渋谷・小野・間宮)
【第03回】課題1 演習②(栗原・宇留野・長津・渋谷・小野・間宮)
【第04回】課題1 シミュレーション演習①(栗原・宇留野・長津・渋谷・小野・間宮)
【第05回】課題1 シミュレーション演習②(栗原・宇留野・長津・渋谷・小野・間宮)
【第06回】課題2 演習①(白木・眞崎・海野・前田・小池・鈴木)
【第07回】課題2 演習②(白木・眞崎・海野・前田・小池・鈴木)
【第08回】課題2 シミュレーション演習①(白木・眞崎・海野・前田・小池・鈴木)
【第09回】課題2 シミュレーション演習②(白木・眞崎・海野・前田・小池・鈴木)
【第10回】客観的技能試験(OSCE)ガイダンス(宇留野)
【第11回】客観的技能試験(OSCE)準備①(全担当教員)
【第12回】客観的技能試験(OSCE)準備②(全担当教員)
【第13回】客観的技能試験(OSCE)(全担当教員)
【第14回】客観的技能試験(OSCE)(全担当教員)
【第15回】まとめ(宇留野)

使用テキスト：特になし。必要な資料等については、担当教員から配布されることがある。
既習の関連科目における教科書・テキスト・配布使用・ノート等を参考にして学習する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：本科目では2つの課題の演習やシミュレーション演習に取り組む予定である。また提示された学習課題に対して各担当教員の指示に従い、取り組むこと。
ほか、既習の学習内容を復習し、演習に臨むことが望ましい。またその際には、各課題に関連する既習の科目の講義・演習等で配布した資料や課題等を活用すること。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： 予めメール等で連絡する。

留意事項：本科目は、対象の特性と状況を踏まえた具体的な看護を思考し、体験を通じて、看護実践能力を養う科目である。後期の実習科目に直結する内容なので、自らの頭と身体を使って主体的に取り組んでほしい。また、4年次の科学的思考基礎演習Ⅶでの客観的技能試験(OSCE)へとつながることを意識して臨むこと。

科目コード：31198 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語
授業名(英文)：成人看護学B(ペリオペレイティブケア・クリティカ a(Adult Health Nursing B (Preoperati
担当者：大内 玲、原島 利恵、小幡 明香、市野沢 征子、梶原 順子、椎名 瑠依、中村 裕美、相川 玄

基本情報

年次：3 単位数：1 授業形式：演習
曜時：火曜1限 火曜2限 履修可能学科・専攻：N
関連資格：教職 看護 保健 AL要素：13.役割演技と疑似体験

授業の概要：成人看護の考え方、看護の役割、急性期、周手術期にある患者や家族を理解するための概念について解説する。担当教員の臨床経験から得た学びも共有します。周手術期・クリティカルケアに共通する全身管理、合併症予防、回復促進に向けた看護について学習する。成人期にある患者を系統的に捉えて、病態を踏まえて疾病・治療のコントロールやセルフマネジメントの方法を学習し、その人らしい社会生活を持続するための看護について学習す

る。演習では、事例を通して個別性を考慮して必要な情報収集、アセスメント、計画立案について学習し、さらに必要な援助技術を身につける。

キーワード： クリティカルケア、周手術期、救命救急

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標：**
1. 急性期看護の概念とその特徴について理解することができる。
 2. 救命救急・集中治療・周手術期の看護を理解することができる。
 3. 成人期にある患者を系統別に捉えて、病態を踏まえて疾病・治療のコントロールやセルフマネジメントの方法などを学び、その看護について理解することができる。
 4. 成人期にある患者の個々の疾患・検査、治療、手術における患者の全身管理、麻酔による生体反応、合併症予防、回復促進に関する看護、対象者の心理・社会的特徴、術後リハビリテーションと継続看護について理解することができる。
 5. 救命救急・クリティカルケアを展開する基本的技術を実践できる。

評価方法： 試験等

評価割合： 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 周手術期にある対象者の特徴を踏まえ、手術を受ける人の看護過程を展開できる。

評価方法： 看護過程、演習レポート等

評価割合： 70%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

- 授業計画：**
- 【第01回】周手術期講義1 周術期の特徴、術前評価と術後合併症
 - 【第02回】周手術期演習1: 術後患者の体の見方
 - 【第03回】周手術期演習2: 術後合併症の発見と予防
 - 【第04回】周手術期講義2 退院指導
 - 【第05回】周手術期演習3: 退院指導
 - 【第06回】周手術期講義3: 術後リハビリテーション
 - 【第07回】周手術期演習4: 術後リハビリテーション
 - 【第08回】周手術期講義4: ストーマ講義
 - 【第09回】周手術期演習5: ストーマ体験と自己管理
 - 【第10回】クリティカルケア講義
 - 【第11回】放射線治療と看護1
 - 【第12回】放射線治療と看護2
 - 【第13回】クリティカルケア演習: ショックの評価
 - 【第14回】クリティカルケア演習: 心肺蘇生とチームビルディング①
 - 【第15回】クリティカルケア演習: 心肺蘇生とチームビルディング ②

使用テキスト： 必要に応じて参考資料等を配付・アップロードします。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 急性期・周手術期・クリティカル看護を理解するために、疾患と治療について既習内容を復習してから授業に臨んで下さい。また、授業に提示する事例は臨床実習に関連しており、看護過程の展開のみならず、実習室でも看護技術の演習を行いますのでフィジカルアセスメントや基礎看護技術の復習も行って下さい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 周手術期講義およびクリティカルケア講義では、各自、動画を視聴していただきますので、スマートフォンもしくはPCやタブレットとイヤホンを必ず持参してください。

科目コード：31198 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**
授業名(英文)：成人看護学B(ペリオペレイティブケア・クリティカ b(Adult Health Nursing B (Preoperat
担当者：大内 玲、原島 利恵、小幡 明香、市野沢 征子、梶原 順子、椎名 瑠依、中村 裕美、相川 玄

基本情報

年次：3 **単位数：1** **授業形式：演習**
曜時：火曜1限 火曜2限 **履修可能学科・専攻：N**
関連資格：教職 看護 保健 **AL要素：13.役割演技と疑似体験**

授業の概要： 成人看護の考え方、看護の役割、急性期、周手術期にある患者や家族を理解するための概念について解説する。担当教員の臨床経験から得た学びも共有します。周手術期・クリティカルケアに共通する全身管理、合併症予防、回復促進に向けた看護について学習する。成人期にある患者を系統的に捉えて、病態を踏まえて疾病・治療のコントロールやセルフマネジメントの方法を学習し、その人らしい社会生活を持続するための看護について学習する。演習では、事例を通して個別性を考慮して必要な情報収集、アセスメント、計画立案について学習し、さらに必要な援助技術を身につける。

キーワード： クリティカルケア、周手術期、救命救急

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：**
1. 急性期看護の概念とその特徴について理解することができる。
 2. 救命救急・集中治療・周手術期の看護を理解することができる。
 3. 成人期にある患者を系統別に捉えて、病態を踏まえて疾病・治療のコントロールやセルフマネジメントの方法などを学び、その看護について理解することができる。
 4. 成人期にある患者の個々の疾患・検査、治療、手術における患者の全身管理、麻酔による生体反応、合併症予防、回復促進に関する看護、対象者の心理・社会的特徴、術後リハビリテーションと継続看護について理解することができる。
 5. 救命救急・クリティカルケアを展開する基本的技術を実践できる。

評価方法： 試験等 **評価割合：** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 周手術期にある対象者の特徴を踏まえ、手術を受ける人の看護過程を展開できる。

評価方法： 看護過程、演習レポート等 **評価割合：** 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 【第01回】周手術期講義1 周術期の特徴、術前評価と術後合併症
【第02回】周手術期演習1:術後患者の体の見方
【第03回】周手術期演習2:術後合併症の発見と予防
【第04回】周手術期講義2 退院指導
【第05回】周手術期演習3:退院指導
【第06回】周手術期講義3:術後リハビリテーション
【第07回】周手術期演習4:術後リハビリテーション
【第08回】周手術期講義4:ストーマ講義
【第09回】周手術期演習5:ストーマ体験と自己管理
【第10回】クリティカルケア講義
【第11回】放射線治療と看護1
【第12回】放射線治療と看護2
【第13回】クリティカルケア演習:ショックの評価
【第14回】クリティカルケア演習:心肺蘇生とチームビルディング①
【第15回】クリティカルケア演習:心肺蘇生とチームビルディング ②

使用テキスト： 必要に応じて参考資料等を配付・アップロードします。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 急性期・周手術期・クリティカル看護を理解するために、疾患と治療について既習内容を復習してから授業に臨んで下さい。また、授業に提示する事例は臨床実習に関連しており、看護過程の展開のみならず、実習室でも看護技術の演習を行いますのでフィジカルアセスメントや基礎看護技術の復習も行って下さい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 周手術期講義およびクリティカルケア講義では、各自、動画を視聴していただきますので、スマートフォンもしくはPCやタブレットとイヤホンを必ず持参してください。

科目コード：31199 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：小児看護学B(小児の健康障害と看護) a(Pediatric Nursing B a)

担当者：眞崎 由香、白木 裕子、海野 潔美

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜1限 月曜2限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：教職 看護 保健

AL要素：07発表

08協同学修

11討論

13役割演技と疑似体験

15レポート指導

授業の概要： 本科目では、健康な子ども・健康障害のある子どもとその家族に対する基本的な看護について学修する。具体的には、各発達段階における子どもとその家族の健康と生活の特徴、看護のあり方について学ぶ。さらに急性疾患や慢性疾患のある子どもとその家族の特徴と、必要な看護援助のあり方について学修する。またこれらの学びを促すため、学生の体験に基づく学びを重視し、6つの演習を行う。演習においては担当教員が、看護職・看護教員としての実務経験を活かした課題を提示する。提示された各発達段階における子どもとその家族の健康問題に関する演習を通じて、具体的な看護実践における思考やスキルを学修する。

【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】課題研究型／遠隔授業(同時双方向型)

キーワード： 子どもの権利・成長発達・子どもの最善の利益・家族中心ケア(ファミリーセンタードケア)

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1.各発達段階における子どもとその家族の特徴と必要な看護について説明できる。
2. 急性および慢性的な経過をたどる疾患をもつ子ども、周手術期、ターミナル期にある子ども、さまざまな障がいがある子どもとその家族を対象とした看護について説明できる。
3.あらゆる健康段階にある子どもに特有な看護計画の立案や看護の方法について説明できる。

評価方法： 定期試験
レポート

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 4. 発達段階および状況に応じた子どもとその家族の最善の利益を守る看護について考えることができる。
5. 発達段階および状況に応じた子どもとその家族への基本的な看護実践について考えることができる。

評価方法： レポートほか

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

主体的に学修に取り組むことを望む。特に本科目では事例等を通じた演習等を多く含むため、主体的に学修目標の達成に向けて取り組むこと。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく公正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 01. ガイダンス・乳児とその家族の健康と生活支援①
02. 乳児とその家族の健康と生活支援②
03. 幼児とその家族の健康と生活支援
04. 学童・思春期の子どもとその家族の健康と生活支援
05. 演習・各発達段階における子どもの世話①

06. 演習・各発達段階における子どもの世話②
07. 病気や障がいのある子どもと家族の看護
08. 演習・子どもの安全な入院環境
09. 急性期にある子どもと家族の看護
10. 周手術期にある子どもと家族への看護
11. 慢性疾患・障がいのある子どもと家族への看護①
12. 慢性疾患・障がいのある子どもと家族への看護②
13. 子どものヘルスアセスメント
14. 演習・子どものヘルスアセスメント(バイタルサイン測定)
15. 演習・子どものヘルスアセスメント(身体的アセスメント①)
16. 演習・子どものヘルスアセスメント(身体的アセスメント②)
17. 演習・小児看護学技術演習①
18. 演習・小児看護学技術演習②
19. 演習・小児看護学シミュレーション演習①
20. 演習・小児看護学シミュレーション演習②
21. 演習・子どもと家族への看護過程①
22. 演習・子どもと家族への看護過程②
23. 演習・子どもと家族への看護過程③
24. 演習・子どもと家族への看護過程④
25. 演習・子どもと家族への看護過程⑤
26. 演習・子どもと家族への看護過程⑥
27. 予後不良な子どもと家族への看護
28. 小児医療・看護における子どもの倫理
29. 小児看護における実践
30. 小児看護学実習オリエンテーション

使用テキスト: 「系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1)小児看護学概論 小児臨床看護総論」医学書院

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 既に学修した内容を復習し、本科目に取り組むこと。特に、「小児看護学A」で学修した内容は、本科目に直結する内容であるため、講義・演習等で配付した資料や課題等を活用すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: 予めメール等で連絡すること。その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項: 特になし。

科目コード: 31199 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 小児看護学B(小児の健康障害と看護) b(Pediatric Nursing B b)

担当者: 眞崎 由香、白木 裕子、海野 潔美

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 月曜1限 月曜2限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 教職 看護 保健

AL要素: 07発表
08協同学修
11討論
13役割演技と疑似体験
15レポート指導

授業の概要: 本科目では、健康な子ども・健康障害のある子どもとその家族に対する基本的な看護について学修する。具体的には、各発達段階における子どもとその家族の健康と生活の特徴、看護のあり方について学ぶ。さらに急性疾患や慢性疾患のある子どもとその家族の特徴と、必

要な看護援助のあり方について学修する。またこれらの学びを促すため、学生の体験に基づく学びを重視し、6つの演習を行う。演習においては担当教員が、看護職・看護教員としての実務経験を活かした課題を提示する。提示された各発達段階における子どもとその家族の健康問題に関する演習を通じて、具体的な看護実践における思考やスキルを学修する。

【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】課題研究型／遠隔授業(同時双方向型)

キーワード： 子どもの権利・成長発達・子どもの最善の利益・家族中心ケア(ファミリーセンタードケア)

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標：**
1. 各発達段階における子どもとその家族の特徴と必要な看護について説明できる。
 2. 急性および慢性的な経過をたどる疾患をもつ子ども、周手術期、ターミナル期にある子ども、さまざまな障がいがある子どもとその家族を対象とした看護について説明できる。
 3. あらゆる健康段階にある子どもに特有な看護計画の立案や看護の方法について説明できる。

評価方法： 定期試験
レポート

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標：**
4. 発達段階および状況に応じた子どもとその家族の最善の利益を守る看護について考えることができる。
 5. 発達段階および状況に応じた子どもとその家族への基本的な看護実践について考えることができる。

評価方法： レポートほか

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

主体的に学修に取り組むことを望む。特に本科目では事例等を通じた演習等を多く含むため、主体的に学修目標の達成に向けて取り組むこと。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく公正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

- 授業計画：**
01. ガイダンス・乳児とその家族の健康と生活支援①
 02. 乳児とその家族の健康と生活支援②
 03. 幼児とその家族の健康と生活支援
 04. 学童・思春期の子どもとその家族の健康と生活支援
 05. 演習・各発達段階における子どもの世話①
 06. 演習・各発達段階における子どもの世話②
 07. 病気や障がいのある子どもと家族の看護
 08. 演習・子どもの安全な入院環境
 09. 急性期にある子どもと家族の看護

10. 周手術期にある子どもと家族への看護
11. 慢性疾患・障がいのある子どもと家族への看護①
12. 慢性疾患・障がいのある子どもと家族への看護②
13. 子どものヘルスアセスメント
14. 演習・子どものヘルスアセスメント(バイタルサイン測定)
15. 演習・子どものヘルスアセスメント(身体的アセスメント①)
16. 演習・子どものヘルスアセスメント(身体的アセスメント②)
17. 演習・小児看護学技術演習①
18. 演習・小児看護学技術演習②
19. 演習・小児看護学シミュレーション演習①
20. 演習・小児看護学シミュレーション演習②
21. 演習・子どもと家族への看護過程①
22. 演習・子どもと家族への看護過程②
23. 演習・子どもと家族への看護過程③
24. 演習・子どもと家族への看護過程④
25. 演習・子どもと家族への看護過程⑤
26. 演習・子どもと家族への看護過程⑥
27. 予後不良な子どもと家族への看護
28. 小児医療・看護における子どもの倫理
29. 小児看護における実践
30. 小児看護学実習オリエンテーション

使用テキスト: 「系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1)小児看護学概論 小児臨床看護総論」医学書院

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 既に学修した内容を復習し、本科目に取り組むこと。特に、「小児看護学A」で学修した内容は、本科目に直結する内容であるため、講義・演習等で配付した資料や課題等を活用すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: 予めメール等で連絡すること。その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項: 特になし。

科目コード: 31200 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 精神看護学B(心を病む人の理解とセルフマネジメント) a(Psychiatric Nursing B a)

担当者: 宇留野 由紀子、栗原 加代、長津 貴子、川崎 弘道

基本情報

年次: 3 **単位数:** 2 **授業形式:** 演習

曜時: 金曜3限 金曜4限 **履修可能学科・専攻:** N

関連資格: 教職 看護 保健 **AL要素:** 02模擬実践
07発表
08協同学修

授業の概要:

現在の精神障がい者にかかわる法律、精神障がい者の実態について、障がいの特性を踏まえて理解を深め、精神障がい者に対する自己の認識を明確化する。精神障がい者の症状と生活への影響をセルフケア能力の変化の視点から理解し、自我の強化に必要とされる認知行動療法、健康的側面を促進するためのレクリエーション、SST等の基礎技術を習得する。事例を用いた看護過程の展開を通して、対象の理解と必要とされる援助内容を抽出する方法を学ぶ。急性期、慢性期を問わず、地域での生活維持が可能となるような資源の活用方法、その法的根拠、他職種連携の必要性を理解する。さらに、現在の日本における精神医療で問題とされている課題を考えるための基礎的理解を深めつつ、心の健康状態に応じた自立と社会参加を促進するためのサポートシステムと、対象者およびその家族に対して必

要とされる看護援助を学ぶ。授業形態は、講義・演習・グループワークなどテーマに合わせて展開する。また、精神障がい者、家族など当事者が参加しての演習も含めより現場の声を反映させた授業とする。授業担当者は自身の臨床経験を踏まえ、現場の実態や対象者の家族に対するアプローチの方法やその他の看護の支援の授業を行う。

キーワード： 思考障害 陰性症状 陽性症状 精神科リハビリテーション 施設症 ストレングス
非言語的コミュニケーション 言語的コミュニケーション 精神科看護過程
セルフケア理論 オレム・アンダーウッド

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：

1. 看護の基礎となる主要な精神疾患と症状、代表的な検査、各種治療方法やグループ療法の意義と看護について説明できる。
2. 精神障がい者のセルフケアレベルの把握と、自立援助のためのアセスメントツールを説明できる。
3. 対象—医療者の治療的関係の成立過程、自己を活用したコミュニケーション及びセルフマネジメントの方法を理解し活用することができる。
4. 精神医療・看護に関連する法的根拠を基に、精神科看護におけるマネジメントの視点を説明できる。
5. 精神障がい者が、社会復帰をするために必要な基礎的知識や技術を習得し実践につなげることができる。
6. 長期入院患者や社会的入院患者の現状と、看護者の課題を説明できる。
7. 患者を取り巻く家族がうける影響を理解し、家族支援のため援助内容を説明できる。
8. 精神医療および精神障がい者の地域生活に必要な、多職種連携および各種社会復帰事業を説明できる。

評価方法： 定期試験

評価割合： 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標：

事例を用いて精神症状の影響を考慮しながら、各病時期にある対象者の看護過程を展開できる。

評価方法： 課題提出

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

課題に対しての取り組みと成果を評価対象とする。なお提出された記録物等期日遵守も含め、評価の対象とする。
提出物の記述等において著しく公正性を欠く記述や、不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象にはしないが、課題取り組む姿勢授業への参加態度に問題が見受けられた場合は、減点の対象となる。

筆記試験、課題等の記述等において著しく公正性を欠く記述や、不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 授業計画

- 第1回：精神看護の目的と機能（担当：栗原）
- 第2回：入院時の看護（急性期，回復期，慢性期の看護）（担当：栗原）
- 第3回：精神症状と看護（担当：栗原）
- 第4回：治療関係の構築、患者－看護者関係の意義、ケアリング（担当：栗原）
- 第5回：精神科における人間関係の構築、コミュニケーション技法（担当：宇留野）
- 第6回：看護と対人コミュニケーション、カウンセリング技法の基礎、アサーション（担当：宇留野）
- 第7回：ストレス・危機介入・PTSD（担当：宇留野）
- 第8回：精神科リハビリテーション、レクリエーション療法、作業療法（担当：宇留野）
- 第9回：認知行動療法、SST（担当：宇留野）
- 第10回：依存症と看護（CP換算含む）（担当：宇留野）
- 第11回：救急医療における精神症状の評価（PEEC）（担当：長津）
- 第12回：精神疾患患者の看護 検査時の看護（担当：川崎）
- 第13回：精神疾患患者の看護 治療時の看護（担当：川崎）
- 第14回：おもな精神疾患の治療と看護 心理社会的療法（担当：川崎）
- 第15回：当事者の家族による授業（担当：宇留野、長津）
- 第16回：社会復帰に向けた援助（担当：富田 PSW）
- 第17回：精神科における身体ケア（足のケア）（演習）（担当：谷口）
- 第18回：精神科における身体ケア（足のケア）（演習）（担当：谷口）
- 第19回：セルフケア理論 オレム－アンダーウッドモデル（担当：栗原）
- 第20回：精神科疾患患者の理解、心理検査（臨床心理士 富田）
- 第21回：精神科における看護管理 行動制限時の看護（理論）（担当：川崎）
- 第22回：精神科における看護管理 行動制限時の看護（演習）（担当：川崎）
- 第23回：精神科における看護過程の展開（担当：栗原）
- 第24回：看護過程事例演習（事例紹介 情報収集）（担当：栗原、宇留野、長津）
- 第25回：看護過程事例演習（情報整理 アセスメント）（担当：栗原、宇留野、長津）
- 第26回：看護過程事例演習（計画・実施）（担当：栗原、宇留野、長津）
- 第27回：当事者による授業（担当：宇留野、長津）
- 第28回：看護過程事例演習（事後評価の視点）（担当：栗原、宇留野、長津）
- 第29回：看護過程事例演習 発表会（1～6グループ）（担当：栗原、宇留野、長津）
- 第30回：看護過程事例演習 発表会（7～12グループ）/ まとめ（担当：栗原、宇留野、長津）

定期試験

使用テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②：武井麻子 医学書院

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
- 1) 太田保之，藤田長太郎他：精神看護学 精神保健 第4版，医歯薬出版（株）。
 - 2) 精神看護学Ⅰ 精神保健 第6版：吉松和哉 小泉典章（編），ヌーヴェルヒロカワ。
 - 3) 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版：川野雅資（編），ヌーヴェルヒロカワ。
 - 4) 保健・医療福祉系学生のための臨床精神医学 根岸敬矩，医学出版。
 - 5) 看護ポケットマニュアル 精神科：山川百合子 栗原加代（編），医学出版社。
 - 6) 授業中に適宜資料を配布する。

障がいのある履修者への対応： できうる限り対応する。学務に相談すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーで対応する。

留意事項： 精神看護学実習に直結する科目であることを念頭に授業を受けること。

科目コード : 31200 科目ナンバリング : 主な使用言語 : 日本語
授業名(英文) : 精神看護学B(心を病む人の理解とセルフマネジメント) b(Psychiatric Nursing B b)
担当者 : 宇留野 由紀子、栗原 加代、長津 貴子、川崎 弘道

基本情報

年次 : 3 単位数 : 2 授業形式 : 演習
曜時 : 金曜3限 金曜4限 履修可能学科・専攻 : N
関連資格 : 教職 看護 保健 AL要素 : 02模擬実践
07発表08協同学修

授業の概要:

現在の精神障がい者にかかわる法律、精神障がい者の実態について、障がいの特性を踏まえて理解を深め、精神障がい者に対する自己の認識を明確化する。精神障がい者の症状と生活への影響をセルフケア能力の変化の視点から理解し、自我の強化に必要とされる認知行動療法、健康的側面を促進するためのレクリエーション、SST等の基礎技術を習得する。事例を用いた看護過程の展開を通して、対象の理解と必要とされる援助内容を抽出する方法を学ぶ。急性期、慢性期を問わず、地域での生活維持が可能となるような資源の活用方法、その法的根拠、他職種連携の必要性を理解する。さらに、現在の日本における精神医療で問題とされている課題を考えるための基礎的理解を深めつつ、心の健康状態に応じた自立と社会参加を促進するためのサポートシステムと、対象者およびその家族に対して必要とされる看護援助を学ぶ。授業形態は、講義・演習・グループワークなどテーマに合わせて展開する。また、精神障がい者、家族など当事者が参加しての演習も含めより現場の声を反映させた授業とする。授業担当者は自身の臨床経験を踏まえ、現場の実態や対象者の家族に対するアプローチの方法やその他の看護の支援の授業を行う。

キーワード: 思考障害 陰性症状 陽性症状 精神科リハビリテーション 施設症 ストレングス
非言語的コミュニケーション 言語的コミュニケーション 精神科看護過程
セルフケア理論 オレム・アンダーウッド

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 看護の基礎となる主要な精神疾患と症状、代表的な検査、各種治療方法やグループ療法の意義と看護について説明できる。
 2. 精神障がい者のセルフケアレベルの把握と、自立援助のためのアセスメントツールを説明できる。
 3. 対象-医療者の治療的関係の成立過程、自己を活用したコミュニケーション及びセルフマネジメントの方法を理解し活用することができる。
 4. 精神医療・看護に関連する法的根拠を基に、精神科看護におけるマネジメントの視点を説明できる。
 5. 精神障がい者が、社会復帰をするために必要な基礎的知識や技術を習得し実践につなげることができる。
 6. 長期入院患者や社会的入院患者の現状と、看護者の課題を説明できる。
 7. 患者を取り巻く家族がうける影響を理解し、家族支援のため援助内容を説明できる。
 8. 精神医療および精神障がい者の地域生活に必要な、多職種連携および各種社会復帰事業を説明できる。

評価方法: 定期試験

評価割合: 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標:

事例を用いて精神症状の影響を考慮しながら、各病時期にある対象者の看護過程を展開でき

る。

評価方法: 課題提出

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

課題に対しての取り組みと成果を評価対象とする。

なお提出された記録物等期日遵守も含め、評価の対象とする。

提出物の記述等において著しく公正性を欠く記述や、不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象にはしないが、課題取り組む姿勢授業への参加態度に問題が見受けられた場合は、減点の対象となる。

筆記試験、課題等の記述等において著しく公正性を欠く記述や、不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 授業計画

- 第1回:精神看護の目的と機能 (担当:栗原)
- 第2回:入院時の看護(急性期,回復期,慢性期の看護) (担当:栗原)
- 第3回:精神症状と看護 (担当:栗原)
- 第4回:治療関係の構築、患者-看護者関係の意義、ケアリング (担当:栗原)
- 第5回:精神科における人間関係の構築、コミュニケーション技法 (担当:宇留野)
- 第6回:看護と対人コミュニケーション、カウンセリング技法の基礎、アサーション (担当:宇留野)
- 第7回:ストレス・危機介入・PTSD (担当:宇留野)
- 第8回:精神科リハビリテーション、レクリエーション療法、作業療法 (担当:宇留野)
- 第9回:認知行動療法、SST (担当:宇留野)
- 第10回:依存症と看護(CP換算含む) (担当:宇留野)
- 第11回:救急医療における精神症状の評価(PEEC) (担当:長津)
- 第12回:精神疾患患者の看護 検査時の看護 (担当:川崎)
- 第13回:精神疾患患者の看護 治療時の看護 (担当:川崎)
- 第14回:おもな精神疾患の治療と看護 心理社会的療法 (担当:川崎)
- 第15回:当事者の家族による授業 (担当:宇留野、長津)
- 第16回:社会復帰に向けた援助 (担当:富田 PSW)
- 第17回:精神科における身体ケア(足のケア)(演習) (担当:谷口)
- 第18回:精神科における身体ケア(足のケア)(演習) (担当:谷口)
- 第19回:セルフケア理論 オレム-アンダーウッドモデル (担当:栗原)
- 第20回:精神科疾患患者の理解、心理検査(臨床心理士 富田)
- 第21回:精神科における看護管理 行動制限時の看護(理論) (担当:川崎)
- 第22回:精神科における看護管理 行動制限時の看護(演習) (担当:川崎)
- 第23回:精神科における看護過程の展開 (担当:栗原)
- 第24回:看護過程事例演習(事例紹介 情報収集) (担当:栗原、宇留野、長津)
- 第25回:看護過程事例演習(情報整理 アセスメント) (担当:栗原、宇留野、長津)
- 第26回:看護過程事例演習(計画・実施) (担当:栗原、宇留野、長津)
- 第27回:当事者による授業 (担当:宇留野、長津)
- 第28回:看護過程事例演習(事後評価の視点) (担当:栗原、宇留野、長津)
- 第29回:看護過程事例演習 発表会(1~6グループ) (担当:栗原、宇留野、長津)

第30回:看護過程事例演習 発表会(7～12グループ)/ まとめ

(担当:栗原、宇留野、長

津)

定期試験

使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 武井麻子 医学書院

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- 1) 太田保之, 藤田長太郎他:精神看護学 精神保健 第4版, 医歯薬出版(株).
- 2) 精神看護学Ⅰ 精神保健 第6版:吉松和哉 小泉典章(編), スーヴェルヒロカワ.
- 3) 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版:川野雅資(編), スーヴェルヒロカワ
- 4) 保健・医療福祉系学生のための臨床精神医学 根岸敬矩, 医学出版.
- 5) 看護ポケットマニュアル 精神科:山川百合子 栗原加代(編), 医学出版社.
- 6) 授業中に適宜資料を配布する。

障がいのある履修者への対応: できる限り対応する。学務に相談すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーで対応する。

留意事項: 精神看護学実習に直結する科目であることを念頭に授業を受けること。

科目コード: 31201

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 在宅看護学B(在宅療養を支える看護) a(Home Care Nursing B a)

担当者: 前田 和子、小池 美香、鈴木 陽子

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 金曜1限 金曜2限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 03. 実験・実技・体験
08. 共同学修
13. 役割演技と疑似体験
16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: この授業では在宅療養者と家族の療養生活を支える在宅看護の方法について学ぶ。在宅療養者は小児から高齢者、そして急性期から慢性期、ターミナル期とあらゆる発達段階・健康障害の段階にある生活者である。既習の知識・技術を統合しながら、在宅看護の方法を理論的・体験的に学修する。
教員は、地域や臨床での実務経験をふまえ、事例をとおして多職種連携・協働、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について理解が深まるように授業を行う。

キーワード: 生活者、在宅療養者と家族、ケアマネジメント、多職種連携、地域包括ケアシステム、在宅における看護技術

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 授業で扱った地域包括ケアシステムにおける多職種連携とケアマネジメント、療養の場の移行に伴う看護、在宅看護技術、対象に応じた看護、在宅看護の倫理について、概ね80%の事項を解答することができる。

評価方法: 課題
レポート
定期試験

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 在宅看護過程、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割、在宅看護技術について、自主学修によって得た知見や演習における経験をふまえて考察し、論理的に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 課題
レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業終了時に取り組むリアクション・シートにおいて、自身の課題についての気づきが記載される場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為が見られた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により認められた知見等がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中のグループディスカッションやレポートにおいて、人権侵害や差別的な発言、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 【第01回】療養の場の移行に伴う看護（前田）
 - 【第02回】地域包括ケアシステムにおける多職種連携とケアマネジメント（前田）
 - 【第03回】在宅療養を支える訪問看護（鈴木）
 - 【第04回】家族のアセスメントと家族支援（前田）
 - 【第05回】在宅療養を支える社会資源（鈴木）
 - 【第06回】在宅看護と看護過程（前田）
 - 【第07回】五感を使った観察と訪問時のマナー（小池・鈴木・前田）
 - 【第08回】感染予防とリスクマネジメント（小池・鈴木・前田）
 - 【第09回】清潔・衣生活のアセスメントと援助（小池）
 - 【第10回】訪問入浴介護の実際（小池・鈴木・前田）
 - 【第11回】食・排泄のアセスメントと援助（小池）
 - 【第12回】在宅看護における倫理・権利の保障（鈴木）
 - 【第13回】褥瘡予防（前田・小池・鈴木）
 - 【第14回】褥瘡処置（鈴木・前田・小池）
 - 【第15回】在宅リハビリテーション(1)（特別講師）
 - 【第16回】在宅リハビリテーション(2)（特別講師）
 - 【第17回】在宅における安全と健康危機管理（小池）
 - 【第18回】訪問看護における在宅ケアの実際(1) 家族介護者（特別講師）
 - 【第19回】小児と家族の在宅療養を支える看護（小池）
 - 【第20回】精神障がいを持つ人と家族の在宅療養を支える看護（前田）
 - 【第21回】看護過程展開(解説)（前田）
 - 【第22回】訪問看護における在宅ケアの実際(2) 訪問診療医（特別講師）
 - 【第23回】在宅酸素療法・人工呼吸法(1)（前田・鈴木・小池）
 - 【第24回】在宅酸素療法・人工呼吸法(2)（前田・鈴木・小池）
 - 【第25回】住まい・生活環境のアセスメントと援助（鈴木・小池・前田）
 - 【第26回】在宅看護過程展開(グループワーク)（前田・小池・鈴木）
 - 【第27回】摘便（鈴木・小池・前田）

【第28回】吸引（小池・鈴木・前田）

【第29回】訪問看護における在宅看護の実際(3)看護管理、難病・終末期の看護(特別講師)

【第30回】まとめ・在宅看護学実習オリエンテーション(前田・小池・鈴木)

使用テキスト: 『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 在宅療養を支えるケア』MCメディカ出版
『看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術』メヂカルフレンド社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・事前にテキストの授業範囲に該当する項を読んで予習する(60分)。演習にあたってはに提示された事前課題を行う。
・配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項については自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(60分)。演習後は自己を振り返り、自己の課題を明文化する。

参考文献・資料を必要提示する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に知らせる。

留意事項: 特にグループワークや演習において、主体的・積極的に取り組むこと。

科目コード:31201 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文):在宅看護学B(在宅療養を支える看護) b(Home Care Nursing B b)

担当者:前田 和子、小池 美香、鈴木 陽子

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:金曜1限 金曜2限

履修可能学科・専攻: N

関連資格:看護 保健

AL要素: 03. 実験・実技・体験
08. 共同学修
13. 役割演技と疑似体験
16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: この授業では在宅療養者と家族の療養生活を支える在宅看護の方法について学ぶ。在宅療養者は小児から高齢者、そして急性期から慢性期、ターミナル期とあらゆる発達段階・健康障害の段階にある生活者である。既習の知識・技術を統合しながら、在宅看護の方法を理論的・体験的に学修する。
教員は、地域や臨床での実務経験をふまえ、事例をとおして多職種連携・協働、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について理解が深まるように授業を行う。

キーワード: 生活者、在宅療養者と家族、ケアマネジメント、多職種連携、地域包括ケアシステム、在宅における看護技術

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で扱った地域包括ケアシステムにおける多職種連携とケアマネジメント、療養の場の移行に伴う看護、在宅看護技術、対象に応じた看護、在宅看護の倫理について、概ね80%の事項を解答することができる。

評価方法: 各授業での課題
期末試験

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 在宅看護過程、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割、在宅看護技術について、自主学修によって得た知見や演習における経験をふまえて考察し、論理的に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業終了時に取り組むリアクション・シートにおいて、自身の課題についての気づきが記載される場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為が見られた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により認められた知見等がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中のグループディスカッションやレポートにおいて、人権侵害や差別的な発言、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 【第01回】療養の場の移行に伴う看護（前田）
 - 【第02回】地域包括ケアシステムにおける多職種連携とケアマネジメント(前田)
 - 【第03回】在宅療養を支える訪問看護（鈴木）
 - 【第04回】家族のアセスメントと家族支援（前田）
 - 【第05回】在宅療養を支える社会資源（鈴木）
 - 【第06回】在宅看護と看護過程（前田）
 - 【第07回】五感を使った観察と訪問時のマナー(小池・鈴木・前田)
 - 【第08回】感染予防とリスクマネジメント（小池・鈴木・前田）
 - 【第09回】清潔・衣生活のアセスメントと援助（小池）
 - 【第10回】訪問入浴介護の実際（小池・鈴木・前田）
 - 【第11回】食・排泄のアセスメントと援助（小池）
 - 【第12回】在宅看護における倫理・権利の保障（鈴木）
 - 【第13回】褥瘡予防（前田・小池・鈴木）
 - 【第14回】褥瘡処置（鈴木・前田・小池）
 - 【第15回】在宅リハビリテーション(1)(特別講師)
 - 【第16回】在宅リハビリテーション(2)(特別講師)
 - 【第17回】在宅における安全と健康危機管理（小池）
 - 【第18回】訪問看護における在宅ケアの実際(1)家族介護者(特別講師)
 - 【第19回】小児と家族の在宅療養を支える看護（小池）
 - 【第20回】精神障がいを持つ人と家族の在宅療養を支える看護(前田)
 - 【第21回】看護過程展開(解説)(前田)
 - 【第22回】訪問看護における在宅ケアの実際(2)訪問診療医(特別講師)
 - 【第23回】在宅酸素療法・人工呼吸法(1)（前田・鈴木・小池）
 - 【第24回】在宅酸素療法・人工呼吸法(2)（前田・鈴木・小池）
 - 【第25回】住まい・生活環境のアセスメントと援助（鈴木・小池・前田）
 - 【第26回】在宅看護過程展開(グループワーク)(前田・小池・鈴木)
 - 【第27回】摘便（鈴木・小池・前田）
 - 【第28回】吸引（小池・鈴木・前田）
 - 【第29回】訪問看護における在宅看護の実際(3)看護管理、難病・終末期の看護(特別講

師)

【第30回】まとめ・在宅看護学実習オリエンテーション(前田・小池・鈴木)

使用テキスト: 『ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 在宅療養を支えるケア』MCメディカ出版
『看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術』メヂカルフレンド社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・事前にテキストの授業範囲に該当する項を読んで予習する(60分)。演習にあたってはに提示された事前課題を行う。
・配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項については自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(60分)。演習後は自己を振り返り、自己の課題を明文化する。

参考文献・資料を必要提示する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に知らせる。

留意事項: 特にグループワークや演習において、主体的・積極的に取り組むこと。

科目コード: 31202 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 公衆衛生看護活動展開論A(Public Health Nursing Care & Theory A)

担当者: 若林 千津子、叶多 博美、園部 律子

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 講義

曜時: 木曜4限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 教職 看護 保健

AL要素: 11.討論

16.振り返り用紙と応答

17.発問と回答

授業の概要: 公衆衛生看護活動は、地域で生活する人々の特性や場の特徴を捉えながら、施策・制度を根拠として展開される。本科目では、地域で生活する様々なライフステージにある人々とその家族、健康障害をもつ人々とその家族、産業保健、感染症対策を中心に、それぞれの健康課題や支援のための施策・制度および具体的な活動について解説する。

キーワード: 公衆衛生看護 保健師活動 地域ケア 母子保健対策 生活習慣病予防対策 高齢者保健医療福祉対策

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:**
1. 地域で生活する住民のさまざまなライフステージの特性を理解し、そこで実践される看護活動について説明できる。
 2. 健康障害をもつ人とその家族を対象とした公衆衛生看護活動について説明できる。
 3. 働く人々の特性を理解し、そこで実践される看護活動について説明できる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末筆記試験
レポート

評価割合: 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第1回】ライフサイクルと公衆衛生看護(叶多)
【第2回】母子保健1 乳幼児期の成長発達と公衆衛生看護活動(園部)
【第3回】母子保健2 児童虐待と公衆衛生看護活動(園部)
【第4回】母子保健3 地域における子育て支援(園部)
【第5回】成人保健1 生活習慣病と予防活動1 成人保健の動向(若林)
【第6回】成人保健2 生活習慣病と予防活動2 特定健診・保健指導(若林)
【第7回】高齢者保健・介護予防活動1 高齢者保健医療福祉の動向(園部)
【第8回】高齢者保健・介護予防活動2 高齢者の健康課題と支援(園部)
定期試験

使用テキスト：中谷芳美ほか著「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」医学書院
標美奈子ほか著「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」医学書院
神馬征峰・大森純子ほか『系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生』医学書院
「国民衛生の動向 2022/2023」厚生労働統計協会

予習・復習のポイントと 予習のポイント
参考文献・資料等：教科書の該当箇所を講義の前に読むこと 各1時間

復習のポイント
授業で得た理解と気づきをノートにまとめておき、それらをもとに、学期末筆記試験に臨むことを薦める。

参考書
「公衆衛生がみえる 2022-2023」メディックメディア
藤内修二ほか「標準保健師講座・別巻1 保健医療福祉行政論」医学書院

障がいのある 可能な限り対応します。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。

留意事項： 日頃から、ニュースや新聞記事などで地域社会の出来事に興味・関心をもって生活すること。
1年次の公衆衛生学、2年次の保健医療福祉行政論・看護関係法規・保健師課程「公衆衛生看護学実習A」との関連が深い科目です。
本科目で得られた知見を、実習中にも振り返ることができるよう、自主学修を深めておきましょう。

科目コード : 31203

科目ナンバリング :

主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 公衆衛生看護活動展開論C(組織活動・社会資源) (Public Health Nursing Care & Theo

担当者 : 若林 千津子、叶多 博美、園部 律子

基本情報

年次 : 3

単位数 : 1

授業形式 : 講義

曜時 : 水曜4限

履修可能学科・専攻 : N

関連資格 : 看護 保健

AL要素 : 08.協同学修

11.討論

17.発問と回答

授業の概要 : この授業では、公衆衛生看護活動を進める際に重要な、健康政策・ヘルスプロモーションの考え方と進め方、およびケアネットワークについて事例を示しながら概説する。さらに、保健師業務の特徴の一つである感染症対策および難病対策について、最新の施策や事例を示しながら概説する。

キーワード : ヘルスプロモーション、健康日本21(第2次)、難病対策、感染症対策、ケアネットワーク

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 1. 日本および世界における健康政策の考え方と進め方について理解できる。
2. 健康政策の考え方に基づいた支援のあり方を考察できる。

評価方法 : 課題提出状況および内容
定期試験

評価割合 : 90%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 事例をもとに支援のあり方を考察することができる。

評価方法 : 課題提出状況および内容
定期試験

評価割合 : 10%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。しかし討論時の取り組み態度、グループ内でのメンバーシップ等を、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が課題成果物等により認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や、カンニング等の不正行為があった場合は、内容に応じて対処する。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画 : 【第1回】世界と日本の健康政策 ヘルスプロモーション、健康政策とは(若林)

【第2回】日本の健康政策 健康増進法 健康日本21(1)(若林)

【第3回】日本の健康政策 健康増進法 健康日本21(2)(若林)

- 【第4回】日本の健康政策3 健康増進法 健康日本21(3)(若林)
 - 【第5回】難病と公衆衛生看護(外部講師、叶多)
 - 【第6回】感染症と公衆衛生看護1(外部講師)
 - 【第7回】感染症と公衆衛生看護2(外部講師)
 - 【第8回】健康づくりの方法 社会資源とケアネットワーク(園部)
- 定期試験

使用テキスト: 藤内修二ほか著 「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」 医学書院
中谷芳美ほか著 「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」 医学書院

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 学習に主体的に取り組むことが求められます。茨城県内各地(県・市町村単位等)の保健医療福祉政策に関する事業概要や関係する文献などを参考に具体的に学ぶことが必要です。
「地域高齢者のための看護システムマネジメント」 医歯薬出版
「ヘルスプロモーションのすすめ」 垣内出版KK
「保健師ジャーナル」 など

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード: 31204 **科目ナンバリング:** NU20A21E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 学校保健 a(School Health a)

担当者: 松永 恵

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 教職 看護 保健

AL要素: 03実験・実技・体験

08協同学修

15振り返り用紙と応答

授業の概要: 児童生徒の健康な成長は家庭と学校の協力によって導かれるものである。学校内外で支援する看護職は、児童生徒の健康状態を知り、さらに学校教育の仕組みを知り、皆が取り組みやすい、効果的な支援を考えなければならない。

本演習では自身の成長と学校生活を思い出し、行われてきたことの意味に気づき、これまででもらってきたことを理解すると同時に、専門職として必要な視点を身につけさせたい。健康課題については高等学校卒業程度の知識を持っていることを想定し、授業を進める。高等学校の教科書や新聞、ニュースなどで理解を進めておいてほしい。

演習の中では、授業者の実務経験を活かし、受講生が児童生徒だった頃、身近に感じていたと思われるような課題を提示したい。学生は児童生徒として、また看護職として、複数の視点で課題を捉え、話し合い、支援する方法について考え、学びあってほしい。

また学校でよく起こる傷病への一般的な対応について体験し、困っている児童生徒の元に走り寄り対応できるよう方向づけたい。

授業は予習用に設定した事前課題に取り組み出席することを前提とする。授業は以下のように進める。

- 1 前時の復習(個人レポート(=振り返り用紙)のまとめ)

- 2 本時の課題を進める上で、必要な内容の説明と質疑応答
 - 3 事前課題を発展させた課題に取り組む(個人レポート(=振り返り用紙))
- 教員が説明することはごくわずかしがなく、受講生が学びを深めるためには、1で疑問を明確にし、2で教員に質問し、疑問を解決してから3に臨むことが重要である。

キーワード: 学校保健、健康、発達、リスク、組織、健康診断、環境、応急処置

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標:

- 1 児童生徒の健康と発達について、統計結果から説明することができる。
- 2 学校保健における看護職の歴史について説明できる
- 3 健康な児童生徒の管理と教育について説明できる
- 4 児童生徒のリスクと管理について説明できる
- 5 学校における救急処置について根拠を理解しながら実施できる
- 6 学校保健活動が組織的に行われていることを説明しできる

評価方法: 定期試験

評価割合: 55%

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
- 1 統計結果の上位3位、年次推移をみて、児童生徒の健康と発達の変化に気づき、要因や背景について仲間と話し合うことができる。
 - 2 健康な児童生徒の管理と教育について、自分の体験と関連させ、表現することができる。
 - 3 テキストにある児童生徒のリスクについて、参考資料をもとに、仲間と協議しながら、自分の言葉で表現することができる。
 - 4 学校における救急処置について根拠を示すことができる

評価方法: 毎回の授業で提出するレポート(=振り返り用紙)

評価割合: 45%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。

ただし、特に主体的に取り組んでいる様子がみられる受講生がいた場合には「思考力・判断力・表現力」の中で加点する。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

ただし、協同学修で仲間に働きかけ、仲間と共に学びを高める姿勢を持った受講生に対しては、直接ほめる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

ただし、授業中の発言や振り返り用紙に人権侵害・差別的な表現がみられた場合、振り返り用紙の作成に不正行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼その他

なし。

評価割合：なし。

授業計画： 第1回：子どもの発達と健康(保健統計含む) 第8講1(松永)
第2回：学校における看護職の役割 第1講3(松永)
第3回：健康な児童生徒のアセスメントと管理(定期健康診断と事後措置) 第6講(松永)
第4回：健康な児童生徒への教育(保健教育、健康相談) 第4.5.7講(松永)
第5回：健康な児童生徒の環境への支援と事後措置、特別支援教育(発達障害) 第12講と第11講2(松永)
第6回：児童生徒の健康課題と支援①特別支援教育、医療的ケア(松永)
第7回：児童生徒の健康課題と支援②心疾患・腎疾患・糖尿病 第9講2.3.4(松永)
第8回：児童生徒の健康課題と支援③アレルギー(松永) 第9講5
第9回：児童生徒の健康課題と支援④児童虐待、性的マイノリティ、薬物乱用 第15講3.4(松永)
第10回：児童生徒の健康課題と支援⑤不登校・摂食障害・いじめ・自殺 第10講(松永)
第11回：児童生徒の健康課題と支援⑥感染症 第8講2(松永)
第12回：学校における救急処置①学校安全、擦り傷・打撲・捻挫の処置 第13講1(松永)
第13回：学校における救急処置②けいれん、嘔吐、救急処置体制 第13講2(松永)
第14回：学校における救急処置③危機管理(リスクマネジメント) 第13講2(松永)
第15回：学校保健経営、保健室経営 第1講1.2、第2講3、第3講(松永)
定期試験

使用テキスト： 柳園順子「学校保健」ミネルヴァ書房

予習・復習のポイントと

参考文献・資料等：

【予習】

- 1 事前課題に取り組む(該当するところにアンダーラインを引いてくる)
- 2 わからないところを明確にしてくる。

【復習】

- 1 次の授業に時に返却された振り返り用紙をその場でもう一度読んでみる。
- 2 可能なら、全員が振り返り用紙を返却するまでの間、他の人のそれを読ませてもらう。
- 2 返却後「前時の復習」をするので、再度知識の確認をする。

【参考資料】

厚生労働統計協会「国民衛生の動向」
徳山美智子ほか「学校保健」東山書房
深井喜代子・前田ひとみ「基礎看護学テキスト」南江堂
藤本真記子「看護技術がみえる①基礎看護技術」メディックメディア
小児看護学のテキスト

【参考HP】

茨城県教育委員会「四訂版 学校保健学校安全管理の手引」(HPでダウンロード可能)
学校保健安全計画

{<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/karada/hoken/tebiki/svou/4-1.pdf>}

文部科学省「学校保健統計調査結果」(最も新しい年度のみ使用)

{https://www.mext.go.jp/content/20221125-mxt_chousa01-000023558.pdf}

学校の新しい生活様式(印刷するなら4枚/1頁でOK)

{https://www.mext.go.jp/content/20210514-mxt_kouhou01-000007426_1.pdf}

文部科学省「学校におけるアレルギー疾患対応資料」

{<https://www.youtube.com/watch?v=caZv1Zwznis>}

日本小児内分泌学会「低身長」

{<http://ispe.umin.jp/public/teisinchou.html>}

日本整形外科学会「成長期の運動器健診の手引き」

{http://www.iOSSM.or.jp/file/iOSSM_tebiki_04.pdf}

Know VPD「結核」

{<http://www.know-vpd.jp/vpdlist/kekaku.htm>}

エアコンを使っても換気が必要(スパコン「富岳」の実験)

{<https://www.r-ccs.riken.jp/jp/fugaku/corona/projects/tsubokura.html>}

ガステック

{https://www.gastec.co.jp/product/detector_tube/summary/}

照度計

<https://www.youtube.com/watch?v=m2D27qbWhew>

騒音計

<https://www.riontec.com/products/school/nl-27/>

ABAセラピストという仕事

https://www.youtube.com/watch?v=J3iRRGHVQjk&feature=emb_title

NPO法人 トータスキップ

<https://www.youtube.com/watch?v=igv49xWzSmU>

大分県教育チャンネル「学校の「医療的ケア」を支える看護師」

<https://www.pref.oita.jp/site/movie/2000990.html>

大分教育チャンネル「病院と学校をつなぐ「遠隔授業」」

<https://www.youtube.com/watch?v=JgkPg2uXtlQ>

大分教育チャンネル「特別支援教育にpepprを活用」

<https://www.pref.oita.jp/site/movie/ict-pepper.html>

特別支援学校の低学年の様子

{大分支援チャンネル No.4 ～小学部低学年の様子～ - YouTube}

院内学級の様子:埼玉県立小児医療センター・けやき特別支援学校

<https://www.youtube.com/watch?v=OPk5xxDecew>

特別支援学級の様子

https://www.youtube.com/watch?v=0GJP_A17Q1E

川崎病(「診断と検査」の前まで)

https://www.nhk.or.jp/kenko/atc_436.html

ネフローゼ症候群

<https://www.youtube.com/watch?v=HacYcGoLSOU>

糖尿病

https://www.youtube.com/watch?v=wqW-7b8LhCU&feature=emb_title

食物アレルギー

<https://www.meiji.co.jp/meiji-shokuiku/food-allergy/>

アナフィラキシー

<https://allergy72.jp/anaphylaxis/symptom.html>

厚生労働省「MDMA・大麻・違法ドラッグは「ダメ。ゼッタイ。」」

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/dl/mdma.pdf>

佐倉むらさきライオンズクラブ 小学生用薬物動画

<https://www.sakura-murasaki-lions.com/2020/01/24/%E8%96%AC%E7%89%A9%E4%B9%B1%E7%94%A8%E9%98%B2%E6%AD%A2%E6%95%99%E5%AE%A4-%E7%8E%8B%E5%AD%90%E5%8F%B0%E5%B0%8F%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E3%81%A7%E9%96%8B%E5%82%AC/>

Hells Gate 警視庁 青年用薬物動画

https://www.keishicho.metro.tokyo.jp/about_mpd/ioho/movie/sotai/hellsgate/223.html

三共ヘルスケア

https://www.daiichisankyo-hc.co.jp/health/symptom/08_nenza/

松田整形外科記念病院 捻挫

<https://www.matsuda-oh.com/treatment/018/>

環行帯1(お勧め)

<https://www.youtube.com/watch?v=JmtpZU5OUIE>

環行帯2(お勧め)

{基本包帯法}①環行帯 - YouTube}

環行帯3(お勧めしない)

{お勧めしない動画

<https://www.kango-roo.com/mv/257/>

螺旋帯

<https://www.youtube.com/watch?v=UhvudYktNM>

湘南鎌倉総合病院 麦穂帯

<https://www.youtube.com/watch?v=8WgigoRozGs>

文部科学省 学校におけるアレルギー疾患対応資料

<https://www.youtube.com/watch?v=caZv1Zwznis>

横須賀市消防局救急課による「小児・乳児(こども・赤ちゃん)に対する心肺蘇生法講習会」

https://www.youtube.com/watch?v=3w_wx7T8_ts

みんなの介護「感染症対策の正しい嘔吐物処理を徹底解説」

<https://www.minnanokaigo.com/channel/excretion/no4/>

保土ヶ谷区HP「実践で学ぶ嘔吐物処理」

https://www.youtube.com/watch?v=iSfVYPag_pE

てんかんinfo

https://www.tenkan.info/commentary_movie/

不審者対応マニュアル「学校を守れ不審者の侵入を防ぐ?」

{不審者対策: <http://www.kyowafilm.com/bohan.htm>}

NHK 大阪池田小 児童殺傷事件

https://www2.nhk.or.jp/archives/tv60bin/detail/index.cgi?das_id=D0009030305_00000

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。教員にご相談ください。

授業時間外の連絡手段: 研究室か学務部にお越しください。

留意事項: ○ 出席は授業開始時のレポート(=振り返り用紙)返却、授業終了時のレポート(=振り返り用紙)によって行います。
☆ 第1回からテキストを使用します。テキストを読み、テキストに書き込む授業です。急いでテキストを購入してください。

科目コード: 31204 **科目ナンバリング: NU20A21E** **主な使用言語: 日本語**

授業名(英文): 学校保健 b(School Health b)

担当者: 松永 恵

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 教職 看護 保健

AL要素: 03実験・実技・体験

08協同学修

15振り返り用紙と応答

授業の概要: 児童生徒の健康な成長は家庭と学校の協力によって導かれるものである。学校内外で支援する看護職は、児童生徒の健康状態を知り、さらに学校教育の仕組みを知り、皆が取り組みやすい、効果的な支援を考えなければならない。

本演習では自身の成長と学校生活を思い出し、行われてきたことの意味に気づき、これまでしてもらってきたことを理解すると同時に、専門職として必要な視点を身につけさせたい。健康課題については高等学校卒業程度の知識を持っていることを想定し、授業を進める。高等学校の教科書や新聞、ニュースなどで理解を進めておいてほしい。

演習の中では、授業者の実務経験を活かし、受講生が児童生徒だった頃、身近に感じていたと思われるような課題を提示したい。学生は児童生徒として、また看護職として、複数の視点で課題を捉え、話し合い、支援する方法について考え、学びあってほしい。

また学校でよく起こる傷病への一般的な対応について体験し、困っている児童生徒の元に走り寄り対応できるよう方向づけたい。

授業は予習用に設定した事前課題に取り組み出席することを前提とする。授業は以下のように進める。

- 1 前時の復習(個人レポート(=振り返り用紙)のまとめ)
- 2 本時の課題を進める上で、必要な内容の説明と質疑応答
- 3 事前課題を発展させた課題に取り組む(個人レポート(=振り返り用紙))

教員が説明することはごくわずかしがなく、受講生が学びを深めるためには、1で疑問を明確にし、2で教員に質問し、疑問を解決してから3に臨むことが重要である。

キーワード： 学校保健、健康、発達、リスク、組織、健康診断、環境、応急処置

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：

- 1 児童生徒の健康と発達について、統計結果から説明することができる。
- 2 学校保健における看護職の歴史について説明できる
- 3 健康な児童生徒の管理と教育について説明できる
- 4 児童生徒のリスクと管理について説明できる
- 5 学校における救急処置について根拠を理解しながら実施できる
- 6 学校保健活動が組織的に行われていることを説明しできる

評価方法： 定期試験

評価割合： 55%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標：**
- 1 統計結果の上位3位、年次推移をみて、児童生徒の健康と発達の変化に気づき、要因や背景について仲間と話し合うことができる。
 - 2 健康な児童生徒の管理と教育について、自分の体験と関連させ、表現することができる。
 - 3 テキストにある児童生徒のリスクについて、参考資料をもとに、仲間と協議しながら、自分の言葉で表現することができる。
 - 4 学校における救急処置について根拠を示すことができる

評価方法： 毎回の授業で提出するレポート(=振り返り用紙)

評価割合： 45%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。

ただし、特に主体的に取り組んでいる様子がみられる受講生がいた場合には「思考力・判断力・表現力」の中で加点する。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

ただし、協同学修で仲間働きかけ、仲間と共に学びを高める姿勢を持った受講生に対しては、直接ほめる。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。

ただし、授業中の発言や振り返り用紙に人権侵害・差別的な表現がみられた場合、振り返り用紙の作成に不正行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼ その他

なし。

評価割合： なし。

授業計画： 第1回:子どもの発達と健康(保健統計含む) 第8講1(松永)

- 第2回:学校における看護職の役割 第1講3(松永)
 第3回:健康な児童生徒のアセスメントと管理(定期健康診断と事後措置)第6講(松永)
 第4回:健康な児童生徒への教育(保健教育、健康相談)第4.5.7講(松永)
 第5回:健康な児童生徒の環境への支援と事後措置、特別支援教育(発達障害)第12講と第11講2(松永)
 第6回:児童生徒の健康課題と支援①特別支援教育、医療的ケア(松永)
 第7回:児童生徒の健康課題と支援②心疾患・腎疾患・糖尿病 第9講2.3.4(松永)
 第8回:児童生徒の健康課題と支援③アレルギー(松永)第9講5
 第9回:児童生徒の健康課題と支援④児童虐待、性的マイノリティー、薬物乱用 第15講3.4(松永)
 第10回:児童生徒の健康課題と支援⑤不登校・摂食障害・いじめ・自殺 第10講(松永)
 第11回:児童生徒の健康課題と支援⑥感染症 第8講2(松永)
 第12回:学校における救急処置①学校安全、擦り傷・打撲・捻挫の処置 第13講1(松永)
 第13回:学校における救急処置②けいれん、嘔吐、救急処置体制 第13講2(松永)
 第14回:学校における救急処置③危機管理(リスクマネジメント) 第13講2(松永)
 第15回:学校保健経営、保健室経営 第1講1.2、第2講3、第3講(松永)
 定期試験

使用テキスト: 柳園順子「学校保健」ミネルヴァ書房

予習・復習のポイントと 【予習】

参考文献・資料等:

- 1 事前課題に取り組む(該当するところにアンダーラインを引いてくる)
- 2 わからないところを明確にしてくる。

【復習】

- 1 次の授業に時に返却された振り返り用紙をその場でもう一度読んでみる。
- 2 可能なら、全員が振り返り用紙を返却するまでの間、他の人のそれを読ませてもらう。
- 2 返却後「前時の復習」をするので、再度知識の確認をする。

【参考資料】

厚生労働統計協会「国民衛生の動向」
 徳山美智子ほか「学校保健」東山書房
 深井喜代子・前田ひとみ「基礎看護学テキスト」南江堂
 藤本真記子「看護技術がみえる①基礎看護技術」メディックメディア
 小児看護学のテキスト

【参考HP】

茨城県教育委員会「四訂版 学校保健学校安全管理の手引」(HPでダウンロード可能)
 学校保健安全計画

{<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/karada/hoken/tebiki/svou/4-1.pdf>}

文部科学省「学校保健統計調査結果」(最も新しい年度のみ使用)

{https://www.mext.go.jp/content/20221125-mxt_chousa01-000023558.pdf}

学校の新しい生活様式(印刷するなら4枚/1頁でOK)

{https://www.mext.go.jp/content/20210514-mxt_kouhou01-000007426_1.pdf}

文部科学省「学校におけるアレルギー疾患対応資料」

{<https://www.youtube.com/watch?v=caZv1Zwznis>}

日本小児内分泌学会「低身長」

{<http://jspe.umin.jp/public/teisinchou.html>}

日本整形外科学会「成長期の運動器健診の手引き」

{http://www.jossm.or.jp/file/jossm_tebiki_04.pdf}

Know VPD「結核」

{<http://www.know-vpd.jp/vpdlist/kekkaku.htm>}

エアコンを使っても換気が必要(スパコン「富岳」の実験)

{<https://www.r-ccs.riken.jp/jp/fugaku/corona/projects/tsubokura.html>}

ガステック

{https://www.gastec.co.jp/product/detector_tube/summary/}

照度計

{<https://www.youtube.com/watch?v=m2D27qbWhew>}

騒音計

{<https://www.riontec.com/products/school/nl-27/>}

ABAセラピストという仕事

https://www.youtube.com/watch?v=J3iRRGHVQjk&feature=emb_title

NPO法人 トータスキッズ

<https://www.youtube.com/watch?v=igv49xWzSmU>

大分県教育チャンネル「学校の「医療的ケア」を支える看護師」

<https://www.pref.oita.jp/site/movie/2000990.html>

大分教育チャンネル「病院と学校をつなぐ「遠隔授業」」

<https://www.youtube.com/watch?v=JgkPq2uXtlQ>

大分教育チャンネル「特別支援教育にpepprを活用」

<https://www.pref.oita.jp/site/movie/ict-pepper.html>

特別支援学校の低学年の様子

{大分支援チャンネル No.4 ～小学部低学年の様子～ - YouTube}

院内学級の様子:埼玉県立小児医療センター・けやき特別支援学校

<https://www.youtube.com/watch?v=OPk5xxDecew>

特別支援学級の様子

https://www.youtube.com/watch?v=0GJP_A17Q1E

川崎病(「診断と検査」の前まで)

https://www.nhk.or.jp/kenko/atc_436.html

ネフローゼ症候群

<https://www.youtube.com/watch?v=HacYcGolSOU>

糖尿病

https://www.youtube.com/watch?v=wqW-7b8LhCU&feature=emb_title

食物アレルギー

<https://www.meiji.co.jp/meiji-shokuiku/food-allergy/>

アナフィラキシー

<https://allergy72.jp/anaphylaxis/symptom.html>

厚生労働省「MDMA・大麻・違法ドラッグは「ダメ。ゼッタイ。」」

<https://www.mhlw.go.jp/bunva/ivakuhin/dl/mdma.pdf>

佐倉むらさきライオンズクラブ 小学生用薬物動画

<https://www.sakura-murasaki-lions.com/2020/01/24/%E8%96%AC%E7%89%A9%E4%B9%B1%E7%94%A8%E9%98%B2%E6%AD%A2%E6%95%99%E5%AE%A4-%E7%8E%8B%E5%AD%90%E5%8F%B0%E5%B0%8F%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E3%81%A7%E9%96%8B%E5%82%AC/>

Hells Gate 警視庁 青年用薬物動画

https://www.keishicho.metro.tokyo.jp/about_mpd/joho/movie/sotai/hellsgate/223.html

三共ヘルスケア

https://www.daiichisankyo-hc.co.jp/health/symptom/08_nenza/

松田整形外科記念病院 捻挫

<https://www.matsuda-oh.com/treatment/018/>

環行帯1(お勧め)

<https://www.youtube.com/watch?v=JmtpZU5OUIE>

環行帯2(お勧め)

{基本包帯法}①環行帯 - YouTube}

環行帯3(お勧めしない)

{お勧めしない動画

<https://www.kango-roo.com/mv/257/>

螺旋帯

<https://www.youtube.com/watch?v=Uhvu6dYktNM>

湘南鎌倉総合病院 麦穂帯

<https://www.youtube.com/watch?v=8WgigoRozGs>

文部科学省 学校におけるアレルギー疾患対応資料

<https://www.youtube.com/watch?v=caZv1Zwznis>

横須賀市消防局救急課による「小児・乳児(こども・赤ちゃん)に対する心肺蘇生法講習会」

https://www.youtube.com/watch?v=3w_wx7T8_ts
みんなの介護「感染症対策の正しい嘔吐物処理を徹底解説」
<https://www.minnanokaigo.com/channel/excretion/no4/>
保土ヶ谷区HP「実践で学ぶ嘔吐物処理」
https://www.youtube.com/watch?v=iSfVYPag_pE
てんかんinfo
https://www.tenkan.info/commentary_movie/

不審者対応マニュアル「学校を守れ不審者の侵入を防ぐ?」
{不審者対策:http://www.kyowafilm.com/bohan.htm}
NHK 大阪池田小 児童殺傷事件
https://www2.nhk.or.jp/archives/tv60bin/detail/index.cgi?das_id=D0009030305_00000

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。教員にご相談ください。

授業時間外の連絡手段: 研究室か学務部にお越しください。

留意事項: ○ 出席は授業開始時のレポート(=振り返り用紙)返却、授業終了時のレポート(=振り返り用紙)によって行います。
☆ 第1回からテキストを使用します。テキストを読み、テキストに書き込む授業です。急いでテキストを購入してください。

科目コード:31205 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 学校健康相談(School Health Counseling)

担当者: 松永 恵

基本情報

年次:カリキュラム

単位数:1

授業形式:講義

曜時:木曜5限 木曜6限

履修可能学科・専攻: N

関連資格:教職 看護

AL要素: 02模擬実践

07発表

11討論

13役割演技と疑似体験

授業の概要: 学校における、養護教諭ならではの健康相談を体験しながら、理論を理解する。
学校で、子どもが「相談があります」と言ってくることはほぼない。学校健康相談は、養護教諭が子どもの様子から相談ニーズに気づき、働きかけることから始まる積極的な活動である。働きかけると言っても直接子どもから悩みを聴きだすことはほぼない。様々な場面で子どもを知り、察し、見守る姿勢が求められる。並行して、重篤な状態に陥らないような観察も行わなければならない。複雑な活動である。
本講義は、主に保健室における救急処置場面をとりあげ、ロールプレイングを行いながら、学校健康相談の原理に気づいていくよう構成する。受講生には、本講義のテキストのみならず、学校でおこりやすい傷病とその処置を科学的に理解して臨むことにより、子どもを察する力の成長を望みたい。
授業者は実務経験を活かし、学生の理解度に応じた事例を提供する。また、学生が行ったロールプレイングに対し具体的に意味づけ、体験を通じた学びを得られるよう支援する。

キーワード: 学校 健康相談 見立て

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1 応急処置の過程を説明できる

- 4 学校健康相談の目的と意義を説明できる
- 5 学校健康相談の過程を説明できる

評価方法: 定期試験

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
- 2 子どもをまるごと捉えられるような問診項目群を考えることができる
 - 3 受容することと、受容しがたいことを表現できる
 - 6 子どもの状況に応じ、子どもにとって最終的に安心できるために連携すべき職種と具体的な方法について表現できる
 - 7・8 何らかの相談ニーズを感じる子どもへの学校健康相談の過程を展開することができる

評価方法: レポート

評価割合: 50%

ノートを含めたポートフォリオ

▼学修に主体的に取り組む態度

- 予習に積極的に取り組んできたことがわかる
- 授業中に発言する
- グループワークで意見を表明する

評価割合: 5%

▼実践的ボランティア

- グループワークにおいて、仲間の意見を尊重しながら目的に向かって進めていこうとする
- ロールプレイングにおいて、子どもを真剣に理解しようと努める

評価割合: 5%

▼公正性

評価割合には含めないが、子どもの悩みは社会的な問題につながっていることが多いため、子どもや家族を卑下するような姿勢がみえた場合には厳しく指導する。

評価割合: 0%

▼その他

なし

評価割合: なし

- 授業計画:**
- 第1回 応急処置の過程と並行する学校健康相談
 - 第2回 子どもの背景を知る問診
 - 第3回 学校健康相談における「受容」
 - 第4回 学校健康相談の目的と意義
 - 第5回 学校健康相談の過程
 - 第6回 学校健康相談における多職種連携と「甘やかし」
 - 第7回 事例1
 - 第8回 事例2

使用テキスト: 大谷尚子ほか「新版 養護教諭の行う健康相談」東山書房
加藤啓一「いざという時の応急手当ハンドブック」少年写真新聞社(前年度に購入済みのものを使用し
て構わない)

予習・復習のポイントと

参考文献・資料等: 【参考書】
森田光子「養護教諭の健康相談ハンドブック」東山書房
養護教諭の相談を学ぶ会「養護教諭の相談的対応—子どものこころに寄り添う」学事出版
(電子書籍のみ)

【予習】(各1時間以上)

- <第1回の開始前>「いざという時の応急手当ハンドブック」を読み、学校におこりやすい
けがの処置を理解するのみならず、できるようにしておく
- <第2回以降>テキストの該当する箇所を読んでくる。どこを読んだらよいかわからない時

- には、教員に質問する
【復習】(各1.5時間以上)
○ 授業後に「振り返りシート」をまとめる

障がいのある履修者への対応: 心身の障害、心的外傷体験等により、とりあげてほしくない事例があれば、事前に申し出てください。

授業時間外の連絡手段: 基本的にはメールを使用する。
教員が研究室に在室している際には、予約をとり来てもよい。

留意事項: なし

科目コード: 31206 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語
授業名(英文): 公衆衛生看護学実習B(活動展開の応用)(Public Health Nursing Practicum B)
担当者: 叶多 博美、若林 千津子、園部 律子

基本情報

年次: 4	単位数: 4	授業形式: 実習
曜時: 実習		履修可能学科・専攻: N
関連資格: 教職 保健		AL要素: 01.実地訓練 04.課題解決 07.発表 08.協同学修 09.実地調査 10.資料調査課題 11.討論 15.レポート指導

授業の概要: 公衆衛生看護活動の実践の場として、市町村保健センターにおいては地域住民に身近な対人サービスを総合的に行う拠点としての機能や保健師の役割を理解する。
保健所においては地域保健の広域的・専門的・技術的拠点としての機能と保健師の役割を理解する。
事業所においては、労働環境と健康課題との関連、および労働衛生管理のあり方と看護職の役割を理解する。
市町村保健センター、保健所ならびに事業所における学びを統合し、公衆衛生看護への理解を深めることを目指す。

キーワード: 公衆衛生看護活動、市町村保健センター、保健所、事業所、産業保健、地域包括支援センター、地域診断、保健事業、家庭訪問、健康相談、健康診査、健康教育、地域組織育成、労働衛生管理、地域包括ケアシステム、多職種連携

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
- ・市町村の保健福祉行政の概要が理解できる。
 - ・保健所の機能が理解できる。
 - ・産業の場における看護職の機能と役割が理解できる。
 - ・地域住民および職場集団の健康課題に対応した保健事業のPDCAサイクルについて理解できる。
 - ・保健師活動における関係機関・職種との連携について理解できる。

評価方法: 実習日誌、
保健事業記録、発表、
最終レポート

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ・公衆衛生看護活動を展開するための地域診断のプロセスを学ぶことができる。
・地域住民および労働者のセルフケア能力を高める保健師の支援について理解できる。
・保健医療福祉チームのメンバーの一員としての自覚を持つことができる。
・実習報告会において、他市町村の健康課題や保健師活動との相違点を理解できる。
・自己の学習過程の振り返りを通して、今後の学習課題を明らかにできる。

評価方法: 地域診断レポート、
地区踏査計画書、実習前踏査レポート、
実習日誌、保健事業記録、
家庭訪問記録、
発表、最終レポート

評価割合: 45%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ内でのリーダーシップ・メンバーシップ、および実習指導者からの情報をもとに評価する。

評価割合: 15%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が実習記録やカンファレンス時の発言等により認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、臨地実習期間中の関係職種および住民への言動、カンファレンス等での発言や実習記録において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合は、嚴重注意する。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【市町村保健センター】

4名程度のグループ構成で4週間の臨地実習を行う。

1. 保健事業へ参加する。
2. 地域組織活動へ参加する。
3. 家庭訪問に同行する。
4. 地区踏査を実施する。
5. カンファレンスを実施し、日々の学びを考察する。

【保健所】

3保健所で2日間行う。

1日目:保健所別 県内実習生一斉オリエンテーション(5月上旬)

2日目:保健所実習 8名のグループ編成で行う。

【事業所】

日立製作所健康管理センターにて、3~4名のグループ編成で1日間行う。

* 詳細は2023年度公衆衛生看護学実習B要綱を参照。

使用テキスト: 標美奈子ほか著「標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論」医学書院
中村裕美子ほか著「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第3版」医学書院
中谷芳美ほか著「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」医学書院
岸恵美子ほか編「保健学講座3 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社
「国民衛生の動向 2022/2023」厚生労働統計協会

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 事前準備学習

既存資料による実習市町村の地域診断 15時間
実習市町村の地区踏査(市町村役場所在地および最少学童数の小学校区) 4時間
実習市町村の健康カレンダーの読み込み 2時間
実習市町村の地区踏査計画書作成 2時間
レポート「市町村実習で学びたいこと」 2時間

事業所アセスメント「健康課題とその対策」 4時間

健康教育企画書・指導案・媒体案・せりふ原稿の作成(健康教育を行う場合)15時間

実習保健所の業務概要の読み込み 2時間
レポート「保健所実習で学びたいこと」 2時間

3年次までの公衆衛生看護に関する既習科目の復習・情報整理 春季休業中
個人で作成した地域診断を基に、実習グループとしての地域診断を行う。
個人で作成した健康教育企画書等を基に、実習グループとしての健康教育企画書等の作成を行う(健康教育を行う場合)。

参考書

「公衆衛生がみえる 2022-2023」メディックメディア

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応すると共に、UNIPAで必要事項を連絡することが多くなりますので、こまめにUNIPAを確認してください。

留意事項: 事前の学習課題については、時間管理をしながら進めること。
実習中は保健師活動を学ぶ者として社会規範に基づいた行動が求められるので、十分な心構えが大切です。

科目コード:31207 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語、海外の演**

授業名(英文): 異文化看護演習(Seminar of Cross-Cultural Nursing)

担当者: 大内 玲

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:前期(月曜6限)、後期(月曜6限)

履修可能学科・専攻: N

関連資格:看護 保健

AL要素: 01.実地訓練

07.発表

08.協同学修

授業の概要: 諸外国の保健医療システム・看護・文化について体験を通じて学習し、わが国との比較を通じて、看護の概念に関する視野を広げるとともに、看護の普遍性・多様性・看護職の役割について学ぶ。

キーワード: 多様性、国際看護・保健システム

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 諸外国の保健医療システム・看護・文化について学習し、わが国との比較をふまえた現地におけるトピックプレゼンテーション・演習後の学習内容の報告を行うことができる。

評価方法: ・トピックに関するプレゼンテーション資料 **評価割合: 30%**
・報告会資料

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる

評価方法: ・トピックに関するプレゼンテーション **評価割合: 40%**
・演習後報告会におけるプレゼンテーション

▼ 学修に主体的に取り組む態度

現地での演習への積極的な参加および、自主的な学修によってグループで行われるトピックプレゼンテーション・報告会資料作成に貢献できる。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、演習中の発言やプレゼンテーション等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: ※ コロナウイルス感染症の拡大など、社会情勢によっては開講中止となる可能性あり。

本演習では、諸外国の保健医療システム・看護・文化について、実際の現地での講義・看護の場である病院および施設の見学等の体験を通じて学習し、国際的な視野に立ち、看護の普遍的な概念や看護師の役割について考える。また現地での研修の前には、自らわが国の健康や看護に関連するトピックを選定し、現地でのプレゼンテーションに向けた事前の準備を行う。さらに現地での研修終了後には、体験したこと・学び得たことをまとめ、共有することを目的とした報告会を学内において実施する。

- 【第01回】オリエンテーション(本科目の概要・事前学習および準備等)
- 【第02回】講義・グループワーク(トピックに関する準備等)
- 【第03回】グループワーク(トピックに関する準備等)
- 【第04～05回】直前オリエンテーション(安全・最終確認等)
- 【第06～28回】現地での研修
(講義・病院および施設の見学実習・トピックに関するプレゼンテーションなど)
- 【第29～30回】報告会

使用テキスト: 適宜、指示する

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:** 適宜、指示する

**障がいのある
履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については別途お知らせします。

留意事項： 海外での演習費用が別途かかります。また、海外演習でプレゼンテーションを含め英語でのコミュニケーションが求められます。渡航先の国が日本からの入国に制限を課す場合(ワクチン接種証明を含む)など履修が許可されないことがあります。

科目コード : 31208 科目ナンバリング : 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 研究方法論演習I-1(Nursing Research Methodology I-1)

担当者 : 池袋 昌子

基本情報

年次 : 4

単位数 : 1

授業形式 : 演習

曜時 : 土曜1限

履修可能学科・専攻 : N

関連資格 : 看護 保健

AL要素 : 08. 協同学修
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要： グループワークや指導教員とのゼミを通して、看護研究の意義・プロセスの学修を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を修得する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 1. 研究テーマとして設定した動機、意義と目的を説明することができる。
2. 研究テーマに関する文献を検索することができる。
3. クリテイクに関する知識と基準を説明できる。
4. 倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。

評価方法： ・文献の分類・整理
・クリテイク
・研究計画書
・倫理的配慮

評価割合： 40%

・総合的に判断する

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 1. 研究テーマを絞り込むことができる。
2. 先行研究をクリテイクすることができる。
3. 倫理的配慮をふまえ、研究方法(研究デザイン、アプローチ、対象者、調査期間、データの収集・分析方法)を考えることができる。
4. 研究計画書を作成し、発表することができる。
5. ディスカッションに参加し、情報と課題の共有化を図り、自己の研究計画書に反映させることができる。

評価方法： ・研究計画書
・発表
・ディスカッションへの参加度

評価割合： 50%

・総合的に判断する。

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画： 【第01回】ガイダンス (4月)
【第02回】文献レビュー、リサーチクエッション 研究テーマの設定
【第03回】文献レビュー、研究テーマの設定
【第04回】文献レビュー、研究テーマの設定
【第05回】文献レビュー、研究テーマの設定
【第06回】研究計画書の作成 (5月～6月)
【第07回】研究計画書の作成
【第08回】研究計画書の作成
【第09回】研究計画書の作成
【第10回】調査等の実施準備 (7月)
【第11回】調査等の実施準備
【第12回】調査等の実施準備
【第13回】調査等の実施準備
【第14回】調査等の実施準備
【第15回】調査等の実施準備

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと「研究方法論」での学修を踏まえて履修する。また担当教員と相談しながら進める。

参考文献・資料等：

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーに研究室で対応する。
曜日・時限等については初回に連絡する。

留意事項： 自らの興味・関心のある事柄について深めておく。

可能であれば、デバイス(パソコン)を持参する(必携ではないが、デバイスの持参を推奨)。

科目コード：31208 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習I-2(Nursing Research Methodology I-2)

担当者： 市野沢 征子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習
09実地調査

授業の概要: グループワークや指導教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード: 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ・看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・説明することができる。

評価方法: 研究計画書

評価割合: 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ・研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。
・研究課題と研究目的が明確にできる。
・倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することが出来る。

評価方法: 研究計画書

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合: 0%

▼その他

・特になし。

評価割合: ・特になし。

授業計画: 【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定 (4月)
【第06～09回】研究計画書の作成 (5月)
【第10～15回】調査等の実施準備 (7月)

使用テキスト: 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: これまでの実習などで疑問を持ったことを大切に、自分の関心を深めておくこと。

「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。

その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：31208 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習I-3(Nursing Research Methodology I-3)

担当者： 海野 潔美

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻： N

関連資格：看護 保健

AL要素： 08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要： グループワークや指導教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： ・看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・説明することができる。

評価方法： 研究計画書

評価割合： 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： ・研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。
・研究課題と研究目的が明確にできる。
・倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。

評価方法： 研究計画書

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合： 30%

▼ 実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合： 0%

▼ その他

・特になし。

評価割合： ・特になし。

授業計画： 【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定（4月）

【第06～09回】研究計画書の作成（5月）

【第10～15回】調査等の実施準備（7月）

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： これまでの実習などで疑問を持ったことを大切に、自分の関心を深めておくこと。

「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項： 特になし。

科目コード：31208 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習I-4(Nursing Research Methodology I-4)

担当者： 宇留野 由紀子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習

09実地調査

11討議15レポート指導

授業の概要： グループワークや指導教員とのゼミを通して、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究のプロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1.研究の意義や目的について説明できる。
2.研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。

評価方法： 論文を批判的に読み、発表、ゼミへの参加度で評価する。 **評価割合：**20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 3.研究課題と研究目的が明確にできる。
4.倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。

評価方法： 作成された研究計画書についてプレゼンテーションを行い目標に沿っているかを評価する **評価割合：**50%

▼学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のあるテーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接の対象者にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更生を欠く言動があった場合は注意する。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【第01～05】文献レビュー、研究テーマの設定（4月）
【第06～09】研究計画書の作成（5月）
【第10～15】調査等の実施準備（7月）

使用テキスト： 必要時指示する。

予習・復習のポイントと これまでの実習などで疑問にもったことを大切にして、自分の関心を深めておくこと。
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応するので、学務部および担当教員に申し出ること。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合は、予めメールで連絡する。その他、オフィスアワーにも研究室で対応する。

留意事項： 可能な限り、研究の興味のあるものに沿って進めていくが、倫理的配慮が必要なものであれば、内容を変更する場合もある。

科目コード：31208

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語|英語

授業名(英文)： 研究方法論演習I -5(Nursing Research Methodology I -5)

担当者： 大内 玲

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻： N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要： グループワークや指導教員とのゼミをとおして、研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード： 研究、科学的思考、研究倫理、集中治療、クリティカルケア、統計、クリティーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 研究の意義や目的を踏まえ、研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・実施し、説明することができる。

評価方法： レポート

評価割合：30%

研究計画書

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 研究の意義や目的を踏まえて、自らの研究テーマを設定することができる。
研究テーマを踏まえて、研究計画書を作成することができる。

評価方法：レポート

評価割合：40%

研究計画書

▼学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく公正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【第01～05回】文献の探し方、文献レビュー、研究テーマの設定（4月）

- ・研究テーマ設定
- ・先行研究を見つける
- ・先行研究を読む
- ・研究デザインについて
- ・研究計画書作成について

【第06～09回】研究計画書の作成（5月）

【第10～15回】調査等の実施準備（7月）

グループでのゼミ形式と個別指導で実施する。

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと 担当教員と相談しながら進める。

参考文献・資料等： 興味、関心のあることをキーワードとして書き出してくること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。

留意事項： 適宜、プレゼンテーションを行う。

科目コード：31208 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：研究方法论演習I-6(Nursing Research Methodology I-6)

担当者：小野 加奈子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： グループワークや指導教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード： 看護研究、母性看護、卒業研究、質的研究、量的研究

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画し、説明することができる。

評価方法: 研究計画書他

評価割合: 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標:

- ・看護研究の意義や目的について説明できる。
- ・研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。
- ・研究課題と研究目的が明確にできる。
- ・倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することが出来る。

評価方法: 研究計画書他

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく公正を欠く言動があった場合には厳重に注意をする。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01～05回】 文献レビュー、研究テーマの設定 (4月)
【第06～09回】 研究計画書の作成 (5月)
【第10～15回】 調査等の実施準備 (7月)

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: これまでの経験や実習を振り返り、自分の取り組みたい研究テーマについて考え、そのテーマに関する文献を読んでみてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 研究室にて対応します。連絡手段は、初回にお知らせします。

留意事項: 円滑に研究を進めていくためにも積極的に教員とコンタクトをとってください。

科目コード: 31208

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 研究方法論演習I -7(Nursing Research Methodology I -7)

担当者: 小幡 明香

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要： グループワークや指導教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 看護研究の意義や目的について説明できる。
研究課題に関する文献を検索できる。

評価方法： 研究計画書やプレゼンテーション資料

評価割合： 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 先行研究を批判的に読むことができる。
研究課題と研究目的が明確にできる。
倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することが出来る。

評価方法： 研究計画書やプレゼンテーション資料

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合： 30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合： 0%

▼その他

・特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定（4月）

【第06～09回】研究計画書の作成（5月）

【第10～15回】調査等の実施準備（7月）

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと これまでの学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。
参考文献・資料等：

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応する。

留意事項: 質問等あればメールもしくは面談で受け付ける。

科目コード: 31208 **科目ナンバリング:** **主な使用言語: 日本語**

授業名(英文): 研究方法論演習I-8(Nursing Research Methodology I-8)

担当者: 角田 智美

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 土曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 08. 協同学修
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要: グループワークや指導教員とのゼミを通して、看護研究の意義・プロセスの学修を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を修得する。

キーワード: 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1. 研究テーマとして設定した動機、意義と目的を説明することができる。
2. 研究テーマに関する文献を検索することができる。
3. クリティークに関する知識と基準を説明できる。
4. 倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。

評価方法: ・文献の分類・整理

評価割合: 40%

・クリティーク
・研究計画書
・倫理的配慮

・総合的に判断する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 1. 研究テーマを絞り込むことができる。
2. 先行研究をクリティークすることができる。
3. 倫理的配慮をふまえ、研究方法(研究デザイン、アプローチ、対象者、調査期間、データの収集・分析方法)を考えることができる。
4. 研究計画書を作成し、発表することができる。
5. ディスカッションに参加し、情報と課題の共有化を図り、自己の研究計画書に反映させることができる。

評価方法: ・研究計画書

評価割合: 50%

・発表
・ディスカッションへの参加度

・総合的に判断する。

▼学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画： 【第01回】ガイダンス (4月)
【第02回】文献レビュー、リサーチクエッション 研究テーマの設定
【第03回】文献レビュー、研究テーマの設定
【第04回】文献レビュー、研究テーマの設定
【第05回】文献レビュー、研究テーマの設定
【第06回】研究計画書の作成 (5月～6月)
【第07回】研究計画書の作成
【第08回】研究計画書の作成
【第09回】研究計画書の作成
【第10回】調査等の実施準備 (7月)
【第11回】調査等の実施準備
【第12回】調査等の実施準備
【第13回】調査等の実施準備
【第14回】調査等の実施準備
【第15回】調査等の実施準備

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと「研究方法論」での学修を踏まえて履修する。また担当教員と相談しながら進める。
参考文献・資料等：

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーに研究室で対応する。
曜日・時限等については初回に連絡する。

留意事項： 自らの興味・関心のある事柄について深めておく。

可能であれば、デバイス(パソコン)を持参する(必携ではないが、デバイスの持参を推奨)。

科目コード：31208 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習I-9(Nursing Research Methodology I-9)

担当者： 梶原 順子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻： N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習
09実地調査
11討論
15レポート指導

授業の概要： グループワークや指導教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 看護研究の意義や目的をふまえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・説明することができる。

評価方法： 研究計画書

評価割合： 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： ・研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。
・研究課題と研究目的が明確にできる。
・倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。

評価方法： 研究計画書

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合： 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく公正を欠く言動があった場合には注意をする

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定(4月)

【第06～09回】研究計画書の作成(5月)

【第10～15回】調査等の実施準備(7月)

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する

予習・復習のポイントと ・これまでの実習などで疑問を持ったことを大切に、自分の関心を深めておくこと。

参考文献・資料等： ・「研究方法論」での学習をふまえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部および担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ・ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
・その他オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項： 特になし

科目コード : 31208 科目ナンバリング : 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 研究方法論演習I-10(Nursing Research Methodology I-10)

担当者 : 叶多 博美

基本情報

年次 : 4 単位数 : 1 授業形式 : 演習

曜時 : 土曜1限 履修可能学科・専攻 : N

関連資格 : 看護 保健 AL要素 : 08協同学習
11討論
15レポート指導

授業の概要 : グループワークや指導教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

ゼミへの参加度、及び作成された研究計画書についてプレゼンテーションを行ない、研究背景の明確化、先行研究の活用、研究目的、研究方法、倫理的配慮が示されているかを評価する。

キーワード : 看護研究 科学的思考 研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 1. 看護研究の意義や目的について説明できる。
2. 研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。

評価方法 : 研究計画書 等 **評価割合 :** 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 1. 研究課題と研究目的が明確にできる。
2. 倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することが出来る。

評価方法 : 研究計画書 等 **評価割合 :** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合 : 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が研究計画書等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。
ただし、ゼミ中の発言や研究計画書等の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画 : 【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定 (4月)

【第06～09回】研究計画書の作成（5月）

【第10～15回】調査等の実施準備（7月）

使用テキスト： 必要時指示する

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： これまでの実習などで疑問を持ったことを大切にして、自分の関心を深めておくこと。

参考文献・資料等は必要時紹介します。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：31208 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習I-11(Nursing Research Methodology I-11)

担当者： 栢内 直美

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08. 協同学修
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要： グループワークや指導教員とのゼミを通して、看護研究の意義・プロセスの学修を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を修得する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標： 1. 研究テーマとして設定した動機、意義と目的を説明することができる。
2. 研究テーマに関する文献を検索することができる。
3. クリティークに関する知識と基を説明できる。
4. 倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。

評価方法： ・文献の分類・整理
・クリティーク

評価割合：40%

- ・研究計画書
- ・倫理的配慮

- ・総合的に判断する

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
1. 研究テーマを絞り込むことができる。
 2. 先行研究をクリティークすることができる。
 3. 倫理的配慮をふまえ、研究方法(研究デザイン、アプローチ、対象者、調査期間、データの収集・分析方法)を考えることができる。
 4. 研究計画書を作成し、発表することができる。
 5. ディスカッションに参加し、情報と課題の共有化を図り、自己の研究計画書に反映させることができる。

- 評価方法:**
- ・研究計画書
 - ・発表
 - ・ディスカッションへの参加度

 - ・総合的に判断する。

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことができる。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 【第01回】ガイダンス (4月)
 【第02回】文献レビュー、リサーチクエッション 研究テーマの設定

- 【第03回】文献レビュー、研究テーマの設定
- 【第04回】文献レビュー、研究テーマの設定
- 【第05回】文献レビュー、研究テーマの設定
- 【第06回】研究計画書の作成（5月～6月）
- 【第07回】研究計画書の作成
- 【第08回】研究計画書の作成
- 【第09回】研究計画書の作成
- 【第10回】調査等の実施準備（7月）
- 【第11回】調査等の実施準備
- 【第12回】調査等の実施準備
- 【第13回】調査等の実施準備
- 【第14回】調査等の実施準備
- 【第15回】調査等の実施準備

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 「研究方法論」での学修を踏まえて履修する。また担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーに研究室で対応する。
曜日・時限等については初回に連絡する。

留意事項： 自らの興味・関心のある事柄について深めておく。

可能であれば、デバイス(パソコン)を持参する(必携ではないが、デバイスの持参を推奨)。

科目コード：31208 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：研究方法论演習I-12(Nursing Research Methodology I-12)

担当者：木下 美智子

基本情報

年次：4 単位数：1 授業形式：演習

曜時：土曜1限 履修可能学科・専攻：N

**関連資格：看護 保健 AL要素：08. 協同学修
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導**

授業の概要： グループワークや指導教員とのゼミを通して、看護研究の意義・プロセスの学修を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を修得する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標：**
1. 研究テーマとして設定した動機、意義と目的を説明することができる。
 2. 研究テーマに関する文献を検索することができる。
 3. クリテイクに関する知識と基準を説明できる。
 4. 倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。

評価方法: ・文献の分類・整理
・クリティーク
・研究計画書
・倫理的配慮

評価割合: 40%

・総合的に判断する

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 1. 研究テーマを絞り込むことができる。
2. 先行研究をクリティークすることができる。
3. 倫理的配慮をふまえ、研究方法(研究デザイン、アプローチ、対象者、調査期間、データの収集・分析方法)を考えることができる。
4. 研究計画書を作成し、発表することができる。
5. ディスカッションに参加し、情報と課題の共有化を図り、自己の研究計画書に反映させることができる。

評価方法: ・研究計画書
・発表
・ディスカッションへの参加度

評価割合: 50%

・総合的に判断する。

▼学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことができる。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 【第01回】ガイダンス (4月)
【第02回】文献レビュー、リサーチクエッション 研究テーマの設定
【第03回】文献レビュー、研究テーマの設定
【第04回】文献レビュー、研究テーマの設定
【第05回】文献レビュー、研究テーマの設定
【第06回】研究計画書の作成 (5月～6月)
【第07回】研究計画書の作成
【第08回】研究計画書の作成
【第09回】研究計画書の作成
【第10回】調査等の実施準備 (7月)
【第11回】調査等の実施準備
【第12回】調査等の実施準備
【第13回】調査等の実施準備
【第14回】調査等の実施準備
【第15回】調査等の実施準備

使用テキスト: 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと「研究方法論」での学修を踏まえて履修する。また担当教員と相談しながら進める。
参考文献・資料等：

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段：ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーに研究室で対応する。
曜日・時限等については初回に連絡する。

留意事項：自らの興味・関心のある事柄について深めておく。

可能であれば、デバイス(パソコン)を持参する(必携ではないが、デバイスの持参を推奨)。

科目コード：31208 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：研究方法論演習I-13(Nursing Research Methodology I-13)

担当者：小池 美香

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習
09実地調査
11討論
15レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型

看護実践と看護学の向上に貢献するために、看護研究の意義・プロセスについて理解し、研究のプロセスを体験する。その一連のプロセスから、研究を行う基盤となる科学的思考と研究に対する基本的な態度を習得することを目的とする。なお、担当教員は、看護職・看護教員としての実務経験を活かして、個人の課題が解決できるようサポートする。

キーワード：看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：・看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・実施し、説明することができる。

評価方法：論文(研究計画書を含む)他

評価割合：20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：・研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。
・研究課題と研究目的が明確にできる。
・倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。

評価方法：論文(研究計画書を含む)他

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合：0%

▼その他

・特になし。

評価割合：・特になし。

授業計画：【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定（4月）
【第06～09回】研究計画書の作成（5月）
【第10～15回】研究のデータ収集等の準備（7月）

学部の「倫理審査」を受ける場合は、それに対応した計画書を提出する。
在宅領域ゼミで文献クリティークや研究計画発表会、
研究中間発表会リハーサルなどを行う。

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。

参考文献・資料等：

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項： 論文提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う(12月)。

科目コード：31208 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習I-14(Nursing Research Methodology I-14)

担当者： 渋谷 えみ

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻： N

関連資格：看護 保健

AL要素： 08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要： グループワークや指導教員とのゼミを通して、看護研究の意義、プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード： 看護研究、母性看護、周産期の倫理的問題

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・実施し、説明することができる。

評価方法： 研究計画書他

評価割合：20%

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
- ・看護研究の意義や目的について説明できる。
 - ・研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。
 - ・研究課題と研究目的が明確にできる。
 - ・倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することが出来る。

評価方法: 論文(研究計画書を含む)他

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

- ・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

- ・直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

- ・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合: 0%

▼その他

- ・特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 【第01～05回】 文献レビュー、研究テーマの設定 (4月)
 - 【第06～09回】 研究計画書の作成 (5月)
 - 【第10～15回】 調査等の実施準備～実施 (7月)

使用テキスト: 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 「研究方法論」での学習を踏まえてリサーチクエスト(研究疑問)、興味関心のあるテーマについて自分の言葉で伝えることができるように文献や先行研究などを読んでみましょう。

研究テーマは教員と相談しながら進めていきます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に申し出てください。

授業時間外の連絡手段: ゼミの他、指導が必要な場合には予めメール等で連絡をしてください。

留意事項: 積極的に教員、ゼミの学生間でコンタクトを取り計画的に研究に取り組んでください。

科目コード: 31208 科目ナンバリング: 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 研究方法論演習I-15(Nursing Research Methodology I-15)

担当者: 鈴木 陽子

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 土曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習
09実地調査
11討論
15レポート指導

授業の概要： グループワークや指導教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード： 看護研究、リサーチクエスション、文献レビュー、文献クリティーク、研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 1. 看護研究の意義や目的について説明できる。
2. 研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。

評価方法： 研究計画書他 **評価割合：** 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 3. 研究課題と研究目的が明確にできる。
4. 倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。
5. 作成した看護計画書について、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

評価方法： 研究計画書他 **評価割合：** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを積極的に探究することができる。
・ゼミへの参加度、及び字図から計画したスケジュールに基づいて研究計画まで主体的に取り組むことを望む。

評価割合： 30%

▼ 実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく公正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合： 0%

▼ その他

・特になし

評価割合：・特になし

授業計画： 【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定（4月）
【第06～09回】研究計画書の作成（5月）
【第10～15回】調査等の実施準備（7月）

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと ・これまでの実習などで疑問を持ったことを大切に、自分の関心を深めておくこと。

参考文献・資料等： ・「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項： ・ゼミ・在宅看護学合同ゼミは、学生が主体的に計画し学び合う場とする(合同ゼミでは、文献クリティーク

- ク、研究計画書発表会等を行う予定)。
- ・学生用教材費等の使い方を遵守する。

科目コード : 31208 科目ナンバリング : 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 研究方法論演習I-16(Nursing Research Methodology I-16)

担当者 : 園部 律子

基本情報

年次 : 4 単位数 : 1 授業形式 : 演習

曜時 : 土曜1限 履修可能学科・専攻 : N

関連資格 : 看護 保健 AL要素 : 08協同学習
11討論
15レポート指導

授業の概要 : グループワークや指導教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

ゼミへの参加度、及び作成された研究計画書についてプレゼンテーションを行い、研究背景の明確化、先行研究の活用、研究目的、研究方法、倫理的配慮が示されているかを評価する。

キーワード : 看護研究 科学的思考 研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 1. 看護研究の意義や目的について説明できる。
2. 研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。

評価方法 : 研究計画書 **評価割合 :** 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 1. 研究課題と研究目的が明確にできる。
2. 倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。

評価方法 : 研究計画書 **評価割合 :** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む。

評価割合 : 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が研究計画書の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、ゼミ中の発言や研究計画書等の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画 : 【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定(4月)

【第06～09回】研究計画書の作成(5月)

【第10～15回】調査等の実施準備(7月)

使用テキスト： 必要時指示する

予習・復習のポイントと これまでの実習などで疑問を持ったことを大切に、自分の関心を深めておくこと。
参考文献・資料等： 参考文献・資料は必要時紹介します。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：31208

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習I-17(Nursing Research Methodology I-17)

担当者： 浅野 均

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻： N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要： グループワークや指導教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ・看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・説明することができる。

評価方法： 研究計画書

評価割合：20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ・研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。
・研究課題と研究目的が明確にできる。
・倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することが出来る。

評価方法： 研究計画書

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合：0%

▼その他

・特になし。

評価割合：・特になし。

授業計画：【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定（4月）
【第06～09回】研究計画書の作成（5月）
【第10～15回】調査等の実施準備（7月）

使用テキスト：研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： これまでの実習などで疑問を持ったことを大切にして、自分の関心を深めておくこと。

「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段：ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項：特になし

科目コード：31208 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：研究方法论演習I-18(Nursing Research Methodology I-18)

担当者：長津 貴子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要：グループワークや指導教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード：看護研究 科学的思考 研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：・看護研究の意義や目的について説明できる。
・研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。

評価方法：ゼミへの参加度、及び作成された、研究計画書についてプレゼンテーションを行ない、研究背景の明確化、先行研究の活 評価割合：20%

用、研究目的、研究方法、倫理的配慮が示されているかを評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標:

- ・研究課題と研究目的が明確にできる。
- ・倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することが出来る。

評価方法:ゼミへの参加度、及び作成された、研究計画書についてプレゼンテーションを行い、研究背景の明確化、先行研究の活用、研究目的、研究方法、倫理的配慮が示されているかを評価する。

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

- ・これまでの実習などで疑問を持ったことを大切に、自分の関心を深めておくこと。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

- ・直接的な評価対象とはしない

評価割合: 0%

▼公正性

- ・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定 (4月)
【第06～09回】研究計画書の作成 (5月)
【第10～15回】調査等の実施準備 (7月)

使用テキスト: 必要時指示する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 必要時指示する

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部及び担当の教員に申し出をすること

授業時間外の連絡手段: ゼミナールの他に指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。その他、オフィスマーにも研究室で対応する

留意事項: ・自ら主体的に学び、グループ討論に積極的に参加すること

科目コード: 31208

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 研究方法論演習I-19(Nursing Research Methodology I-19)

担当者: 原島 利恵

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要： グループワークや指導教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：・看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・説明することができる。

評価方法： 研究計画書

評価割合： 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：・研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。
・研究課題と研究目的が明確にできる。
・倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することが出来る。

評価方法： 研究計画書

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合： 30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合： 0%

▼その他

・特になし。

評価割合：・特になし。

授業計画： 【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定（4月）

【第06～09回】研究計画書の作成（5月）

【第10～15回】調査等の実施準備（7月）

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： これまでの実習などで疑問を持ったことを大切に、自分の関心を深めておくこと。

「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項: 特になし

科目コード: 31208 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 研究方法論演習I-20(Nursing Research Methodology I-20)

担当者: 前田 和子

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 土曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要: グループワークや指導教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード: 看護研究、リサーチクエスション、文献レビュー、文献クリティーク、研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 看護研究の意義や目的について説明できる。
 2. 研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。

評価方法: 研究計画書他

評価割合: 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
3. 研究課題と研究目的が明確にできる。
 4. 倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。
 5. 作成した研究計画書について、効果的なプレゼンテーションを行なうことができる。

評価方法: 研究計画書他

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを積極的に探究することができる。
ゼミへの参加度、及び自ら計画したスケジュールに基づいて研究計画まで主体的に取り組むことを望む。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく公正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合：0%

▼その他

・特になし。

評価割合：・特になし。

授業計画：【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定（4月）
【第06～09回】研究計画書の作成（5月）
【第10～15回】調査等の実施準備（7月）

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと これまでの実習などで疑問を持ったことを大切に、自分の関心を深めておくこと。
参考文献・資料等： 「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。

障がいのある 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項： ゼミ・在宅看護学合同ゼミは、学生が主体的に計画し学び合う場とする(合同ゼミでは、文献クリティーク、研究計画書発表会等を行う予定)。
学生用教材費等の使い方を遵守する。

科目コード：31208 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習I -21(Nursing Research Methodology I -21)

担当者： 眞崎 由香

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：協同学修

討論

レポート指導

授業の概要： グループワークや担当教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学修を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】課題研究型／遠隔授業(同時双方向型)

キーワード： 看護研究、論理的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 看護研究の意義や目的について説明できる。
研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。

評価方法： ゼミへの参加度、作成された研究計画書 評価割合：20%
などにより評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 研究課題と研究目的が明確にできる。
研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。

評価方法: ゼミへの参加度、作成された研究計画書などにより評価する。 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことができる。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

世の中のためや人々のため、看護のために研究に取り組むことができる。

評価割合: 0%(評価対象とはしない)

▼公正性

倫理的配慮をしながら研究の計画を立てることができる。

評価割合: 0%(評価対象とはしない)

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定 (4月)
【第06～10回】研究計画書の作成 (5～6月)
【第11～15回】調査等の実施準備 (6～7月)

使用テキスト: 必要時指示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: これまでの実習などで疑問を持ったことを大切に、自分の関心を深めておく。
「研究方法論」での学修を踏まえて、履修する。
担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部および担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: 授業時間以外に指導が必要な場合には、予めユニパかメールで連絡する。

留意事項: 研究方法論演習Ⅱで継続して研究を行う。

科目コード: 31208 科目ナンバリング: 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 研究方法論演習Ⅰ-22(Nursing Research Methodology I-22)

担当者: 松永 恵

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 土曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 07発表

09実地調査

10資料調査課題

15レポート指導

授業の概要: グループワークや指導教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード: 看護 研究 倫理 批判 研究計画

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:** 1. 看護研究の意義や目的について説明できる。
4. 倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することが出来る。
<研究計画書に示されるもの>
○研究背景の明確化
○先行研究の活用
○研究目的
○研究方法
○倫理的配慮

評価方法: 研究計画書

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** 2. 研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。
3. 研究課題と研究目的が明確にできる。
5. 仲間の研究を理解することができる

評価方法: レジюме

評価割合: 40%10%計50%

ゼミへの参加度

▼学修に主体的に取り組む態度

演習中に仲間の発表を積極的に聞き、質問することができる
(思考力・判断力・表現力と共に評価する)

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

演習中に仲間の研究意欲を高めるようにかかわることができる
(思考力・判断力・表現力と共に評価する)

評価割合: 0%

▼公正性

研究のルールにのっとり、研究計画書を作成することができる
(知識・技能と共に評価する)

評価割合: 0%

▼その他

なし

評価割合: なし

授業計画: 【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定 (4月)

【第06～09回】研究計画書の作成 (5月)

【第10～15回】調査等の実施準備 (7月)

なお、公衆衛生看護実習や養護実習を履修する受講生は、研究計画書の作成が遅れるので、演習開始時に別途授業計画を示す。

使用テキスト: 必要時指示する

予習・復習のポイントと ○参考書・資料等は必要時指示する

参考文献・資料等: ○これまでの実習などで疑問を持ったことを大切にして、自分の関心を深めておく

障がいのある履修者への対応: 必要がある場合には学務部または担当教員にご相談ください。

授業時間外の連絡手段: 主にメールでご連絡ください。
研究指導は対面で行いたいのので、予約をとってお越しくください。

留意事項: なし

科目コード : 31208 科目ナンバリング : 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 研究方法論演習I -23(Nursing Research Methodology I -23)

担当者 : 間宮 千紘

基本情報

年次 : 4 単位数 : 1 授業形式 : 演習

曜時 : 土曜1限 履修可能学科・専攻 : N

関連資格 : 看護 保健 AL要素 : 08協同学習
09実地調査
11討論
15レポート指導

授業の概要 : 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とゼミをとおして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード : 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : ・看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・実施し、説明することができる。

評価方法 : 論文(研究計画書を含む)他 **評価割合 :** 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 1. 倫理的配慮を行いながら、データを収集する。
2. 収集したデータを分析し、考察することができる。
3. 論文を作成することができる。
4. 研究の結果を発表することができる。

評価方法 : 論文(研究計画書を含む)他 **評価割合 :** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合 : 30%

▼ 実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合 : 0%

▼ その他

・特になし。

評価割合 : ・特になし。

授業計画 : 【第01～05回】調査などの実施 (8月)
【第06～10回】データ分析 (9月)
【第11～14回】論文執筆 (10～11月)
【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト : 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等 : 「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また、担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出ること。

授業時間外の連絡手段: ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項: 提出された、研究論文がプロセスをふまえて作成されたか、倫理的配慮はなされているか、作成基準にそって執筆されたかを評価する。
研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価する。

科目コード: 31208 **科目ナンバリング:** **主な使用言語: 日本語**

授業名(英文): 研究方法論演習I-24(Nursing Research Methodology I-24)

担当者: 若林 千津子

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 土曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要: グループワークや指導教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード: 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ・看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画し説明することができる。

評価方法: 研究計画書他

評価割合: 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 1. 看護研究の意義や目的について説明できる。
2. 研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。
3. 研究課題と研究目的が明確にできる。
4. 倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することが出来る。

評価方法: 研究計画書他

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合：0%

▼その他

・特になし。

評価割合：・特になし。

授業計画：

【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定（4月）

【第06～09回】研究計画書の作成（5月）

【第10～15回】調査等の実施準備（7月）

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと これまでの実習などで疑問を持ったことを大切にして、自分の関心を深めておくこと。
参考文献・資料等： 「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。

障がいのある 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項： 成績評価の方法基準
ゼミへの参加度、及び作成された、研究計画書についてプレゼンテーションを行ない、研究背景の明確化、先行研究の活用、研究目的、研究方法、倫理的配慮が示されているかを評価する。

科目コード：31208 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習I-25(Nursing Research Methodology I-25)

担当者： 中村 裕美

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08.協同学習

09.実地調査

11.討論

15.レポート指導

授業の概要： グループワークや指導教員とのゼミを通して、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・説明することができる。

評価方法： 研究計画書

評価割合：20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 1.研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。
2.研究課題と研究目的が明確にできる。
3.倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。

評価方法： 研究計画書

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

自らの興味関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としないが、人権侵害・差別的な発言など、公正性を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定(4月)

【第06～09回】研究計画書の作成(5月)

【第10～15回】調査等の実施準備(7月)

使用テキスト：研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： これまでの実習などで疑問・関心を持ったことを大切に、研究テーマに関連する事柄について調べておくこと。
「研究方法論」での学修を踏まえて、履修する。また、担当教員と相談しながら進める。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項： デバイスの持参を推奨します。

科目コード：31208

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語|英語

授業名(英文)：研究方法论演習I-26(Nursing Research Methodology I-26)

担当者：相川 玄

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08 協同学習

09 実地調査

11 討論

15 レポート指導

授業の概要：グループワークや指導教員とのゼミをとおして、研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード：研究、科学的思考、研究倫理、集中治療、クリティカルケア、統計、クリティーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：研究の意義や目的を踏まえ、研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・実施し、説明することができる。

評価方法：レポート

評価割合：30%

研究計画書

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 研究の意義や目的を踏まえて、自らの研究テーマを設定することができる。
研究テーマを踏まえて、研究計画書を作成することができる。

評価方法: レポート
研究計画書

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく公正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 【第01～05回】文献の探し方、文献レビュー、研究テーマの設定(4月)

- ・研究テーマ設定
- ・先行研究を見つける
- ・先行研究を読む
- ・研究デザインについて
- ・研究計画書作成について

【第06～09回】研究計画書の作成 (5月)

【第10～15回】調査等の実施準備 (7月)

グループでのゼミ形式と個別指導で実施する。

使用テキスト: 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイント 担当教員と相談しながら進める。

参考文献・資料等: 興味、関心のあることをキーワードとして書き出してくること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。

留意事項: 適宜、プレゼンテーションを行う。

科目コード: 31208

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 研究方法論演習I-27(Nursing Research Methodology I-27)

担当者: 豊田 真弓

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 土曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 08協同学習
09実地調査

授業の概要： グループワークや指導教員とのゼミをとおして、看護研究の意義・プロセスの学習を基盤に、看護における研究プロセスの実際を学び、看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ・看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・説明することができる。

評価方法： 研究計画書

評価割合： 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ・研究課題に関する文献を検索し、先行研究を批判的に読むことができる。
・研究課題と研究目的が明確にできる。
・倫理的配慮を行いながら、研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することが出来る。

評価方法： 研究計画書

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合： 30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合： 0%

▼その他

・特になし。

評価割合： ・特になし。

授業計画： 【第01～05回】文献レビュー、研究テーマの設定（4月）
【第06～09回】研究計画書の作成（5月）
【第10～15回】調査等の実施準備（7月）

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： これまでの実習などで疑問を持ったことを大切にして、自分の関心を深めておくこと。

「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。

その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：31209 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習II -1 (Nursing Research Methodology II -1)

担当者： 池袋 昌子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08. 協同学修
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要： 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミを通して、データを科学的に分析、記述し卒業研究としてまとめ発表する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標：**
1. 倫理的配慮を行いながら、データを収集することができる。
 2. 関連する先行研究を活用することができる。
 3. 論文の形式に基づき、卒業研究を作成することができる。
 4. 卒業研究の結果に基づき、パワーポイントと発表原稿を作成することができる。

評価方法： ・卒業研究
・発表
・倫理的配慮

評価割合： 40%

・総合的に判断する。

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標：**
1. 分析の手順に基づき、結果を導き出すことができる。
 2. 研究プロセスを通して得た知見や先行研究に基づき、考察を行うことができる。
 3. 論理的に思考を組み立て、執筆することができる。
 4. 卒業研究を発表することができる。
 5. 質疑に応答することができる。

評価方法： ・卒業研究
・発表
・ディスカッションへの参加度

評価割合： 50%

・総合的に判断する。

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことができる。

評価割合： 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 【第01回】調査等の実施（8月）
- 【第02回】調査等の実施
- 【第03回】調査等の実施
- 【第04回】調査等の実施
- 【第05回】調査等の実施
- 【第06回】データ分析（9月）
- 【第07回】データ分析
- 【第08回】データ分析
- 【第09回】データ分析
- 【第10回】論文執筆（10月～11月）
- 【第11回】論文執筆
- 【第12回】論文執筆
- 【第13回】論文執筆
- 【第14回】論文執筆
- 【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 「研究方法論」および「研究方法論演習Ⅰ」での学修を踏まえて履修する。また担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーに研究室で対応する。
曜日・時限等については初回に連絡する。

留意事項： 研究方法論で既習したことを、論文執筆時に反映できるよう復習して臨む。
卒業研究の提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う(12月)。

可能であれば、デバイス(パソコン)を持参する(必携ではないが、デバイスの持参を推奨)。

科目コード：31209

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習Ⅱ-2(Nursing Research Methodology II -2)

担当者： 市野沢 征子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習
09実地調査
11討論

授業の概要： 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをとおして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 提出された、研究論文がプロセスをふまえて作成されたか、倫理的配慮はなされているか、作成基準にそって執筆されたかを評価する。
研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価する。

評価方法： 論文・発表

評価割合： 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 1. 倫理的配慮を行いながら、データを収集する
2. 収集したデータを分析し、考察することができる。
3. 論文を作成することができる。
4. 研究の結果を発表することができる。

評価方法： 論文・発表

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合： 30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合： 0%

▼その他

・特になし。

評価割合： ・特になし。

授業計画： 【第01～05回】調査等の実施（8～9月）
【第06～10回】データ分析（10月）
【第10～14回】論文執筆（11月）
【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと 「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。

参考文献・資料等： 研究方法論で既習したことを、論文執筆時に確認しておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。

その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項： 論文提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う(2月)。

科目コード : 31209 科目ナンバリング : 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 研究方法論演習II -3(Nursing Research Methodology II -3)

担当者 : 海野 潔美

基本情報

年次 : 4

単位数 : 1

授業形式 : 演習

曜時 : 土曜1限

履修可能学科・専攻 : N

関連資格 : 看護 保健

AL要素 : 08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要： 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをとおして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 提出された、研究論文がプロセスをふまえて作成されたか、倫理的配慮はなされているか、作成基準にそって執筆されたかを評価する。

研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価する。

評価方法： 論文・発表

評価割合： 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 1. 倫理的配慮を行いながら、データを収集する
2. 収集したデータを分析し、考察することができる。
3. 論文を作成することができる。
4. 研究の結果を発表することができる。

評価方法： 論文・発表

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合： 30%

▼ 実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 【第01～05回】調査等の実施 (8～9月)

【第06～10回】データ分析 (10月)

【第10～14回】論文執筆 (11月)

【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。
研究方法論で既習したことを、論文執筆時に確認しておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項： 論文提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う。

科目コード：31209 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習II -4 (Nursing Research Methodology II -4)

担当者： 宇留野 由紀子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習
09実地調査
11討論
15レポート指導

授業の概要： 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミを通して、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ・倫理的配慮を行いながら、データを収集することができる。
・収集したデータを分析し、考察できる。

評価方法： 研究論文のプロセスを踏まえて作成されたか、作成基準に沿って執筆されたかを評価。
評価割合：20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ・論文を作成することができる。
・研究の成果を発表することができる。

評価方法： 発表に取り組む姿勢・発表された内容を総合的に評価。
評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合：0%

▼その他

・特になし。

評価割合：・特になし。

授業計画：【第01～05回】調査等の実施（8～9月）
【第06～10回】データの分析（10月）
【第10～14回】論文執筆（11月）
【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト：研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと 研究方法論で既習した論文執筆時に確認しておくこと。

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段：ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項：データを科学的に分析するために、教員とのディスカッションを積極的に行えるようにしよう。

科目コード：31209 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語|英語

授業名(英文)：研究方法论演習II-5(Nursing Research Methodology II-5)

担当者：大内 玲

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要：研究方法論演習Iで作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをと
おして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード：研究、科学的思考、研究倫理、集中治療、クリティカルケア、統計、クリティーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：研究の意義や目的を踏まえ、研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・実施し、説明することができる。

評価方法：論文

評価割合：30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：倫理的配慮に基づき、自らの研究を計画し、データ収集等を実施することができる。
収集したデータを分析・考察することができる。
自らの研究を論文として作成することができる。

評価方法：論文

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

データ収集、分析において、不正を行わない。

直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく公正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【第01～05回】調査等の実施（8～9月）
【第06～10回】データ分析（10月）
【第10～14回】論文執筆（11月）
【第15回】研究のまとめ・発表
・プレゼンテーション後の内容修正
・論文内容の相互チェック

使用テキスト：研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと 担当教員と相談しながら進める。

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーにて研究室で対応する。

留意事項： 自己学習の上、課題を達成し各回のプレゼンテーションにのぞむこと。
論文提出後、卒業研究発表会でプレゼンテーションを行う。

科目コード：31209

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：研究方法论演習II-6(Nursing Research Methodology II-6)

担当者：小野 加奈子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 研究方法論 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをとおして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード： 看護研究、母性看護、卒業研究、質的研究、量的研究

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画し、実施することができる。

評価方法：論文 他

評価割合：20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：・倫理的配慮を行いながら、データを収集する。
・収集したデータを分析し、考察することができる。
・論文を作成することができる。
・研究の結果を発表することができる。

評価方法：論文 他

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく公正を欠く言動があった場合には厳重に注意をする。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第01～05回】調査等の実施（8～9月）
【第06～10回】データ分析（10月）
【第11～14回】論文執筆・論文提出（11月）
【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト：なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：これまでの経験や実習を振り返り、自分の取り組みたい研究テーマについて考え、そのテーマに関する文献を読んでみてください。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段：研究室にて対応します。連絡手段は、初回にお知らせします。

留意事項：円滑に研究を進めていくためにも積極的に教員とコンタクトをとってください。

科目コード：31209

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：研究方法論演習II-7(Nursing Research Methodology II-7)

担当者：小幡 明香

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習
09実地調査
11討論

授業の概要： 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをと
おして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 倫理的配慮を行いながら、データを収集する。
収集したデータを分析することができる。

評価方法： 論文やプレゼンテーション資料

評価割合： 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 分析したデータを考察することができる。
論文を作成することができる。
研究の結果を発表することができる。

評価方法： 論文やプレゼンテーション資料

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む。

評価割合： 30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意
をする。

評価割合： 0%

▼その他

・特になし。

評価割合： ・特になし。

授業計画： 【第01～05回】調査等の実施（8～9月）
【第06～10回】データ分析（10月）
【第10～14回】論文執筆（11月）
【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： これまでの学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応する。

留意事項： 論文提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う。

科目コード：31209

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 研究方法論演習II-8(Nursing Research Methodology II-8)

担当者: 角田 智美

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 土曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 08. 協同学習
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要: 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミを通して、データを科学的に分析、記述し卒業研究としてまとめ発表する。

キーワード: 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標:

1. 倫理的配慮を行いながら、データを収集することができる。
2. 関連する先行研究を活用することができる。
3. 論文の形式に基づき、卒業研究を作成することができる。
4. 卒業研究の結果に基づき、パワーポイントと発表原稿を作成することができる。

評価方法: ・卒業研究
・発表
・倫理的配慮

評価割合: 40%

・総合的に判断する。

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標:

1. 分析の手順に基づき、結果を導き出すことができる。
2. 研究プロセスを通して得た知見や先行研究に基づき、考察を行うことができる。
3. 論理的に思考を組み立て、執筆することができる。
4. 卒業研究を発表することができる。
5. 質疑に応答することができる。

評価方法: ・卒業研究
・発表
・ディスカッションへの参加度

評価割合: 50%

・総合的に判断する。

▼ 学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことができる。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

・直接の評価対象にはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

・特になし。

評価割合：・特になし。

授業計画：【第01回】調査等の実施（8月）
【第02回】調査等の実施
【第03回】調査等の実施
【第04回】調査等の実施
【第05回】調査等の実施
【第06回】データ分析（9月）
【第07回】データ分析
【第08回】データ分析
【第09回】データ分析
【第10回】論文執筆（10～11月）
【第11回】論文執筆
【第12回】論文執筆
【第13回】論文執筆
【第14回】論文執筆
【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。
参考文献・資料等： 研究方法論で既習したことを、論文執筆時に確認しておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応する。
曜日・時限等については初回に連絡する。

留意事項： 研究方法論で既習したことを、論文執筆時に反映できるよう復習して臨む。
卒業研究の提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う(12月)。

可能であれば、デバイス(パソコン)を持参する(必携ではないが、デバイスの持参を推奨)。

科目コード：31209 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習II -9(Nursing Research Methodology II -9)

担当者： 梶原 順子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻： N

関連資格：看護 保健

AL要素： 08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要： 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをと

おして、データを科学的に分析、記述し、研究論文としてまとめ、発表する

キーワード: 看護研究 科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ・提出された研究論文が、プロセスをふまえて作成されたか、倫理的配慮はなされているか、作成基準にそって執筆されたかを評価する

・研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価する

評価方法: 論文・発表

評価割合: 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ・倫理的配慮を行いながら、データを収集する。

・収集したデータを分析し、考察することができる

・論文を作成することができる

・研究の結果を発表することができる

評価方法: 論文・発表

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく公正に欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01～05回】調査等の実施(8～9月)

【第06～10回】データ分析(10月)

【第10～14回】論文執筆(11月)

【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト: 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 「研究方法論」での学習をふまえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。研究方法論で既習したことを、論文執筆時に確認しておくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項: 論文提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う(2月)

科目コード: 31209

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 研究方法論演習Ⅱ-10(Nursing Research Methodology II -10)

担当者: 叶多 博美

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要： 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをとおして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

提出された研究論文がプロセスをふまえて作成されたか、倫理的配慮はなされているか、作成基準にそって執筆されたかを評価する。

研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ・看護研究の意義や目的を踏まえ、倫理的配慮を行いながら、データを収集することができる。

評価方法： 論文 他

評価割合： 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ・収集したデータを分析・考察することができる。

・自らの研究を論文として作成することができる。

・研究の結果を発表することができる。

評価方法： 論文、研究発表会資料 等

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・計画した研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合： 30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合： 0%

▼その他

・特になし。

評価割合： ・特になし。

授業計画： 【第01～05回】調査等の実施（8～9月）

【第06～10回】データ分析（10月）

【第10～14回】論文執筆（11月）

【第15回】研究のまとめ・発表会（12月）

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 研究方法論で既習したことを、論文執筆時に確認しておくこと。

参考文献・資料等は、必要時紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項： 論文提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う(12月)。

科目コード：31209 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：研究方法論演習II -11(Nursing Research Methodology II -11)

担当者：栢内 直美

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素： 08 協同学習
09 実地調査
10 資料調査課題
11 討論
14 輪読活動
15 レポート指導

授業の概要： 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員のゼミを通して、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：**
1. 倫理的配慮を行いながら、データを収集することができる。
 2. 関連する先行研究を活用することができる。
 3. 論文の形式に基づき、卒業研究を作成することができる。
 4. 卒業研究の結果に基づき、パワーポイントと発表原稿を作成することができる。

評価方法： 論文と
プレゼンテーション

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標：**
1. 分析の手順に基づき、結果を導き出すことができる。
 2. 研究プロセスを通して得た知見や先行研究に基づき、考察を行うことができる。
 3. 論理的に思考を組み立て、執

- 筆することができる。
- 卒業研究を発表することができる。
 - 質疑に応答することができる。

評価方法: 論文と

プレゼンテーション

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

- ・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

- ・直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等がレポート・発表内容等に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

- ・直接の評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など、著しく公正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合: 0%

▼その他

- ・特になし

評価割合: ・特になし

- 授業計画:**
- 【第01回】 調査等の実施 (8月)
 - 【第02回】 調査等の実施
 - 【第03回】 調査等の実施
 - 【第04回】 調査等の実施
 - 【第05回】 調査等の実施
 - 【第06回】 データ分析 (9月)
 - 【第07回】 データ分析
 - 【第08回】 データ分析
 - 【第09回】 データ分析
 - 【第10回】 論文執筆 (10月～11月)
 - 【第11回】 論文執筆
 - 【第12回】 論文執筆
 - 【第13回】 論文執筆
 - 【第14回】 論文執筆
 - 【第15回】 研究のまとめ・発表

使用テキスト: ・研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応: ・可能な限り対応するので、学務部及び担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: ・ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、メールで連絡すること。
・その他、オフィスアワーにも研究室で対応する。
・曜日、時限等については初回に連絡する。

留意事項: ・研究方法論で既習したことを、論文執筆時に反映できるように復習して臨む。

- ・卒業研究の提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う(12月)。
- ・可能であれば、デバイス(パソコン)を持参する(必携ではないが、デバイスの持参を推奨)。

科目コード:31209 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 研究方法論演習II -12(Nursing Research Methodology II -12)

担当者: 木下 美智子

基本情報

年次:4

単位数:1

授業形式:演習

曜時:土曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格:看護 保健

AL要素: 08. 協同学修
09. 実地調査
10. 資料調査課題
11. 討論
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要: 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミを通して、データを科学的に分析、記述し卒業研究としてまとめ発表する。

キーワード: 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 倫理的配慮を行いながら、データを収集することができる。
 2. 関連する先行研究を活用することができる。
 3. 論文の形式に基づき、卒業研究を作成することができる。
 4. 卒業研究の結果に基づき、パワーポイントと発表原稿を作成することができる。

評価方法: ・卒業研究 **評価割合: 40%**

- ・発表
- ・倫理的配慮

・総合的に判断する。

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
1. 分析の手順に基づき、結果を導き出すことができる。
 2. 研究プロセスを通して得た知見や先行研究に基づき、考察を行うことができる。
 3. 論理的に思考を組み立て、執筆することができる。
 4. 卒業研究を発表することができる。
 5. 質疑に応答することができる。

評価方法: ・卒業研究 **評価割合: 50%**

- ・発表
- ・ディスカッションへの参加度

・総合的に判断する。

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことができる。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表

の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 【第01回】調査等の実施（8月）
- 【第02回】調査等の実施
- 【第03回】調査等の実施
- 【第04回】調査等の実施
- 【第05回】調査等の実施
- 【第06回】データ分析（9月）
- 【第07回】データ分析
- 【第08回】データ分析
- 【第09回】データ分析
- 【第10回】論文執筆（10月～11月）
- 【第11回】論文執筆
- 【第12回】論文執筆
- 【第13回】論文執筆
- 【第14回】論文執筆
- 【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 「研究方法論」および「研究方法論演習Ⅰ」での学修を踏まえて履修する。また担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーに研究室で対応する。
曜日・時限等については初回に連絡する。

留意事項： 研究方法論で既習したことを、論文執筆時に反映できるよう復習して臨む。
卒業研究の提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う(12月)。

可能であれば、デバイス(パソコン)を持参する(必携ではないが、デバイスの持参を推奨)。

科目コード：31209 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習Ⅱ-13(Nursing Research Methodology II -13)

担当者： 小池 美香

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習
09実地調査

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型

看護実践と看護学の向上に貢献するために、看護研究の意義・プロセスについて理解し、研究のプロセスを体験する。その一連のプロセスから、研究を行う基盤となる科学的思考と研究に対する基本的な態度を習得することを目的とする。なお、担当教員は、看護職・看護教員としての実務経験を活かして、個人の課題が解決できるようサポートする。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：・看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・実施し、説明することができる。

評価方法： 論文(研究計画書を含む)他 **評価割合：**20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：

- ・倫理的配慮に基づき、自らの研究を計画し、データ収集等を実施することができる。
- ・収集したデータを分析・考察することができる。
- ・自らの研究を論文として作成・発表することができる。

評価方法：論文(研究計画書を含む)他 **評価割合：**50%

▼学修に主体的に取り組む態度

- ・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

- ・直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

- ・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合：0%

▼その他

- ・特になし。

評価割合：・特になし。

授業計画： 【第01～05回】調査等の実施（8～9月）
【第06～10回】データ分析（10月）
【第10～14回】論文執筆（11月）
【第15回】研究のまとめ・発表

在宅領域ゼミで研究発表会リハーサルなどを行う。

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。
参考文献・資料等：

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項: 論文提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う(12月)。

科目コード: 31209 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 研究方法論演習II-14(Nursing Research Methodology II-14)

担当者: 渋谷 えみ

基本情報

年次: 4 **単位数:** 1 **授業形式:** 演習

曜時: 土曜1限 **履修可能学科・専攻:** N

関連資格: 看護 保健 **AL要素:** 08協同学習
09実地調査
11討論
15レポート指導

授業の概要: 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをと
おして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード: 看護研究、母性看護、周産期における倫理的問題

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計
画・実施することができる

評価方法: 論文 他 **評価割合:** 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: ・倫理的配慮を行いながら、デー
タを収集する
・収集したデータを分析し、考察
することができる。
・論文を作成することができる。
・研究の結果を発表することがで
きる。

評価方法: 論文 他 **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意
をする。

評価割合: 0%

▼ その他

・特になし。

評価割合：・特になし。

授業計画：【第01～05回】調査等の実施（8～9月）
【第06～10回】データ分析（10月）
【第10～14回】論文執筆（11月）
【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト：研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：データ収集、研究論文にまとめていく過程で必要な文献は提示しますが、計画的に進めていきましょう。

積極的にコンタクトを取ってください。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：予め提示している連絡手段で連絡をください。

留意事項：提出された、研究論文がプロセスをふまえて作成されたか、倫理的配慮はなされているか、作成基準にそって執筆されたかを評価します。
研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価します。

科目コード：31209 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：研究方法論演習Ⅱ-15(Nursing Research Methodology II -15)

担当者：鈴木 陽子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要：研究方法論演習Ⅰで作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをと
おして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード：文献研究、半構成的面接法、量的・質的分析、プレゼンテーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：1. 倫理的配慮を行いながら、データを収集する。
2. 収集したデータを分析し、考察することができる。

評価方法：研究計画書他

評価割合：20%

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標：3. 研究論文をプロセスをふまえて作成することができる。
4. 研究論文を倫理的配慮に基づき、作成基準に沿って執筆できる。
5. 研究結果を研究発表会で発表することができる。

評価方法：研究計画書他

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

- ・主体的にデータ収集、分析に取り組むことができる。
- ・研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価する。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

- ・直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

- ・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく公正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合：0%

▼その他

- ・特になし

評価割合：・特になし

授業計画： 【第01～05回】調査等の実施（8～9月）
 【第06～10回】データ分析（10月）
 【第10～14回】論文執筆（11月）
 【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 「研究方法論」で既習したことを、論文執筆時に確認しておくこと。また担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
 その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項： ・ゼミ・在宅看護学合同ゼミは、学生が主体的に計画し学び合う場とする(合同ゼミでは、卒業研究発表会リハーサル等を行う予定)。
 ・学生用教材費等の使い方を遵守する。

科目コード：31209

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：研究方法論演習II-16(Nursing Research Methodology II-16)

担当者：園部 律子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要： 研究方法論演習Iで作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをとおして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

提出された研究論文がプロセスをふまえて作成されたか、倫理的配慮はなされているか、作成基準にそって執筆されたかを評価する。

研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価する。

キーワード： 看護研究 科学的根拠 研究倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 看護研究の意義や目的をふまえ、倫理的配慮を行いながら、データを収集することができる。

評価方法: 論文 他

評価割合: 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: ・収集したデータを分析・考察することができる。
・自らの研究を論文として作成することができる。
・研究の結果を発表することができる。

評価方法: 論文、研究発表会資料等

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

計画した研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく公正性を欠く言動があった場合は注意をする。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01～05回】調査等の実施(8～9月)
【第06～10回】データの分析(10月)
【第10～14回】論文執筆(11月)
【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト: 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 研究方法論で既習したことを、論文執筆時に確認しておくこと。

参考文献・資料等は、必要時紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: ゼミナールの他に指導が必要な場合は、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも対応します。

留意事項: 論文提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う。(12月)

科目コード: 31209

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 研究方法論演習II-17(Nursing Research Methodology II-17)

担当者: 浅野 均

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 土曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 08協同学習
09実地調査
11討論

授業の概要: 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをとおして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード: 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 提出された、研究論文がプロセスをふまえて作成されたか、倫理的配慮はなされているか、作成基準にそって執筆されたかを評価する。
研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価する。

評価方法: 論文・発表

評価割合: 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 1. 倫理的配慮を行いながら、データを収集する
2. 収集したデータを分析し、考察することができる。
3. 論文を作成することができる。
4. 研究の結果を発表することができる。

評価方法: 論文・発表

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合: 0%

▼その他

・特になし。

評価割合: ・特になし。

授業計画: 【第01～05回】調査等の実施 (8～9月)
【第06～10回】データ分析 (10月)
【第10～14回】論文執筆 (11月)
【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト: 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイント 「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。

参考文献・資料等: 研究方法論で既習したことを、論文執筆時に確認しておくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。

その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項： 論文提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う(2月)。

科目コード：31209 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習II-18(Nursing Research Methodology II-18)

担当者： 長津 貴子

基本情報

年次：4 **単位数：**1 **授業形式：**演習

曜時：土曜1限 **履修可能学科・専攻：**N

関連資格：看護 保健 **AL要素：**08協同学習
09実地調査会
11討論
15レポート指導

授業の概要： 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをとおして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード： 看護研究 科学的思考 研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：・倫理的配慮を行いながら、データを収集する
・収集したデータを分析し、考察することができる。

評価方法： 提出された、研究論文がプロセスをふまえて作成されたか、倫理的配慮はなされているか、作成基準にそって執筆されたかを評価する。 **評価割合：**20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：・論文を作成することができる。
・研究の結果を発表することができる。

評価方法： 研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価する。 **評価割合：**50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・研究方法論で既習したことを、論文執筆時に確認しておくこと

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない

評価割合：0%

▼公正性

・直接的な評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく厚正を欠く言動があった場合には注意をする

評価割合：0%

▼その他

・特になし

評価割合：・特になし

授業計画：【第01～05回】調査等の実施（8～9月）
【第06～10回】データ分析（10月）
【第10～14回】論文執筆（11月）
【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト：・必要時指示する

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等：・必要時指示する

障がいのある
履修者への対応：・可能な限り対応するので、学務部及び担当教員に申し出をすること

授業時間外の連絡手段：ゼミナールの他に指導が必要な場合は、予めメールで連絡する。その他、オフィスアワーにも研究室で対応する

留意事項：・自ら主体的に学び、グループ討論に積極的に参加すること

科目コード：31209 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：研究方法論演習Ⅱ-19(Nursing Research Methodology II -19)

担当者：原島 利恵

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08協同学習
09実地調査
11討論
15レポート指導

授業の概要：研究方法論演習Ⅰで作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをと
おして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード：看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：提出された、研究論文がプロセスをふまえて作成されたか、倫理的配慮はなされているか、作成
基準にそって執筆されたかを評価する。
研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価する。

評価方法：論文・発表

評価割合：20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：1. 倫理的配慮を行いながら、データを収集する
2. 収集したデータを分析し、考察することができる。
3. 論文を作成することができる。
4. 研究の結果を発表することができる。

評価方法：論文・発表

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合：0%

▼その他

・特になし。

評価割合：・特になし。

授業計画：【第01～05回】調査等の実施（8～9月）
【第06～10回】データ分析（10月）
【第10～14回】論文執筆（11月）
【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。
参考文献・資料等： 研究方法論で既習したことを、論文執筆時に確認しておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項： 論文提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う(2月)。

科目コード：31209 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 研究方法論演習II -20(Nursing Research Methodology II -20)

担当者： 前田 和子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻： N

関連資格：看護 保健

AL要素： 08共同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要： 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをと
おして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード： 文献研究、質的分析、プレゼンテーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1. 倫理的配慮を行いながら、データを収集する
2. 収集したデータを分析し、考察することができる。

評価方法：論文(研究計画書を含む)スライド他 評価割合：20%

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標：3. 研究論文をプロセスをふまえて作成できる。
4. 研究論文を倫理的配慮に基づき、作成基準に沿って執筆できる。
5. 研究の成果を研究発表会で発表することができる。

評価方法：論文(研究計画書を含む)スライド他 評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

主体的にデータ収集、分析に取り組むことができる。
研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価する。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象とはしないが、人権侵害・差別発言など、著しく公正を欠く言動があった場合は注意をする。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：【第01回～05回】調査等の実施(8月～9月)
【第06回～09回】データ分析(10月)
【第10回～14回】論文執筆(11月)
【第15回】研究のまとめ・発表(12月)

使用テキスト：研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと「研究方法論」で学習したことを、確認しながら進めること。また、担当教員と相談しながら計
参考文献・資料等：画的に進める。

障がいのある 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段：ゼミナールの他に指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応する。

留意事項：各ゼミナールおよび在宅看護学領域の合同ゼミナールは、学生が主体的に計画し学び合う場とする
(合同ゼミでは、文献クリティーク、研究計画発表会、研究発表会リハーサル等を行う予定)。
学生用教材費等の使い方を遵守する。

科目コード：31209 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：研究方法論演習II-21(Nursing Research Methodology II -21)

担当者：眞崎 由香

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：協同学修

実地調査

討論

レポート指導

授業の概要: 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し担当教員とのゼミをとおして、データを分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】課題研究型／遠隔授業(同時双方向型)

キーワード: 看護研究、論理的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 研究計画に基づき、データを収集することができる。
収集したデータを分析することができる。
論文を作成することができる。
研究の結果を発表することができる。

評価方法: ゼミへの参加度、作成された研究論文、卒業研究発表会への取り組み姿勢などにより評価する。 **評価割合: 20%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: データを分析し、考察することができる。

評価方法: ゼミへの参加度、作成された研究論文、卒業研究発表会への取り組み姿勢などにより評価する。 **評価割合: 50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことができる。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

世の中のためや人々のため、看護のために研究に取り組むことができる。

評価割合: 0%(評価対象とはしない)

▼公正性

倫理的配慮をしながら研究を行うことができる。

評価割合: 0%(評価対象とはしない)

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 【第01～05回】調査等の実施 (8～9月)
【第06～10回】データ分析 (10月)
【第11～14回】論文執筆 (11月)
【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト: 必要時指示する。

予習・復習のポイントと 研究方法論で既習したことを、論文執筆時に確認しておく。

参考文献・資料等: 担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部および担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: 授業時間以外に指導が必要な場合には、予めユニパかメールで連絡する。

留意事項: 研究方法論演習 I から継続して研究を行う。

科目コード: 31209

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 研究方法論演習II -22(Nursing Research Methodology II -22)

担当者: 松永 恵

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 土曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 07, 09, 10, 11, 15

授業の概要: 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをとおして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード: 看護 研究 倫理 分析 考察

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1. 倫理的配慮を行いながら、データを収集する
4. 研究の結果を発表することができる。

評価方法: 研究協力者への説明書

評価割合: 5%5%10%10%計30%

データ収集にかかわる行動

発表に取り組む姿勢

発表された内容

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 2. 収集したデータを分析し、考察することができる。
3. 論文を作成することができる。
〈小目標〉
○プロセスをふまえて作成する
○倫理的配慮がなされている
○要綱内の作成基準に従っている
5. 仲間の研究を理解することができる

評価方法: 調査の際の行動

評価割合: 10%10%10%30%10%計70%

分析の様子

推敲

論文

ゼミへの参加度

▼ 学修に主体的に取り組む態度

演習中に仲間の発表を積極的に聞き、質問することができる
(思考力・判断力・表現力と共に評価する)

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

演習中に仲間の研究意欲を高めるようにかかわることができる
(思考力・判断力・表現力と共に評価する)

評価割合: 0%

▼ 公正性

研究のルールにのっとり、論文を作成することができる
(知識・技能と共に評価する)

評価割合:0%

▼その他

なし

評価割合:なし

授業計画: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

【第01～05回】調査等の実施(8～9月)

【第06～10回】データ分析(10月)

【第10～14回】論文執筆(11月)

【第15回】研究のまとめ・発表

なお、公衆衛生看護実習や養護実習を履修する受講生は、データ分析を前倒すことがあるので、演習開始時に別途授業計画を示す。

使用テキスト: 必要時指示する。

予習・復習のポイントと ○参考書・資料等は必要時指示する

参考文献・資料等: ○研究方法論で既習したことを、論文執筆時に確認しておくこと

障がいのある 必要がある場合には学務部または担当教員にご相談ください。
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: 主にメールでご連絡ください。

研究指導は対面で行いたいため、予約をとってお越してください。

留意事項: 学习上配慮が必要なことがあれば、予約をとってご相談ください。

科目コード:31209 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 研究方法論演習Ⅱ-23(Nursing Research Methodology II -23)

担当者: 間宮 千紘

基本情報

年次:4

単位数:1

授業形式:演習

曜時:土曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格:看護 保健

AL要素: 08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要: 研究方法論演習Ⅰで作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とゼミをとおして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード: 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ・看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・実施し、説明することができる。

評価方法: 論文(研究計画書を含む)他

評価割合:20%

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** 1. 倫理的配慮を行いながら、データを収集する。
2. 収集したデータを分析し、考察することができる。
3. 論文を作成することができる。
4. 研究の結果を発表することができる。

評価方法: 論文(研究計画書を含む)他

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

- ・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

- ・直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

- ・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合: 0%

▼その他

- ・特になし。

評価割合: ・特になし。

授業計画: 【第01～05回】調査などの実施 (8月)
【第06～10回】データ分析 (9月)
【第11～14回】論文執筆 (10～11月)
【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト: 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また、担当教員と相談しながら進める。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出ること。

授業時間外の連絡手段: ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスパワーにも研究室で対応します。

留意事項: 提出された、研究論文がプロセスをふまえて作成されたか、倫理的配慮はなされているか、作成基準にそって執筆されたかを評価する。
研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価する。

科目コード: 31209

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 研究方法論演習Ⅱ-24(Nursing Research Methodology II -24)

担当者: 若林 千津子

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 土曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 08協同学習

09実地調査

11討論

15レポート指導

授業の概要: 研究方法論演習Ⅰで作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをと
おして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード: 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ・看護研究の意義や目的を踏まえ、看護研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を実施し、説明することができる。

評価方法: 論文他

評価割合: 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 1. 倫理的配慮を行いながら、データを収集する
2. 収集したデータを分析し、考察することができる。
3. 論文を作成することができる。
4. 研究の結果を発表することができる。

評価方法: 論文他

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合: 0%

▼その他

・特になし。

評価割合: ・特になし。

授業計画:

【第01～05回】調査等の実施（8～9月）

【第06～10回】データ分析（10月）

【第10～14回】論文執筆（11月）

【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト: 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと

参考文献・資料等: 研究方法論で既習したことを、論文執筆時に確認しておくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段: ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項:

成績評価の方法基準
提出された、研究論文がプロセスをふまえて作成されたか、倫理的配慮はなされているか、作成基準にそって執筆されたかを評価する。
研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価する。

科目コード: 31209

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 研究方法論演習Ⅱ-25(Nursing Research Methodology II -25)

担当者: 中村 裕美

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 土曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 07.発表
08.協同学習
11.討論
15.レポート指導

授業の概要: 研究方法論演習Ⅰで作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミを通して、データを科学的に分析、記述して研究論文としてまとめ発表する。

キーワード: 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1.提出された研究論文がプロセスを踏まえて作成されたか、作成基準に沿って執筆されたかを評価する。
2.研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価する。

評価方法: 論文・発表

評価割合: 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 1.倫理的配慮を行いながらデータを収集する。
2.収集したデータを分析し、考察することができる。
3.論文を作成することができる。
4.研究の結果を発表することができる。

評価方法: 論文・発表

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことができる。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としないが、人権侵害・差別的な発言など、公正性を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 【第01～05回】調査等の実施(8～9月)
【第06～10回】データ分析(10月)
【第11～14回】論文執筆(11月)
【第15回】論文のまとめ・発表

使用テキスト: 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと「研究方法論」での学修を踏まえて、履修する。また、担当教員と相談しながら進める。
参考文献・資料等:

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項: 論文提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う(2月)。
デバイスの持参を推奨します。

科目コード: 31209 **科目ナンバリング:** **主な使用言語: 日本語|英語**

授業名(英文): 研究方法論演習II -26(Nursing Research Methodology II -26)

担当者: 相川 玄

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 土曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 08 協同学習

09 実地調査

11 討論

15 レポート指導

授業の概要: 研究方法論演習 I で作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをとおして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード: 研究、科学的思考、研究倫理、集中治療、クリティカルケア、統計、クリティーク

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 研究の意義や目的を踏まえ、研究における基本的な知識を用いて、自らの研究を計画・実施し、説明することができる。

評価方法: 論文

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 倫理的配慮に基づき、自らの研究を計画し、データ収集等を実施することができる。
収集したデータを分析・考察することができる。
自らの研究を論文として作成することができる。

評価方法: 論文

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

データ収集、分析において、不正を行わない。

直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく公正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画： 【第01～05回】調査等の実施（8～9月）
【第06～10回】データ分析（10月）
【第10～14回】論文執筆（11月）
【第15回】研究のまとめ・発表
・プレゼンテーション後の内容修正
・論文内容の相互チェック

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等：** 担当教員と相談しながら進める。

**障がいのある
履修者への対応：** 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーにて研究室で対応する。

留意事項： 自己学習の上、課題を達成し各回のプレゼンテーションにのぞむこと。
論文提出後、卒業研究発表会でプレゼンテーションを行う。

科目コード：31209 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：研究方法論演習Ⅱ-27(Nursing Research Methodology II -27)

担当者：豊田 真弓

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：土曜1限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素： 08協同学習
09実地調査
11討論
15レポート指導

授業の概要： 研究方法論演習Ⅰで作成した研究計画書に基づいて、研究を実施し指導教員とのゼミをと
おして、データを科学的に分析、記述し研究論文としてまとめ発表する。

キーワード： 看護研究、科学的思考、研究倫理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 提出された、研究論文がプロセスをふまえて作成されたか、倫理的配慮はなされているか、作成
基準にそって執筆されたかを評価する。
研究発表会において、発表に取り組む姿勢、発表された内容を総合的に評価する。

評価方法： 論文・発表

評価割合：20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 1. 倫理的配慮を行いながら、データを収集する
2. 収集したデータを分析し、考察することができる。
3. 論文を作成することができる。
4. 研究の結果を発表することができる。

評価方法： 論文・発表

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

・自らの興味・関心のある研究テーマを設定し、それに基づく研究に主体的に取り組むことを望む

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

・直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

・直接の評価対象にはしないが、人権侵害・差別的発言など、著しく更正を欠く言動があった場合には注意をする。

評価割合：0%

▼その他

・特になし。

評価割合：・特になし。

授業計画：【第01～05回】調査等の実施（8～9月）
【第06～10回】データ分析（10月）
【第10～14回】論文執筆（11月）
【第15回】研究のまとめ・発表

使用テキスト： 研究テーマや方法に沿って、適宜紹介する。

予習・復習のポイントと「研究方法論」での学習を踏まえて、履修する。また担当教員と相談しながら進める。
参考文献・資料等： 研究方法論で既習したことを、論文執筆時に確認しておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、学務部および担当の教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： ゼミナールのほかに指導が必要な場合には、予めメールで連絡する。
その他、オフィスアワーにも研究室で対応します。

留意事項： 論文提出後、卒業研究発表会においてプレゼンテーションを行う(12月)。

科目コード：31210 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語
授業名(英文)：災害看護(放射線災害を含む) a(Disaster Nursing / Radiation Disaster Nursing a)
担当者：長津 貴子、叶多 博美、若林 千津子、園部 律子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜5限 木曜6限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：03.実技・体験
13.役割演技と疑似体験
17.発問と回答

授業の概要： 災害時における医療と看護の特殊性を理解し、すべての災害サイクルにおいて被災者及び被災地域のために活動できる基礎的能力を養う。また、演習を通して安全で安心して生活できる環境づくりと看護活動について考える。授業担当者は、自身の臨床経験を踏まえ、現場の実態に裏づけられた内容の授業を行い実践につなげられるようにする。

キーワード： 災害看護 災害医療体制 災害救助活動 トリアージ 放射線災害 放射線測定 健康危機管理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：1. 災害に関する認識を深め、災害から自分自身を守る方法を理解できる。

2. 災害が人々の健康生活に及ぼす影響と災害医療の特色を理解できる。
3. 災害の種類と災害サイクルに沿った看護援助の実際を理解できる。
4. 地域における健康危機管理について理解できる。
5. 放射線測定時の留意点を理解することができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末筆記試験
レポート

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、演習への取り組み態度や、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験やレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 【第1回】健康危機管理・災害看護とは(長津)
- 【第2回】災害看護の特殊性と基本(長津)
- 【第3回】トリアージについて(START法)(長津)
- 【第4回】災害に伴う「心の問題」とケア(長津)
- 【第5回】わが国の災害医療体制と災害救助活動(DMAT JMAT DPAT IMAT等)(長津)
- 【第6回】演習:災害発生時に必要な応急処置の実際1(長津)
- 【第7回】演習:災害発生時に必要な応急処置の実際2(長津)
- 【第8回】演習:トリアージを含む災害救護シミュレーション(長津)
- 【第9回】演習:地域における災害訓練1(長津)
- 【第10回】演習:地域における災害訓練2(長津)
- 【第11回】演習:地域における災害訓練3(長津)
- 【第12回】放射線災害の基礎知識・放射線防御の考え方(武藤)
- 【第13回】演習:放射線測定体験1(武藤・叶多・若林・園部)
- 【第14回】演習:放射線測定体験2(武藤・叶多・若林・園部)
- 【第15回】災害時における保健師の役割(外部講師)

定期試験

使用テキスト: ・系統看護学講座 災害看護学・国際看護学―看護の統合と実践③ 医学書院
・2年次の公衆衛生看護学概論・公衆衛生活動展開論Aで使用した、中谷芳美ほか「標準保健師講

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配付資料、教科書により復習するとともに、資料や教科書にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。

参考書

保健師の活動と放射線研究班「保健師と放射線：すぐに使える講義・演習・事例検討」真興交易医書出版部

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。

留意事項： 各国、各地の災害の現状と災害医療活動に関心をもって下さい。演習には必ず参加して下さい。

科目コード：31210 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語
授業名(英文)：災害看護(放射線災害を含む) b(Disaster Nursing / Radiation Disaster Nursing b)
担当者：長津 貴子、叶多 博美、若林 千津子、園部 律子

基本情報

年次：4

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜5限 木曜6限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：03.実技・体験

13.役割演技と擬似体験

17.発問と回答

授業の概要： 災害時における医療と看護の特殊性を理解し、すべての災害サイクルにおいて被災者及び被災地域のために活動できる基礎的能力を養う。また、演習を通して安全で安心して生活できる環境づくりと看護活動について考える。授業担当者は、自身の臨床経験を踏まえ、現場の実態に裏づけられた内容の授業を行い実践につなげられるようにする。

キーワード： 災害看護 災害医療体制 災害救助活動 トリアージ 放射線災害 放射線測定 健康危機管理

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：**
1. 災害に関する認識を深め、災害から自分自身を守る方法を理解できる。
 2. 災害が人々の健康生活に及ぼす影響と災害医療の特色を理解できる。
 3. 災害の種類と災害サイクルに沿った看護援助の実際を理解できる。
 4. 地域における健康危機管理について理解できる。
 5. 放射線測定時の留意点を理解することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合：80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末筆記試験
レポート

評価割合：20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、演習への取り組み態度や、自主的な学修によって自身の知見に

追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験やレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【第1回】健康危機管理・災害看護とは(長津)
【第2回】災害看護の特殊性と基本(長津)
【第3回】トリアージについて(START法)(長津)
【第4回】災害に伴う「心の問題」とケア(長津)
【第5回】わが国の災害医療体制と災害救助活動(DMAT JMAT DPAT IMAT等)(長津)
【第6回】演習：災害発生時に必要な応急処置の実際1(長津)
【第7回】演習：災害発生時に必要な応急処置の実際2(長津)
【第8回】演習：トリアージを含む災害救護シミュレーション(長津)
【第9回】演習：地域における災害訓練1(長津)
【第10回】演習：地域における災害訓練2(長津)
【第11回】演習：地域における災害訓練3(長津)
【第12回】放射線災害の基礎知識・放射線防御の考え方(武藤)
【第13回】演習：放射線測定体験1(武藤・叶多・若林・園部)
【第14回】演習：放射線測定体験2(武藤・叶多・若林・園部)
【第15回】災害時における保健師の役割(外部講師)
定期試験

使用テキスト： ・系統看護学講座 災害看護学・国際看護学―看護の統合と実践③ 医学書院
・2年次の公衆衛生看護学概論・公衆衛生活動展開論Aで使用した、中谷芳美ほか「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」医学書院

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配付資料、教科書により復習するとともに、資料や教科書にない関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。

参考書

保健師の活動と放射線研究班「保健師と放射線：すぐに使える講義・演習・事例検討」真興交易医書出版部

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。

留意事項： 各国、各地の災害の現状と災害医療活動に関心をもって下さい。演習には必ず参加して下さい。

科目コード：31211

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 生と死の倫理(Ethics of life and death)

担当者: 渋谷 えみ、栗原 加代、白木 裕子、長津 貴子

基本情報

年次: 4

単位数: 1

授業形式: 講義

曜時: 木曜2限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 08協同学習

10資料調査課題

11討論

16振り返り用紙と応答

17発問と回答

授業の概要: 医療の進歩に伴う様々な倫理的側面と人間の誕生や死に関する倫理的側面について理解し、現代社会で起きている倫理的問題、課題について学ぶ。

授業は講義・演習形式で進め、これらの「答えなき問い」に対し考察し、医療者としての倫理観を養い、

4年間の学修を経た現時点での看護観、自己の価値観と向き合うことを目的としている。

キーワード: 生、死、ターミナル、倫理、薬害

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 現社会ならびに医療現場で重要課題となっている生命倫理の諸問題について考察し、看護師としての倫理的な自覚を深める。

評価方法: グループワーク レポート

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容、4年間で培った学修によって得た知見や体験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの看護観、倫理観を表現することができる。

評価方法: グループワーク レポート

評価割合: 60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、レポートの記述、グループワーク等の発表により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、レポートの記述、グループワーク等の発表により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的な内容発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第1回】生の始まりに関わる倫理(周産期)(渋谷)

- 【第2回】生の始まりに関する倫理(薬害)(特別講師:増山ゆかり)
- 【第3回】こどもの生と死に関する倫理(白木)
- 【第4回】病を持ちながら生きることを考える(ALS)(特別講師:古高伸子)
- 【第5回】臓器移植に関する倫理(長津)
- 【第6回】生の終わりに関する倫理(尊厳死、ターミナル)(栗原)
- 【第7回】生と死をめぐる倫理についてのディスカッション(全員)
- 【第8回】発表・まとめ(倫理観、看護観、価値観を見つめる)

使用テキスト: 資料配布する。適宜提示する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 1) 社会状況との関連について理解を深めるため、日頃から書籍や新聞を読むように努力して

- ください。
- 2) 1, 2年次に学習した生命倫理、医療倫理、看護倫理を踏まえ、臨地実習で体験した倫理的課題・問題を想起しておきましょう。

参考) 看護のための生命倫理、看護が直面する11のモラルジレンマ
その他、参考資料は適宜提示します

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーで対応します。

留意事項: 特になし

科目コード: 31212 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): カウンセリング技術(Counseling Techniques)

担当者: 富田 賢史

基本情報

年次: 2 **単位数:** 1 **授業形式:** 講義
曜時: 火曜2限 **履修可能学科・専攻:** N
関連資格: 看護 **AL要素:** 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 看護師をはじめとした対人援助職では、当然ながら他者と関わり合いながら業務を行なっていく。そして、そこで関わる人たちは、なんらかの困難さを有している。そういった人たちと関わっていくためには専門的なコミュニケーション技能の習得が必要で、その中でもケアを必要とする方に対してはカウンセリング対応を求められる場面も多くあるだろう。よって、講師の公認心理師・臨床心理士として心理面のカウンセリングに従事した経験から身につけることが望ましいと思われるカウンセリング技術の理解と習得を、事例やワークを通して目指していく。

キーワード: 臨床心理学、カウンセリング、コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 授業で学んだカウンセリング技法の実践及び内容について、概ね80%の項目を理解し、実践することができる。

評価方法: 学期末試験(論述形式) **評価割合:** 70%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 授業で学んだカウンセリング技法について、状況に応じて論理的に判断して実践することができる。

評価方法: 学期末試験(論述形式) **評価割合:** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な予習・復習や、学んだ技術を日常生活で練習して理解を深めることは学期末試験の成績につながると思われるため、自主的な学習を勧める。また、学期末試験で、授業で学んだこと以外で優れた論述ができた場合、上記項目「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

他の学生の学習に支障をきたすような迷惑行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的なボランティア活動などの経験は学期末試験の成績につながるとされるため、自主的な活動を勧める。また、学期末試験で、授業で学んだこと以外で優れた論述ができた場合、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、人権侵害、差別、不正等の好意で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回:カウンセリングの概要(授業概要の説明を含む)
第2回:カウンセリングが必要になる状況(不調・病理)
第3回:カウンセリング技法1
第4回:カウンセリング技法2
第5回:言語的コミュニケーション
第6回:非言語的コミュニケーション
第7回:体験喚起
第8回:援助者に求められる姿勢
定期試験(論述形式)

使用テキスト： 特になし
ただし、授業で使用する資料は必要に応じて印刷・配布する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・授業後に講義内容に関わる本や論文などを読む(90分)
・講義で紹介した技法を日常生活で使うように心がける(60分)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部等に連絡してください。

留意事項： なし

科目コード：31213 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語|

授業名(英文)：食物健康演習(Practice of Food & Health)

担当者：坂倉 有紀

基本情報

年次：1 単位数：1 授業形式：演習

曜時：集中講義 履修可能学科・専攻：N

関連資格：教職 看護 AL要素：03実験実技体験

授業の概要： 栄養食事療法は患者の疾病の治癒、健康回復のために不可欠である。患者のケアに携わる看護師にも、提供される食事の重要性を理解しておく必要がある。この実習では、様々な病態に対する治療食を学び、実際に調理・試食を通して、栄養食事療法の基本を学ぶ。

キーワード： 栄養、食事療法、糖尿病食、腎臓病食、嚥下食

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 食事療法の意義および目的などについて理解し、調理を介した実技を伴って実践できる。

評価方法： レポート

評価割合： 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 食事療法の意義および目的などについて理解し、傷病者に対して説明することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実習において、調理を主体としたグループワークに主体的に関わり、取り組む態度を評価する。

評価割合： 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。しかしボランティア活動等の実践により深められた知見がレポート等により認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価の対象とはしない。しかし授業中の発言やレポートにおいて、人権侵害や差別発言、公正を欠く言動があった場合は、減点し厳重注意とするため、注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 第1回 ガイダンス 食事療法の基本、衛生管理について
- 第2回 常食、調理室での機器の取り扱い
- 第3回 流動食・軟菜食
- 第4回 食塩コントロール食
- 第5回 小児アレルギーに対応した食事(小麦・乳・卵の除去食)
- 第6回 嚥下障害に対応した食事
- 第7回 蛋白質コントロール食
- 第8回 まとめ /カーボカウント

資料の調達等、都合で順番は変更することがありますので、ご了承下さい。

使用テキスト： なし プリントを配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 基本的な調理技術を持っていることが履修に必須です。
また、調理実習では、衛生管理を徹底します。特に病院給食では免疫力が低下している患者も多いため、食中毒の発生リスクも高まる可能性を考慮しなければなりません。身支度を整えて実習に臨んでください。

栄養食事療法の実習 トレーニーガイド「栄養ケアマネジメント」本田佳子編(医歯薬出版)
臨床栄養学実習 逸見幾代、津田とみ編(建ばく社)
臨床栄養学 本田佳子・曾根博仁編(羊土社)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますが、まずは学務部に連絡してください。
調理作業があることをご理解ください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: 調理がありますので、爪を毎回短く切ってくること、マニキュアやアクセサリは不可、三角巾やエプロン、上履きなど用意が必須となります。
食材の都合により授業内容が前後することがあります。

課題に対するフィードバックについては全体的なコメントを行う予定です。

科目コード:31214 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 疾病治療論(小児)(Pathophysiology (Child))

担当者: 海野 潔美、菊地 正広

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:講義

曜時:金曜2限 金曜3限 金曜4限 金曜5限 金

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 教職 看護 保健

AL要素: 17発問と回答

授業の概要: 小児の専門医が臨床の疾病、治療に関して授業を行う。子ども病院の見学を行い、小児医療のより専門的な実践について知ることができる。

キーワード: 小児の疾患

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1. 小児に特有な疾患の病態、症状、診断、治療などの基礎的知識を修得する。

評価方法: 筆記試験

評価割合: 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

授業計画: 第1回:小児の疾病と治療(感染症)

第2回:小児の疾病と治療(呼吸器系疾患)

第3回:小児の疾病と治療(アレルギー性疾患)

第4回:小児の疾病と治療(消化器疾患)

第5回:臨床講義(血液・造血器疾患)

第6回:臨床講義(外科疾患①消化器系疾患)

第7回:臨床講義(外科疾患②腎・泌尿器系疾患)

第8回:臨床講義(循環器疾患・小児専門病院における支援の実際)

使用テキスト: 系統看護学講座専門23 小児臨床看護各論 小児看護学2(奈良間美保、医学書院)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 人体構造学、人体生理機能学、病理病態学、疾病治療論などを基礎的知識として小児の特徴を理解しておく。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーにて対応する
各担当教員への連絡は学務で対応する

留意事項: 小児領域の臨床講義は県立こども病院での学外講義(集中講義)の予定ですので欠席をしないようにしましょう。なお交通費は自己負担となります。

科目コード:31215 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 疾病治療論(母性)(Pathophysiology (Maternal))

担当者: 渋谷 えみ、漆川 邦

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:講義

曜時:金曜2限 金曜3限 金曜4限 金曜5限 金

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 教職 看護 保健

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 産科領域(妊娠・分娩・産褥の生理と異常)、婦人科領域に関する主な疾病・診断・治療などの基礎的知識を学ぶ。

キーワード: 女性生殖器、周産期の生理と異常、婦人科疾患、出生前診断

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1. 周産期の生理と起こりやすい異常について病態生理、診断、治療について理解で

きる。

2. 主要な婦人科疾患について、病態・診断・治療の基本を理解できる。

評価方法: 筆記試験

評価割合: 100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回: 婦人科疾患(良性腫瘍) (漆川他)
 - 第2回: 婦人科疾患(悪性腫瘍) (漆川他)
 - 第3回: 周産期の基礎知識(妊娠の生理) (漆川他)
 - 第4回: 周産期の基礎知識(妊娠期の異常/出生前診断) (漆川他)
 - 第5回: 周産期の基礎知識(分娩の生理) (漆川他)
 - 第6回: 周産期の基礎知識(分娩期の異常) (漆川他)
 - 第7回: 周産期の基礎知識(産褥期の異常) (漆川他)
 - 第8回: 周産期の基礎知識(周産期のトピックス) (吉武/渋谷)

使用テキスト: 1) 小林康江他: ナーシング・グラフィカ 母性看護学②
母性看護の実践、メディカ出版。

2) 系統看護学講座 女性生殖器、医学書院。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考文献、資料等はその都度、提示する

女性生殖器の構造と機能、性周期、生殖のメカニズム、周産期の異常を学習しておく。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーにて対応する
各担当教員への連絡は学務で対応する

留意事項: 特になし

科目コード: 31216 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 疾病治療論(精神)(Pathophysiology (Psychiatric))

担当者: 宇留野 由紀子、山川 百合子

基本情報

年次: 2 **単位数:** 1 **授業形式:** 講義

曜時: 金曜2限 金曜3限 金曜4限 金曜5限 金 **履修可能学科・専攻:** N

関連資格: 教職 看護 保健 **AL要素:** 17.発問登回答

授業の概要:

精神の各々の疾病・診断・治療などの基礎的知識を学ぶ。
精神医療を支える多職種連携による地域支援を学ぶ。

キーワード: 臨床精神医学 認知症 多職種連携

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1.精神疾患の特徴、成因と分類、病理・病態、症状と経過、診断、治療及びリハビリテーションについて理解できる。
2.精神医療を支える多職種連携の地域支援の考え方を理解する。

評価方法: 筆記試験 **評価割合:** 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 筆記試験 **評価割合:** 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の対象評価とすることができる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回 第1回:精神①②(概論、統合失調症)

- 第2回： //
- 第3回：精神③④(摂食障害、依存、精神薬理)
- 第4回： //
- 第5回：精神⑤⑥(認知証の病態、認知症の心理)
- 第6回： //
- 第7回：精神⑦⑧(気分障害、高次脳機能障害)
- 第8回： //

使用テキスト： 保健・医療福祉系学生のための臨床精神医学 医学出版
看護学テキスト 病態・治療論[12]精神疾患 南江堂
看護ポケットマニュアル 精神科 医学出版社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献、資料等はその都度、提示する。
精神医学の基礎的事項(授業計画参照)、認知症について学習しておく。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応する。まずは学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーにて対応する。
担当教員等への連絡は学務部で対応する。

留意事項： 特になし。

科目コード：31217 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：医療倫理(Medical Ethics)

担当者：有江 文栄

基本情報

年次：1 **単位数：1** **授業形式：講義**

曜時：木曜5限 **履修可能学科・専攻：N**

関連資格：保健 **AL要素：07.発表**
08.協働学習
16.振り返り用紙と応答

授業の概要： 授業形態は、原則対面授業としますが、コロナ感染防止対策の為遠隔授業(オンデマンド型)となる可能性があります。
*授業資料を当日までにIC-UNIPAに登録します。遠隔授業に備え、PowerPoint(録音)資料の為、PCなど、資料を再生できるの環境を整えておいてください。
授業に関して困ったこと、質問などあれば以下のメールアドレスに連絡すること。
farie3@ncnp.go.jp

医療倫理の歴史や基礎を学びつつ、現代の医療の現場や先端医療技術の応用における倫理問題について議論し、人の権利や尊厳について考えていきます。授業計画で提示していないテーマを取り上げることもあります。クラス及びグループディスカッションを通して、コミュニケーション(対話)能力をつけていきます。
医療のあり方について積極的に話し合しましょう！
*オンデマンド授業になった場合、授業内でのグループディスカッションは行いません。

キーワード： 人の健康と病気、人間の尊厳、生命と医療技術

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ医療倫理の基礎や歴史について理解し述べる事が出来る。

評価方法： 最終レポート **評価割合：20%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ内容について、自らの倫理的価値観や医療の在り方、社会のあり方等について考察し、統合的かつ論理的に意見を述べる事が出来る

評価方法: 最終レポート及びリアクションペーパー **評価割合:** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業で取り扱う課題について事前に調べ、レポートで意見を述べる事が出来る

評価割合: 0-10%

▼実践的ボランティア

グループワーク(ディスカッションを含む)に積極的に参加し、発表の準備や発表において自分の役割を果たす事が出来る。

他者を尊重しつつグループワークに貢献する事が出来る

オンデマンドの場合、実践的ボランティアについてガイダンスで説明をします。

評価割合: 30%

▼公正性

グループワークで自分の役割を責任をもって果たすこと。他者の学習の妨げになるような言動をしないこと。他者の意見を尊重する事が出来る。

オンデマンドの場合、公正性についてガイダンスで説明をします。

評価割合: 0-10%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. 授業ガイダンス、医療倫理の基礎と歴史的展望
 2. 医療倫理の基礎: 医療における人間関係・コミュニケーション
 3. 医療と社会、医療と人権(ハンセン病と人権等)
 4. 生命の始まりをめぐる倫理問題(出生前診断、生殖補助医療等)
 5. 生命の終わり(人生の最終段階)をめぐる倫理問題(延命治療、無益な医療、安楽死、グリーフケア等)
 6. インフォームド・コンセント
 7. 事例検討 プレゼンテーションの準備
 8. 事例検討 プレゼンとディスカッション

使用テキスト: 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 事前準備学習
医療問題に関する情報を、文献資料やメディア等を通じて収集しておくことを、強くお勧めいたします。

参考文献
テキストブック生命倫理 霜田求編 法律文化社 2018

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応いたしますので、まずは学務部当に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: E-mail 又はIC-UNIPA等で対応いたします。

留意事項: 特になし

科目コード: 31218 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 看護学概論(Theory of Nursing Science)

担当者: 池袋 昌子、栗原 加代

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜5限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 教職 福祉主 看護 保健

AL要素: 07. 発表

08. 協同学修

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要: 看護を構成する主要な概念(人間・環境・健康・看護)の定義や概念間の関連性を理解し、看護学への関心を深めることを目的とする。看護の対象となる人間を全人的に捉える基本的な力を修得し、看護実践を支える看護の考え方を通して、看護学や看護専門職としての基盤づくりを行う。多職種連携やチーム医療、継続看護や地域包括ケア、ヘルスプロモーション、看護倫理、医療安全、看護の活動・役割、タスク・シフト/シェア等の重要なテーマも概観し、看護学の今日的課題を検討する。

キーワード: メタパラダイム(人間・環境・健康・看護)、暮らし、QOL、看護観・倫理観

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 人間や健康を包括的に捉え説明できる。
 2. 個人が家族・集団・地域・社会(文化や政治)などを含む環境から受ける影響について説明できる。
 3. 看護実践を支える看護の基本的な考え方について説明できる。
 4. 看護提供者や看護提供のしくみ、看護の活動領域について説明できる。

評価方法: ・レポート

評価割合: 50%

・学期末筆記試験

・総合的に判断する。

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
1. 看護を構成する概念を理解し、看護に対するものの見方・考え方を持つことができる。
 2. 人間を生活者として理解し、生活と健康について関心をもつことができる。
 3. 建学の精神(キリスト教の精神)に基づき、対象となる人間と自己の関係について考えることができる。
 4. 倫理的な思考を深め、礼節・姿勢・態度を学び、自己を見つめることができる。

評価方法: ・レポート

評価割合: 40%

・グループワーク

・発表

・学期末筆記試験

・総合的に判断する。

▼学修に主体的に取り組む態度

看護の対象となる人間を全人的に捉える基本能力を修得しようとする姿勢・態度を評価する。また、自主的な学びによって、自身の知見に追加された成果等がレポート・学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループディスカッション・レポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 【第01回】ガイダンス、看護とは何か、看護師とはどのような職業なのか(池袋)
 - 【第02回】看護の歴史、世界の看護の歴史の変遷(栗原)
 - 【第03回】看護の歴史、
日本の看護の歴史の変遷と本学における建学の精神(キリスト教の精神)(栗原)
 - 【第04回】看護の対象の理解(栗原)
人間や健康の捉え方、人間の性、ライフサイクル、死生観
 - 【第05回】個人が家族・集団・地域・社会などの環境から受ける影響(栗原)
環境や文化に影響を受ける生活、ストレスをもつ存在としての人間、
ストレスへの対処・支援方法
 - 【第06回】国民の健康状態と生活 1(池袋)
人間の基本的欲求、日常生活行動とセルフケア能力、その人らしい生き方
 - 【第07回】国民の健康状態と生活 2(池袋)
暮らしと健康、労働生活と健康、病の体験
 - 【第08回】看護実践を支える看護の考え方(池袋)
看護過程の構成要素と関係性、看護過程の展開の基盤となる考え方、看護記録
 - 【第09回】看護実践を支える看護の考え方(池袋)
ヘンダーソンによる看護活動の基本の14の構成要素
 - 【第10回】看護実践を支える看護の考え方(栗原)
ペプロウによる患者―看護師関係を発展させる効果的コミュニケーション
 - 【第11回】看護の提供者(栗原)
職業としての看護、看護職の資格・養成制度・就業状況
 - 【第12回】看護における倫理(池袋)
医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理、看護職の倫理綱領
 - 【第13回】看護の提供のしくみ 1(栗原)
継続看護、地域包括ケア
 - 【第14回】看護の提供のしくみ 2(池袋)
医療安全、多職種連携、チーム医療、タスク・シフト/シェア
 - 【第15回】広がる看護の活動領域(池袋)
国際看護、災害看護

使用テキスト： 以下のテキストを購入すること。

1. 茂野香おる(2022):系統看護学講座専門分野 I 看護学概論―基礎看護学1, 医学書院.

このテキストは、援助技術論A(日常生活の援助技術)や援助技術論B(診療に伴う援助技術)、科学的思考基礎演習Ⅲ(ヘルスアセスメントの基礎)や科学的思考基礎演習Ⅳ(ヘルスアセスメントの応用)、基礎看護学実習等にも用いる。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：【予習】テキストを活用し、その回のテーマのわからない用語を調べる(1時間)。
【復習】テキストや配付資料について復習するとともに、テキストや配付資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(1時間)。

授業に関連する資料等は、適宜配付する。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応するので、学務部と担当教員に申し出をすること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応する。
曜日・時限等については初回に連絡する。

留意事項： 1回目の授業より、デバイス(パソコン)を必携とする。

科目コード:31219 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文):看護倫理(Nursing Ethics)

担当者:有江 文栄

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜3限 木曜4限

履修可能学科・専攻: N

関連資格:保健

AL要素: 07.発表

08.協働学習

16.振り返り用紙と応答

授業の概要： 授業形態は、原則として対面で行いますが、コロナ感染防止対策の為遠隔授業(オンデマンド型)となる可能性があります。

*授業資料を当日までにIC-UNIPAに登録します。遠隔授業に備えて、PowerPoint(録音)資料の為、PCなど、資料を再生できるの環境を整えておいてください。

授業に関して困ったこと、質問などあれば以下のメールアドレスに連絡すること。

farie3@ncnp.go.jp

臨床における日常の身近な倫理問題から特定の医療分野での倫理問題等、実際の事例を用いて考察し、個人の見解と看護を学ぶものとして重要であると考える価値観に基づいて意見を述べるができるようにする。また、倫理推論方法や意思決定モデルなどを活用して、それぞれが主体的に問題の分析と考察ができるようにする。

キーワード： 看護の専門性、看護の倫理的役割、倫理的意思決定、倫理的推論

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ看護倫理の基礎や歴史、倫理的意思決定方法等について理解し述べる事が出来る。

評価方法： 最終レポート

評価割合： 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り扱った医療における倫理の問題等について倫理的推論、倫理的意思決定を行い、看護・医療あり方等について考察し、統合的かつ論理的に意見を述べる事が出来る

評価方法： 最終レポート、リアクションペーパー、グループ発表

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業で扱う課題について事前に調べ、レポートで意見を述べる事が出来る。

評価割合：0-10%

▼実践的ボランティア

グループワーク(ディスカッションを含む)に積極的に参加し、発表の準備や発表において自分の役割を果たす事が出来る。

他者を尊重しつつグループワークに貢献することが出来る。

オンデマンド型の授業になった場合は、実践的ボランティアについてガイダンスで説明をする。

評価割合：20%

▼公正性

グループワークで自分の役割を責任をもって果たすこと。他者の学習の妨げになるような言動をしないこと。他者の意見を尊重することが出来る。

オンデマンド型授業に変更された場合は、公正性はガイダンスで説明をする。

評価割合：0-10%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
1. 授業ガイダンス、医療・看護倫理の基礎と歴史的展望
 2. 看護の倫理的役割、倫理的責任とは
 3. 医療・看護上の倫理的概念
 4. 看護のプロフェッショナリズム
 5. 倫理的推論方法、意思決定モデル(倫理的合意形成)
 6. 倫理的意思決定モデルの活用実践①
 7. 8. 9. 10. 臨床における倫理問題 (講義及びディスカッション)
以下のテーマ又は重要な時事問題を取り扱う。
 - ① 精神看護と倫理
 - ② 先端医療における倫理
 - ③ 終末期医療における倫理
 - ④ 個人の情報とプライバシー保護
 11. 倫理的意思決定モデルの活用実践②
事例検討の進め方の説明、グループ割と課題
 12. 13. 事例検討 プレゼンテーションの準備
 14. 15. 事例検討 プレゼンとディスカッション

使用テキスト： 特に指定なし

予習・復習のポイントと 事前準備学習

参考文献・資料等： 普段から医療・看護倫理に関わる情報に関心を持ち、自分がなぜその情報に関心があるのか、なぜ問題だと思うのか考えておいてください。

参考文献・資料

現象学的人間論と看護、ベナー/ルーベル、難波卓志(翻訳)医学書院1999

看護実践の倫理・倫理的意思決定の為のガイド、サラT フライ、日本看護協会出版会2010

看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ(改定第2版)、小西恵美子(編)南江堂
2014

生命倫理と医療倫理 第4版 伏木信次 檉則章 霜田求 編 金芳堂 2020

その他適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応いたしますので、まずは学務部当に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： E-mail 又はIC-UNIPA等に対応いたします。

留意事項： 特になし

科目コード：31220 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 精神保健(Mental Health Nursing)

担当者： 長津 貴子、栗原 加代、宇留野 由紀子、松崎 朝樹

基本情報

年次：2 単位数：1 授業形式：講義

曜時：水曜2限 履修可能学科・専攻：N

関連資格：教職 看護 保健 AL要素：15.レポート指導
17.発問と回答

授業の概要： 人間の精神を精神力動論的、発達理論的、人間関係理論的な視点を理解する。こころの健康障害、健康生活の基礎的支援を学び、疾病、疾病の早期発見、治療、健康の保持増進、精神保健福祉活動を学んでいく。
「生きることの質(QOL)」、「こころの苦悩をへて人間らしく生きることの意義」を考えていく(松崎担当)。
授業担当者は自身の臨床経験を踏まえ、現場の実態に裏づけられた内容の授業を行う。

キーワード： 精神の健康 精神的危機 アディクション ストレス PTSD

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1. こころの発達過程とその障害について理解できる。
2. こころの健康の保持・増進に必要な知識と方法を理解できる。
3. 個人および集団における健康の保持増進・予防・治療、精神保健福祉活動について理解できる。

評価方法： 定期試験 **評価割合：** 50%
レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 1. 生活場面に共通した精神保健上の問題と対応、地域保健活動の基礎を理解できる。
2. こころの仕組みや生物・心理・社会的観点から説明ができる。
3. 自殺やうつ、依存症などの精神障害、ならびに現代社会病理と精神障害との関連について述べることができる。

評価方法： 定期試験 **評価割合：** 50%
レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

自分の意見を表現する姿勢など総合的に判断して、思考力・判断力・表現力の評価することがある。提出された記録物等期日遵守も含め、評価の対象とする。提出物の記述等において著しく公正性を欠く記述や、不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象にはしないが、課題取り組む姿勢授業への参加態度に問題が見受けられた場合は、減

点の対象となる。

筆記試験、課題等の記述等において著しく公正性を欠く記述や、不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 人間のこころの構造（精神力動論）：(栗原)
 2. こころの発達（対人関係と環境）：(宇留野)
 3. 災害の及ぼす心理的影響：(長津)
 4. 依存症の諸問題：(岩井)
 5. メンタルヘルスの理念と歴史：(松崎)
 6. 精神の機能と障害：(松崎)
 7. こころの不調の諸相：(松崎)
 8. メンタルヘルスの諸問題：(松崎)

試験

使用テキスト： 大田保之他編 精神看護学 精神保健 第5版 医歯薬出版株式会社 2020

予習・復習のポイントと 参考書等は適宜紹介する。

参考文献・資料等： 毎回の授業テーマとテキスト該当部分を予習して参加する。

新聞記事などメンタルヘルスに関連する事項に関心を持って授業に臨むこと。

障がいのある 履修者への対応： できうる限り対応する。学務に相談すること。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーで対応する。

留意事項： 講義への参加度等も加味する。

科目コード：31221 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ライフステージと看護(Life Stage & Nursing)

担当者：前田 和子、栗原 加代、白木 裕子、宇留野 由紀子、松永 恵、若林 千津子

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：08. 協同学習

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要： 本科目では、看護の対象を「生活者」として捉え、その暮らしを理解するとともに、各ライフステージの特徴に応じた看護を理解することを目的としている。そして看護職の役割は、生涯にわたって対象の暮らしと健康を継続的に支える役割があることを学修する。この科目は、看護学概論をベースとし、看護学の各専門分野への学修の動機づけとするとともに、地域・在宅看護学実習Ⅰ・Ⅱにつながる位置づけとする。

キーワード：生活者と暮らし 環境と健康 ライフステージに応じた看護

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ・看護の対象を「生活者」として捉え、多様な暮らし・健康・価値観があることを理解する。
・人間の生涯におけるライフステージについて学び、各期の特徴を成長・発達・成熟・加齢による変化の視点から理解する。

評価方法: 課題
レポート
定期試験
評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ・各ライフステージにおける健康上の課題から、看護の特徴を考え、対象およびその家族への看護職の役割を理解する。

評価方法: 課題
レポート
定期試験
評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加態度、質問への向き合い方、自分の意見を表現する姿勢など総合的に判断して、思考力・判断力・表現力の評価することがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01回】「生活者」としてのライフステージ(前田)
【第02回】地域の生活環境と健康(若林)
【第03回】健康の良い状態から死を迎えるまでの看護(前田)
【第04回】乳幼児期のライフステージの特徴と看護①(白木)
【第05回】乳幼児期のライフステージの特徴と看護②(白木)
【第06回】学童期・思春期のライフステージの特徴と看護①(松永)
【第07回】学童期・思春期のライフステージの特徴と看護②(松永)
【第08回】妊娠・出産・産後のライフステージの特徴と看護(宇留野)
【第09回】成人期のライフステージの特徴と看護①(栗原)
【第10回】成人期のライフステージの特徴と看護②(栗原)
【第11回】壮年期のライフステージの特徴と看護①(若林)
【第12回】壮年期のライフステージの特徴と看護②(若林)
【第13回】高齢期のライフステージの特徴と看護①(宇留野)
【第14回】高齢期のライフステージの特徴と看護②(宇留野)
【第15回】まとめ(前田)
定期試験

使用テキスト: 使用しない。適宜資料を配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 配付資料について復習するとともに、興味のある事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。
授業内で、適宜、参考文献を紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーで対応する。

留意事項: 授業内容によって、パソコンを使用する場合があります。初回授業で説明いたします。指示がある場合は、必ず持参してください。

科目コード: 31222 **科目ナンバリング:** **主な使用言語: 日本語**

授業名(英文): 看護とクリティカルシンキング(Critical Thinking in Nursing)

担当者: 池袋 昌子

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素: 07. 発表
08. 協同学修
11. 討論
16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: 看護の対象となる人がその人らしく生きることを支援するために、看護における人間の捉え方と、健康上の問題の解決に向けた考え方を学修する。また、事例を通して、ヘンダーソンのアセスメントの枠組みに基づく情報の収集と活用により、看護を計画的に展開する方法とそのプロセスを修得する。

キーワード: 看護課程、問題解決過程、クリティカルシンキング、倫理的判断、リフレクション。ヘンダーソン、看護記録

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1. 看護過程の5つの構成要素とそのプロセスや関係性について、説明し記述することができる。
2. 看護過程を用いることの意義について、説明し記述することができる。

評価方法: ・学期末筆記試験
・確認テスト(Forms)

評価割合: 50%

総合的に判断する。

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 1. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方(問題解決過程、クリティカルシンキング、倫理的判断リフレクション)について、説明し記述することができる。
2. 看護過程の各段階の基本的な考え方と実際について、事例を通して説明し記述することができる。

評価方法: ・学期末筆記試験
・確認テスト(Forms)
・事例展開

評価割合: 50%

総合的に判断する。

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学びを通して、自身の知見に追加された成果等がレポート・学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポート・発表の内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言等、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 【第01回】ガイダンス、看護過程とは
看護過程の5つの構成要素、5つの構成要素の関係性、
看護過程を用いることの利点
 - 【第02回】看護過程を展開する際に基盤となる考え方
問題解決過程
 - 【第03回】看護過程を展開する際に基盤となる考え方
問題解決過程(演習)
 - 【第04回】看護過程を展開する際に基盤となる考え方
問題解決過程(発表)
 - 【第05回】看護過程を展開する際に基盤となる考え方
クリティカルシンキング、倫理的判断と価値判断、リフレクション
 - 【第06回】看護過程を展開する際に基盤となる考え方
クリティカルシンキング、倫理的判断と価値判断、リフレクション(演習)
 - 【第07回】ヘンダーソン
基本的ニーズ(欲求)と基本的看護の構成要素
 - 【第08回】ヘンダーソン
基本的ニーズ(欲求)と基本的看護の構成要素(演習)
 - 【第09回】ヘンダーソン
基本的ニーズ(欲求)と基本的看護の構成要素(発表)
 - 【第10回】看護過程の各段階
アセスメント(情報の収集と分析)、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価
 - 【第11回】看護過程の各段階
アセスメント(情報の収集と分析)、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価
(演習)
 - 【第12回】事例でみる看護過程の展開
(演習)
 - 【第13回】事例でみる看護過程の展開
(発表)
 - 【第14回】事例でみる看護過程の展開
(発表)
 - 【第15回】看護記録
看護記録とは、記載・管理における留意点、看護記録の構成

使用テキスト： 以下のテキストを持参すること。

1. 茂野香おる(2022):系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院.
2. 任 和子(2021):系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院.
3. 高木 永子(2018):看護過程に沿った対症看護, 学研メディカル秀潤社.

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**
1. 予習(1時間)と復習(1時間)のポイント
 - 1) 授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる。
 - 2) 授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主的な学びを通して知見を深める。
 - 3) 予習/復習等のFormsを通して、自己評価を行う。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、対象者に対する差別的な発言など公正性に欠く発言や記録が見られる場合には、厳重注意のうえ減点対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 1.実習期間
2022年 9月～11月

2.実習方法

1)学内実習

(1)オリエンテーション

・全体オリエンテーションおよび該当する施設におけるオリエンテーションを行う。

(2)グループワーク

・実習に向けてグループごとにインタビューに必要な準備、インタビューする内容について考え、準備を行う。

・地域実習に向けて、グループごとに地域探索に必要な準備について考え、地域にある健康や暮らしに関する資源の把握とマッピングを行う。

2)地域実習

(1) グループごとに、該当する施設周辺の地域を探索し、生活環境を知る。

(2)グループごとに該当する施設における諸活動に参加し、住民と関わる。また、施設で働く職員や住民へのインタビューを通して、地域に住む人々の生活の理解と、生活環境と健康との関連を知る。

3)学内実習(まとめ)

(1)実習を通して感じたこと、考えたこと、疑問点等について、施設ごとに話し合う。

(2)グループごとに、施設実習及び地域実習における経験を踏まえて、さまざまな人々の暮らし、生活環境と健康との関連を考える。

(3)報告会での体験の共有や、実習記録の振り返りから、実習での学びをまとめる。

使用テキスト： 必要に応じて提示する。

予習・復習のポイントと これまでに学んだ知識と技術を意識して活用すること。

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応いたしますので、まずは学務部と実習担当教員に連絡して下さい。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーにて研究室で対応します。

留意事項： 詳細はオリエンテーション時に説明を受けて下さい。

科目コード：31224

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：成熟期看護学概論(Theory of Adult & Gerontological Nursing)

担当者：中村 裕美、浅野 均

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：N

関連資格：看護 保健

AL要素：11.討論

15.レポート指導

16.振り返り用紙と応答

授業の概要： 成熟期看護の対象は、成人前期から老年期にわたる時期にある人々としている。対象者を取り巻く健康やライフサイクルからみた特徴と、人生100年時代における対象者のQOLを理解するための考え方をはじめ、看護活動の柱となる概要を理解する。

キーワード： 成熟期の対象の特徴、発達課題、ヘルスプロモーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1.成熟期にある対象のライフサイクルからみた特徴を理解する。
2.成熟期にある対象と家族を捉えた看護活動の場と役割機能を理解する。
3.成熟期にある対象の健康状態に応じた看護活動の特性について理解する。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 90%

講義後の小テスト

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自分の考えを表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 10%

講義中の課題

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発現や筆記試験の記述などにおいて公正性を欠く言動があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回:成熟期看護学の捉え方
第2回:成熟期におけるライフサイクル各期(青年期・壮年期・向老期・老年期)の特徴
第3回:成熟期にある対象の健康問題の動向
第4回:青年期・壮年期・向老期にある対象のライフスタイルの特徴と看護
第5回:老年期にある対象のライフスタイルの特徴と看護
第6回:健康観の多様性と看護
第7回:成熟期にある対象に関する社会制度の変遷
第8回:成熟期の対象の健康状態に応じた看護の役割機能
第9回:成熟期の対象における倫理的課題
第10回:成熟期の対象の健康課題に応じた看護(生活習慣)
第11回:成熟期の対象の健康課題に応じた看護(職業関連)
第12回:成熟期の対象のヘルスプロモーション
第13回:成熟期の対象と家族への回復過程における看護:危機理論

第14回:生活の再編成が必要な健康障害を持つ対象と家族への看護:病みの軌跡

第15回:生活の再構築が必要な健康障害を持つ対象と家族への看護:セルフケア

使用テキスト: 安酸 史子 編集(2022)ナーシング・グラフィカ 成人看護学(1):成人看護学概論 第5版、メディカ出版.

堀内ふき 編集(2023)ナーシング・グラフィカ 老年看護学(1):高齢者の健康と障害 第7版、メディカ出版.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項についても自主学修を通じ、知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項: 主体的な学修姿勢で臨むこと。
デバイスの持参を推奨します。

科目コード: 31225 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 成熟期療養支援看護学A(Clinical Care in Adult & Gerontological Nursing A)

担当者: 中村 裕美、原島 利恵、小幡 明香、大内 玲、市野沢 征子、梶原 順子、相川 玄

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜1限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 看護 保健

AL要素:

03.実験・実技・体験

13.役割演技と疑似体験

17.発問と回答

授業の概要: 成熟期看護の対象は、成人前期から老年期にわたる時期にある人々としている。様々な疾患により侵襲的治療や検査を受ける人とその家族を援助するために、生命の維持・回復に向けた看護の基礎的知識と看護援助方法について理解する。

キーワード: 成熟期看護、周術期看護

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で扱った内容について、知識を習得し、解答することができる。

評価方法: 学期末筆記試験レポート

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で実践した事例の看護過程について展開できる。
また、演習をふまえ、記録用紙に適切な記載ができる。

評価方法: 学期末筆記試験レポート

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし、演習において主体的に行動できず、演習の円滑な進行・グループの学びに支障をきたす場合は減点対象となる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポート等において公正性を欠く言動があった場合は、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：【第01回】急性期看護の特徴(患者とその家族への看護:侵襲と危機)
【第02回】手術前～中の看護の特徴
【第03回】手術後看護(呼吸 合併症とその予防)
【第04回】手術後看護(循環 合併症とその予防)
【第05回】手術後看護(せん妄・疼痛、消化器系合併症)
【第06回】手術後看護(創傷治癒、ドレーン管理、術後感染症)
【第07回】手術後看護(リハビリテーション・日常生活援助・退院指導)
【第08-09回】消化器術後患者の看護過程1アセスメント・看護問題抽出
【第10-11回】消化器術後患者の看護過程2看護計画立案、術後演習の準備
【第12回】術前オリエンテーション演習 消化器術後
【第13-14回】術後合併症予防演習(合併症予防)消化器術後
【第15回】術後退院支援演習

使用テキスト：池上徹、高橋則子編集:系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 第12版、医学書院、2023。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献は、必要に応じて各担当教員が紹介する。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 外部講師の予定により、授業計画が変更になる場合があります。

科目コード：31226	科目ナンバリング：	主な使用言語：日本語
授業名(英文)：成熟期生活支援看護学A(Chronic/Long term Care in Adult & Gerontological Nursing)		
担当者：浅野 均、原島 利恵、小幡 明香、大内 玲、市野沢 征子、梶原 順子、中村 裕美、相川 玄		
基本情報		
年次：2	単位数：2	授業形式：講義
曜時：水曜2限		履修可能学科・専攻：N
関連資格：看護 保健		AL要素：03.実験・実技・体験 13.役割演技と疑似体験 17.発問と回答

授業の概要： 少子高齢化が進む中で健康寿命の延伸に向けて、成人期から生活習慣病を予防するとともに、高齢者においても社会生活を営むための機能を可能な限り維持していくことが重要である。成熟期にある人の発達段階における特徴を学習し、慢性病を持ちながら生活している人を生活者として捉え、その人らしい社会生活を持続するための看護を学修する。

キーワード： 高齢者 生活機能

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で扱った内容について、知識を習得し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験レポート

評価割合： 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で実践した事例の看護過程について展開できる。
また、演習をふまえ、記録用紙に適切な記載ができる。

評価方法： 学期末筆記試験レポート

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし、演習において主体的に行動できず、演習の円滑な進行・グループの学びに支障をきたす場合は減点対象となる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポート等において公正性を欠く言動があった場合は、減点の対象となる。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】成熟期にある人の健康生活の支援：生活機能アセスメント
【第02回】成熟期にある人の呼吸・循環機能の特徴と看護
【第03-04回】成熟期にある人の栄養・代謝機能の特徴と看護
【第05回】成熟期にある人の排泄機能の特徴と看護
【第06回】成熟期にある人の感覚機能の特徴と看護
【第07-08回】成熟期にある人の運動機能の特徴と看護
【第09回】成熟期にある人の精神機能の特徴と看護
【第10-11回】成熟期にある人の認知機能の特徴と看護
【第12-14回】居宅・高齢者施設で生活する人の看護過程の展開
【第15回】成熟期にある人と家族への生活支援 まとめ

使用テキスト： 堀内ふき編(2023)：老年看護学① 高齢者の健康と障害(第7版) ナーシンググラフィカ，メディカ出版。
堀内ふき編(2023)：老年看護学② 高齢者看護の実践(第6版) ナーシング・グラフィカ，メディカ出版。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献は、必要に応じて各担当教員が紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

評価割合：特になし

授業計画：【第1回】公衆衛生看護の理念と目的(叶多)
【第2回】公衆衛生看護の対象と場の特性(叶多)
【第3回】公衆衛生看護の歴史(叶多)
【第4回】感染症の保健指導 感染症対策の変遷(叶多)
【第5回】歯科保健(若林)
【第6回】障害者・児保健(若林)
【第7回】難病と公衆衛生看護(園部)
【第8回】産業保健における健康課題、産業保健活動(若林)
定期試験

使用テキスト： 標美奈子ほか著「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」医学書院
中谷芳美ほか著「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」医学書院
1年次「公衆衛生学」で使用した、神馬征峰ほか「系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生」医学書院
厚生労働統計協会「国民衛生の動向（最新版）」

予習・復習のポイントと予習・復習
参考文献・資料等： 教科書の該当箇所を講義の前に読むこと 各1時間
公衆衛生活動事例の読み込み・情報整理 3時間

参考書
「公衆衛生がみえる(最新版)」メディックメディア
藤内修二ほか「標準保健師講座・別巻1 保健医療福祉行政論」医学書院
高木 智子「増補新版 隔離の記憶: ハンセン病といのちと希望と」彩流社
森亨監修「結核を防ぐ、治す」講談社
宮本ふみ「無名の語り 保健師が家族に出会う12の物語」医学書院

障がいのある 可能な限り対応します。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。

留意事項： 日頃から、ニュースや新聞記事などで地域社会の出来事に興味・関心をもって生活すること。
後期に実施する「公衆衛生看護学実習A」との関連が深い科目です。本科目で得られた知見を、実習中にも振り返ることができるよう、自主学修を深めておきましょう。

科目コード：31228 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 家族看護論(Family Nursing)

担当者： 前田 和子、小池 美香、鈴木 陽子

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：講義

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻： N

関連資格：看護 保健

AL要素： 15. レポート指導
16. 振り返り用紙と対応
17. 発問と回答

授業の概要：

近年、医療の地域移行の推進に伴い注目されている家族看護学について学ぶ。個人の健康が家族のあり様と深い関係があることを、家族看護学の成立背景や理論とともに学修する。また、家族をひとつのシステムと捉え、家族全体の健康をアセスメントし、家族成員の健康問題によって生じた家族の課題への看護介入の方法と技術を理解する。

キーワード： 家族のセルフケア機能、家族像の形成、家族看護過程、家族看護の理論

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 1. 看護の対象を個人だけでなく、家族に焦点を当てる必要があることを、家族看護学成立の背景などから理解することができる。
2. 家族看護の主な理論の概要を説明できる。
3. 家族看護の目的と方法の概要を説明できる。

評価方法： 課題
レポート
定期試験

評価割合： 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 4. 健康問題を持つ家族の事例検討を通して、家族看護のイメージを持つことができる。

評価方法： 演習
課題
レポート

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

1. 家族看護とは何か
2. 家族看護の主な理論と家族アセスメントモデル
3. 家族看護(1) 家族の全体像の理解
4. 家族看護(2) 家族の持つ強み・弱み
5. 家族看護(3) 家族の持つ問題(課題)の明確化・計画立案
6. 家族看護の介入方法と評価
7. 健康問題(課題)を持つ家族の事例検討
8. まとめ

定期試験

使用テキスト： 家族看護学 理論と実践 第5版:鈴木 和子(著), 渡辺 裕子(著)他 日本看護協会出版会(2019)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 家族看護に関する文献(専門・非専門を問わず)や家族をテーマにした映画・ドラマ・ニュースなどを見て、自分なりの「家族とは」を考えて、授業に参加すること。

- できる。
- 2) 実習での学び、看護職として求められる力について、自分の言葉で表現することができる。
 - 3) 自らの行動を振り返り、自己の課題を明らかにすることができる。

評価方法: ・実習記録

評価割合: 20%

- ・実習態度
- ・最終レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

日々の実習目標、実習計画に基づき看護学生として自覚と責任を持ち行動することができているか、実習態度や実習記録等から評価する。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、対象者に対する差別的な発言など公正性に欠く発言や記録が見られる場合には、厳重注意のうえ減点対象とする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 1. 実習期間

2023年5月29日(月)～6月2日(金)

2. 実習方法

- 1) 実習初日全体にオリエンテーションおよび実習施設ごとのオリエンテーションを受ける。
- 2) 医療機関、保健機関、福祉施設等で見学・体験実習を行う。
- 3) 必ず、指導者及び教員の指導のもとに行動する。
- 4) 毎日、その日の体験を通して感じたこと、考えたこと、疑問点等について施設ごとに話し合う。また実習した内容は、日々の記録用紙に記入し、ファイルにとじて担当教員へ翌朝提出する。

【実習スケジュール】

1日目: 学内実習

1. 全体オリエンテーション
2. 施設別オリエンテーション

2日目: 学内実習

1. 直前オリエンテーション
2. グループワーク

3日目: 各施設での実習(医療機関・保健機関・福祉施設)

4日目:各施設での実習(医療機関・保健機関・福祉施設)
*2日間で医療機関、保健機関または福祉施設をそれぞれ1日ずつ実習を行う。

5日目:学内実習
【午前】グループワーク <実習体験の共有>
【午後】グループワーク <報告会の準備>

6日目:学内実習
【午前】報告会 <グループ間の情報共有と学びの深化>
【午後】個人ワーク <最終レポート、自己評価>

使用テキスト: 必要に応じて提示する

予習・復習のポイントと 【予習】

参考文献・資料等:

1. 地域・在宅看護学実習 I (1年次)での学びを振り返る。
2. 実習要綱を熟読したうえで実習オリエンテーションに臨み、医療機関・保健機関・福祉施設の概要について実習要綱やホームページを検索し調べる。
3. 実習に臨む望ましい態度や姿勢を考える。

【復習】

1. 実習での学びや考えたことを振り返る中で自己の課題を明確にする。
2. 課題達成に必要な媒体(文献、授業資料、テキスト等)を自身に選択し学修を深める。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部と実習担当教員に連絡をしてください。

授業時間外の連絡手段: 実習担当教員の指示に従う。

留意事項: 体調管理をして実習に臨むこと。
集合時間、締切等の時間厳守のこと。